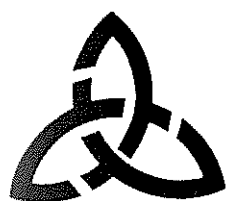


昭和58年
豪雨災害誌

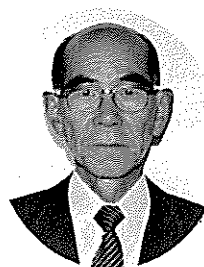
島根県 三隅町



昭和58年
豪雨災害誌

島根県 三隅町

序 文



昭和58年7月20日から23日にかけて、県西部地域を中心とする集中豪雨は、本町全域に空前の大被害をおよぼし、33名の尊い命がうばわれました。ここに、改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。

今度の災害は645ミリを超える降雨量に加え、町全体の土質が風化した花こう岩質で軟弱なことから相まって、各所で山崩れ、がけ崩れなど膨大な土石流が発生し、住家が流失、全壊するなどの大惨事となり、被害総額は約700億円、平年度町予算の23年分という大災害となりました。町としても局地激甚災害の指定などを国や県に働きかけ、指定をみたところであります。58年7月豪雨は、これまでに例をみない大量の雨を降らせましたが、幸いにして、気象情報の伝達と適切な避難命令など、防災行政無線の十分な機能の発揮により人的被害を最小限にとどめることができました。

しかし、道路や橋りょうなどの公共土木施設や農地、農林業施設、商工業施設、教育、厚生、労働施設等々の被害は、言語に絶するものとなりました。二度とこんな惨事は繰り返してはなりません。もう一度防災行政体制を見直し、災害に強い町づくりを目指して、町民あげて努力を積み重ねてまいりたいと存じます。

この度の災害におきましては、災害発生と同時に、全国各地の皆様方から温かいお見舞い、そして救援の手をさしのべていただきましたことは、私達町民に力強い励ましと復興への勇気を与えてくれました。お寄せいただきましたご厚情に対し、衷心より厚くお礼申し上げます。

本書は、これら災害の状況および災害がもたらした教訓をもとに、「豪雨災害誌」として永く記録にとどめ、今後の防災対策の一助となるよう、概要をとりまとめたものです。この記録が、今後の豪雨災害対策への資料、教訓となれば幸いです。

おわりに、災害対策の実施にあたり国、県をはじめ、ご支援、ご協力を賜りました関係機関に対し心から感謝の意を表しますと共に、本書刊行にあたっての各方面、関係職員のご協力に対し厚くお礼申し上げます。

昭和60年9月

玉陽町長 三原 勝

58・7 豪 雨



濁流の引いた後、役場前に二重三重に折り重なった車と流木（三隅町役場前）



三隅大橋上の堤防を越え、三隅の町へ濁流が流れ込んだ。
(7月23日午前7時58分)(三隅)



堤防はゴーゴーという音とともに決壊し、住家は濁流に押し流された。
(7月23日午前8時30分頃)(三隅)



水の引いた後、残った家は流木とヘドロで復旧への道は険しかった。
(7月23日午前11時30分頃)(三隅)

《 岡 見 地 区 》



一瞬のうちに13人が生き埋めになった須津地区のがけ崩れ (須津1区)



がけ崩れにより崩壊した住宅

(須津 6 区)



岡見川堤防の決壊により田や畑が一面河川と化した

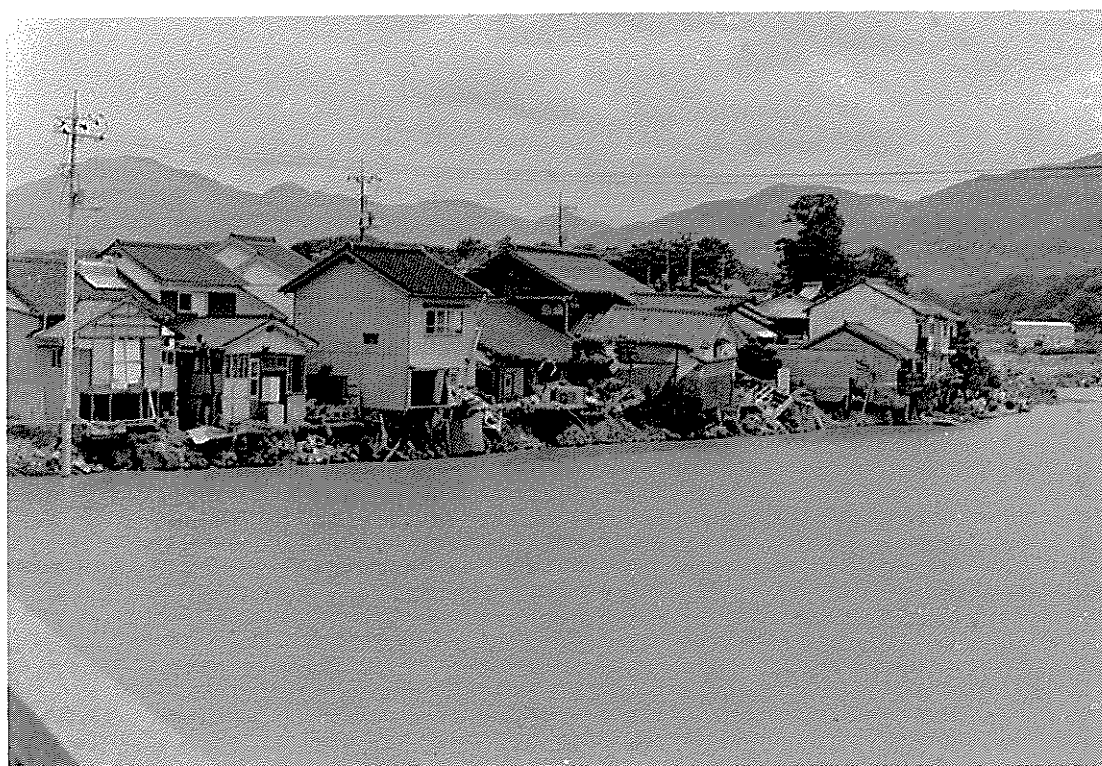
(床並)



谷あいの土石流で家屋全壊

(栃の木)

《 三 保 地 区 》



住宅の後をえぐりとられてしまった湊浦地区

(三隅川河口)



橋桁上までの増水により折れ曲がった国鉄三隅川橋梁 (古市場)



炎天下のなか消毒班による防疫活動 (古市場)

《 井 野 地 区 》



土石流により住宅を押し流され2人の死者の出た芦谷地区

(芦谷)



土石流により3世帯を押し流した折居川上流部

(室谷)



土石流により押し流された住宅

(上小原)

《 黒 沢 地 区 》



校舎の基礎をえぐり建物は見るかげもない

(三隅南小学校)



土石流の爪あととは大きいがかろうじて住宅は
助かる

(井川)

《 三 隅 地 区 》



役場前に避難した車は増水とともに浸水

(7月23日午前7時30分頃)(三隅町役場前)

《 三 隅 地 区 》

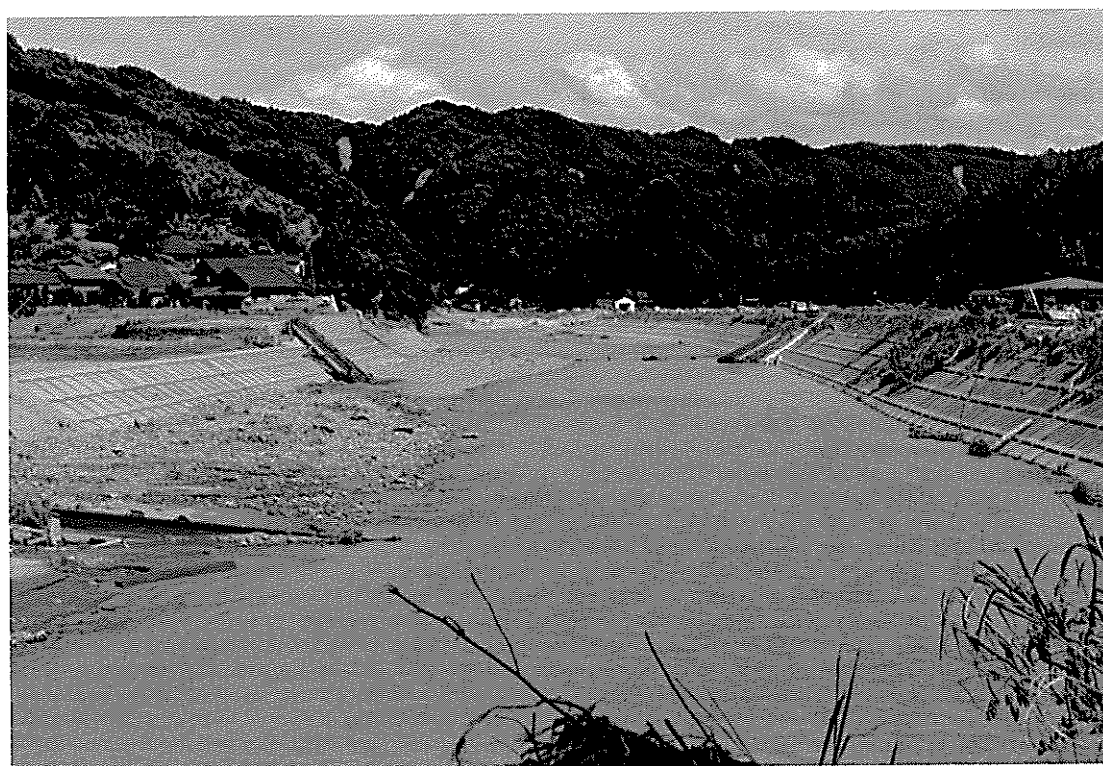


三隅市街地、道路は流木とガレキの山で埋まった

(三隅)



三隅大橋上の堤防はゴーゴーという音とともに決壊し住家は濁流に押し流された
(7月23日午前9時10分頃)(三隅)



流失した用田橋

(三隅川・河内)



気象警報、ダムの放水量、避難誘導など各種情報連絡に活躍した防災行政無線
(三隅町役場)



水の引いた後はカウンターや事務机が散乱した

(三隅町役場 1 階)

目 次

◇序 文

グラビア

58・7 豪雨	1
---------	---

第1章 気象記録

第1節 概 況	23
1. 気象経過と降水量	23
2. 地上天気図	24
3. 山陰豪雨降水量分布図	25
4. 降雨の特徴	25
第2節 気象通報	26
1. 注意報・警報・情報等の発表	26
2. 放送内容	31

第2章 防災体制

第1節 町の防災体制と活動	37
1. 防災体制	37
2. 58年7月豪雨時における災害対策	38
3. 広報活動および町防災行政無線の活動	73
4. 消防団の活動状況	75
第2節 県内官公署等の体制およびとった措置	92
1. 気象官署	92
2. 建設省道路事務所、浜田工事事務所	93
3. 浜田警察署	94
4. 自衛隊	100
5. 浜田電報電話局	104

6. 中国電力株式会社島根支店	105
7. 米子鉄道管理局	105

第3章 被害の状況

第1節 概況	109
1. 58・7豪雨災害の総被害	109
第2節 人的被害および家屋被害	111
1. 人的被害	111
2. 家屋被害	114
第3節 土木関係の被害	136
1. 道路の被害	136
2. 橋りょうの被害	138
3. 河川の被害	138
4. 都市公園などの被害	139
第4節 農林漁業の被害	141
1. 農業関係の被害	141
2. 畜産関係の被害	142
3. 林業の被害	142
4. 漁業関係の被害	142
第5節 商工業関係の被害	143
第6節 福祉・医療関係の被害	144
1. 福祉施設の被害	144
2. 保健衛生施設の被害	144
3. 医療関係の被害	151
第7節 水道・ガス施設の被害	151
1. 水道施設の被害	151
2. ガス施設の被害	152

第8節 文教施設関係の被害 153

1. 査定状況	153
2. 三隅中学校	154
3. 岡見中学校	161
4. 井野中学校	167
5. 三隅小学校	168
6. 三保小学校	176
7. 岡見小学校	179
8. 三隅南小学校	180
9. 井野小学校	184
10. 井野小学校 室谷分校	187
11. 白砂小学校	188

第9節 役場およびその他公共施設の被害 189

1. 役場庁舎の被害状況	189
2. 海石住宅の被害状況	190

第4章 救援・救護

第1節 概 況 193

1. 災害救助法の適用状況	193
2. 災害救助の実施状況	194

第2節 救援状況 198

1. 陸上自衛隊	198
2. 警 察	199
3. 海上保安部	199
4. 日本赤十字社	199
5. 救援、義援物資の状況	199
6. 義援金、見舞金などの状況	200

第3節 医療・防疫関係 203

1. 医療関係	203
2. 防疫関係	203

第5章 災害復旧対策

第1節 県に対する陳情	211
1. 陳情書	211
第2節 災害復旧予算措置	214
1. 予算措置の状況	214
2. 町税の減免状況	216
第3節 災害査定状況	220
1. 公共土木、都市公園、河川の災害査定	220
2. 農林業関係の災害査定	222
3. 公共施設の災害査定	222
第4節 災害復旧資金の融資・貸付	223
1. 中小企業向け融資特別措置	223
2. 誘致企業災害復旧資金の融資	224

余 録

山陰水害を振り返って	227
災害日誌	230
災害派遣および応援状況について	243
災害に関する要請書	244
陳情書	247
災害前の建設に関する陳情書	254
災害史年表	巻末 I

第 1 章

気 象 記 録

第1節 概 況

1. 気象経過と降水量

梅雨前線は、7月19日に本州の南海上まで南下して、一時活動が弱まったが、中国大陸から東進してきた低気圧の接近にともなって、急速に北上をはじめた。

7月20日、低気圧が日本海中部を東進するにともない、この梅雨前線は、山陰沿岸まで南下し、ふたたび活動が活発となった。これに対し、島根県西部では、15時30分、大雨・洪水・雷雨・波浪注意報が発令された。20日の降水量は、島根県中部、東部では30～50mm、本町は114mmであった。

7月21日には、低気圧は、日本海の北東部に進み、梅雨前線は南下して、中国地方の瀬戸内側に停滞した。降水量は、西部で早朝と夜半前の時間帯に多く降り、日降水量は波佐で222mmに対し、本町は106mmであった。注意報は、5時00分、県東部、西部に対して大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報に切替えられ、発表された。以後24日まで、気象変化に対応し、梅雨前線の活動状況と各種実測値、レーダー資料、予測資料図等を使用して解析を行い、大雨・洪水警報、注意報、強風・波浪・雷雨注意報の切替え発表と18回におよぶ大雨に関する情報の発表が行われた。(気象警報、注意報、情報の発表状況の項26頁参照)

7月22日、梅雨前線は北上して、山陰沖に停滞するようになった。松江レーダーによると、高さ5.3kmの雨雲が、朝鮮海峡から東北東へ70km/hで移動し、明け方島根県東部から隠岐海峡をおおうようになり、島根県東部と隠岐地方を中心に40～60mmの降雨があったが、日中は小康状態となった。しかし、低気圧1002mbが山陰沖の梅雨前線上を能登半島に向かって進んでおり、これに関連して、松江レーダーによると島根県の北西海上に8～9kmの強い雨雲があらわれて、北東から南西にのびる帯状となり東へ70km/hで進んでいた。これにより、島根県東部で雨がやや強くなり、1時間降水量10～20mm、2～3時間遅れて、島根県西部でも雨が降りはじめ、強まってきた。

7月23日は、低気圧1003mbが能登半島にあり、これを通る梅雨前線の活動は活発で、西の方から南下をはじめた。松江レーダーによると、夜半から夜明け前にかけて雨雲は急激な変化と強まりを増し、高さは10～12kmあり、雨雲の中は90～100km内外の帯状(バンド状)で、東北東から西南西にのび、島根県全域をおおい東南東に移動した。その後、明け方には中国山地上に停滞気味となり、バンド状の走行もほぼ東西で、強い雨雲の部分は島根県西部にかかった。雨は0時ごろから島根県の西部で急速に、激しさを増して大雨となり、まず、1時ごろから3時にかけて、桜江、浜田、川本方面で強い雨のピークを記録し、1時間降水量50～70mm、次いで4時ごろから9時ごろにかけて、浜田、三隅、弥栄、益田方面で1時間降水量40～90mmの強い降雨群によるピークを記録した。

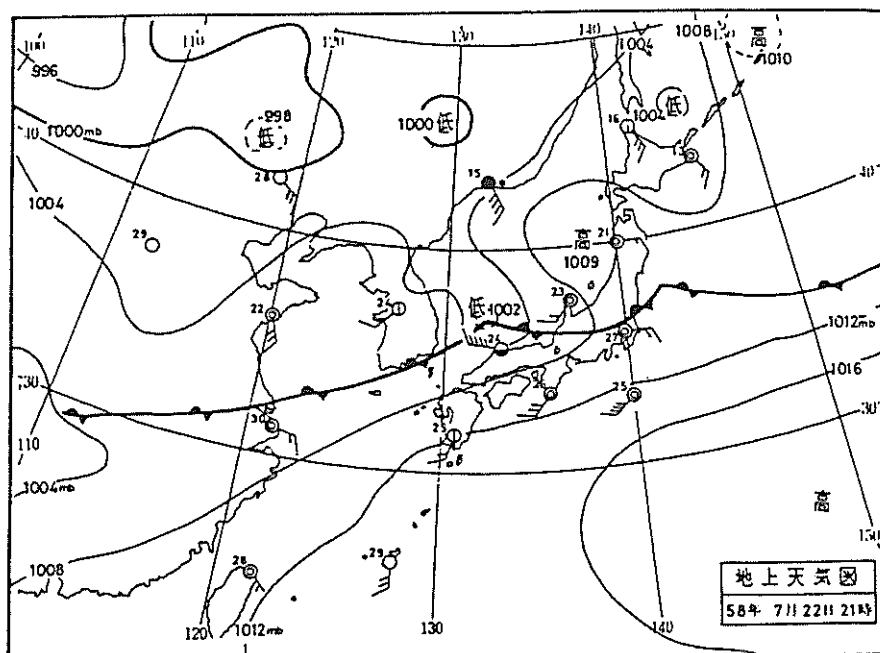
本町は、1時から9時まで時間雨量30mm以上が続き、5時から6時および7時から8時までの時間雨量は69mmと強雨を記録し、日雨量414mmに達する局地的豪雨となり、洪水、山・がけ崩れ、土石流による甚大な災害の発生となった。降雨は、西部では昼前に上がった。

7月24日は、梅雨前線は大平洋高気圧の勢力にともない日本海南部に北上し、明け方にかけて隠岐地方で10～60mmの降雨があったほかは、本土側では時々晴れるようになり、夏らしい天候になった。

2. 地上天気図

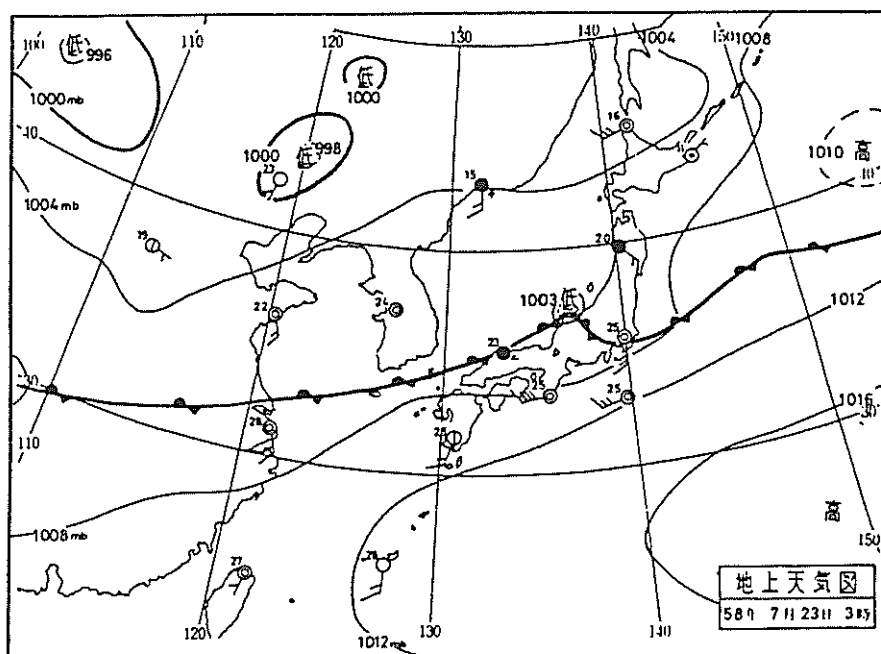
第1図 昭和58年7月22日21時の地上天気図

昭和58年7月21日21時



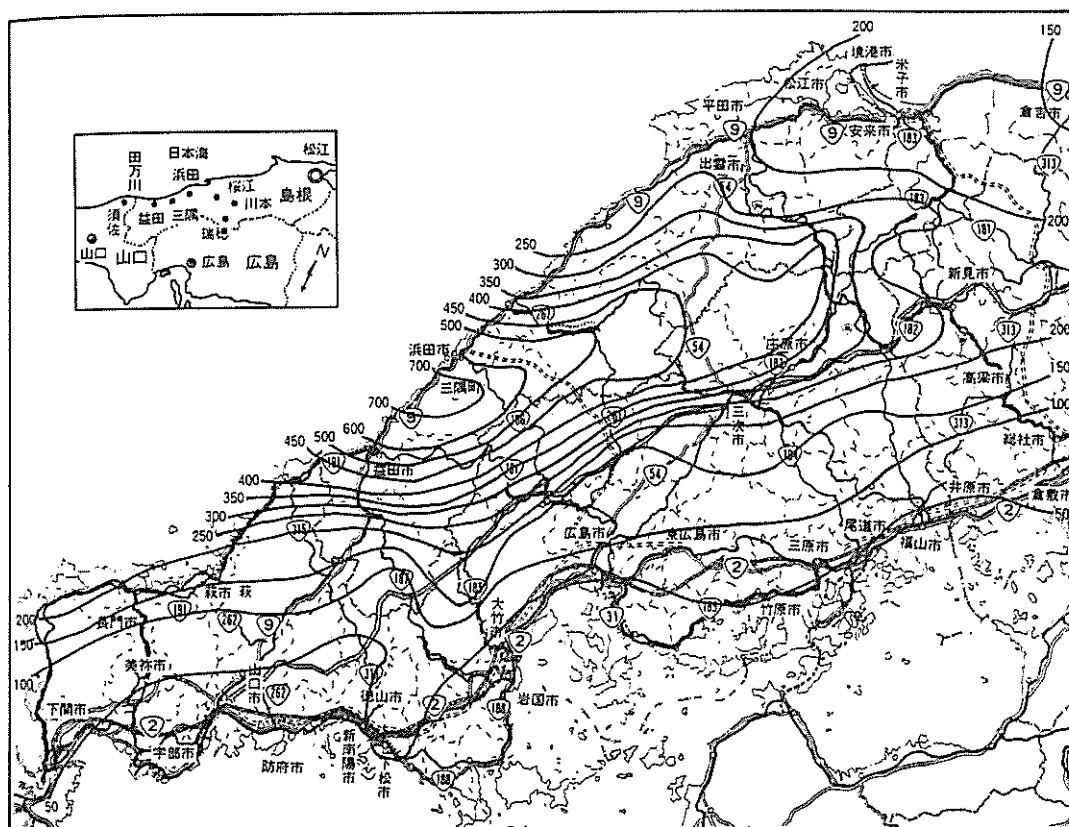
第2図 昭和58年7月23日03時の地上天気図

昭和58年7月23日03時



3. 山陰豪雨降水量分布図

第3図 昭和58年7月20日0時～23日24時（4日間）の降水量分布図（注：気象データによる）



4. 降雨の特徴

- (1) 今回の大雨は、日本海を東進した低気圧にともなう前線が、中国地方に停滞して、前線活動が活発となったもので、特に22日夜から23日朝にかけては前線上を低気圧が速進し、日本の南海上から温暖な気流が前線付近に流入したため、島根県西部に局地的豪雨をもたらした。
- (2) 島根県西部で雨の強かったのは21日朝、21日午後から夜にかけて、および22日夜から23日朝にかけてで、特に22日夜からのものは浜田測候所観測開始以来の、1時間91mmという強い雨が降り、22日夜からの降水量も351mmに達した。
- (3) 20日から24日までの総降水量は、益田、三隅方面が3600mm以上、その南東山地にあたる波佐方面が約600mm、島根県南西部と東部が250mm以下、その他の島根県西部と中部が300～500mmであった。

第2節 気象通報

1. 注意報・警報・情報等の発表

松江地方気象台関係（島根県東部・西部）抜粋

大雨・洪水・雷雨・波浪注意報

7月20日 15時30分発表

梅雨前線の活動が活発となっています。島根県の東部・西部では間もなく強い雨が断続し大雨となるおそれがあり、時間雨量10～30mmの強い雨が断続しましょう。今後の雨量は50～70mm、ところにより70～100mm、低地の浸水や山崩れ、がけ崩れ、河川のはんらんにご注意下さい。また、雷が発生し落雷のおそれがあります。沿岸の海上では南西のち西の風で最大風速10～15m/sとなり風波が高くなりましょう。明日も続くみこみです。

大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報

7月21日 05時00分発表

梅雨前線の活動が活発になっています。島根県の東部・西部では間もなく時間雨量30～50mmの一時的に強く降る雨が断続し大雨はまだ続きましょう。これから夕方までの雨量は70～100mm、ところにより150mm、降りはじめから夕方までの総雨量は100～150mm、ところにより200～250mm、今までにかなりの雨が降り河川は増水し地盤が軟弱になっています。小河川のはんらん、洪水、低地浸水、山崩れ、がけ崩れなどの局地的に大きな災害を引き起こすおそれがありますので十分警戒してください。また、雷が発生し落雷のおそれがあります。沿岸の海上では波浪が高くなっています。明日も続くみこみです。

大雨・洪水・雷雨・波浪注意報

7月21日 13時40分発表

梅雨前線の活動が活発となるみこみです。島根県の東部・西部では間もなく時間雨量10～30mmの強い雨が断続し大雨となるおそれがあります。これから明朝までの雨量は50～70mm、ところにより70～100mm、降りはじめから明朝までの総雨量は150～200mm、今までにかなりの雨が降り、河川は増水し地盤が軟弱になっています。低地の浸水や山崩れ、がけ崩れ、河川のはんらんにご注意下さい。また、雷が発生し落雷のおそれがあります。沿岸の海上では南西の風で最大風速10～15m/sとなり風波が高くなりましょう。

『特記付加事項』雨のもっとも強くなるのは夕刻から夜半前頃のみこみです。

大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報

7月21日 21時30分発表

梅雨前線の活動が活発となっています。島根県東部・西部のところどころで時間雨量30～40mmの強い雨が断続し局地的に大雨が続きましょう。今後の雨量は50～70mm、ところにより70～100mm、降りはじめから明朝までの総降水量は200～300mm。今までにかなりの雨が降り河川は増水し地盤が軟弱になっています。河川のはんらん、洪水、低地浸水、大規模な山崩れ、がけ崩れがおり大きな災害を引き

おこすおそれがありますので厳重な警戒が必要です。また、雷が発生し落雷のおそれがあります。沿岸の海上では南西の風で最大風速10～15m/sとなり風波が高くなりましょう。

明朝には弱くなるみこみです。今後の気象情報に注意を要します。

大雨・雷雨・強風・波浪注意報

7月22日 18時40分発表

梅雨前線の活動が活発となるみこみです。島根県の東部・西部・沿岸の海上では間もなく一時的に強い雨が降り、雷が発生し落雷のおそれがあります。また、風が強くなり沿岸の海上では突風のおそれがあります。今後の雨量は20～30mm、ところにより50mm、今までかなりの雨が降り地盤が軟弱になっています。低地の浸水や、山崩れ、がけ崩れや河川の増水に注意して下さい。風は南西のち北西の風で陸上の最大風速10～15m/s、海上の最大風速15～20m/sとなり沿岸の海上では風波が高くなりましょう。明日には弱くなるみこみです。

大雨・洪水警報、雷雨注意報

7月23日 00時35分発表

梅雨前線の活動が活発となっています。島根県の東部・西部では間もなく雷が発生し落雷のおそれがあります。強い雨が断続し大雨となるおそれがあり時間雨量30～50mmの強い雨が断続しましょう。これから昼前までの雨量は70～100mm、ところにより150mm、降りはじめから昼前までの総降水量は250～300mm、今までにかなりの雨が降り河川は増水し、地盤が軟弱になっています。河川の増水、はんらん、洪水、低地浸水、山崩れに十分警戒して下さい。今日昼前には弱くなるみこみ。

大雨・洪水警報、雷雨注意報

7月23日 06時40分発表

梅雨前線が島根県付近で活動が活発となっています。島根県の東部・西部では大雨はまだ続き時間雨量50～60mmの強い雨が断続しましょう。今後の雨量は東部では50～70mm、西部では70～100mm、ところにより150mm、降りはじめから昼すぎまでの総降水量は300～400mm、多いところは500～600mm、今までにかなりの雨が降り河川は増水し地盤が軟弱になっています。河川のはんらん、洪水、低地浸水、大規模な山崩れ、がけ崩れがおこり大きな災害を引きおこすおそれがありますので厳重な警戒が必要です。昼すぎには弱くなるみこみ。

大雨・洪水警報、雷雨注意報

7月23日 15時40分発表

梅雨前線の活動が活発となっています。島根県の東部・西部では大雨はまだ続き雷雨が発生し、落雷のおそれがあります。時間雨量40～60mmの強い雨が断続しましょう。これから明朝までの雨量は100～150mm、ところにより200mm、降りはじめから明朝までの総降水量は400～600mm、ところにより700mm、今までにかなりの雨が降り河川は増水し地盤が軟弱になっています。河川のはんらん、洪水、低地浸水、大規模な山崩れ、がけ崩れがおこり大きな災害を引きおこすおそれがありますので厳重な警戒が

必要です。明日には弱くなるみこみ。

『特記付加事項』雨のもっとも強くなるのは夕刻から夜半にかけてのみこみでさらに災害が予想されます。

洪水注意報

7月24日 06時15分発表

島根県の東部・西部では今までにかなりの雨が降り河川は増水し地盤が軟弱になっています。河川の増水、はんらん、洪水、低地浸水、山崩れ、がけ崩れに十分警戒して下さい。今夜には弱くなるみこみ。

大雨に関する情報 第1号

7月21日 22時40分発表

山陰地方を走る梅雨前線の活発化にともない、県西部山地を中心に1時間40～50mm、東部で20～30mmの激しい雨が降りましたが、松江レーダー観測によると、この雨雲は東へ進んでいます。しかし、まだ山陰沖の海上にはところどころ強い雨雲がありますので明朝まで引続き警戒が必要です。（この他に、アメダス27地点の雨量を付加した。これはすべての情報共おなじ）

大雨に関する情報 第2号

7月22日 09時25分発表

三坂山レーダー観測によると強い雨雲は山陰沖に北上して隠岐島では強い雨が降っていますが、県内では小雨程度になっています。しかし強い雨雲はふたたび南下しはじめており島根県に近づいています。まもなく東部沿岸からしだいに西にかけて1時間10～30mmの強い雨が降るおそれがあります。今までにかなりの雨量になっていますので、山・がけ崩れ、河川の増水、洪水に十分警戒して下さい。

大雨に関する情報 第3号

7月23日 01時40分発表

レーダー観測によると、梅雨前線にともなう強い雨雲は島根県の沿岸にそって内陸まで広くひろがっています。特に県の西部では1時間60～70mmの激しい雨となっています。強い雨雲は山口県沖にもあって東進しており、この状態はここ数時間続き総降水量は20日01時から400mmをこして大きな災害が予想されますので厳重な警戒が必要です。

大雨に関する情報 第6号

7月23日 04時25分発表

松江レーダー観測によると、島根県を広くおおっていた厚い雨雲は、やや南下傾向がみられ県の中部沿岸部では雨は弱まっています。しかし山口沖から進入する厚い雨雲は県西部益田、三隅付近から進入し1時間40mmの雨を降らせています。降りははじめからの総降水量は400mmをこえたところもあり、西部では500mmに達するところもありますので引続き警戒が必要です。

大雨に関する情報 第9号

7月23日 07時25分発表

大雨にともなう梅雨前線は引続き山陰沿岸ぞいに停滞しているため益田付近を中心とする厚い雨雲は7時までの1時間に90mmの豪雨を降らせました。レーダー観測によっても西部沿岸に上陸する10km以上の雨雲はなお山口沖を東進していますので引続き警戒が必要です。

大雨に関する情報 第12号

7月23日 10時30分発表

レーダー観測によれば、県西部には強い雨雲が停滞し浜田では10時、時間雨量53mmを観測、なお益田付近でも引続き強い雨が降っています。なお、強い雨雲は益田の西海上にあって今後益田～浜田を結ぶ線上に進んでくるみこみです。引続き厳重な警戒を要します。

大雨に関する情報 第15号

7月23日 13時30分発表

レーダー観測によれば県西部の強い雨雲は弱まりながら北上、浜田付近の強い雨は弱まってきました。しかし大田付近では1時間10mm程度の強い雨が降り出してきました。これから県東部にも影響するおそれがありますので引続き警戒して下さい。

大雨に関する情報 第18号

7月23日 18時30分発表

レーダー観測によると強い雨雲が島根半島にかかっています。このため東部沿岸部を中心に時間雨量10～20mmの雨が断続するみこみですから十分警戒して下さい。

第1表 注意報・警報などの発表状況

58年 7 月 松江地方気象台

種 別	発 表			解 除		
	日	時	分	日	時	分
大雨・洪水・雷雨・波浪注意報	20	15	30			
大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報	21	05	00			
洪水注意報	21	03	30			
大雨・洪水・雷雨・波浪注意報	21	13	40			
大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報	21	21	30			
大雨に関する情報№1	21	22	40			
大雨・洪水・雷雨注意報	22	02	30			
大雨・洪水警報、雷雨注意報	22	05	45			
大雨・洪水・雷雨注意報	22	07	25	22	13	30
大雨に関する情報№2	22	09	25			
大雨・雷雨・強風・波浪注意報	22	18	40			
大雨・洪水警報、雷雨注意報	23	00	35			
大雨に関する情報№3	23	01	40			
大雨に関する情報№4	23	02	30			
大雨に関する情報№5	23	03	35			
大雨に関する情報№6	23	04	25			
大雨に関する情報№7	23	05	20			
大雨に関する情報№8	23	06	20			
大雨・洪水警報、雷雨注意報	23	06	40			
大雨に関する情報№9	23	07	25			
大雨に関する情報№10	23	08	30			
大雨に関する情報№11	23	09	35			
大雨に関する情報№12	23	10	30			
大雨に関する情報№13	23	11	30			
大雨に関する情報№14	23	12	30			
大雨に関する情報№15	23	13	30			
大雨に関する情報№16	23	14	30			
大雨・洪水警報、雷雨注意報	23	15	40			
大雨に関する情報№17	23	17	15			
大雨に関する情報№18	23	18	30			
大雨・洪水注意報	23	22	10			
洪水注意報	24	06	15	24	11	00
強風・波浪注意報	24	12	10			
大雨・雷雨・強風・波浪注意報	24	14	00	24	17	00

2. 放送内容

日	時	分	放 送 内 容
21	05	15	大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報
	05	45	木都賀ダム放流量 3 t
	05	51	// // 40 t
	06	08	// // 50 t
	06	30	// // 70 t
	06	40	// // 100 t
	06	55	// // 120 t
	08	40	大雨・洪水警報解除
	09	10	洪水注意報
	09	30	木都賀ダム放流量 100 t
	10	00	// // 80 t
	10	30	// // 60 t
	21	05	木都賀ダム放流量 50 t
	21	20	// // 70 t
	21	30	// // 90 t
	21	40	大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報
	21	45	木都賀ダム放流量 120 t
	22	00	// // 150 t
			時間雨量（20時30分～21時30分—55mm）について。 谷集落、栗山堅宅半壊 消防団第2分団出動。
	22	14	通行止（国道9号線旭火薬店～田原交差点）
	22	15	木都賀ダム放流量 190 t
	22	25	// // 230 t
	22	40	谷集落、栗山堅宅へ消防団第2分団出動。 通行規制、雨量について。
	23	10	木都賀ダム放流量 250 t
22	00	05	木都賀ダム放流量 179 t

日	時	分	放 送 内 容
22	00	25	通行規制
	00	30	木都賀ダム放流量 149 t
	00	50	〃 〃 129 t
	01	35	〃 〃 90 t、通行規制
	02	45	〃 〃 65 t、大雨・洪水・雷雨注意報
	06	05	大雨・洪水警報、雷雨注意報、通行規制
	06	40	通行規制
	07	03	通行規制、国鉄バス運行について。
	07	45	大雨・洪水・雷雨注意報、通行規制、国鉄バス運行について。
	08	00	通行規制
	08	40	木都賀ダム放流量 30 t
23	19	10	大雨・雷雨・強風・波浪注意報
	00	53	大雨・洪水警報、雷雨注意報
	01	56	木都賀ダム放流量 30 t
	02	16	〃 〃 51 t
	02	30	田原川増水のため国道9号線通行止。
	02	40	木都賀ダム放流量 76 t
	02	55	〃 〃 96 t
	03	05	〃 〃 126 t
	03	10	7月20日の降り始めから総雨量350mm程度、山崩れ、がけ崩れなどに注意。
	03	15	木都賀ダム放流量 150 t
	03	35	〃 〃 196 t、河川の増水、雨量、山崩れ、がけ崩れなどに注意。
	03	40	消防団第1分団地方地区団員は曾我勝夫、大橋紀子宅集合。
	03	45	木都賀ダム放流量 226 t
	04	00	〃 〃 256 t
			通行規制（県道益田種三隅線、古湊向野田線）

日	時	分	放 送 内 容
23	04	07	消防団第2分団福浦、谷、駅前、八曾集落の団員は三保三隅駅に集合。 消防団第2分団古市場、湊浦地区の団員はそれぞれの地区に集合し警戒にあたれ。
	04	10	木都賀ダム放流量 296 t
	04	15	〃 〃 306 t
	04	25	〃 〃 346 t
	04	30	〃 〃 366 t
	04	40	〃 〃 396 t
	04	45	〃 〃 426 t
	04	50	〃 〃 456 t
			消防団第6分団は地区で警戒にあたれ。
	04	55	木都賀ダム放流量 486 t 役場職員は出勤せよ、出勤できない職員は地区で警戒にあたれ。 上室谷、川元梅次宅流失。地区の消防団出動。消防団第5分団第1、2班は平田班長宅集合。 昭和47年災害より雨量が多い、危険地域は避難せよ。
	05	00	木都賀ダム放流量 526 t
	05	05	〃 〃 546 t
	05	10	〃 〃 549 t (役場への連絡無) 放送無
	05	17	上室谷、谷田利夫宅全壊。
	05	18	非常事態宣言、家屋の全壊・流失が町内各地で発生しているので注意せよ。激しい雨のため、家の後に山をひかえている世帯は避難せよ。
	05	25	東平原上、三浦菊三郎宅全壊 西下今明、新井直市宅全壊、1人行方不明、消防団第5分団出動。
	05	40	非常事態宣言、家屋の全壊・流失が町内各地で発生しているので危険家屋は避難せよ。
	05	45	三隅川の警戒水位(3.0m)をこえている。流域は安全な場所に避難せよ。 (5時40分→4.50m)
	06	00	須津地区の暗きよがつまったので避難せよ。消防団第1分団三隅班は矢富石油店集合。消防団第1分団河内班は玉田繁雄宅集合。三隅元本

日	時	分	放 送 内 容
23	06	00	町通り道路上50cm役場へ避難せよ。
	06	10	消防団第3分団は須津1区、浜崎弥作宅集合。 下古市、古湊地区は礼光寺または、漁村センターに避難せよ。
	06	15	三隅大橋上の提防決壊のおそれあり、三隅1区から4区役場に避難せよ。 中組、倉井桃太郎宅全壊、2人生き埋め、地区の消防団出動。
	06	25	湊上町、湊下町は元三保支所に避難せよ。
	06	35	向野田、寺戸貞男宅上の提防あと1mでこえるので向野田地区は避難せよ。
	06	50	非常事態宣言、家屋の全壊・流失が町内各地で発生しているので危険家屋は避難せよ。
	06	55	三隅川の水位が三隅大橋桁までとなった。大変危険なので避難せよ。
	07	00	キーパー三隅工場休業
	07	25	放送室に水が入り、まもなく放送ができなくなる。住民は警戒せよ。
	07	35	水没。放送終了。
			復 旧
26	18	30	お知らせ
	18	45	お知らせ
	19	00	町長あいさつ。戸別受信機について、消防団幹部会の開催、救援物資の配給。
27	06	20	医療隊の派遣、戸別受信機について、消防団幹部会の開催、救援物資の配給。
	13	15	臨時診療所開設、給水車について。
	13	45	// // // //
	14	10	// // // //
	19	00	医療隊の派遣、救援物資の配給、固定資産税第2期分について、災害特別電話の開設、山陰合同銀行の営業について。
			以下平常通りの放送内容。

第 2 章

防 災 体 制

第1節 町の防災体制と活動

1. 防災体制

町では、災害から町民の生命、身体および財産を保護するため、町地域防災計画および水防計画にもとづき、防災関係機関が相互に有機的一体性をもって、的確にかつ円滑に対処し得るよう体制の整備をはかっている。

(1)災害対策本部

三隅町災害対策本部は、「三隅町災害対策本部条例」および「三隅町災害対策本部規制」の定めるところにより、町長が必要と認めたとき設置されるが、具体的には次の各号の1に該当する場合である。

- (ア)大規模な災害が発生するおそれがあり、その対策を要するとき。
- (イ)災害が発生し、その規模および範囲からして特に対策を要するとき。
- (ウ)災害救助法の適用を受けるような災害が発生したとき。

本庁二階総務課に本部室をおき、災害応急対策を行うことにしているが、災害地が町本部から遠隔の場合で、特に必要があると認めるときは、主要災害地に現地本部を設置する。

なお、町本部の組織系統は第4図のとおりである。

(2)水防本部

三隅町水防計画にもとづき、役場に常時水防本部をおき、洪水、高潮に対する水防体制を整備するなど、水防対策を実施している。

水防計画は、水防法の規定にもとづき町内の各河川に対する水防上必要な監視、警戒、通信、連絡、輸送、水防のための消防団の活動、水防管理団体相互の協力および応援ならびに水防に必要な器具、資材などについて定めたもので、これにもとづき水防本部は下記の責務を負っている。

- (ア)一般庶務ならびに水防資材の調達、確保。
- (イ)水防に関する企画の樹立。
- (ウ)水防予警報に関すること。
- (エ)情報の蒐集連絡に関すること。
- (オ)緊急対策に関すること。
- (カ)水防作業の指導、応援に関すること。
- (キ)水防のため必要な物資の輸送に関すること。
- (ク)被害とりまとめに関すること。

水防本部の組織は次のとおりである。

本部長→町長

副本部長→助役

本部員→収入役、各かい課長

総務係→総務課職員

これらの業務を行うため、松江地方気象台から水防に関する気象などの予警報を受けたとき、状況に応じ準備、警戒、緊急、非常の各体制を組織し、水防時の河川水位などの情報連絡など、町防災行政無線を使用して実施している。

2. 58年7月豪雨時における災害対策

(1)災害対策本部の活動

7月19日に本州の南海上まで南下して、一時的に活動が弱まっていた梅雨前線は、20日に低気圧が日本海中部を東進したことにともなって、ふたたび活動が活発となった。21日には、低気圧は日本海の北東部に進み、梅雨前線は中国地方の瀬戸内側に停滞した。松江地方気象台は同日21時30分に「大雨・洪水・雷雨・波浪注意報」を「大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報」に切替えて、住民に厳重な注意を呼びかけた。

本庁宿直者、大谷義美、松本勲はこれを受けて、総務課緊急時連絡体系にもとづき、高森総務課長に連絡した。高森課長は三賀森町長、山藤助役に連絡したあと、泉川総務課主査、梅谷防災係長、寺戸給与係長、玉田広報係長に連絡をとり、ただちに登庁するよう命令した。これを受けて梅谷係長は総務課男子職員に本庁へただちに登庁するよう連絡した。なお本庁の近くに居住している職員、杖田建設課長、松本厚生課長、柳子耕地課長、田中財政係長、吉原運転手、桑本主事、大森主事、横田主事は自主的に登庁した。第二次災害体制である。

登庁した職員は町長以下16名であり、夜間で危険なため、災害調査は明るくなって調査することにし、主に田原川、細田川、山田川の警戒、情報収集、および電話での応対にとどめた。消防団も自主的に各分団の地区の警戒を開始していた。23時30分ごろ、第2分団布田分団長から、谷集落の栗山堅宅裏山が崩れたので、土のう200枚を送って欲しい旨電話連絡が入ったため、梅谷防災係長、川田主事により現場へ運搬した。22日1時30分、小康状態となったため、総務課職員、高森課長、泉川主査、梅谷係長、玉田係長、寺戸係長、清水係長、三浦運転手、川田主事の8名が総務課で待機することにし、他の職員は帰宅した。

22日は、朝から情報収集調査班は分担して、町内全域にわたり災害の調査にあたった。午後からは晴れ間ものぞき、全員定時に帰宅した。

梅雨前線は、ふたたび山陰沿岸まで北上して停滞、22日夜から23日午前中にかけて山陰沖を低気圧がとおり、本町に強い雨をもたらし、松江地方気象台は、「大雨・雷雨・強風・波浪注意報」を23日0時35分、「大雨・洪水警報、雷雨注意報」に切替えた。

22日の23時ごろから強い雨が降りはじめた。山藤助役から高森総務課長に登庁する旨の電話があり、高森総務課長は泉川主査、梅谷係長に登庁するよう連絡し、ただちに登庁した。泉川主査はそれを受けて玉田係長、寺戸係長に登庁するよう連絡した。梅谷係長は川田主事、三浦運転手に連絡

した。しかし、泉川主査は各道路が決壊していたため登庁を断念し、井野地区の情報収集をする旨連絡があった。杖田建設課長は自主的に登庁していたが、庁舎の近くに居住している職員も2時ごろには、松本厚生課長、柳子耕地課長、吉本経済課長、吉原運転手、桑本主事、田中係長、大森主事、曾我主事、斉藤裕主事、横田主事、斉藤友主事、下田係長、吉野囑託が登庁し、町内の情報収集および住民からの電話による被災通報の処理にあたった。しかし、登庁していた職員のみでは対応できなくなったため、高森課長は4時55分、防災行政無線により、役場職員は全員本庁へただちに登庁すること、また、増水、決壊などで登庁できない職員は、各々の地区で住民の避難、誘導および、警戒にあたるよう放送し、本庁に災害対策本部を設置した。

5時18分、三賀森町長は、木都賀ダムの放流量、町内の被害状況、降水量などから判断して、全町民に対し、防災行政無線を通じて非常事態を宣言し、避難を勧告した。そして、本庁への被害通報に対しては、安全な場所へ避難するように指導した。また、庁舎外で緊急車を利用して情報収集および警戒をしていた職員には、三隅川堤防が決壊する危険があるためただちに本庁に帰るよう、消防無線で連絡し、帰庁させた。三隅地区住民のうち約450名が庁舎へ避難してきたため、3階の全室を解放して避難所とした。役場1階事務室にあった重要書類は、避難住民の協力を得て4階の書庫に保管したが、8時30分ごろには1階事務室は天井まで浸水した。

島根県庁に対し、自衛隊の出動要請、緊急救援物資（おにぎり3,000個、牛乳2,000本、毛布2,500枚）の依頼をしたが、救援物資については災害のため陸上輸送ができず、海上輸送で福浦港に陸揚げする旨連絡があった。そこで、松本課長、吉本課長、柳子課長ほか職員数名と避難住民数十名は救援物資を受け取るため、15時30分ごろ徒歩で福浦漁港に向けて出発したが、輸送船が予定より遅れて到着したため、救援物資をかついで全員が帰庁したときは夜中であった。

23日の夜は、三賀森町長、山藤助役、古市収入役、高森総務課長、清谷企画財政課長、杖田建設課長、柳子課長、松本厚生課長、吉本経済課長、神本主査、桑原課長補佐、清水係長、梅谷係長、寺戸係長、玉田係長、杖田係長、桑本係長、下田係長、田中係長、大森主事、吉原運転手、三浦運転手、曾我主事、桑本主事、横田主事、川田主事、神本保健婦、富金原主事、樋口保健婦により、不眠不休の救援活動を行った。清谷企画財政課長は23日正午すぎ、汚水の中を泳いで登庁し、24日には泉川主査も登庁した。また、24日には仮設電話が役場に設置され、町外在住者などからかかってくる住民の安否をきづかう電話に対応するため、24時間体制でのぞんだ。

24日夜は、救援物資が多く保管場所がないため、国道9号線の三隅トンネルの中を保管場所



役場庁舎3階に避難した三隅地区の住民

にし、松本課長、泉川主査、清水係長、大田主事が管理のため、トンネル内で宿泊した。

26日から、災害対策組織を再編成し、災害応急対策を強力にすることになった。まず、被災家屋の調査などからはじめたが、情勢が毎日変わるため、それに対応できるよう毎日夜、2階総務課で会議を開催し、第4表のように編成変えを行った。また、本庁の職員だけでは対応できなかったため、出先機関の職員も動員した。

昼夜を徹しての対応のため、24日からは、被災した職員は夜遅く帰宅して自宅の後片づけをし、翌朝定時出勤という方法を採用した。本部では、三賀森町長、山藤助役、古市収入役、総務課の男子職員などが、床に新聞紙を敷いての泊り込みで対応し、救援、義援物資については、元産業センター車庫にゴザを敷いて交代で宿泊し、物資の受け取りおよび見張り番をした（第5、6、7表）。

23日4時55分、防災行政無線で、役場職員は全員ただちに本庁へ登庁するように放送したが、井野地区は山崩れ、道路の決壊などのため登庁は無理で、他の地区も河川増水のため登庁できない状態であった。また、消防団も全分団が各地区の警戒、避難誘導にあたっていたが、登庁できなかった職員の中には、消防団員として活動していた者も数人あった。

三保地区の肥後税務課長は、役場三保出張所へ4時に詰め、本庁へ、三保出張所で待機している旨電話連絡をした。10分後、菅谷係長も三保出張所へ詰めた。金本消防団長は三隅川、川口附近を巡視して、三保出張所へ詰め、三人で交互に情報収集に出かけた。6時ごろ、中島主事もこれに加わった。7時すぎ、公社電話が不通になった。肥後課長は、第2分団から要請された炊出しの手配をするため、地元の婦人8名に応援を依頼し、避難者および被災者の世話をした。24日、肥後課長、菅谷係長は本庁へ登庁した。

岡見地区の藤川老人ホーム所長は、23日4時ごろ老人ホームに出勤し、増水に備えたが、5時ごろ森井三隅保育所長と中山地区の状況調査をはじめた。そのころ須津地区の災害が甚大との情報を得て、二人で同地区に出向き、増水などのため危険と判断して須津住民に安全地帯へ避難するよう呼びかけた。途中で藤川所長は沖元寮母に出会ったので、出勤しないで現地での対応をするように指示した。中山地区で、山崩れの危険がある家屋については、避難を呼びかけた。

二人は、岡見川下流の情報を得るため松原集落に向かった。途中永田寮母に出会ったので、職員不足のため明24日には老人ホームへ出勤するよう指示した。また、古湊、下古市地区の住民は、すでに礼光寺、漁村センターに避難していて無事との情報を得たので、藤川所長と森井所長は老人ホームに帰り、今後の対策について協議し、人手不足のため、介護明けの斉藤介護員にそのまま勤務するように指示した。10時30分ごろ斉藤寮母が老人ホームに出勤してきたので、ホームは寺戸囑託、斉藤寮母で対応するよう指示した。13時ごろ森井所長は三隅保育所へ徒歩で出発した。宿直明けの寺戸囑託も自宅が被災した情報を得たため、15時に帰宅させた。16時ごろ森井所長が帰園し、状況を聞

き、岡見地区の全職員を24日に老人ホームに出勤させるため、その旨を住民に伝言依頼した。日没のため情報も途絶えたので、夜はホーム宿直者に頼んで、藤川、森井所長は21時30分に帰宅した。

24日には、藤川所長、森井所長、坂田井野保育所長、石本係長、山本多寿夫、尾崎晴行、斉藤憲司、三浦弘見、佐々木博道、中戸清吾主事、三浦運転手、斉藤寮母の岡見地区職員12名が老人ホームに出勤した。全員で対策を協議し、地区



陥没した県道岡見停車場線

の状況を把握するため次のとおりに班を編成した。栃の木方面、坂田・斉藤憲・三浦弘 板ヶ峠方面、中戸・三浦・佐々木 青浦方面、森井・山本・尾崎 西の谷方面、石本を各々調査員とし、藤川所長、斉藤寮母はホームに待機して情報の取りまとめにあたった。藤川所長は、須津の山崩れの現場の状況を調査後、大辻集落の情報を得て、災害対策本部へ状況を報告した。9時30分ごろ長崎囑託が今浦から徒歩でホームに出勤してきた。11時ごろ、藤川所長は対策本部へ、岡見地区の状況と今後の対応について相談のため、登庁した。17時ごろ、全職員は本庁へ登庁するよう、対策本部から連絡があったので、17時30分ごろに帰ってきた調査員に、その旨を指示した。19時、藤川所長を残して全職員は帰宅し、21時、藤川所長も帰宅した。

25日は、藤川所長、寺戸岡見保育所長、森井所長がホームに勤務し、救援物資の配付作業を実施した。19時30分、宿直者を斉藤栄養士に定めて全員帰宅した。

26日は、老人ホームの全職員が出勤し、仮設便所の設営、飲料水の運搬などを実施して、宿直者を斉藤栄養士にして、21時30分全員帰宅した。

27日は、前日と同様の対応をし、宿直者を斉藤栄養士にして、19時全員帰宅した。

28日は、物資を受領するために、藤川所長が元産業センターに私用車で出かけて受け取り、老人ホームで配分した。また、漁業協同組合で氷を受け取り、元産業センターへ届けた。

7月29日から8月8日まで同様に実施し、岡見地区の救援物資の受領配付は各集落で行うことになったので、翌日から老人ホーム本来の業務にもどった。

井野地区は、山間部に位置しているため、道路の寸断、山復崩壊、土石流などが発生し、職員間で連絡を取り合うことができず、職員一人ひとりが地区の状況を判断して行動した。

岩本課長は、23日6時に下今明付近の情報を本庁に連絡したあと、岩本出納室長と避難誘導を行い、下今明集会所を本拠にして、避難者への炊き出しを実施した。24日は、道路を確保するため業者を指導し、流木、崩土の除去作業を実施した。午後になり、本庁からの調査員（河上係長、斉藤

主事、永井主事）が情報収集のため下今明集会所に立寄ったので、状況の報告をしたが、井野地区職員には連絡がとれなかった。25日には、岩本出納室長と本庁へ登庁した。

泉川主査は、23日は危険家屋の避難誘導、被災者の救出、罹災世帯への炊き出しを行い、行方不明者の搜索の応援にあたった。24日は早朝から、芦谷集会所に避難者の食事を運搬し、芦谷集会所までの道路確保のため、流木などの除去作業を行った。午後、上今明および、上室谷集落の情報収集、被害調査をしていた大田主事と合流し、本庁へ登庁した。

潮主事は、23日7時ごろ井野児童館へ出向き、電々公社の孤立防止無線を使用して、本庁へ市場付近の状況報告をした。今後の対応について、梅谷防災係長からの指示により、井野地区の情報収集、被害調査を行い、26日には本庁へ登庁した。

中川係長は、23日3時ごろ、上室谷集落を警戒し、危険と思われる住民45名を自宅に避難誘導したが、付近に土石流が発生したため、午後には避難住民を誘導して、諸谷集落に避難した。24日は自衛隊および警察の被害調査の現地案内をしたあと、上室谷集落の水道復旧のため地元住民と作業し、25日に本庁へ登庁した。

三内係長は、23日は川本豊隆氏家族の救助を地元住民と試みたが救出できず、24日は同家の葬儀の世話をし、25日に本庁へ登庁した。

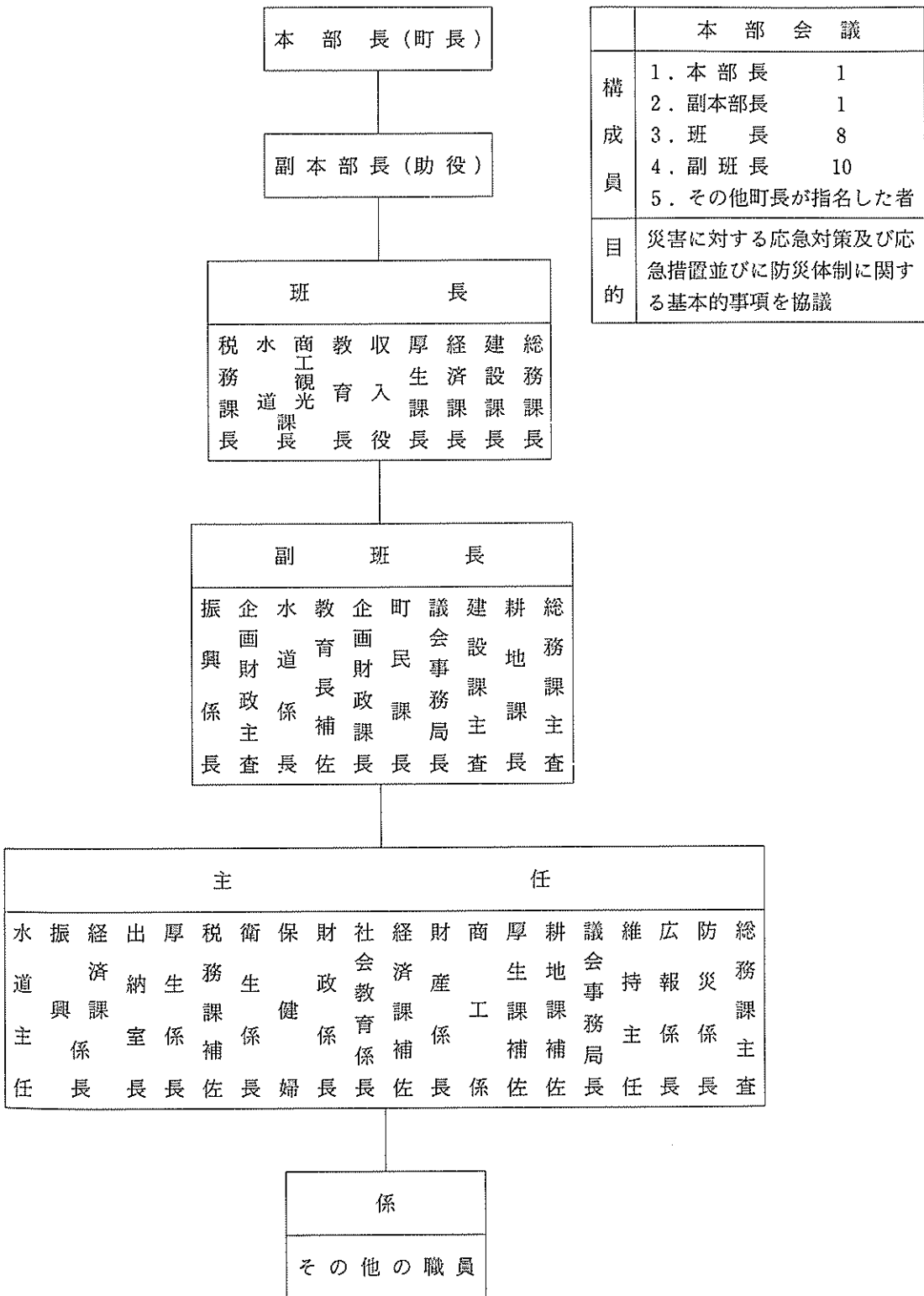
7月23日4時55分に本庁に設置された災害対策本部では、日数が重なるにつれ、宿泊職員にも疲れが見えはじめたため、8月22日から9月19日までの間は、総務課男子職員が交代で宿泊して対応した。今回の災害は町全域におよび、全町民の60%強が被災し、激甚な被害となった。

災害後5ヵ月経った12月に、災害対策本部は、災害応急対策が終了したと認め、12月28日をもって解散した。なお、県の対策本部も12月28日に解散された。

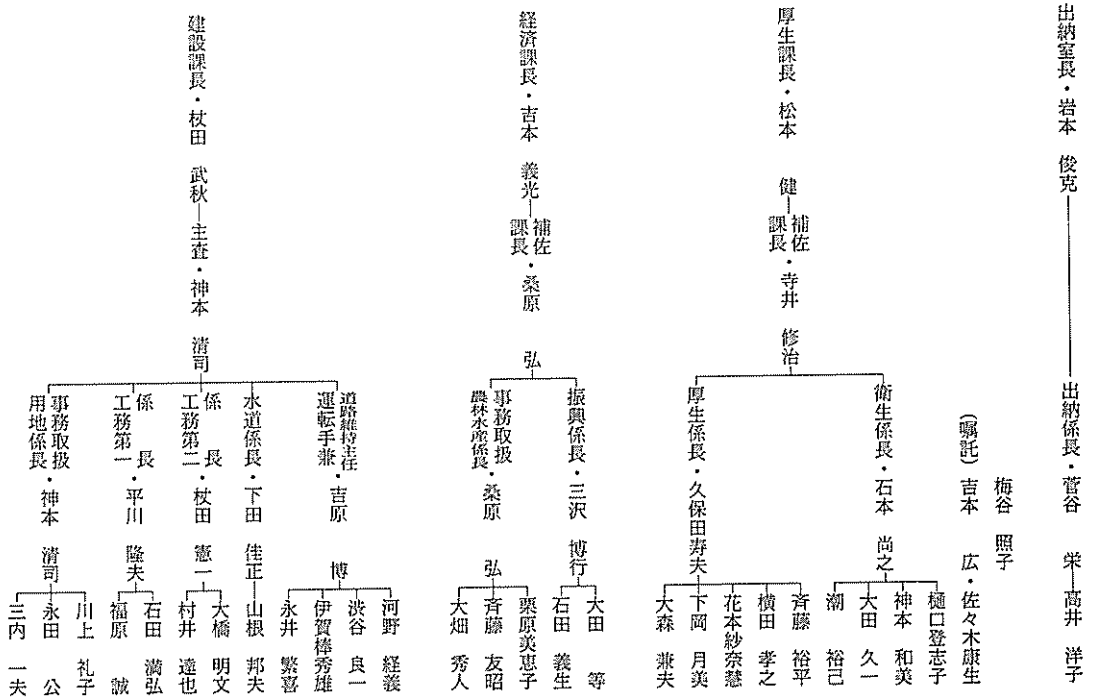
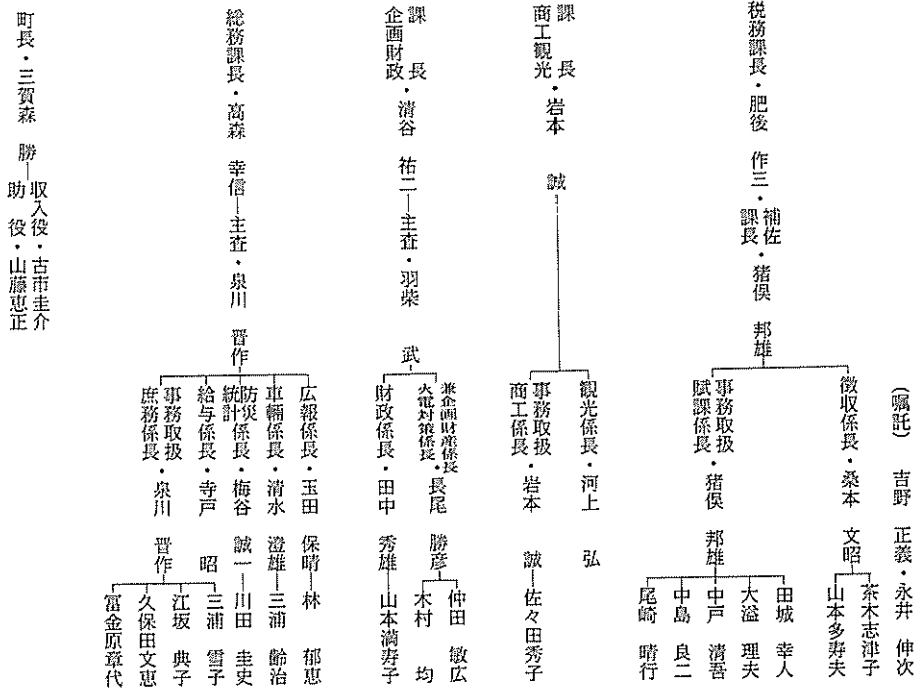


土石流により家屋の周囲は埋没

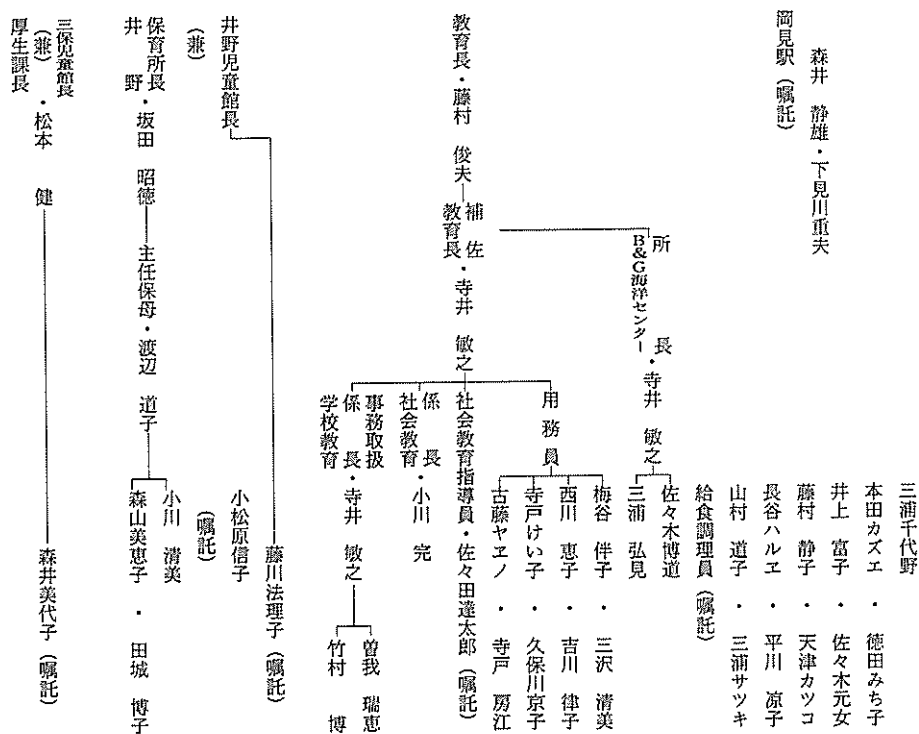
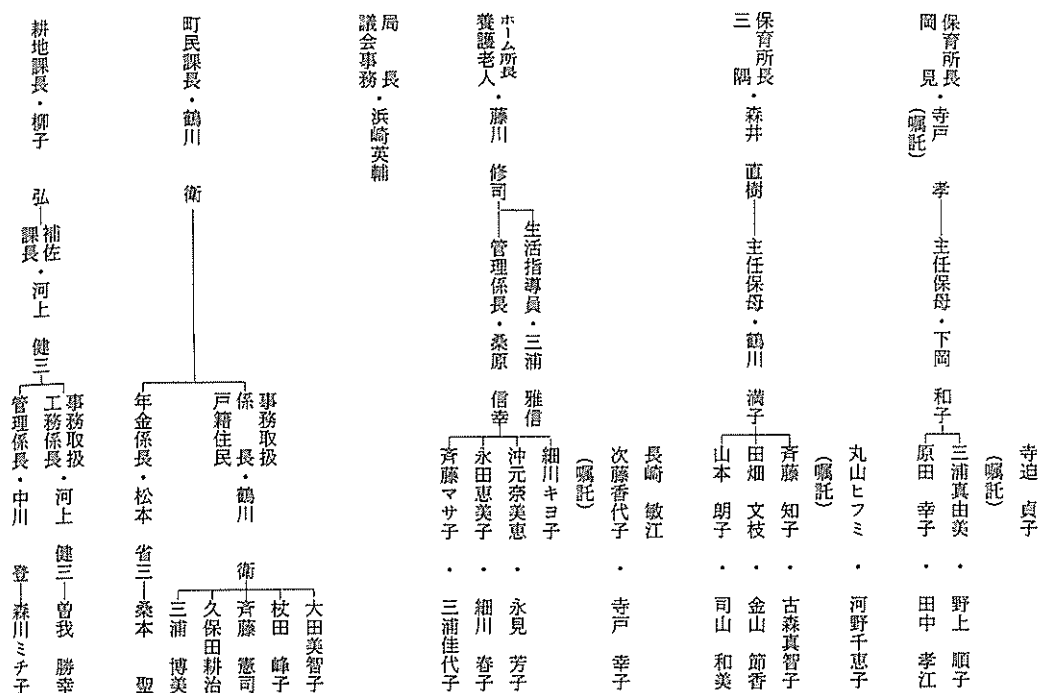
第4図 三隅町災害対策本部組織図



第2表 三隅町職員機構 - 1



第3表 三隅町職員機構-2



第4表 災害対策分担表

7月26日(火)

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	6	高森幸信 泉川晋作 寺戸 昭 梅谷誠一 桑本 聖 齊藤憲司(戸籍)
秘書係	6	清谷祐二 菅谷 栄 富金原章代 清水澄雄 佐々田秀子 浜崎英輔
炊出係	6	古市圭介 山本満寿子 三浦雪子 茶木志津子 杖田峰子 林 郁恵
物資輸送係	37	松本 健 柳子 弘 桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 桑本文昭 河上 弘 石田義生 木村 均 中島良二 大畑秀人 吉野正義(嘱) 永井伸次 (嘱) 齊藤友昭 川田圭史 高井洋子 小川 完 竹村 博 伊賀棒秀雄 河野經義 渋谷良一 渡辺道子 久保田文恵 大田美智子 大田久一 横 田孝之 栗原美恵子 田城博子 齊藤知子 下岡和子 曾我瑞恵 山岡初 音(臨) 野上順子 曾我勝幸 久保田耕治 坂田昭徳 司山和美
仮設調査係 (写真撮影)	19	〔三保〕寺井敏之 仲田敏廣〔三隅〕平川隆夫 吉原 博 福原 誠 石 田満弘〔井野〕岩本俊克 三澤博行 中川 登 潮 裕巳 三内一夫〔岡 見〕鶴川 衛 尾崎晴行 森井直樹 三浦弘見〔白砂〕永井繁喜 田城幸 人〔黒沢〕吉本義光 大田 等
水道係	3	神本清司 下田佳正 山根邦夫
道路用地係	3	杖田憲一 村井達也 大橋明文
調査係	5	羽柴 武 中戸清吾 山本多寿夫 佐々木博道 齊藤裕平
連絡伝令係	5	岩本 誠 三浦齡治 永田 公 江坂典子 河上健三(アマチュア無線)
防災無線係	1	玉田保晴
消毒係	4	寺井修治 神本和美 樋口登志子 花本紗奈慈
ごみ対策係	4	石本尚之 久保田寿夫 大森兼夫 松本省三
救護係	1	肥後作三

7月27日(水)

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	7	高森幸信 泉川晋作 寺戸 昭 梅谷誠一 桑本 聖 齊藤憲司(戸籍) 浜崎英輔
秘書係	6	清谷祐二 菅谷 栄 富金原章代 清水澄雄 佐々田秀子 大田美智子
炊出係	6	古市圭介 三浦雪子 林 郁恵 茶木志津子 杖田峰子 山本満寿子
物資輸送係	32	柳子 弘 桑原 弘 猪俣邦雄 桑本文昭 河上 弘 木村 均 中島良 二 大畑秀人 吉野正義(嘱) 永井伸次(嘱) 齊藤友昭 川田圭史 高井 洋子 河野經義 渋谷良一 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 久保田文 恵 大田久一 横田孝之 栗原美恵子 鶴川満子 大畑秀人 山本朗子 田畑文枝 司山和美 金山節香 下岡和子 曾我瑞恵 野上順子 森川ミチコ
仮設調査係	21	〔三保〕寺井敏之 仲田敏廣〔三隅〕平川隆夫 吉原 博 福原 誠 石 田満弘 久保田耕治〔井野〕岩本俊克 三澤博行 中川 登 潮 裕巳 三内一夫 伊賀棒秀雄〔岡見〕鶴川 衛 尾崎晴行 森井直樹 三浦弘見

係 名	人員	担 当 者 名
水 道 係	3	〔白砂〕永井繁喜 田城幸人〔黒沢〕吉本義光 大田 等
道 路 用 地 係	3	神本清司 下田佳正 山根邦夫
調 査 係	7	杖田憲一 村井達也 大橋明文 〔三隅〕羽柴 武 中戸清吾 山本多寿夫 佐々木博道 斉藤裕平〔三保〕 長尾勝彦 石田義生
連 絡 伝 令 係	5	岩本 誠 三浦齡治 永田 公 江坂典子 河上健三（アマチュア無線）
防 災 無 線 係	1	玉田保晴
消 毒、ごみ対策係	8	松本 健 寺井修治 神本和美 樋口登志子 松本省三 石本尚之 久保 田寿夫 大森兼夫
救 護 係	1	肥後作三
教育施設調査係	2	小川 完 竹村 博

7月28日（木）

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	7	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 桑本 聖 斉藤憲司（戸籍） 浜崎英輔
秘 書 係	5	清谷祐二 菅谷 栄 富金原章代 清水澄雄 佐々田秀子
炊 出 係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 杖田峰子
物 資 輸 送 係	32	松本 健 柳子 弘 猪俣邦雄 桑本文昭 河上 弘 下岡月美 石田義 生 川田圭史 木村 均 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝 司山和美 金 山節香 熊谷真智子 斉藤知子 森川ミチコ 曾我瑞恵 久保田文恵 下 岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 渡辺道子 大田美智子 高井 洋子 栗原美恵子 田城博子 小川清美 桑原 弘 森山美恵子
給 水 係	1	三浦齡治
調 査 係	23	〔三隅〕吉本義光 羽柴 武 吉原 博 福原 誠 仲田敏廣 田中秀雄 〔岡見〕鶴川 衛 尾崎晴行 中戸清吾 山本多寿夫 曾我勝幸 坂田昭 徳 森井直樹〔井野〕岩本俊克 中川 登 三内一夫 三澤博行〔黒沢〕 久保田耕治 石田満弘 大湊理夫 大田 等〔白砂〕永井繁喜 田城幸人
水 道 係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道 路 用 地 係	2	杖田憲一 大橋明文
仮 設 調 査 係	2	平川隆夫 村井達也
連 絡 伝 令 係	4	岩本 誠 永田 公 江坂典子 河上健三（アマチュア無線）
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
救 護 係	1	肥後作三
消 毒 係	18	寺井修治 久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 横田孝之 斉藤裕平 神本 和美 樋口登志子 花本紗奈慧 松本省三 大畑秀人 斉藤友昭 三浦弘 見 佐々木博道 永井伸次（嘱）吉野正義（嘱）中島良二 渋谷良一
ご み 対 策 係	2	石本尚之 大森兼夫
学 校 対 策 係	4	藤村俊夫 寺井敏之 小川 完 竹村 博

7月29日（金）

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	8	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 桑本 聖 浜崎英輔 菅谷 栄（会計） 齊藤憲司（戸籍）
秘書係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊出係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 杖田峰子
物資輸送係	27	柳子 弘 松本 健（兼） 桑原 弘 猪俣邦雄 河上 弘 下岡月美 石田義生 川田圭史 木村 均 田中秀雄 長尾勝彦 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 尾崎晴行 中戸清吾 森川ミチコ 曾我瑞恵 大田美智子 高井洋子 栗原美恵子 坂田昭徳
給水係	2	永井繁喜 田城幸人
調査係	8	〔三隅〕 吉本義光 羽柴 武 山本多寿夫 曾我勝幸〔黒沢〕 大田 等 大溢理夫〔井野〕 岩本俊克 三内一夫
水道係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道路用地係	2	杖田憲一 大橋明文
仮設調査係	5	平川隆夫 村井達也 吉原 博 石田満弘 久保田耕治
連絡伝令係	5	岩本 誠 三浦齡治 永田 公 江坂典子 河上健三（アマチュア無線）
防災無線係	2	玉田保晴 林 郁恵
救護係	1	肥後作三
消毒係	19	松本 健（兼） 久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 横田孝之 齊藤裕平 神本和美 花本紗奈慧 樋口登志子 松本省三 大畑秀人 齊藤友昭 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次（嘱） 吉野正義（嘱） 中島良二 渋谷良一 仲田敏廣
ごみ対策係	2	石本尚之（兼） 大森兼夫
学校対策係	4	藤村俊夫 寺井敏之 小川 完 竹村 博
清掃対策係	5	鶴川 衛 桑本文昭 石本尚之（兼） 三澤博行 中川 登

7月30日（土）

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	6	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 浜崎英輔 齊藤憲司（戸籍）
秘書係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊出係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 杖田峰子
物資輸送係	25	柳子 弘 松本 健（兼） 桑原 弘 猪俣邦雄 下岡月美 川田圭史 木村 均 長尾勝彦 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 高井洋子 栗原美恵子 久保田文恵 森川ミチコ 曾我瑞恵 大田美智子 尾崎晴行 中戸清吾 小川 完
給水係	2	永井繁喜 田城幸人
調査係	7	吉本義光 河上 弘 田中秀雄 坂田昭徳 石田義生 山本多寿夫 曾我

係 名	人員	担 当 者 名
水道係	4	勝幸 神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道路用地係	2	杖田憲一 大橋明文
仮設調査係	6	平川隆夫 村井達也 三内一夫 福原 誠 吉原 博 石田満弘
会計係	2	岩本俊克 菅谷 栄
調査集計係	3	羽柴 武 江坂典子 川上礼子
連絡伝令係	4	岩本 誠 三浦齡治 永田 公 河上健三（アマチュア無線）
防災無線係	2	玉田保晴 林 郁恵
救護係	2	肥後作三 桑本 聖
消毒係	18	松本 健（兼）久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平 神本和美 樋口登志子 松本省三 大畑秀人 斉藤友昭 三浦弘見 佐々木博道 永 井伸次（嘱）吉野正義（嘱）中島良二 渋谷良一 仲田敏廣 大湊理夫
ごみ対策係	3	石本尚之 大森兼夫 大田 等
清掃対策係	13	鶴川 衛 桑本文昭 三澤博行 中川 登 花本紗奈慧 寺戸房江 西川 恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷侂子 古藤ヤエノ 久保田京子 寺戸けい子
学校対策係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
保育所対策係	8	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝 司山和美 金山節香 熊谷真 智子 斉藤知子

7月31日（日）

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	7	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 浜崎英輔 斉藤憲司（戸籍） 坂田昭徳（電話）
秘書係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊出係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 杖田峰子
物資輸送係	30	柳子 弘 松本 健（兼）桑原 弘 猪俣邦雄 下岡月美 石田義生 川 田圭史 木村 均 長尾勝彦 河上 弘 田中秀雄 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 高 井洋子 栗原美恵子 久保田文恵 森川ミチコ 曾我瑞恵 大田美智子 尾崎晴行 中戸清吾 小川 完 山本多寿夫 曾我勝幸
給水係	2	永井繁喜 田城幸人
水道係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
測量調査係	6	平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 大橋明文 石田満弘
道路用地係	4	吉本義光 三内一夫 吉原 博 伊賀棒秀雄
調査集計係	3	羽柴 武 江坂典子 川上礼子
会計係	2	岩本俊克 菅谷 栄
連絡伝令係	4	岩本 誠 三浦齡治 永田 公 河上健三（アマチュア無線）
防災無線係	2	玉田保晴 林 郁恵
救護係	2	肥後作三 桑本 聖

係 名	人員	担 当 者 名
消 毒 対 策 係	20	松本 健(兼) 久保田寿夫 寺井修治 潮 裕巳 大田久一 横田孝之 斉藤裕平 神本和美 樋口登志子 松本省三 大畑秀人 斉藤友昭 三浦 弘見 佐々木博道 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱) 中島良二 渋谷良一 仲田敏廣 大溢理夫
ご み 対 策 係	3	石本尚之 大森兼夫 大田 等
清 掃 対 策 係	13	鶴川 衛 桑本文昭 三澤博行 中川 登 花本紗奈慧 寺戸房江 寺戸 けい子 久保田京子 古藤ヤエノ 西川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷 伴子
学 校 対 策 係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
保 育 所 対 策 係	8	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝 司山和美 金山節香 熊谷真 智子 斉藤知子

8月1日(月)

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	6	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 浜崎英輔 斉藤憲司(戸籍)
秘 書 係	4	清水祐二 富金原章代 清水澄雄 佐々田秀子
炊 出 係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 杖田峰子
物 資 輸 送 係	27	桑原 弘 猪俣邦雄 下岡月美 長尾勝彦 河上 弘 石田義生 田中秀 雄 木村 均 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 曾我瑞恵 桑原信幸 細川 春子 永見芳子 久保田文恵 高井洋子 森川ミチコ 川田圭史 伊賀棒 秀雄 山本多寿夫
避 難 者 調 査 係	2	吉本義光 久保田耕治
調 査 集 計 係	3	羽柴 武 江坂典子 川上礼子
会 計 係	2	岩本俊克 菅谷 栄
災 害 調 査 係	6	平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 大橋明文 石田満弘
給 水 係	2	永井繁喜 田城幸人
水 道 係	3	神本清司 下田佳正 山根邦夫
道 路 用 地 係	2	吉原 博 三内一夫
厚 生 対 策 係	2	松本 健 横田孝之
農 林 調 査 係	8	柳子 弘 河上健三 曾我勝幸 三澤博行 永田 公 尾崎晴行 中戸清 吾 大溢理夫
連 絡 伝 令 係	3	岩本 誠 三浦齡治 栗原美恵子
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
救 護 係	2	肥後作三 桑本 聖
消 毒 係	16	久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤友昭 斉藤裕平 神本和美 樋口 登志子 松本省三 大畑秀人 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱) 三浦弘見 佐々木博道 中島良二 仲田敏廣 渋谷良一
清 掃 対 策 係	12	鶴川 衛 桑本文昭 中川 登 花本紗奈慧 寺戸房江 古藤ヤエノ 大

係 名	人員	担 当 者 名
ごみ対策係	3	田美智子 寺戸けい子 西川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子
学校対策係	4	石本尚之 大森兼夫 大田 等
保育所対策係	8	藤村俊夫 寺井敏之 小川 完 竹村 博 森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝 司山和美 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子

8月2日(火)

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	6	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 浜崎英輔 斉藤憲司(戸籍)
秘書係	4	清谷祐二 富金原章代 清水澄雄 佐々田秀子
炊出係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 杖田峰子
物資輸送係	27	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 下岡月美 河上 弘 石田義生 田中秀雄 木村 均 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 曾我瑞恵 桑原信幸 細川春子 永見芳子 久保田文恵 森川ミチコ 伊賀棒秀雄 山本多寿夫 小川 完 久保田京子
避難調査係	5	吉本義光 久保田耕治 川田圭史 高井洋子 餅谷浩子(嘱)
調査集計係	3	羽柴 武 江坂典子 川上礼子
会計係	2	岩本俊克 菅谷 栄
災害調査(土木)係	7	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 大橋明文 石田満弘
仮設住宅係	4	司山和美 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
給水係	2	永井繁喜 田城幸人
水道係	3	神本清司 下田佳正 山根邦夫
道路用地係	2	吉原 博 三内一夫
厚生対策係	3	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧
農林調査係	8	柳子 弘 河上健三 曾我勝幸 三澤博行 永田 公 尾崎晴行 中戸清吾 大溢理夫
連絡伝令係	3	岩本 誠 三浦齡治 栗原美恵子
防災無線係	2	玉田保晴 林 郁恵
救護係	2	肥後作三 桑本 聖
消毒係	16	久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤友昭 斉藤裕平 神本和美 樋口登志子 仲田敏廣 松本省三 大畑秀人 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱) 三浦弘見 佐々木博道 中島良二 渋谷良一
清掃対策係	11	鶴川 衛 桑本文昭 中川 登 寺戸房江 古藤ヤエノ 大田美智子 寺戸けい子 西川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子
ごみ対策係	3	石本尚之 大森兼夫 大田 等
学校対策係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
保育所対策係	4	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月3日(水)

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	4	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭
秘書係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊出係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 司山和美
物資輸送係	29	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 田中秀雄 桑原信幸 小川 亮 下岡月美 石田義生 木村 均 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川 春子 永見芳子 森川ミチコ 久保田文恵 伊賀椿秀雄 山本多寿夫 久 保田京子 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
避難調査係	5	吉本義光 久保田耕治 川田圭史 曾我瑞恵 餅谷浩子(嘱)
調査集計係	3	羽柴 武 江坂典子 川上礼子
会計係	2	岩本俊克 菅谷 栄
戸籍係	3	斉藤憲司 杖田峰子 大田美智子
災害調査(土木)係	7	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 大橋明文 石田満 弘
仮設住宅係	3	浜崎英輔 三内一夫 河野經義
給水係	2	永井繁喜 田城幸人
水道係	3	神本清司 下田佳正 山根邦夫
道路用地係	3	吉原 博 桑本 聖 松本省三
厚生対策係	3	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧
農林調査係	8	柳子 弘 河上健三 曾我勝幸 三澤博行 永田 公 尾崎晴行 中戸清 吾 大湊理夫
連絡伝令係	3	岩本 誠 三浦齡治 栗原美恵子(物資)
防災無線係	2	玉田保晴 林 郁恵
救護係	1	肥後作三
消毒係	15	久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平 斉藤友昭 神本和美 樋口 登志子 仲田敏廣 渋谷良一 大畑秀人 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱) 三浦弘見 佐々木博道 中島良二
清掃対策係	10	鶴川 衛 桑本文昭 中川 登 寺戸房江 古藤ヤエノ 寺戸けい子 西 川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子
ごみ対策係	3	石本尚之 大森兼夫 大田 等
学校対策係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
保育所対策係	4	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月4日(木)

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	5	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭〔共済調査立会〕佐々田秀子〔〃〕
秘書係	3	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代

係 名	人員	担 当 者 名
炊 出 係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 司山和美
物 資 輸 送 係	29	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 田中秀雄 桑原信幸 小川 完 下岡月美 石田義生 木村 均 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川 春子 永見芳子 森川ミチコ 久保田文恵 伊賀棒秀雄 山本多寿夫 久 保田京子 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
避 難 調 査 係	5	吉本義光 久保田耕治 川田圭史 曾我瑞恵 餅谷浩子（嘱）
調 査 収 集 係	1	江坂典子
会 計 係	2	岩本俊克 菅谷 栄
戸 籍 係	3	斉藤憲司 杖田峰子 大田美智子
災 害 調 査 係	9	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 大橋明文 永田 公 石田満弘 川上礼子
仮 設 住 宅 係	2	浜崎英輔 三内一夫
建 物 調 査 案 内 係	2	桑本 聖 河野經義
給 水 係	2	永井繁喜 田城幸人
水 道 係	3	神本清司 下田佳正 山根邦夫
道 路 用 地 係	1	吉原 博
厚 生 対 策 係	3	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧
農 林 調 査 係	8	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 中戸清 吾 大溢理夫
連 絡 伝 令 係	3	岩本 誠 三浦齡治 栗原美恵子
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
救 護 係	1	肥後作三
消 毒 係	15	久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平 神本和美 斉藤友昭 樋口 登志子 仲田敏廣 渋谷良一 大畑秀人 永井伸次（嘱） 吉野正義（嘱） 三浦弘見 佐々木博道 中島良二
清 掃 対 策 係	12	鶴川 衛 桑本文昭 寺戸房江 古藤ヤエノ 大森兼夫 寺戸けい子 西 川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子 中田真澄（臨） 三沢小百合（臨）
ご み 対 策 係	2	石本尚之 大田 等
学 校 対 策 係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
物 資 受 入 係	4	羽柴 武 松本省三 岡田節子（臨） 山岡初音（臨）
保 育 所 対 策 係	4	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月5日（金）

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	4	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	6	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 司山和美 梅谷照子（臨）
物 資 輸 送 係	27	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 田中秀雄 桑原信幸 小川

係 名	人員	担 当 者 名
		完 下岡月美 石田義生 木村 均 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川 春子 永見芳子 森川ミチコ 久保田文恵 伊賀棒秀雄 山本多寿夫 久 保田京子 高井洋子
避 難 調 査 係	5	吉本義光 久保田耕治 川田圭史 大田久一 浜崎英輔
調 査 収 集 係	3	江坂典子 曾我瑞恵 餅谷浩子（嘱）
会 計 係	2	岩本俊克 菅谷 栄
戸 籍 係	3	斉藤憲司 杖田峰子 大田美智子
災 害 調 査 係	9	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 大橋明文 永田 公 石田満弘（兼）川上礼子
仮 設 住 宅 係	4	浜崎英輔 三内一夫 仲田敏廣〔海石住宅〕石田満弘（兼）〔〃〕
建物調査案内係	2	岩本 誠 松本省三
給 水 係	2	永井繁喜 田城幸人
水 道 係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野経義
道 路 用 地 係	1	吉原 博
厚生対策係	6	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
農 林 調 査 係	8	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 中戸清 吾 大溢理夫
連 絡 伝 令 係	3	桑本 聖 三浦齡治 栗原美恵子
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
救 護 係	1	肥後作三
消 毒 係	12	久保田寿夫 潮 裕巳 斉藤裕平 斉藤友昭 渋谷良一 大畑秀人 三浦 弘見 佐々木博道 永井伸次（嘱）吉野正義（嘱）神本和美 樋口登志子
清 掃 対 策 係	12	鶴川 衛 桑本文昭 大森兼夫 古藤ヤエノ 久保田京子 寺戸けい子 西川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子 中田真澄（臨）三沢小百合（臨）
ご み 対 策 係	2	石本尚之 大田 等
学 校 対 策 係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
物 資 受 入 係	3	羽柴 武 山岡初音（臨）岡田節子（臨）
保 育 所 対 策 係	4	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月6日（土）

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	4	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	6	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶木志津子 司山和美 梅谷照子（嘱）
物 資 輸 送 係	26	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 田中秀雄 桑原信幸 小川 完 下岡月美 石田義生 木村 均 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川 春子 永見芳子 森川ミチコ 久保田文恵 伊賀棒秀雄 山本多寿夫 久

係 名	人員	担 当 者 名
避難調査係	3	保田京子 吉本義光 久保田耕治 川田圭史
調査収集係	4	江坂典子 曾我瑞恵 餅谷浩子（嘱）浜崎英輔
会計係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
戸籍係	3	斉藤憲司 杖田峰子 大田美智子
災害調査係	9	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 石田満弘 大橋明 文 永田 公 川上礼子
仮設住宅係	1	三内一夫
建物調査係	2	岩本 誠 中島良二
給水係	2	永井繁喜 田城幸人
水道係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道路用地係	1	吉原 博
厚生対策係	6	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
農林調査係	8	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 中戸清 吾 大溢理夫
連絡伝令係	3	桑本 聖 三浦齡治 栗原美恵子
防災無線係	2	玉田保晴 林 郁恵
救護係	2	肥後作三 樋口登志子
消毒係	13	久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平 斉藤友昭 大畑秀人 渋谷 良一 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次（嘱）吉野正義（嘱）神本和美 仲田敏廣
清掃対策係	13	鶴川 衛 桑本文昭 大森兼夫 古藤ヤエノ 久保田京子 寺戸けい子 西川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子 中田真澄（臨）三沢小百合 （臨）寺戸房江
ごみ対策係	2	石本尚之 大田 等
学校対策係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
物資受入係	4	羽柴 武 松本省三 山岡初音 岡田節子
保育所対策係	4	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月7日（日）〔被災職員は日曜日のため自宅整理〕

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	3	泉川晋作 寺戸 昭 佐々田秀子
秘書係	1	清谷祐二
炊出係	4	山本満寿子 金山節香 久保田京子 寺戸けい子
物資輸送係	23	桑原 弘 長尾勝彦 猪俣邦雄 河上 弘 下岡月美 伊賀棒秀雄 中戸 清吾 森井直樹 石田義生 木村 均 坂田昭徳 小川清美 仲田敏廣 渋谷良一 竹村 博 三浦弘見 鶴川満子 三浦真由美 大畑秀人 寺戸 房江 梅谷伴子 山本多寿夫 永井伸次（嘱）
調査収集係	6	吉本義光 梅谷誠一 川田圭史 餅谷浩子 久保田耕治 三澤清美

係 名	人員	担 当 者 名
会 計 係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
災 害 調 査 係	3	村井達也 大橋明文 永田 公
仮 設 住 宅 係	2	岩本 誠 三内一夫
給 水 係	2	永井繁喜 田城幸人
厚生対策係	3	大田久一 熊谷真智子 斉藤知子
連絡伝令係	1	三浦齡治
防災無線係	1	玉田保晴
救 護 係	2	肥後作三（役場） 斉藤マサ子（漁村センター）
清掃対策係	2	鶴川 衛 桑本文昭
ごみ対策係	2	石本尚之 潮 裕巳
農林調査係	4	河上健三 中川 登 三澤博行 尾崎晴行
議 会 係	2	藤村俊夫 浜崎英輔
文 書 整 理 係	2	斉藤憲司 大田美智子

8月8日（月）

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	4	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	6	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 茶本志津子 司山和美 梅谷照子（嘱）
物資輸送係	26	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 田中秀雄 桑原信幸 小川 完 下岡月美 石田義生 木村 均 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川 春子 永見芳子 森川ミチコ 久保田文恵 伊賀棒秀雄 山本多寿夫 久 保田京子
調 査 収 集 係	6	吉本義光 久保田耕治 川田圭史 浜崎英輔 江坂典子 曾我瑞恵
会 計 係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
戸 籍 係	4	斉藤憲司 杖田峰子 大田美智子 桑本 聖（年金）
災 害 調 査 係	9	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 石田満弘 大橋明 文 永田 公 川上礼子
仮 設 住 宅 係	1	三内一夫
建 物 調 査 係	2	岩本 誠 中島良二
給 水 係	2	永井繁喜 田城幸人
水 道 係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道路用地係	1	吉原 博
厚生対策係	6	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
農林調査係	8	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 中戸清 吾 大澄理夫
連絡伝令係	2	三浦齡治 栗原美恵子
防災無線係	2	玉田保晴 林 郁恵

係 名	人員	担 当 者 名
救 護 係	2	肥後作三 樋口登志子
消 毒 係	13	久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平 斉藤友昭 大畑秀人 渋谷良一 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次（嘱）吉野正義（嘱）神本和美 仲田敏廣
清 掃 対 策 係	12	鶴川 衛 桑本文昭 大森兼夫 古藤ヤエノ 久保田京子 寺戸けい子 西川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子 中田真澄（臨）三沢小百合 （臨）寺戸房江
ご み 対 策 係	2	石本尚之 大田 等
学 校 対 策 係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
物 資 受 入 係	4	羽柴 武 松本省三 山岡初音（臨）岡田節子（臨）
保 育 所 対 策 係	4	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8 月 9 日（火）

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	4	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 司山和美 梅谷伴子
物 資 輸 送 係	23	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 田中秀雄 桑原信幸 下岡月 美 石田義生 木村 均 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川春子 永見芳子 森川 ミチコ 久保田文恵 伊賀棒秀雄 久保田京子
調 査 収 集 係	10	吉本義光 羽柴 武 浜崎英輔 久保田耕治 中戸清吾 山本多寿夫 川 田圭史 江坂典子 曾我瑞恵 餅谷浩子（嘱）
会 計 係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
戸 籍 係	3	斉藤憲司 杖田峰子 大田美智子
税 務 係	2	肥後作三 茶木志津子
災 害 調 査 係	9	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 永田 公 大橋明 文 石田満弘 川上礼子
仮 設 住 宅 係	1	三内一夫
建 物 調 査 係	2	岩本 誠 中島良二
給 水 係	2	永井繁喜 田城幸人
水 道 係	4	神本清司 下田佳正 山根邦雄 河野經義
道 路 用 地 係	1	吉原 博
厚 生 対 策 係	6	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
農 林 調 査 係	7	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 大溢理 夫
連 絡 伝 令 係	2	三浦齡治 栗原美恵子
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
救 護 係	2	桑本 聖 樋口登志子（漁村センター）
消 毒 係	14	寺井修治 久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平 斉藤友昭 大畑

係 名	人員	担 当 者 名
清 掃 対 策 係	12	秀人 渋谷良一 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次（嘱）吉野正義（嘱） 仲田敏廣 神本和美 鶴川 衛 桑本文昭 大森兼夫 古藤ヤエノ 寺戸けい子 寺戸房江 西 川恵子 三澤清美 吉川律子 中田真澄 三沢小百合 梅谷照子（母子セ ンター）
ご み 対 策 係	2	石本尚之 大田 等
学 校 対 策 係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
物 資 受 入 係	3	小川 完 松本省三 岡田節子
保 育 所 対 策 係	4	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月10日（水）

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	5	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 田中秀雄（起債申請）
秘 書 係	5	清谷祐二 清水澄雄 雷金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 司山和美 梅谷伴子
物 資 輸 送 係	22	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 桑原信幸 下岡月美 石田義 生 木村 均 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川春子 永見芳子 森川ミチコ 久 保田文恵 伊賀棒秀雄 久保田京子
調 査 収 集 係	9	吉本義光 羽柴 武 浜崎英輔 久保田耕治 山本多寿夫 川田圭史 江 坂典子 曾我瑞恵 餅谷浩子（嘱）
会 計 係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
戸 籍 係	3	斉藤憲司 杖田峰子 大田美智子
税 務 係	2	肥後作三 茶木志津子
災 害 調 査 係	9	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 永田 公 大橋明 文 石田満弘 川上礼子
仮 設 住 宅 係	1	三内一夫
建 物 調 査 係	2	岩本 誠 中島良二
給 水 係	1	永井繁喜
水 道 係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道 路 用 地 係	3	吉原 博 田城幸人 桑本 聖
厚 生 対 策 係	6	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
農 林 調 査 係	8	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 大溢理 夫 中戸清吾
連 絡 伝 令 係	2	三浦齡治 栗原美恵子
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
救 護 係	1	樋口登志子（漁村センター）
消 毒 係	14	寺井修治 久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平 斉藤友昭 大畑 秀人 渋谷良一 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次（嘱）吉野正義（嘱）

係 名	人員	担 当 者 名
清 掃 対 策 係	12	仲田敏廣 神本和美 鶴川 衛 桑本文昭 大森兼夫 古藤ヤエノ 寺戸けい子 寺戸房江 西 川恵子 三澤清美 吉川律子 中田真澄（臨）三沢小百合（臨）梅谷照子 （母子センター）（嘱）
ご み 対 策 係	2	石本尚之 大田 等
学 校 対 策 係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
物 資 受 入 係	3	小川 完 松本省三 岡田節子（臨）
保 育 所 対 策 係	4	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月11日（木）

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	7	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 久保田文恵 江坂典子 田中 秀雄（起債申請）
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	4	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 司山和美
物 資 輸 送 係	21	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 桑原信幸 下岡月美 石田義 生 木村 均 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川春子 永見芳子 森川ミチコ 伊 賀棒秀雄 久保田京子
調 査 収 集 係	8	吉本義光 羽柴 武 浜崎英輔 久保田耕治 山本多寿夫 川田圭史 曾 我瑞恵 餅谷浩子（嘱）
会 計 係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
戸 籍 係	3	斉藤憲司 杖田峰子 大田美智子
税 務 係	2	肥後作三 茶木志津子
災 害 調 査 係	9	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 永田 公 大橋明 文 石田満弘 川上礼子
仮 設 住 宅 係	1	三内一夫
給 水 係	1	永井繁喜
水 道 係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道 路 用 地 係	3	吉原 博 田城幸人 桑本 聖
厚 生 対 策 係	6	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
農 林 調 査 係	8	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 大濑理 夫 中戸清吾
連 絡 伝 令 係	3	岩本 誠 三浦齡治 栗原美恵子
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
救 護 係	1	樋口登志子（漁村センター）
消 毒 係	13	寺井修治 久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平 斉藤友昭 渋谷 良一 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次（嘱）吉野正義（嘱）仲田敏廣 神本和美

係 名	人員	担 当 者 名
清 掃 対 策 係	14	鶴川 衛 桑本文昭 大森兼夫 古藤ヤエノ 寺戸けい子 寺戸房江 西川恵子 三澤清美 吉川律子 中田真澄（臨）三沢小百合（臨）梅谷照子（母子センター）（嘱） 中島良二 大畑秀人
ご み 対 策 係	2	石本尚之 大田 等
学 校 対 策 係	3	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
物 資 受 入 係	3	小川 完 松本省三 岡田節子（臨）
保 育 所 対 策 係	4	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月12日（金）

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	7	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 久保田文恵 江坂典子 田中秀雄（起債申請）
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	4	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 司山和美
物 資 輸 送 係	20	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 桑原信幸 下岡月美 石田義生 木村 均 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川春子 永見芳子 森川ミチコ 伊賀棒秀雄
調 査 収 集 係	7	吉本義光 羽柴 武 浜崎英輔 山本多寿夫 川田圭史 曾我瑞恵 餅谷浩子（嘱）
会 計 係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
戸 籍 係	4	斉藤憲司 久保田耕治 杖田峰子 大田美智子
税 務 係	2	肥後作三 茶木志津子
災 害 調 査 係	11	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 永田 公 大橋明文 石田満弘 川上礼子 佐々木 操（臨）岡田節子（臨）
仮 設 住 宅 係	1	三内一夫
給 水 係	1	永井繁喜
水 道 係	4	神本清司 下田佳正 山根邦雄 河野經義
道 路 用 地 係	3	吉原 博 桑本 聖 田城幸人
厚 生 対 策 係	6	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子
農 林 調 査 係	8	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 大湊理夫 中戸清吾
連 絡 伝 令 係	3	岩本 誠 三浦齡治 栗原美恵子
防 災 無 線 係	1	林 郁恵
救 護 係	1	樋口登志子（漁村センター）
消 毒 係	13	寺井修治 久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平 斉藤友昭 渋谷良一 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次（嘱）吉野正義（嘱）仲田敏廣 神本和美
清 掃 対 策 係	8	鶴川 衛 中島良二 大畑秀人 桑本文昭 大森兼夫 中田真澄（臨）三

係 名	人員	担 当 者 名
ごみ対策係	2	沢小百合（臨）梅谷照子（母子センター）（嘱）
学校対策係	3	石本尚之 大田 等
物資受入係	2	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
保育所対策係	4	小川 完 松本省三
（学校出務）	8	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝
		古藤ヤエノ 久保田京子 寺戸けい子 寺戸房江 西川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子

8月13日（土）

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	7	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 久保田文恵 江坂典子 田中秀雄（起債申請）
秘書係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊出係	5	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 司山和美 梅谷伴子
物資輸送係	26	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 桑原信幸 下岡月美 石田義生 伊賀棒秀雄 木村 均 原田幸子 三浦真由美 野上順子 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 細川春子 永見芳子 森川ミチコ 渋谷良一 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次 吉野正義 仲田敏廣
調査収集係	7	吉本義光 羽柴 武 浜崎英輔 山本多寿夫 川田圭史 曾我瑞恵 餅谷浩子（嘱）
会計係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
戸籍係	4	斉藤憲司 久保田耕治 杖田峰子 大田美智子
税務係	2	肥後作三 茶木志津子
災害調査係	11	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 永田 公 大橋明文 石田満弘 川上礼子 佐々木 操（臨）岡田節子（臨）
仮設住宅係	1	三内一夫
給水係	1	永井繁喜（容器回収）
水道係	4	神本清司 下田佳正 河野經義 山根邦夫
道路用地係	4	吉原 博 桑本 聖 田城幸人 斉藤友昭
厚生対策係	7	松本 健 横田孝之 花本紗奈慧 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子 神本和美
農林調査係	9	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 大溢理夫 中戸清吾 中田真澄（臨）
連絡伝令係	3	岩本 誠 三浦齡治 栗原美恵子
防災無線係	2	玉田保晴 林 郁恵
救護係	1	樋口登志子
消毒係	5	寺井修治 久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平
清掃対策係	14	鶴川 衛 中島良二 大畑秀人 桑本文昭 古藤ヤエノ 久保田京子 寺

係 名	人員	担 当 者 名
ごみ対策係	3	戸けい子 寺戸房江 西川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子 三沢小百合（臨）梅谷照子（母子センター）（囑）
学校対策係	3	石本尚之 大田 等 大森兼夫
物資受入係	2	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博
保育所対策係	4	小川 完 松本省三 森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月14日（日）

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	5	泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 久保田文恵 江坂典子
秘書係	2	清谷祐二 佐々田秀子
炊出係	4	古市圭介 山本満寿子 司山和美 梅谷伴子
物資輸送係	18	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 桑原信幸 下岡月美 石田義生 伊賀棒秀雄 木村 均 坂田昭徳 渋谷良一 佐々木博道 仲田敏廣 渡辺道子 田城博子 小川清美 野上順子 三浦真由美 下岡和子
物資受入係	2	小川 完 松本省三
調査収集係	4	浜崎英輔 山本多寿夫 川田圭史 曾我瑞恵
会計係	2	菅谷 栄 高井洋子
戸籍係	3	斉藤憲司 久保田耕治 大田美智子
税務係	2	肥後作三 茶木志津子
災害調査係	6	杖田武秋 杖田憲一 永田 公 大橋明文 石田満弘 川上礼子
水道係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道路用地係	2	田城幸人 斉藤友昭
厚生対策係	5	横田孝之 花本紗奈慧 久保田寿夫 潮 裕巳 大田久一
農林調査係	7	河上健三 中川 登 三澤博行 大湊理夫 中戸清吾 森川ミチコ 中田真澄（臨）
連絡伝令係	3	岩本 誠 三浦齡治 栗原美恵子
防災無線係	1	玉田保晴
救護係	1	樋口登志子
清掃対策係	6	桑本文昭 大畑秀人 久保田京子 西川恵子 三澤清美 吉川律子
ごみ対策係	2	石本尚之 大森兼夫
学校対策係	1	藤村俊夫
保育所対策係	4	森井直樹 鶴川満子 金山節香 熊谷真智子

8月15日（月）

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	6	高森幸信 梅谷誠一 寺戸 昭 久保田文恵 江坂典子 田中秀雄（起償 関保）

係 名	人員	担 当 者 名
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	4	古市圭介 三浦雪子 司山和美 永田恵美子
物 資 輸 送 係	11	猪俣邦雄 長尾勝彦 三浦雅信 伊賀棒秀雄 佐々木博道 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱) 寺戸 孝 原田幸子 渋谷良一 森山美恵子
調 査 収 集 係	6	吉本義光 羽柴 武 浜崎英輔 川田圭史 曾我瑞恵 餅谷浩子(嘱)
会 計 係	2	岩本俊克 菅谷 栄
戸 籍 係	3	久保田齡治 杖田峰子 大田美智子
税 務 係	1	茶木志津子
災 害 調 査 係	5	杖田武秋 平川隆夫 村井達也 福原 誠 永田 公
仮 設 住 宅 係	1	三内一夫
水 道 係	2	下田佳正 河野經義
道 路 用 地 係	4	吉原 博 桑本 聖 田城幸人 斉藤友昭
厚 生 対 策 係	7	松本 健 花本紗奈慧 寺井修治 樋口登志子 大田久一 斉藤裕平 神 本和美
農 林 調 査 係	6	柳子 弘 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 尾崎晴行 大湊理夫
連 絡 伝 令 係	1	三浦齡治
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
滑 掃 対 策 係	8	鶴川 衛 中島良二 大畑秀人 古藤ヤエノ 久保田京子 寺戸けい子 寺戸房江 西川恵子
ご み 対 策 係	2	石本尚之 大田 等
ポ リ 容 器 収 集 係	1	永井繁喜
学 校 対 策 係	2	藤村俊夫 竹村 博
保 育 所 対 策 係	3	森井直樹 田畑文枝 梅谷照子(母子センター)(嘱)

8月16日(火)

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	3	高森幸信 泉川晋作 江坂典子
秘 書 係	2	清水澄雄 富金原章代
炊 出 係	4	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 梅谷伴子
物 資 輸 送 係	10	桑原 弘 河上 弘 藤川修司 下岡月美 石田義生 木村 均 森川ミ チコ 三浦弘見 永井伸次(嘱) 仲田敏廣
物 資 受 入 係	2	小川 完 松本省三
調 査 収 集 係	6	吉本義光 羽柴 武 山本多寿夫 川田圭史 曾我瑞恵 餅谷浩子(嘱)
会 計 係	2	岩本俊克 高井洋子
戸 籍 係	2	斉藤憲司 杖田峰子
税 務 係	1	肥後作三
災 害 調 査 係	9	平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 大橋明文 石田満弘 川上礼 子 佐々木 操(臨) 岡田節子(臨)
仮 設 住 宅 係	1	三内一夫

係 名	人員	担 当 者 名
水 道 係	2	神本清司 山根邦夫
道 路 用 地 係	2	吉原 博 桑本 聖
厚 生 対 策 係	6	松本 健 横田孝之 金山節香 熊谷真智子 斉藤知子 神本和美
農 林 調 査 係	6	柳子 弘 河上健三 曾我勝幸 尾崎晴行 中戸清吾 中田真澄（臨）
連 絡 伝 令 係	2	岩本 誠 栗原美恵子
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
消 毒 係	3	久保田寿夫 潮 裕巳 斉藤裕平
清 掃 対 策 係	8	鶴川 衛 中島良二 桑本文昭 古藤ヤエノ 寺戸房江 三澤清美 吉川 律子 梅谷照子（母子センター）（嘱）
ご み 対 策 係	2	大田 等 大森兼夫
ポ リ 容 器 収 集 係	1	永井繁喜
保 育 所 対 策 係	3	鶴川満子 山本朗子 田畑文枝

8月17日（水）

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	8	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 久保田文恵 江坂典子 三浦 齡治 田中秀雄（起債）
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	4	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 司山和美
物 資 輸 送 係	17	桑原 弘 猪俣邦雄 長尾勝彦 河上 弘 桑原信幸 石田義生 仲田敏 廣 伊賀棒秀雄 木村 均 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次（嘱）吉野正義 （嘱）渋谷良一 細川春子 永見芳子 三沢小百合（臨）
物 資 受 入 係	2	小川 完 永井繁喜
調 査 収 集 係	7	吉本 義光 羽柴 武 浜崎英輔 山本多寿夫 川田圭史 曾我瑞恵 餅 谷浩子（嘱）
会 計 係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
戸 籍 係	5	斉藤憲司 久保田耕治 杖田峰子 大田美智子 松本省三
税 務 係	3	肥後作三 尾崎晴行 茶木志津子
厚 生 対 策 係	8	松本 健 久保田寿夫 下岡月美 横山孝之 花本紗奈慧 神本和美 金 山節香 熊谷真智子
災 害 調 査 係	11	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 大橋明文 永田 公 石田満弘 川上礼子 佐々木 操（臨）岡田節子（臨）
仮 設 住 宅 係	1	三内一夫
水 道 係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道 路 用 地 係	4	吉原 博 桑本 聖 田城幸人 斉藤友昭
農 林 調 査 係	11	柳子 弘 河上健三 中川 登 三澤博行 曾我勝幸 大湊理夫 中戸清 吾 森川ミチコ 中田真澄（臨）竹田千影（臨）尾崎晴行
連 絡 伝 令 係	2	岩本 誠 栗原美恵子
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵

係 名	人員	担 当 者 名
救 護 係	1	樋口登志子
消 毒 係	4	寺井修治 潮 裕巳 大田久一 斉藤裕平
清 掃 対 策 係	12	鶴川 衛 中島良二 大畑秀人 桑本文昭 古藤ヤエノ 久保田京子 寺 戸房江 西川恵子 三澤清美 吉川律子 梅谷伴子 大森兼夫
ご み 対 策 係	2	石本尚之 大田 等
学 校 対 策 係	4	藤村俊夫 寺井敏之 竹村 博 寺戸けい子 (三隅小)
保 育 所 対 策 係	15	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝 斉藤知子 坂田昭徳 渡辺道 子 森山美恵子 田城博子 小川清美 寺戸 孝 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子

8月18日 (木)

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	7	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 寺戸 昭 久保田文恵 江坂典子 田中 秀雄 (起債)
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 冨金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	4	古市圭介 三浦雪子 山本満寿子 司山和美
物 資 輸 送 係	18	桑原 弘 長尾勝彦 河上 弘 三浦雅信 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒 秀雄 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次 (嘱) 吉野正義 (嘱) 渋谷良一 永見芳子 古藤ヤエノ 久保田京子 西川恵子 吉川律子 梅谷伴子
物 資 受 入 係	1	小川 完
調 査 収 集 係	7	吉本義光 羽柴 武 浜崎英輔 山本多寿夫 川田圭史 曾我瑞恵 餅谷 浩子
会 計 係	3	岩本俊克 菅谷 栄 高井洋子
戸 籍 係	6	鶴川 衛 松本省三 斉藤憲司 久保田耕治 杖田峰子 大田美智子
税 務 係	6	肥後作三 猪俣邦雄 桑本文昭 尾崎晴行 中島良二 茶木志津子
厚 生 対 策 係	12	松本 健 久保田寿夫 大森兼夫 下岡月美 潮 裕巳 大田久一 横田 孝之 斉藤裕平 花本紗奈慧 金山節香 熊谷真智子 神本和美 (検病)
経 済 対 策 係	3	石田義生 大畑秀人 斉藤友昭
災 害 調 査 係	11	杖田武秋 平川隆夫 杖田憲一 村井達也 福原 誠 大橋明文 永田 公 石田満弘 川上礼子 佐々木 操 (臨) 岡田節子 (臨)
仮 設 住 宅 係	1	三内一夫
給 水 係	1	永井繁喜
水 道 係	4	神本清司 下田佳正 山根邦夫 河野經義
道 路 用 地 係	3	吉原 博 桑本 聖 田城幸人
農 林 調 査 係	10	柳子 弘 河上健三 中川 登 曾我勝幸 三澤博行 森川ミチコ 大湊 理夫 中戸清吾 中田真澄 (臨) 竹田千影 (臨)
連 絡 伝 令 係	2	岩本 誠 栗原美恵子
防 災 無 線 係	2	玉田保晴 林 郁恵
救 護 係	1	斉藤マサ子

係 名	人員	担 当 者 名
こ み 対 策 係	3	寺井修治 石本尚之 大田 等
学 校 対 策 係	6	藤村 俊夫 寺井敏之 竹村 博 寺戸けい子 三澤清美 寺戸房江
保 育 所 対 策 係	14	森井直樹 鶴川満子 山本朗子 田畑文枝 坂田昭徳 渡辺道子 森山美恵子 田城博子 小川清美 寺戸 孝 下岡和子 原田幸子 三浦真由美 野上順子

8月19日(金)

係 名	人員	担 当 者 名
秘 書 係	4	清谷祐二 清水澄雄 富金原章代 佐々田秀子
炊 出 係	2	三浦雪子 山本満寿子
物 資 輸 送 係	5	長尾勝彦 河上 弘 木村 均 永井伸次 吉野正義
調 査 収 集 係	7	吉本義光 浜崎英輔 羽柴 武 川田圭史 山本多寿夫 曾我瑞恵 餅谷浩子(嘱)
農 林 調 査 係	5	三澤博行 大溢理夫 中戸清吾 中田真澄(臨) 竹田千影(臨)
連 絡 伝 令 係	1	岩本 誠
救 護 係	1	樋口登志子
給 水 係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属かい長の指示に従うこと。 なお、1階ロッカーの使用者は整理をすること。		

8月20日(土)

係 名	人員	担 当 者 名
物 資 輸 送 係	10	長尾勝彦 河上 弘 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 渋谷良一 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱) 斉藤友昭 潮 裕巳

8月21日(日)

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	12	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 玉田保晴 川田圭史 清水澄雄 三浦歸治 富金原章代 久保田文恵 江坂典子 林 郁恵 三浦雪子
秘 書 係	1	佐々田秀子
物 資 輸 送 係	2	河上 弘 長尾勝彦
調 査 収 集 係	4	吉本義光 羽柴 武 川田圭史 山本多寿夫
農 林 調 査 係	5	三澤博行 大溢理夫 中戸清吾 中田真澄(臨) 竹田千影(臨)
連 絡 伝 令 係	1	岩本 誠
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月22日（月）

係 名	人員	担 当 者 名
秘 書 係	1	佐々田秀子
物 資 輸 送 係	5	長尾勝彦 河上 弘 木村 均 伊賀棒秀雄 渋谷良一
農 林 調 査 係	6	三澤博行 大溢理夫 中戸清吾 中田真澄 竹田千影 尾崎晴行
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月23日（火）

係 名	人員	担 当 者 名
物 資 輸 送 係	10	長尾勝彦 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 田城幸人 斉藤友昭 潮 裕巳 斉藤裕平 永井伸次（嘱）吉野正義（嘱）
農 林 調 査 係	6	三澤博行 中戸清吾 大溢理夫 尾崎晴行 中田真澄（臨）竹田千影（臨）
住 宅 建 設 係	3	岩本 誠 桑本文昭 河上 弘
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月24日（水）

係 名	人員	担 当 者 名
物 資 輸 送 係	8	長尾勝彦 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 渋谷良一 潮 裕巳 大田 久一 三沢小百合（臨）
農 林 調 査 係	6	三澤博行 中戸清吾 尾崎晴行 大溢理夫 中田真澄（臨）竹田千影（臨）
住 宅 建 設 調 査 係	3	岩本 誠 河上 弘 桑本文昭
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月25日（木）

係 名	人員	担 当 者 名
物 資 対 策 係	7	長尾勝彦 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 渋谷良一 潮 裕巳 大田 久一
農 林 調 査 係	6	三澤博行 中戸清吾 尾崎晴行 大溢理夫 中田真澄（臨）竹田千影（臨）
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月26日(金)

係 名	人員	担 当 者 名
物資対策係	7	長尾勝彦 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 波谷良一 潮 裕巳 大田久一
農林調査係	6	三澤博行 中戸清吾 尾崎晴行 大濫理夫 中田真澄(臨) 竹田千影(臨)
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月27日(土)

係 名	人員	担 当 者 名
物資対策係	14	長尾勝彦 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 潮 裕巳 大田久一 河上弘 桑原信幸 三浦弘見 佐々木博道 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱) 藤川法理子(嘱) 三沢小百合(臨)
農林調査係	4	三澤博行 中戸清吾 尾崎晴行 大濫理夫
容器回収係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月28日(日)

係 名	人員	担 当 者 名
庶務係	8	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 玉田保晴 寺戸 昭 川田圭史 江坂典子 林 郁恵
物資対策係	12	河上 弘 潮 裕巳 長尾勝彦 仲田敏廣 大田久一 波谷良一 木村均 齊藤裕平 田城幸人 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱) 吉本博美(臨)
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月29日(月)

係 名	人員	担 当 者 名
物資輸送係	9	長尾勝彦 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 波谷良一 潮 裕巳 大田久一 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱)
農林調査係	4	三澤博行 尾崎晴行 大濫理夫 吉本博美(臨)
容器回収係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月30日(火)

係 名	人員	担 当 者 名
物資輸送係	9	長尾勝彦 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 渋谷良一 潮 裕巳 大田久一 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱)
農林調査係	4	三澤博行 尾崎晴行 大湊理夫 吉本博美(臨)
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

8月31日(水)

係 名	人員	担 当 者 名
物資輸送係	9	長尾勝彦 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 渋谷良一 潮 裕巳 大田久一 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱)
農林調査係	4	三澤博行 尾崎晴行 大湊理夫 吉本博美(臨)
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月1日(木)

係 名	人員	担 当 者 名
物資輸送係	9	長尾勝彦 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 渋谷良一 潮 裕巳 大田久一 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱)
農林調査係	4	三澤博行 尾崎晴行 大湊理夫 吉本博美(臨)
容器回収係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月2日(金)

係 名	人員	担 当 者 名
物資輸送係	9	寺井修治 仲田敏廣 木村 均 伊賀棒秀雄 渋谷良一 潮 裕巳 大田久一 永井伸次(嘱) 吉野正義(嘱)
農林調査係	4	三澤博行 尾崎晴行 大湊理夫 吉本博美(臨)
容器回収係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月3日(土)

係 名	人員	担 当 者 名
物 資 輸 送 係	8	寺井修治 仲田敏廣 木村 均 伊賀樺秀雄 潮 裕巳 大田久一 永井 伸次(嘱) 吉野正義(嘱)
農 林 調 査 係	4	三澤博行 尾崎晴行 大湊理夫 吉本博美(臨)
容 器 回 収 係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月4日(日)

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係 (合同慰霊祭)	13	高森幸信 梅谷誠一 寺戸 昭 玉田保晴 川田圭史 清水澄雄 三浦齡 治 富金原章代 久保田文恵 江坂典子 三浦雪子 林 郁恵 吉川律子
物 資 輸 送 係	3	長尾勝彦 大田久一 吉野正義(嘱)
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月5日(月)

係 名	人員	担 当 者 名
物 資 輸 送 係	5	寺井修治 大田久一 伊賀樺秀雄 渋谷良一 木村 均
水 容 器 回 収 係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月6日(火)

係 名	人員	担 当 者 名
物 資 輸 送 係	5	寺井修治 大田久一 伊賀樺秀雄 渋谷良一 木村 均
水 容 器 回 収 係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月7日(水)

係 名	人員	担 当 者 名
物 資 輸 送 係	5	寺井修治 大田久一 伊賀樺秀雄 渋谷良一 木村 均
水 容 器 回 収 係	2	永井繁喜 桑原 弘
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月8日(木)

係 名	人員	担 当 者 名
物資輸送係	5	寺井修治 大田久一 伊賀棒秀雄 渋谷良一 木村 均
水容器回収係	2	永井繁喜 桑原 弘
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月9日(金)

係 名	人員	担 当 者 名
物資輸送係	15	寺井修治 大森兼夫 潮 裕巳 大田久一 大田 等 桑本 聖 木村 均 河上 弘 川田圭史 伊賀棒秀雄 渋谷良一 三浦弘見 佐々木博道 吉野正義(囁) 永井伸次(囁)
水容器返済係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月10日(土)

係 名	人員	担 当 者 名
物資輸送係	15	寺井修治 大森兼夫 潮 裕巳 大田久一 大田 等 桑本 聖 木村 等 河上 弘 川田圭史 伊賀棒秀雄 渋谷良一 三浦弘見 佐々木博道 吉野正義(囁) 田城幸人
水容器返済係	1	永井繁喜
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

9月11日(日)

係 名	人員	担 当 者 名
庶 務 係	5	高森幸信 泉川晋作 梅谷誠一 久保田文恵 三浦雪子
上記以外の者は、所属課かい長の指示に従うこと。		

第5表 本部宿泊者一覽表

(S 58. 7. 23~58. 8. 21)

職 名	氏 名	宿泊日数
町 長	三賀森 勝	25
助 役	山藤 恵正	29
収 入 役	古市 圭介	9
総 務 課 長	高森 幸信	5
企画財政課長	清谷 祐二	22
建設 課 長	杖田 武秋	10
厚生 課 長	松本 健	5
耕地 課 長	柳子 弘	5
經濟 課 長	吉本 義光	2
総務課主査	泉川 晋作	21
統計防災係長	梅谷 誠一	29
給 与 係 長	寺戸 昭	22
広報 係 長	玉田 保晴	21
車両 係 長	清水 澄雄	15
主 事	桑本 聖	5
主 事	川田 圭史	22
運 転 手	三浦 齡治	22

第6表 本部宿泊者一覽表

(S 58. 8. 22~58. 9. 19)

職 名	氏 名	宿泊日数
企画財政課長	清谷 祐二	5
総務課主査	泉川 晋作	12
統計防災係長	梅谷 誠一	15
給 与 係 長	寺戸 昭	14
広報 係 長	玉田 保晴	14
車両 係 長	清水 澄雄	12
主 事	川田 圭史	15
運 転 手	三浦 齡治	11

第7表 物資輸送係宿泊者一覽表

(S 58. 7. 23~58. 8. 31)

職 名	氏 名	宿泊日数
厚生 課 長	松本 健	7 + 2 (計)
耕地 課 長	柳子 弘	7 + 2 (計)
經濟課課長補佐	桑原 弘	8
税務課課長補佐	猪俣 邦雄	5
火電対策係長兼 財産 係 長	長尾 勝彦	6
徴収 係 長	桑本 文昭	4
觀光 係 長	河上 弘	5
厚生 係 長	久保田寿夫	1
主 事	石田 義生	5
〃	斉藤 憲司	1
〃	大田 久一	7 + 1 (計)
〃	尾崎 晴行	1
〃	横田 孝之	4
〃	中戸 清吾	1
〃	斉藤 裕平	1
〃	潮 裕巳	1
〃	斉藤 友昭	5 + 1 (計)
〃	木村 均	5
〃	田城 幸人	4
〃	大畑 秀人	1
財政 係 長	田中 秀雄	1
社会教育係長	小川 完	3
運 転 手	伊賀棒秀雄	2
主 事	山本多寿夫	3
〃	久保田耕治	1
〃	仲田 敏廣	1
〃	大森 兼夫	1
衛生 係 長	石本 尚之	1
嘱 託	吉野 正義	5
〃	永井 伸次	6
総務課主査	泉川 晋作	1 (計)
車輛 係 長	清水 澄雄	1 (計)
主 事	川田 圭史	1 (計)

3. 広報活動および町防災行政無線の活動

町では、7月21日午前5時、大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報の発令と共に、6時「第1次災害体制」に入った。気象警報・注意報の伝達、木都賀ダムの放流量3t/秒から午前6時55分の120t/秒まで、災害情報の伝達に努めた。午前8時40分、大雨・洪水警報の解除と共に、第1次体制を解いた。しかし、夕方から梅雨前線が活発となり、午後9時30分、大雨・洪水警報、雷雨・波浪注意報が発令され、時間雨量50mm前後の雨が激しく降り、10時にふたたび「第1次災害体制」に入った。

午後10時、谷集落、栗山堅宅が裏山の土砂崩れにより半壊との連絡で、消防団第2分団に出動命令。また、田原川の増水により国道9号線は通行止めとなった。集中的な雨で、木都賀ダムの放流量も50t/秒から次第に250t/秒に増大した。しかし、午後11時10分を最高に次第に減少を続け、22日午前2時45分には65t/秒になり、大雨・洪水注意報に切替えられた。その間、木都賀ダムの放流量の変化にあわせて、雨量、交通情報、消防団の出動要請などの防災情報、そして、河川のはんらん、山崩れ、がけ崩れなどの注意や警戒を、住民へ呼びかけた。

22日午前5時45分に、ふたたび大雨・洪水警報、雷雨注意報が発令されたが、7時25分、大雨・洪水・雷雨注意報に切替えられ、午後1時30分、大雨・洪水警報は解除になった。午前6時から8時まで、昨夜の集中豪雨による通行規制や国鉄バスの運行について放送した。

22日は雨も上がり、晴れ間の見える一日となったが、豪雨による被害は、住宅の裏山崩壊、中小河川のはんらん、堤防の決壊、田畑の冠水など、町内各地に発生した。午後5時30分、役場職員は自宅待機を命じられ、帰宅した。午後6時40分、大雨・雷雨・強風波浪注意報が発令され、7時10分に町内放送をした。

その後、午後10時ごろから雨が降りはじめ、23日午前0時までに15mmの雨量を記録した。雨は一段と強まり、バケツをひっくり返したという表現がピッタリするような強い雨が連続し、0時53分に、大雨・洪水警報、雷雨注意報が発令され、強い雨はいつこうにおとろえる気配がなかった。

午前1時50分、災害対策本部総務班の出動により、宿直者松本勲より玉田広報係長に放送を交替し、引き続き、雨量、木都賀ダム放流量を中心に放送し、あわせて河川の増水、山崩れ、がけ崩れなどの注意や警戒を住民へ呼びかけた。

午前3時40分、岡崎集落、曾我勝夫、大橋紀子宅に消防団第1分団の出動を要請したのをはじめとして、各分団共、各地区で警戒にあたるよう指令した。このごろから、住宅裏山の崩壊、土砂・がけ崩れ、土石流などによる被害が各地で起こりはじめ、また、三隅川を中心に中小河川は増水し、非常に危険な状況になった。

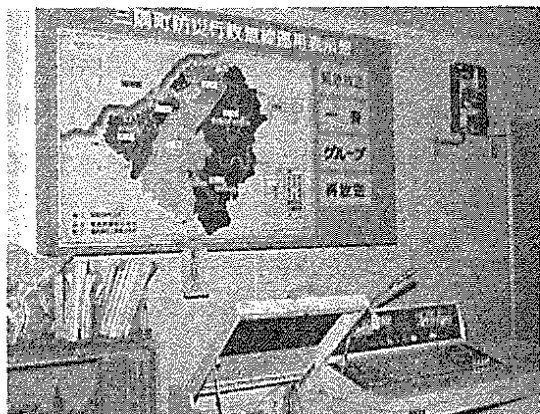
午前4時55分、災害対策本部総務班、三隅、向野田地区の職員だけでは対応が困難になったため、役場職員全員に出動命令を出した。しかし、町内主要路線は浸水、山崩れ、決壊などにより寸断され、その時には、すでに出動できない状態であった。

午前5時、木都賀ダムの放流量は526t/秒、5分後には546t/秒と急激に増水し、危険になったた

め、午前5時18分に「非常事態宣言」を発令した。その内容は、「全町民にお知らせいたします。非常事態を宣言します。このたびの雨は今までにない異常な雨です。よって各地区、各集落において状況を判断しながら、すみやかに安全な態勢をとってください。家屋の全壊、流失が各地区で発生していますので、危険家屋は必ず避難してください。」であった。この非常事態宣言は、5時40分、6時50分と、3回にわたって放送した。その後も、町内各地で山崩れ、土石流などによる家屋の全壊が相ついだため、消防団の出動を指令した。

午前5時45分、三隅川の水位は、警戒水位である3mをはるかに超える、4.5mに達したため、「三隅川流域の皆さんは危険ですので必ず避難を」と、呼びかけた。また、異常な増水に危機感を強め、「三隅、向野田地区は役場や安全な場所へ避難しなさい」と、全員が避難を完了する7時ごろまで避難を呼びかけた。こうして、役場には約450人、三隅神社に約200人、そして聖霊寮、みすみ荘へとそれぞれ避難し、雨のやむのをひたすらまった。

午前7時ごろ、役場庁舎が浸水し、みるみるうちに無線放送室も浸水しはじめた。7時25分、放送室に水が入ってきたため、「まもなく放送ができなくなります。住民の皆さんは十分警戒してください。」と放送した。しかし、まだバッテリーが作動しているので、ふたたび放送し、その放送が終了すると同時に電源が切れた。7時35分、放送ができなくなったので、玉田係長は腰までつかりながら2階へと移動した。そして、防災行政無線の本部施設が水没したことについて、県の防災行政無線を通じて、日本電気（株）松江支店に復旧のための手配を依頼した。



午前7時35分に水没した無線放送室

7月25日、日本電気（株）松江支店は福岡市にある電気興業（株）西部支店に連絡、西部支店から技師1名が派遣され、美都町で工事に従事していた技師3名と益田市で合流して、三隅町へと向った。しかし、国道9号線が災害復旧工事で通行止になっていたため、やむなく鎌手で宿泊した。また、同日午後3時ごろ本部施設の施行者である協和通信工業から2人の技師が来町したが、機械、部品などが不足なため復旧できなかった。

7月26日午前10時、4名の技師が到着し、現存する山頂中継局から放送するシステムへと復旧を急いだ。また一方では、各家庭の戸別受信機が水没、埋没したので、情報網を確保するため、役場備えつけの戸別受信機50台を各避難所、町事務嘱託員宅へ設置した。午後3時、防災行政無線の試験放送が完了し、午後6時30分、45分にお知らせ、そして午後7時、町長のあいさつ、お知らせを放送した。

7月27日午後7時、今まで山頂中継局から放送していたシステムを役場4階に仮復旧し、役場屋上のトランペットをあわせて放送できる装置にした。

このように早期に復旧できた防災行政無線は、電話回線が不通の中で、救援物資の配布、医療隊の派遣、飲料水の供給などをはじめとする各種行政上の連絡、復旧への情報提供など、町民の生活安定へ向け活躍した。

また、各家庭の戸別受信機の乾電池は、開局後7カ月あまり経過していることに加えて停電中であるため4、5日間程度で消耗して、受信できなくなることが予想されたため、7月26日県へ単IIの乾電池10,000個の救援を依頼し、同日午後6時に到着したので、救援物資と共に各集落へ配布し、情報の連絡体制の万全をはかった。

一方、移動系可搬型無線機5台は、災害対策本部と避難所（三隅神社、民族資料館）との連絡、また救援物資をおさめた元産業センター車庫・三隅海洋センターとの連絡など、あらゆる急務に機動力を発揮した。

第8表 町防災無線の被害状況

被災施設	箇所数	復旧の状況	復旧月日	復旧事業費(円)	保険金(円)
本部施設 (固定系基地局、 移動系基地局)	1	7月26日午後3時中 継局で放送開始、27 日午後7時役場4階 で放送、8月16日操 作卓仮設置で放送	12月10日 復旧	16,030,000	2,262,000
トランペット・ スピーカー					
みすみ荘	1		7月28日 復旧	復旧工事 3,590,000 原材料 25,920,000	30,653,503
礼光寺	1		7月31日 復旧		
戸別受信機	717	9月18日戸別受信機 取付開始	S59年4月1日 取付完了 658台 未取付 59台		

4. 消防団の活動状況

本町の消防団は、金本団長以下205名で組織され、旧村単位で6分団にわかれて編成されている。今回の災害時における本部および各分団の活動状況は第9表である。なお、団員の出動状況は第10表に掲載した。

第9表 消防団の活動状況

本部活動状況

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月21日	15:00	門 殿 下 古 市	農免道路浸水のため、団長、交通整理。 団長、警戒にあたる。
22日	2:00	門 殿 田 原 向 野 田 田 原 湊 浦	団長、床下浸水家屋の移転を手伝う。 曾我副団長、三隅川、田原川の水位の警戒にあたる。 曾我、斉藤両副団長、山崩れ地区の警戒の指揮をとる。 斉藤副団長、国道沿線の交通整理を行う。 三隅川河口の水位下降を確認。対策本部に報告のあと解散。
23日	2:00	湊浦・下古市・ 中組・門殿・岡 崎・駅前・吉浦 東平原	団長は、各集落の自治会役員、駐在所と協力して住民の避難、誘導にあたる。曾我、斉藤両副団長は山崩れ地区（岡崎、曾我勝夫宅）の住民の避難、誘導を行う。 団長、湊浦集会所にて指揮。
24・25日			無
26日	10:30		斉藤副団長、対策本部へ出頭。
	13:00	須 津	団長、両副団長は、行方不明者の救出作業状況や、被災地区の被害状況を巡視。
27日	9:00	全 町	元三保支所において緊急消防幹部会議を開催。 各分団長の報告により、被災格納庫は機械器具使用不能のため、火災発生の時は、全分団が協力して消火活動を行うよう命令。
		岡見・黒沢・矢 原・室谷・市場	団長、両副団長は、被災した消防ポンプ格納庫や団員詰所および、ポンプなど機械器具の点検を実施し、現状を総務課長へ報告。
28日	13:00	三 隅	団長と副団長2名は、第6分団を指揮して、三隅小と三隅保育所のヘドロ、流木などの除去および清掃活動を実施。

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月29日	8:00	湊浦・中組・門 殿	団長と副団長2名は、第5分団、第6分団を指揮して、浸水家屋の家財の搬出、道路のヘドロ、流木の除去、清掃作業を行う。
	11:00	須 津	須津で火災（ボヤ）発生。団長、両副団長、2、3、5、6分団が消火にあたり消し止める。
30日	8:00	三 隅	団長と両副団長3、5、6分団と共に三隅中、三隅小、三隅保育所の清掃にあたる。
31日	8:00	三 隅	団長と両副団長は、3、5、6分団と共に役場、三隅小、三隅保育所、三隅神社の清掃活動を行う。
8月1日 ～9日	8:00	三 隅	役場庁舎内の清掃を3分団と団長、副団長が実施。県消防協会の中島事務局長が、日本消防協会会長代理として来町、団長と両副団長が見舞金を受け取る。
11日	8:00	河 内	河内の工場清掃に、団長と、3、5分団があたる。
12日	8:00	河 内	河内の工場清掃に、団長と、3、5、6分団があたる。

第1分団活動状況

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月22日		三 隅	山口副分団長以下8名は、三隅川、田原川が増水のため巡回して警戒を実施。
23日		内 野 田	雨が激しくなり、三隅川は増水して警戒水位を突破、町防災行政無線の呼びかけにより、山口副分団長以下32名は役場と三隅神社へ地域住民を避難、誘導すると共に、炊き出しの運搬を行う。
		矢 原	山崩れで道路が欠壊するという状況下で巡回を行い、全壊した家屋の下から三浦修を救出する。また、三浦敬尚の遺体を発見し集会所へ収容する。
		河 内	河内地区では、浴林末太郎、木村ミツ、山川ハマコの遺体搜索、収容作業に協力する。
24日	9:00	矢 原	山川ハマコの遺体を発見、収容作業に協力する。石田昭夫の搜索がはじまり自衛隊に協力、負傷者のへ
		河 内	

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月25日		矢 原	リコプター輸送に協力する。 大辻集落の三浦健一の生存が確認できていなかったため、分団長以下3名が確認にあたり無事を確かめた。大辻囑託員に連絡する。
8月14日 24日 31日		地 方 向 野 田 〃	海石集会所の後片づけを副分団長と団員10名が行う。 消防機械器具の点検整備を実施（分団長以下10名）。 三浦分団長以下2名
9月1日 2日 4日		〃 地 方 三 隅	〃 三浦分団長 三浦分団長以下6名
			道路の清掃および水洗いを行う。

第2分団活動状況

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月21日	22:00	西 河 内 (谷 団 地)	ガス爆発の危険があるため、火気使用の禁止、住民の避難を呼びかけると共に、第2分団全員の招集を総務課へ要請する。同時にガス噴出を止めるため、ガスセンター社員の派遣を要請。 団員集合後、3班にわかれて行動する。 1班 野上忠良部長以下19名は二次災害防止のため山崩れが再発しないよう山の上の調査を行うと共に、ガス爆発の防止、地域住民を現場に近づけないよう警備にあたる。その他被災家屋の家財の搬出を行う。 2班 前野隆寿部長以下16名は、防火、消火体制をとり、消防車、可搬式ポンプがすぐ可動できる状態で待機。 3班 桜井班長以下14名は、水防要員として受持区域内の状況把握のためパトロールを行う。 各地区において床上、床下浸水などの被害が出たため、水をくみ出す手伝いとかげ崩れをおこした附近の住民に避難を指示。

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月23日	1:30	谷 団 地 下 古 市	3:00ごろ、雨が降りやみ、団員は自宅待機。 土のう150袋を使い、家屋への浸水を防ぐ。 農協三保支所に集合し古市場、西河内、湊浦各地区に責任者を決めて団員を配置する。
	3:00		三保地区内はほとんど通行不能となり、各地区の幹部により指揮を行う。
	5:00	下古市・中組・門殿	古市場地区は、永見副分団長、桜井、寺戸両班長が責任者として、地区住民の避難、誘導を行う。 湊浦地区は、三浦副分団長、前野部長が責任者。上町低地の浸水が激しくなったため、消防車のマイクを使用して避難を指示する。 上古市、八曾集落は、野上部長、斉藤班長が集落住民を明光寺に避難させる。 駅前、谷集落は、ほとんどの住民が二階におり、二階も浸水のおそれがあるため、福浦から三隻の船を運び救助を行う。責任者は芝村班長。
24日	17:00	谷・下古市	山崩れで、行方不明となった人の搜索を地区住民と共に行う。
	7:00 19:00	三保地区全域	分団員は各集落にわかれて被災した家屋、道路のヘドロ除去作業にあたる。 地区住民の食料確保のため、救援物資の運搬を行う。 上古市集落では提防流失のため、上古市橋にハシゴを取りつけて通行ができるようにした。3名の急患発生のため、パトカーの先導で国立浜田病院へ搬送した。 湊浦地区では、被災状況確認のため、漁船を出して上古市附近まで団員を派遣する。
25日	7:00 18:00	三保地区全域	分団員は昨日と同様に、各集落において道路のヘドロや流木の除去作業にあたる。 消防自動車を使っの救援物資の運搬を行う。湊浦

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月26日	7:00 19:00	三保地区全域	地区では、洗濯用水等の確保のため、小型動力ポンプを使用して三保小プールの水をあげて、各戸に配った。 被災家屋の整理や道路の清掃のほか、各家庭から出されたゴミを田の浦まで運ぶ作業や道路通行可能となったため、各交差点においての交通整理などの作業が新しく加わり、団員はこれにあたる。 榑浦地区では飲料水を積んだ船が入港したため、団員が積み降ろし作業に協力する。
27日	7:00 19:00	三保地区全域	古市場地区では、下古市、古市場両集会所の清掃を行う。団員は各集落において道路、下水路の清掃、ゴミの運搬、救援物資の運搬、交通整理にあたる。 急病人1名発生のため、漁村センター内診療所へ搬送する。
28日	7:00 19:00	三保地区全域	各集落、被災家屋のヘドロ除去作業、交通整理、ゴミの運搬、救援物資の運搬を団員が行う。 榑浦地区の団員は被害が軽かったため、他集落の作業を手伝う。 湊浦地区の団員は男子不在、独居老人家庭などの整理、清掃を行う一方、三保郵便局内の清掃に協力する。
29日	7:00 19:00	西河内	西河内地区、榑浦地区団員は、三保三隅駅の駅舎および構内の清掃を手伝う。 各集落においても、家屋、道路、下水路の清掃、交通整理、救援物資の運搬を引き続いて行う。
30日	7:00 19:00	三保地区全域	湊浦地区においては、上町、下町の道路、下水路の清掃を行う。 榑浦地区団員は駅前地区に応援にいき、分団長の指示により作業を行う。 救援物資の運搬、交通整理、家屋の清掃は各集落と

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月31日	7:00 } 19:00	三保地区全域	も継続して実施。 各集落団員は、各集落内の道路、家屋の整理、清掃、ゴミの運搬、救援物資の運搬、交通整理にあたる。 福浦地区団員は前日同様、駅前地区に応援に行く。
8月1日	7:00 } 19:00	駅前 上古市	1日より福浦地区団員は2名となり、分団長の指示に従って駅前地区の清掃に協力する。上古市では野上部長、斉藤班長が交通整理にあたる。 連日にわたり各集落団員は、清掃、救援物資の搬送、プールの揚水、交通整理を行う。
2日	7:00 } 19:00	湊浦・上古市・ 下古市	湊浦地区では、団員が上町の清掃を行う。 下古市集落では、千本橋附近、滝見農免道交差点の交通整理を団員が行う。 上古市集落は、野上部長、斉藤班長が交通整理を行う。
3日	7:00 } 19:00	三保地区全域	団員は、各集落内の道路、家屋の清掃に協力する。 他に浸水した中組ポンプ格納庫の整理を行う。
4日	7:00 } 19:00	下古市・上古市	下古市集落団員は、集落内の清掃、交通整理を行い 上古市集落では野上部長、斉藤班長が交通整理にあたる。
5日	8:00 } 19:00	三保地区全域	分団員は、各集落内において清掃活動に従事。
6日	7:00 } 12:00	三保地区全域	分団員は、各集落内の消火栓の確認を行う。 古湊、下古市で清掃実施。下古市集落団員6名がこれにあたる。
7日	8:00 } 18:00	湊 浦	湊浦自治会主催の道路、下水路の清掃作業に湊浦地区の団員11名が協力する。
10日	13:00 } 17:00	湊 浦	上古市集落の下水路清掃作業に湊浦地区団員は、消防自動車に応援に行く。
14日	8:00 } 12:00	湊 浦 下古市	湊浦自治会主催の道路、下水路の清掃作業に湊浦地区団員は協力する。

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
8 月15日		駅 前	下古市集落団員は、集落内のポンプ、ホースなどの回収、掃除を行う。
21日	8 : 00 } 12 : 00		駅前の道路のヘドロを、消防ポンプを使って洗い流し、水没した消防ホースの整理をする。 岩屋神社の掃除を地区団員で実施。

第3分団活動状況

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7 月21日 } 22日	23 : 30 } 1 : 30	栃 の 木	本部から渡辺正雄宅裏山崩壊の連絡を受け、分団長以下6名は現場に急行し、浸水防止の措置をとる。 それと同時に岡見駐在所と協議し、周辺住民の避難を指示する。
22日	8 : 00 } 11 : 30	栃 の 木	木京正人宅裏山崩壊の報告が入り、分団長以下6名が現場に急行。ただちに屋内浸水防止措置をとる。 その後岡見地区全域を巡回し、注意を呼びかけると共に、危険を感じたらすぐに避難するよう指示する。
23日	3 : 00 } 19 : 30	須 津	3 : 00に本部から消防団員の非常招集があり、分団長はただちに各班に連絡をとる。 驛田分団長、山岡副分団長、森井団員は、積載車で巡回し警戒にあたる。松原、床並、栃の木、岡見郷、板ヶ峠各集落は、河川増水のため通行不能。 松原地区の藤村班長より、永田哲宅が傾いて危険な状態であるとの報告により、驛田分団長は松原地区の団員に家財の搬出を指示する。 須津地区団員には、岡見駅前住民を避難誘導するように指示し、団員の指示により住民は尊光寺に避難する。
	7 : 00		斉藤初太郎宅が倒壊して道路をふさぎ通行不能となったため、分団長は、通行止の表示をするよう指示。

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7 月 24 日	8 : 00		須津 1 区の罹災現場に、分団長到着。ただちに須津浦長、寺迫氏をはじめとする役員と協議の上、救出作業に入り、他班の団員を須津地区に集合させる。
	19 : 30	須 津	沖元徳重を遺体で発見。戸板にて運搬し、漁協に安置する。
	7 : 30 20 : 30	須 津	驛田分団長以下29名が集合する。驛田分団長は団員を2班にわけて、須津、中山地区団員は、行方不明者の捜索にあたるよう指示、松原、その他の地区の団員は崩れ落ちた土砂や木の取り除きにあたるように指示する。
	8 : 30		警察機動隊50名が到着。
	10 : 20	須 津	浜崎弥作、イサヨを遺体で発見。
	11 : 40		浜崎絢子を遺体で発見。
	12 : 30		陸上自衛隊80名到着。
	18 : 17		木村増雄を遺体で発見。
	19 : 30		浜崎弥作、イサヨの遺体を発掘し、漁協に安置する。
	20 : 07		浜崎絢子の遺体を発掘し、漁協に安置する。
25 日	7 : 30 22 : 20	須 津	前日同様に分団長以下24名は、2 班にわかれて作業にあたる。
	10 : 30		木村増雄の遺体を発掘、漁協に安置する。
		板 ケ 峠	栗山高松、消息不明との連絡が入り、三浦茂、山本修、田中敏、寺戸義各団員が板ヶ峠に向い、11 : 20 無事を確認する。
	13 : 42	須 津	大川照子を遺体で発見。
	13 : 50		木村照子を遺体で発見。
	14 : 51		木村滝子を遺体で発見。
	17 : 38		大川照子の遺体を発掘、漁協に安置する。
	18 : 00		木村照子の遺体を発掘、漁協に安置する。
	19 : 38		木村滝子の遺体を発掘、漁協に安置する。
		須 津	驛田分団長以下23名は、2 班にわかれて作業を続け
26 日			

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月27日			る。
	9:00		沖元貞子を遺体で発見。
	12:20		沖元貞子の遺体を発掘。
	13:21		寺井正道を遺体で発見。
	13:50		木村香代子を遺体で発見。
		中山・須津	行方不明者捜索と同時に、飲料水確保のため、井戸の水替えや小学校のプールの水を小型動力ポンプでタンクにくみあげるなどの作業を行う。
	19:30	須津	寺井正道の遺体を発掘、漁協に安置する。
	19:50		木村香代子の遺体を発掘、漁協に安置する。
	8:00	須津・床並	床並の斉藤次郎が行方不明のため、驛田分団長は、
	19:30		山岡副団長以下10名を床並に派遣する。
	8:30		床並から松原まで捜索の結果、岡見橋近くの水田の中より遺体で発見。
	9:07		遺体を家まで運搬し、洗浄の上、安置する。
			須津地区では、驛田分団長以下18名が行方不明者捜索にあたる。
	10:50		沖元久美子を遺体で発見。
	18:00		遺体を発掘。
28日	18:40		寺崎シヲを遺体で発見。
	19:20		遺体発掘、相次いで漁協に安置する。
28日	8:00	須津	驛田分団長以下21名は山崩れによる土砂、流木などの除去、倒壊家屋の整理にあたる。
	17:00		
29日	8:00	須津	驛田分団長以下24名は、山崩れによる土砂、流木などの除去、倒壊家屋の整理にあたる。
	17:00	岡見奥部	
30日	13:00	三隅	驛田分団長以下11名は、三隅小学校校舎内に流れ込んだヘドロを小型動力ポンプで洗い流す。
	17:00		
31日	8:00	三隅	驛田分団長以下13名は、三隅小学校および、役場庁舎のヘドロを洗い流す作業を行う。
	17:00		
8月1日	8:00	三隅	驛田分団長以下13名は、三隅小学校および、役場庁
	12:00		

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
8月2日	8:00 }	栃 の 木 三 隅	舎のヘドロを洗い流す作業を行う。 驛田分団長以下15名は、栃の木渡辺千里宅が半分倒壊していて危険なため、取り壊して欲しいとの要請を受けて、その作業にあたる。 伊駒団員は、役場庁舎内のヘドロ除去作業にあたる。
3日 }	8:00 }	三 隅	驛田分団長以下2名が、役場庁舎内ヘドロ除去作業を行う。
7日	17:00		
9日	10:30 }	町 内	驛田分団長他団員2名は、団長、両副団長と小型ポンプや消防車の被害状況確認のために町内を視察。
	16:00		
11日	8:00 }	向 野 田	協和コンクリートブロック工場内のヘドロを、小型動力ポンプを使用して洗い流す。
	17:00		
12日	8:00 }	向 野 田	協和コンクリートブロック工場内のヘドロを、小型動力ポンプを使用して洗い流す。
	16:30		

第4分団活動状況

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月21日	8:00 }	井川・下古和・	県道、三隅美都線、南薫堂医院前道路冠水のため、
	9:30	上古和	三沢分団長、三浦部長、三浦団員で井川、上古和、下古和の巡回を行い警戒にあたる。
22日	21:00 }	上 古 和	地区住民から、浸水のため救助の要請があり、三沢分団長、今明副分団長、三浦部長、河野、大橋、中村の各団員出動。
	24:00		
23日	4:00 }		3:00すぎに電話で全分団員に地区民の避難誘導、救助の出動命令を出す。
	17:00		各分団員は、各地区で住民の避難誘導、救助活動にあたる。
24日	9:00 }	黒 沢 地 区 全 域	三沢分団長、今明副分団長、三浦部長、河野班長、三浦、松本、中村の各団員は、地区内の道路の土砂や流木の除去にあたる。
	17:00		
25日	8:00 }	黒 沢 地 区 全 域	各分団員は、それぞれ各地区の道路の清掃を行う。
	17:00		

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月26日	8:00 } 17:00	黒沢地区全域	三沢分団長、今明副分団長、三浦部長、三浦、松本、中村、河野の各団員は、地区内の道路上の流木除去のため出動。
27日	10:00 } 14:00	黒沢地区全域	黒沢地区内の被害状況確認のため三沢分団長、三浦部長、三浦団員で巡回を実施。
29日	8:00 } 17:00	黒沢地区全域	三沢分団長、今明副分団長、三浦部長、河野班長、三浦団員は、各地区内の道路の整備清掃および、行方不明者捜索のために出動する。

第5分団活動状況

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月23日	4:00 } 4:30 5:00 6:00 6:30 7:00 8:00 9:30 10:00 11:30	小 原	三浦実宅裏山からの水で床下浸水。 三浦実宅土砂流入のため、家族は避難。 提防欠壊のため、濁流が水田に流れ込みはじめる。 三浦又三宅裏山が少し崩れたため、公民館に避難するよう指示を出す。 三浦実、三浦又三、川本留治、野上政久の各家族は、公民館に避難する。 竹内弘孝、大沢繁太郎宅浸水のため、公民館に避難する。 小田忠雄一家公民館に避難、川本清一宅は孤立のため避難不可能。 川本清一宅土砂崩れのため全壊。公民館も危険な状態となったため、避難者をすべて屋外に出させるように指示。 電話線のケーブルおよび、電柱倒壊のため7名負傷うち1名が1時間後に死亡。 けが人の輸送をヘリコプターで行うよう自衛隊に要請するため、3名の団員を井野駐在所へ派遣。 けが人をヘリコプターで輸送してもらうよう自衛隊

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月24日	16:00	小 原	に要請するため、3名の団員を市場連絡所へ送る。 下今明の消防団員より、ヘリコプターによる患者輸送は、24日に延期との連絡が入る。
	6:00		下今明の消防団と出合い、ヘリコプターは井野中グラウンドに着陸との情報を得たので自家製タンカをつくり、重傷者2名を井野中へ運び日赤へ空輸してもらう。
	10:00		老人、婦人、子供を下今明自治会、農協の協力で下今明農協に避難させる。
25日			天候回復のため、下今明農協より公民館へ避難者を帰館させる。
28日 }			各地区被害状況の連絡、負傷者の輸送、地区内生活道路の確保、応急復旧の協力指揮にあたる。

第6分団活動状況

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月21日	21:00	白 砂 ・ 吉 浦	下岡亀治宅浸水のため、土のうをつくって家の裏の道路に積み重ね浸水を防ぐ。埴畑分団長以下13名がこれにあたる。
23日	4:00	白砂地区全域	埴畑分団長以下13名は、各集落にわかれて水位の警戒、山崩れ、道路の欠壊個所などを調べる。
24日	13:15	西 河 内	部長以下3名は大下宅の、遺体搜索に協力。
	8:17	白 砂	4集落にわかれて樹木の伐採、および道路の崩土の取り除き作業を行う。
25日	8:17	白 砂	前日に引き続き作業する。
26日	8:17	海 石	海石、安部宅のヘドロ除去作業に分団長協力。
27日	8:17	白 砂 ・ 吉 浦	班長以下3名が、民家の裏山の土砂を取り除く。
28日	13:17	古 市 場	民家のヘドロを小型動力ポンプ2台で洗い流す。分団長以下7名が参加。
29日	8:17	古 市 場	分団長以下8名は、古市場、湊浦の民家のヘドロを

月 日	時 間	地 区 名	活 動 状 況
7月30日	8:17	湊 浦 三 隅	洗い流す作業に従事。 三隅小学校のヘドロ除去、清掃を分団長以下5名が行う。
31日	8:17	白 砂 ・ 吉 浦	班長他団員3名は、民家の裏山の崩土取り除き作業を行う。
8月2日	8:17	三 隅 ・ 白 砂	分団長以下5名は、三隅中学校、白砂小学校内のヘドロを洗い流す。
11日 } 12日	8:17	向 野 田	協和コンクリートブロック工場の土砂の洗い流しを分団長以下4名が行う。

第10表 消防団員出動状況表

分 団 名	氏 名	出動日数 7 月21日 7 月31日	出動日数 8 月11日 8 月31日				
本 部	金本 有三	9	10		森田 太郎	1	
	曾我 孝夫	8	5		柄川 留義	1	1
	斎藤 義人	9	2		丸山 稔		
第 1 分 団	三浦 寿	1	3		萩原 守正	1	
	山口 陽三	1	1		中山 良嘉	1	
	茶木 時尾	2	3		栗栖 哲夫	1	
	大賀 稔	2	2		村上 良行	1	
	平川 広司	1	1		矢富 俊春	1	
	鳥井 宏千	1			吉本 孝一	2	1
	瀬丸 康典	1			川本 明	2	1
	中前 久義	1	1		久保 智完	1	
	三浦 隆幸				入道 忠夫		
	大平富太郎	1	1	第 1 分 団	高下 清司		1
	稲岡 邦雄	1	1		石田 孝之		1
	清水 和男	1	1		岩野 清悟	1	
	三浦 喜男	2			山田 英則		
	寺戸 茂彰	2			吉田 邦彦	1	
	藤井 家康	2	2		湯田 義幸		
	石田 安郎	2			寺戸 周平		
	石田 昭夫				細川 健一	2	1
	三浦 正経	2	1		山崎 健次	1	
	玉田 一	1			真鍋 陽二	1	
	寺戸 昭				金谷 誠	1	
	浅尾市太郎		1		田畑 敬二		
	玉田 保晴				山本 忍		1
	亀谷 賢	1			斎藤 裕平	1	
	竹林 静雄				玉木 正稔	1	
	野田 政利	1			山本 修二		
	高橋 久義	1					
	三浦 隆	2		第 2 分 団	布田 稔	10	11
					三浦 忠典	8	
					野上 忠良	10	
					前野 隆寿	8	
					永見 英夫	10	6
					村田 光康	8	

第 2 分 団	斎藤 芳雄	10		第 2 分 団	拓植二三臣	9	4
	芝村 哲郎	9	2		石田 義生	2	
	平島 啓三	8			森川 征人	8	2
	小田 昭	9	1		金山 功	8	
	桜井 忠男	11	6		金本 信夫	10	
	細田 俊信	10			高浦 秀美	11	7
	寺戸 正	11	7		倉井 弘	3	2
	石川 修	10			松田 重美	11	7
	澄田 高雄	9	2		大賀 勉	8	4
	打田 常人	8			嶺田 重信	5	
	西藤 均				山岡 松夫	5	
	河上 健三	2			波田 義夫	5	
	木崎 之弘	8			藤村 明德	2	
	中村 良平	9	2		三浦 実	5	
	藤田 勇	8			斎藤 恒夫	5	
	猪俣 邦雄	3			三浦 真夫	5	
	梅谷 照男	8			山本 英明	3	
	寺井 敏之	3			三浦 茂	5	
	桑原 信幸	4			山本 修	5	
	黒川 軍一	11	4		上野幸宇太郎	5	
	石内 俊雄	10		第 3 分 団	尾崎 佳郎	5	
	長尾 勝彦	3			見国 隆二	5	
	久保田寿夫	3	1		永田 憲昭	5	
	久保田耕治	3			田中 敏市	5	
	吉川 龍也	10	1		江野本俊治	5	
	上野 義人	8			池田 正明	5	
	土田 司朗	8			寺戸 義則	5	
	永見 敏文	3			斎藤 憲司		
	野上 忠	8			尾崎 晴行	1	
	岡田 勝	6	1		皆本 正樹	5	
	新田 健治	7	3		中戸 清吾	1	
	西藤 一教	9	2		佐々木博道	2	
	高井 岩男	9	2		森井 好美	5	
	中村直次郎	9	2		野上 尚雄	5	
	竹村 博	7			永田 公	2	

第 3 分 団	伊駒 涼一	5		第 5 分 団	佐々木 正	1	
	森井 淳司	5			峠田 義弘	2	
	浜崎 勝憲	5			倉岡 吉信	2	
	斎藤 清美	4			丸山 千尋		
第 4 分 団	三澤 秋義	8			三浦 崇夫		
	今明 富可	7			山田 義喜		
	三浦 和義	6			河野 恵勝		
	山根 邦雄				小松原和夫		
	河野 和明	5			篠平 和義	2	
	三浦 弘幸	7			櫛田 隆夫		
	大橋 保幸	2			分石 保夫	1	
	三浦 博美				元尾 利道		
	河野 正信	1			河野 弘文	3	
	松本 勝美	4			片山 等		
	三澤 秀昭			第 6 分 団	埤畑 静雄	8	3
	中村 明光	5			三浦 信雄	6	3
第 5 分 団	村井 達也				笹野 定夫	5	
	熊谷 道利				矢地 正明	9	
	谷 章慈				田城 康博	5	
	土田三十二				山本 繁信	5	1
	古森 一登	2			三浦 求	6	1
	竹本 正弘	3	1		辻 庄市	9	2
	桜木 清	2			畑野 巖	4	
	後藤 直樹				下岡 隆雄	8	3
	平田 喜教				永井 繁喜		
	三浦 哲	2	1		桑原 弘		
	大谷 康孝				桑本 文昭	1	
	山田 晃	2			大崎 義己	6	1
	熊谷 忠男				野上 正信	5	1
	田代 靖幸				山岡 哲夫	8	1
	三沢 博行						
	馬地 弘						
	三浦 幸則						
	大庭 静麿						
	岡田 実						

第2節 県内官公署等の体制およびとった措置

1. 気象官署

(1) 松江地方気象台

大雨監視体制	7月20日15時30分－
大雨警戒体制	21日05時00分－08時30分。
大雨監視体制	21日13時40分－
大雨警戒体制	21日21時30分－
大雨監視体制	22日02時30分－
大雨警戒体制	22日05時45分－
大雨監視体制	22日07時25分－13時30分。
大雨監視体制	22日18時40分－
大雨警戒体制	23日00時35分－
大雨監視体制	23日22時10分－24日17時00分。

(2) 浜田測候所

大雨警戒体制	7月21日05時00分－08時30分。
大雨警戒体制	21日21時30分－22日02時30分。
大雨警戒体制	22日05時45分－07時25分。
大雨警戒体制	23日00時35分－22時10分。

(3) 西郷測候所

大雨監視体制	7月20日22時45分－21日08時00分。
大雨監視体制	21日17時00分－23日07時45分。
大雨監視体制	23日16時00分－24日14時55分

上記の体制により各気象官署毎に定められている臨時編成を組織し、予報担当官、観測・通報担当官、気象解説担当官などの増員を行った。臨時作業の主たるものは、レーダーによる雨雲の連続観測・解析・通報アメダスによる県内および隣接県の毎時・随時の降水量の監視・集計・解析。各種気象通報の送受信、気象注意報・警報・情報の作成・通報・伝達、県内気象官署との連絡・状況収集・指示伝達、部外からの照会に対する応答・解説、上級官署への報告などであった。その他に定常業務の予報・観測・通報・防災などの業務があり、これらは昼夜の別なく実施された。

通信線は有線と無線で数系統が作動しているが、浜田測候所が23日洪水のため有線通信系統が不通となり、可動していた気象庁超短波無線電話系統によって浜田の送受信電報を松江地方気象台が中継して有線電信回線系統（テレタイプ回線）に接続した。

特に三坂山気象レーダー観測所においては、20日15時から24日17時まで、3名の観測官にて、連続

84時間におよぶ不休の観測・通報・解析が行われた。

2. 建設省道路事務所、浜田工事事務所

(1) 道路関係

(ア) 7月23日午前0時30分、松江気象台からの大雨洪水警報、雷雨注意報の発令で、1級準備体制に入り、道路情報の収集を開始すると共に道路パトロールを実施した。

(イ) 広範囲にわたり交通が途絶する道路災害が発生したため、4時20分に非常体制に入り道路パトロールなどを強化し、情報収集の継続を行った。

(ウ) 18時30分、緊急体制に移行し、緊急復旧工事の施行および道路パトロールを引き続き実施した。

(エ) 7月28日午前0時に警戒体制に変更し、緊急車両の通行の開放を行いつつ道路パトロールを実施した。

(オ) 8月8日12時、体制を解除し、一般車両の通行を開放した。

(カ) 道路パトロール状況 (7月23日～8月8日)

パトロール回数 97回 出動延人員 146名

(キ) 三隅町関係通報状況 (9号線)

① 7月23日、3時30分 三隅冠水のため通行不可

② 7月23日、4時15分 吉浦で道路陥没 L=50m 約1万^m、車2台転落

③ 7月23日、6時42分 9号線白砂地内で法面崩かいのため、通行不可

④ 7月23日、11時45分 9号線吉浦地内路面陥没、H=30m

⑤ 7月23日、11時45分 9号線白砂地内切土法面崩落 L=30m、V=5,000^m 通行不可

⑥ 7月23日、18時45分 9号線滝見で路面流失 L=150m

⑦ 7月23日、18時45分 9号線岡見地内、岡見橋をふくめ L=150m間道路流失

⑧ 7月23日、18時50分 9号線滝見で切土法面崩落 L=40m SL=8m V=500^m 通行不可

⑨ 7月23日、18時50分 9号線滝見で切土法面崩落 L=60m V=800^m 通行不可

⑩ 7月23日、22時30分 9号線宮ヶ迫で盛土崩かい L=50m V=3,000^m 通行不可

⑪ 7月23日、22時30分 9号線宮ヶ迫で盛土崩かい L=80^m SL=50m V=1,300^m 通行不可

⑫ 7月23日、22時30分 9号線宮ヶ迫で切土法面崩落 V=1,500^m 通行不可

⑬ 7月23日、22時30分 9号線宮ヶ迫で切土法面崩落 V=2,000^m 通行不可

⑭ 7月23日、22時30分 9号線宮ヶ迫で切土法面崩落 L=100m V=1,000^m 通行不可

⑮ 7月24日、4時30分 9号線宮ヶ迫で切土法面崩落 L=80m SL=8m V=500^m 通行不可

- ⑩ 7月24日、4時30分 9号線宮ヶ迫で切土法面崩落 L=100m V=200m³ 通行不可
- ⑪ 7月24日、4時30分 9号線宮ヶ迫で盛土部陥没 L=50m 通行不可
- ⑫ 7月24日、4時30分 9号線宮ヶ迫で切土法面崩落 L=30m V=50m³ 通行不可
- ⑬ 7月24日、4時30分 9号線宮ヶ迫で切土法面崩落 L=60m V=200m 通行不可
- ⑭ 7月24日、7時50分 9号線吉浦開通（片側交互通行）一般車輛は西村パーキングで通行止
- ⑮ 7月24日、10時 191号線 片側交互通行開始
- ⑯ 7月24日、11時 9号線吉浦で片交
- ⑰ 7月24日 11時 9号線 浜田市から三隅トンネル間 通行可
- ⑱ 7月25日、18時 9号線宮ヶ迫で堆積土砂除去完了
- ⑲ 7月26日、9時40分 9号線岡見橋着手

3. 浜田警察署

(1) 警備体制

浜田署では、7月21日5時、第1回目の大雨洪水警報発令と同時に署準備本部を設置、同日21時30分、第2回目の警報発令にともない署警備本部に切り替えて警戒体制に入った。

さらに、23日0時35分、第4回目の警報発令にともない、全署員を非常招集し、署長以下118名の警備体制を確立して災害警備の万全を期し、その後、管内各所において被害が同時多発するにおよんだため、県災害警備本部に応援部隊の派遣要請を行い、支援を得て警備体制の強化をはかった。

(2) 警戒警備活動

○ 7月23日0時35分、警報発令にともない、駐在所員に対して、管内の警戒警ら、避難誘導などを指示すると共に、署員の方面別派遣体制を整えた。

○ 1時10分 “浜田市黒川町地内で山崩れがあり、家屋が倒壊し家族3人が生き埋めになった”との被害第一報が110番により入電、ただちに1個分隊の救助隊を派遣した。

その後、山（がけ）崩れによる生き埋め被害が続出すると共に、国道など道路は各所で冠水、陥没、山（がけ）崩れにより寸断され、交通機関が途絶し、各地に孤立地帯が生じたため、応招してきた署員を順次部隊編成して、避難誘導、救出救助活動、交通規制等にあたらせた。

○ 三隅町では、三隅川の急激な増水によりはんらんのおそれが出たため、5時19分非常事態宣言、5時20分避難命令を発令した。

○ 事態が緊迫したので特に三隅ブロック各駐在所は、警戒警らの強化および役場、消防団など各関係機関と連携して、避難誘導を徹底した。

○ 7時30分頃三隅川が欠壊し、町役場周辺の民家が濁流にのまれて、約300戸が水没、この直後から三隅町内との連絡はまったく途絶え、また道路も寸断して孤立状態となった。

このため急拠三隅町への先発隊1個分隊を海上保安部巡視艇により派遣した。

○24日7時、孤立中の三隅町に対し、10隻の借上漁船により支援派遣部隊を中心に46名を派遣して、三隅町役場に現地警備本部を設置すると共に、被災者の救助、行方不明者の搜索などの活動にあたった。

○以後、浜田署では、県内外からの応援部隊をふくめ延べ5,986名を動員し、被災者の救出救助、行方不明者の搜索、被害調査、警戒警ら、民生安定対策、交通規制（整理）などの活動を実施した。

（3）応援部隊の活動状況

（ア）応援部隊の派遣状況

月日	%	24	25	26	27	28	29	30	31	%	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
県外部隊		福岡管機74名																										
					広島管機36名																							
					岡山管機34名																							
					岡山管機26名																							
					広島県機36名																							
小計			74	180	132	132	132																					
県内部隊		県機動隊24名				県機動隊24名					県本部部隊10名																	%
		機警隊52名				(15名)	(58名)				機警隊12名								機警隊11名								機警隊11名%	
		交機隊				(12名)	(6名)	(10名)	(16名)	(8名)	交機隊				(14名)	(7名)	(7名)	(4名)		機警隊4名								
		高速隊2名				高速隊2名	高速隊2名	高速隊2名																				
		機捜隊、機鑑隊13名				機鑑隊7名																						
		松江署30名				大田署12名										安来署11名								大田署11名				
小計	77	97	129	137	58	140	105	101	101	20	28	26	26	26	25	15	15	26	15	15	15	15	15	26	15	15	26	
合計	77	97	203	317	190	272	237	101	101	20	28	26	26	26	25	15	15	26	15	15	15	15	15	26	15	15	26	

（イ）県外部隊の活動状況

○福岡県警管区機動隊（吉川中隊長以下74名）は、7月25日2時30分浜田到着、同日朝2隊にわかれて漁船および陸路で、孤立中の三隅町に入り行方不明者の搜索、遺体収容、被害調査活動などに従事し、26日11時任務終了、15時出発帰県した。

○岡山県警管区機動隊（沖田中隊長以下60名）は、沖田中隊長以下34名が第一陣として7月26日14時10分浜田到着、27日三隅町に入り行方不明者の搜索、被害調査活動などに従事、同日16時40分第二陣江本小隊長以下26名が浜田に到着して本隊に合流、28日も三隅町に入り前日同様の活動に従事し、29日は江津署に転進した。

○広島県警管区機動隊（友貞大隊長以下36名）は、7月26日16時浜田到着、27日から三隅町に入り行方不明者の搜索、被害調査活動などに従事し、29日13時任務終了、14時出発帰県した。

○広島県警機動隊（今本副隊長以下36名）は、7月26日19時5分浜田到着、27日から三隅町に入り行方不明者の搜索、被害調査活動などに従事し、29日13時任務終了、13時15分出発帰県した。

(4) 避難誘導及び救助活動

月 日	被 救 助 者 等	救 助 者 等	避 難 誘 導、救 助 の 状 況
7月23日 02:00 {	那賀郡三隅町井野 下今明地区 約270人	井野駐在所 野海巡査	23日深夜から各地で山崩れ、がけ崩れが相次いで発生しはじめたため、危険地区の住民に対して避難体制を指示し、さらに地元消防団員の招集と任務などについていち早く指導助言した。未明にいたって局地的な集中豪雨にみまわれ、いたるところで道路が寸断されて通行不能となったため、電話により各地区の責任者などに対して避難するよう指示すると共に、下今明地区民約270人を避難誘導した。
08:00	全 上 野 上 シ ズ		那賀郡三隅町井野、野上シズ86才方裏山が崩れ、家の前は濁流のため避難できずに救助を求めている野上シズを背負って、下今明公民館に救助した。
7月23日 ～25日	全 上 大澤茂太郎外4名		7月23日未明から25日の間井野地区は交通、通信などすべて途絶え、陸の孤島と化していたが地元アマチュア無線家の協力を得て浜田署に被害状況を報告、部隊の応援要請を行うと共に地区民と協力して大澤茂太郎68才(重体)および負傷者4名をヘリポートを設置し、自衛隊ヘリコプターにより病院へ搬送した。
7月23日 04:15	那賀郡三隅町湊浦 上 田 恒 夫	三隅駐在所 松本巡査部長	ミニバトで管内を警戒中、三隅町吉浦地内9号線が長さ50mにわたって陥

	外 1 名	外 2 名	没、道路と共に約20m下に転落した自動車を発見し、負傷して動けなくなっていた。那賀郡三隅町湊浦 浜田測候所勤務 上田恒夫 外 1 名を役場職員 4 名の協力を得て救出、病院に収容した。
7 月 23 日 05 : 20	那賀郡三隅町 大字向野田 向野田地区 約100世帯 450名		三隅川が増水し、町役場から無線放送で非常事態宣言が出され、その 1 分後に避難命令が発令された。 これにともない松本部長らは向野田地区住民100世帯400名を役場、みすみ荘などに避難させた。さらに約50名の住民は三隅川のはんらんにより三隅駐在所の二階などに避難していたが、駐在所も濁流により危険となったため川舟を利用して救出救助した。
7 月 23 日 12 : 00	那賀郡三隅町 大字岡見(須津)	浜 田 署 泰警部補 外 2 名	災害により道路は寸断され交通通信は途絶えたため、浜田海上保安部巡視船「やなかぜ」で須津地区へ上陸し泥の中を腰までつきながら搜索活動中、住民に運ばれてくる負傷者を見出し、巡視船と連絡をとりながら浜田市内の病院へ収容した。
7 月 24 日 16 : 30	那賀郡三隅町大字矢原 池 田 正 登	県機動隊 渡辺巡查部長 外 8 名	那賀郡三隅町矢原地内で家屋が倒壊し、その下敷きとなり両足を骨折していた、 三隅町矢原 池田正登を見出した。 救出活動は困難をきわめたが、木材

			などを取り除き、担架に乗せ2時間の道のりを搬送し、ヘリポートに運び救助した。
7月25日 14:00	那賀郡三隅町大字岡見 齊藤理子	浜田署 手銭巡査部長 外2名	搜索活動中、出産間近な妊婦がいる旨の届出を受けるや、急拠付近にヘリポートを設置し、自衛隊ヘリを誘導、無事病院に搬送した。
7月25日 14:10 17:45	那賀郡三隅町大字黒沢 中村寛行	県機動隊 大野警部補 外5名	那賀郡三隅町黒沢地内で被害調査中、同町中村寛行63歳が急病であり、ヘリコプターを要請してほしいとの届出を受けた。付近の道路は土砂崩れなどで全て寸断され、ヘリポートの設置できる状況ではなかったことから、ヘリポートの設置場所の選定を行うと共に、ヘリコプターの要請、収容先の手配を三隅現地警備本部へ依頼した。 ヘリポートは中村宅から約3km離れた水田に設置し、中村寛行を応急担架に乗せて搬送した。 搬送した3kmの道路は、土砂の撤去、樹木などをチェーンソーで切断するなど困難な活動であった。
7月25日 15:00	那賀郡三隅町大字矢原 三浦勇	浜田署 万代巡査部長 外1名	裏山の崩壊で家屋が倒壊し、家族が生き埋めになっているとの通報により、役場職員3名と現場に急行し、救出活動を実施した。すでに1名は死亡し、残る1名は右足などを骨折しており、即病院へ収容する必要があったことか

			らヘリコプターの要請を行うと共に、重傷者を担架およびイカダを使い岡見小学校まで搬送し自衛隊ヘリコプターに収容救助した。
7月25日 19:00 } 23:37	八束郡玉湯町大字玉造 昌子義治	県機動隊 岸本警部 外8名	那賀郡三隅町河内地内において遺体捜索中、三隅川対岸に人が流れつくのを発見し、別所部長外2名が危険をかえりみず三隅川に飛び込み対岸に泳ぎ着くや意識もうろうとしていた八束郡玉湯町大字玉造 会社員 昌子義治52才の介抱に当たる一方岸本警部外1名がロープを対岸に渡すため川に飛び込みまた他の隊員はボートの手配、救急車通行可能地点までの約2kmの間を担架で搬送するなどの活動を行い、一命をとりとめることができた。
7月26日 08:00 } 09:44	那賀郡三隅町大字河内 栗山マサ	県機動隊 大野警部補 外5名	家屋の倒壊により婦人が頭を負傷し、縫合の必要があり、また出血がひどいのでヘリコプターを要請してほしい旨の通報を受けた。 捜索活動中であった大野警部補外5名はヘリコプターの要請、収容先などについて三隅現地警備本部へ依頼すると共に約2.5km離れた 三隅町河内 栗山マサ（56歳）宅へ急行し、応急担架に乗せ、約500m搬送し、河原をヘリポートに設定し自衛隊ヘリコプターで浜田市内の病院へ搬送した。

(5) 交通の確保

今次災害により、国道9号線をはじめ管内主要道路は、各地で寸断され、孤立被災地への部隊投入が非常に困難であったことから、早急に道路復旧させる一方、被災地の復旧作業などを円滑に行うため関係機関と協議し、道路交通法にもとづく警察署長権限により国道9号線をはじめ主要道路の通行禁止、制限などの交通規制を行った。

特に、被害が甚大であった三隅町中心部では、災害復旧作業車、見舞車両などによる混雑が予想されたため、町災対本部と協議し、急拠河川敷を整地して駐車場とすると共に、署長権限による進入禁止、一方通行などの規制を行い、復旧作業の円滑化をはかった。

(6) 民生安定対策

被災地における各種事件事故の防止、民生安定対策として三隅町においては、三隅、三保両駐在所が水没したため自署員および支援隊員16名をもって「移動災害対策班」を編成し、国鉄三保三隅駅前に移動交番車を配置、これを拠点に警戒警ら、「災害相談所」の業務を行い、住民の要望相談処理にあたりと共に、一般防犯、交通規制などの広報活動を行った。

また、19時から翌7時の間、三隅現地警備本部を拠点に2班4名による警戒警らを7月24日から9月13日までの間実施した。

4. 自衛隊

(1) 陸上自衛隊

(ア) 島根担当区部隊長による災害派遣

7月23日12時20分、県知事からの災害派遣要請を受けた第13特科連隊第1大隊長は、まず邑智郡桜江町に対する給水支援活動を開始した。続いて県知事から緊急患者空輸の要請を受け、この要請を第13師団長に上申すると共に、18時30分、浜田市美川地区の山崩れによる生き埋め現場に人員61名を派遣し、人命救助・行方不明者の搜索を実施した。

(イ) 第13師団主力による災害派遣

①第13師団長は、7月23日9時、第2種非常勤務態勢を命じ、偵察・情報収集活動を開始し、14時25分、各隷下部隊に災害派遣命令を下達、出動準備を推進すると共に師団幕僚長を派遣し、航空偵察（被害状況等をビデオテープに収録）と島根県との連絡調整を実施させた。

②7月23日17時、方面ヘリコプター隊（大阪府）のHU-1の増強を受け、17時35分緊急患者などの空輸を開始した。

③7月23日23時30分、師団幕僚長の報告を受けた師団長は、島根県西部地区の災害派遣を決心し、7月24日6時30分、師団主力の出動を命じた。

第8普通科連隊（鳥取県）を浜田地区に、第17普通科連隊（山口県）を益田地区に、第46普通科連隊（広島県）を三隅地区に派遣すると共に各直轄部隊に支援を命じた。各部隊が被災地到着前の24日9時、県知事から師団長に対し、災害派遣要請が提出され師団主力による

本格的な救援・救護活動が開始された。

梅雨前線の北上にともなう天候の回復と部隊の積極的活動は、被災を受け途方にくれた地元住民に大きな安堵感と共に復旧に立ち上る意欲をふり起こさせた。

④ 7月24日11時10分、師団長は、被災地域を視察、被災状況をつぶさに把握し、最も被害の大きい三隅地区に第13特科連隊（岡山県）および13施設大隊（広島県）を増強投入することを決心すると共に、師団連絡幹部の県災害対策本部への派遣および師団の前進指揮所を出雲駐屯地内に開設し、師団長自ら陣頭指揮にあたった。

⑤ 7月27日19時15分、県知事は、師団長に対し益田、三隅地区の行方不明者の搜索、給水支援、防疫および県西部地区の緊急患者・物資空輸を除き、師団主力の撤収を要請した。

⑥ 7月28日、師団主力の撤収行動と連携し、三隅地区は第13特科連隊第1大隊を基幹とする部隊が、益田地区は第17普通科連隊を基幹とする部隊および西部地区に対する患者物資空輸などそれぞれの救援活動を続行した。

⑦ 8月2日18時、益田地区の給水支援、8月5日18時、三隅地区の給水支援および西部地区の患者物資空輸など救援活動の終了にともない、県知事の撤収要請を受け、8月6日16時3分全部隊が各駐屯地に帰隊し、2週間にわたる災害派遣を終了した。

陸上自衛隊の活動状況は、11表、12表および13表のとおりである。

第11－1表 陸上自衛隊の災害派遣状況

派遣場所	派遣部隊名	派遣期間	人員	活動状況
県 庁	第13師団司令部・同付隊	7.24 ～ 7.29	54	1. 県との連絡調整 2. 被害状況のは握
	第13特科連隊第1大隊	7.23 ～ 8. 6	42	
	島根地方連絡部	7.23 ～ 7.24	2	
出 雲 駐 屯 地	第13師団司令部・同付隊	7.24 ～ 8. 6	120	1. 指揮運用 2. 被害状況および成果のは握
	第13特科連隊第1大隊	7.23 ～ 8. 6	143	
	出雲駐屯地業務隊	7.23 ～ 8. 6	128	
浜 田 市	第13師団司令部・同付隊	7.24 ～ 7.28	5	1. 行方不明者の搜索 2. 道路の啓開 3. 給水支援 4. 防 疫 5. 空輸支援
	第8普通科連隊	7.24 ～ 7.28	1,619	
	第13特科連隊第1大隊	7.23 ～ 7.26	129	
	第13武器隊	7.24 ～ 7.29	20	
	第319野整備隊	7.24 ～ 7.28	25	
	第116警務隊	7.24 ～ 7.28	28	
	中部方面調査隊	7.24 ～ 7.28	7	
三 隅 町	第13師団司令部・同付隊	7.24 ～ 7.28	5	1. 行方不明者の搜索 2. 道路の啓開 3. 給水支援 4. 防 疫 5. 空輸支援
	第46普通科連隊	7.24 ～ 7.28	2,184	
	第13特科連隊	7.25 ～ 7.28	1,505	
	第13特科連隊第1大隊	7.27 ～ 8. 6	468	
	第13対戦車隊	7.25 ～ 8. 6	137	
	第13偵察隊	7.23 ～ 7.28	260	

第11-2表 陸上自衛隊の災害派遣状況

派遣場所	派遣部隊名	派遣期間	人員	活動状況
三 隅 町	第13施設大隊	7.25 ～ 7.28	759	
	第13通信大隊	7.24 ～ 7.28	290	
	第13武器隊	7.24 ～ 7.29	74	
	第13補給隊	7.24 ～ 8. 6	83	
	第13輸送隊	7.27 ～ 7.28	4	
	第13衛生隊	7.27 ～ 7.30	32	
	第350会計隊	7.25 ～ 7.28	8	
	第303地区施設隊	7.25 ～ 7.28	78	
	第116警務隊	7.23 ～ 7.28	30	
	中部方面調査隊	7.25 ～ 7.28	9	
	日本原駐屯地業務隊	7.25	2	
	出雲駐屯地業務隊	7.26 ～ 7.27	20	
桜江町	第13特科連隊第1大隊	7.23	12	給水支援
益 田 市	第13師団司令部・同付隊	7.24 ～ 7.28	5	1. 行方不明者の捜索 2. 道路の啓開 3. 給水支援 4. 防 疫 5. 空輸支援
	第17普通科連隊	7.24 ～ 8. 3	1,571	
	第13武器隊	7.24 ～ 7.29	30	
	第13補給隊	7.24 ～ 7.29	24	
	第13衛生隊	7.25 ～ 7.29	118	
	第116警務隊	7.24 ～ 7.29	28	
	中部方面調査隊	7.24 ～ 7.29	7	
	第2混成団	7.26 ～ 8. 3	16	
	第4施設団	7.27 ～ 8. 4	16	
西部地区	山口駐屯地業務隊	7.26 ～ 7.28	9	空 輸
	第1ヘリコプター団	7.26 ～ 7.28	30	
	中部方面ヘリコプター隊	7.23 ～ 8. 6	347	
計	第13飛行隊	7.23 ～ 8. 6	301	
			10,784	

※数字は、延人員である。

第12-1表 陸上自衛隊の災害派遣（航空機関係）

出勤月日	機 種	機数	出 動 場 所	活 動 内 容
7.23	HU-1ヘリコプター	2		1. 被災地の偵察および写真撮影 (9件)
	OH-6 "	3		
	LR-1偵察機	1		
7.24	HU-1ヘリコプター	6	松江総合運動公園	2. 孤立地区から緊急患者輸送 (31件、63人)
	OH-6 "	5		
	LR-1偵察機	1		
7.25	HU-1ヘリコプター	7	出雲駐屯地および 美保基地から県西 部の被災地	3. 孤立地区への緊急物資輸送 (32件、40.2t)
	OH-6 "	5		
	LR-1偵察機	1		

第12-2表 陸上自衛隊の災害派遣（航空機関係）

出動月日	機 種	機数	出 動 場 所	活 動 内 容
7.26	HU-1 ヘリコプター	6	松江総合運動公園 出雲駐屯地および 美保基地から県西 部の被災地	4. 被災地復旧計画策定などのため政府高官および県幹部の視察 (6件)
	OH-6 //	5		
	LR-1 偵察機	1		
	V-107 ヘリコプター	2		
7.27	HU-1 //	5		
	OH-6 //	5		
	LR-1 偵察機	1		
	V-107 ヘリコプター	2		
7.28	HU-1 //	5		
	OH-6 //	5		
	LR-1 偵察機	1		
	V-107 ヘリコプター	2		
7.29	HU-1 //	2		
	OH-6 //	4		
7.30	HU-1 //	1		
	OH-6 //	1		
8.2	OH-6 //	1		
8.4	OH-6 //	1	出 雲 駐 屯 地	緊 急 待 機
8.5	OH-6 //	1		
延出動数	HU-1 //	34		
	OH-6 //	36		
	LR-1 偵察機	6		
	V-107 ヘリコプター	6		

第13-1表 災害派遣部隊主要装備一覧表

部隊名	装 備	一 般 トラック	バケツ	ドーザ	クレーン レッカー	油 圧 ショベル	水タンク 水 車 散 水 車	導 板 トラック	1 t 水 トレーラ	チェンソー	噴霧器
第13師団司令部同付隊		59									
第8普通科連隊		254	5	10	5				20	5	
第17普通科連隊		261	6	6					55	60	
第46普通科連隊		268		5					20	190	
第13特科連隊		228							36		
第13特科連隊第1大隊		154							45		
第13対戦車隊		45							15		
第13偵察隊		105							15		
第13施設大隊		167	8	12		4		8	16		
第13通信大隊		96									
第13武器隊		45									
第13補給隊		41					14		14		

第13-2表 災害派遣部隊主要装備一覧表

部隊名	装 備 一般 トラック	バケツ	ドーザ	クレーン レッカー	油 圧 ショベル	水タンク 散 水 車	導 板 トラック	1 t 水 トレーラ	チェンソー	噴霧器
第13輸送隊	2									
第13衛生隊	44									30
第13飛行隊										
第116警務隊	22									
第303地区施設隊	25	4	4	4				15		
第319野整備隊	10									
第350会計隊	4									
中部方面調査隊	11									
第2混成団	8					9				
第4施設団	8					9				
日本原駐屯地業務隊	4									
山口駐屯地業務隊	1									
出雲駐屯地業務隊	4									
計	1,866	23	37	9	4	32	8	251	255	30

※数字は、延数である。

5. 浜田電報電話局

- (1) 7月22日18時40分に「大雨・雷雨・強風・波浪注意報」が発表されると、ただちに全機関が警戒体制に入り、応急復旧機器の点検、緊急動員体制を確立した。
- (2) 7月23日0時35分に「大雨・洪水警報・雷雨注意報」が発表されると災害対策本部を設置し災害措置計画の実施に万全を期した。
- (3) 午前7時40分三隅電話交換局は水没、2,345加入の電話は市内外の発着信が不能となった。迂回ルート回線を作成し、また市町村へ設置した孤立無線の運用を開始した。
- (4) 午後3時55分島根部災対本部へ「三隅局は完全水没、復旧用交換機の検討、手配を頼む」と要請をした。
- (5) 午後4時、島根部災対本部は三隅局への全道路は通行不能のため、ヘリコプターか船で磁石式交換機を送り込み役場と警察電話など重要加入者を救済することを決定し交換機と磁石式電話機50個を手配した。
- (6) 7月24日午後11時無線班の血まなこな努力により、三隅までの無線ルートを確認、11時51分浜田～三隅の特設公衆電話の5回線が開通した。
- (7) 7月25日午後0時40分防衛庁専用線に続き、移動展示車へ特設公衆7回線を開通させ、肉親や知人へ安否を知らせる者への便宜をはかった。
- (8) 7月26日午前0時30分C23Kによる三隅町役場の3回線の開通に成功した。

- (9) 7月30日、市外回線100回線、加入者回線650回線が完了。
- (10) 7月31日午後2時5分三隅小学校校庭の片隅に設置したKD20の開通式。

6. 中国電力株式会社島根支店

- (1) 7月23日、4時ごろより各事業場において防護体制をとり、情報の収集、対策に取り組んでいたが、広範囲かつ甚大な被害が予想されたため、5時30分に支店に災害対策本部を設置して県下全事業場に対し警戒体制を発令すると共に、非常事態に備えて人員、資材の確保と輸送計画ならびに的確な情報の把握などに万全を期した。
- (2) 8時、気象状況の悪化と被害の拡大にともない非常体制を発令すると共に、本店をはじめ他県事業場ならびに関係事業者などに対し協力を要請し、被災地に対する出動準備を整えた。
- (3) 7月24日報道記者と同じに三隅町へ入り避難所への送電がまず一番と考え復旧に着手した。
- (4) 7月28日に全域の巡視を終え被害の全容をつかんだが道路普及が遅れておりヘリコプターおよび人海戦術に頼りながら作業を進めた。
- (5) 災害発生後は準備していた人員、資材、装備の全機動力を動員し、特にヘリコプターの出動や移動用機器および移動無線の活用は非常に効果を発揮し、広範囲かつ甚大な被害に比し早期に復旧ができた。

7. 米子鉄道管理局

- (1) 7月20日15時30分大雨注意報が発表され、米鉄局管内においても、午後より断続的に降り続いた雨は、21時には出雲、浜田、益田地区の一部で100mmに達し、災害発生のおそれがあるため、逐次災害警備体制に入った。
- (2) 7月21日6時45分山陰本線周布、折居間において、最初の土砂崩壊が発生、22時本局に災害対策本部を設置すると共に、浜田駅構内に現地対策本部を設置し、非常事態に備えた。
- (3) 7月22日には雨は小康状態となり、災害発生25箇所は、早期復旧に努め14時30分全線開通した。
- (4) 7月23日早朝には江津駅以西はすべて列車運転は不能となると共に、鉄道電話も途絶し調査もできない状態となる。
- (5) 7月24日、国鉄本社手配によりヘリコプター空中査察によるビデオテープで被害状況が判明する。
今回の特徴は、道床築堤流失と豪雨による周辺の山地からの崩壊土砂流入であり、その被害は60%が三保三隅から益田間に集中した。
- (6) 7月25日局対策本部対策会議を開き旅客対策、職員の状況把握、復旧の段取り、当面の輸送対策について検討した。
- (7) 7月26日復旧工事に必要な碎石運搬のため、隣局の岡山、広島、門司からミニホッパー車を借用、大阪電気工事局から軌道モーターカーを借用、三保三隅、鎌手間復旧には下関工事区に

て復旧工事を実施した。

(8) 8月13日浜田、三保三隅間開通。

三隅川橋りょう河口で川幅が広いことから、さん橋およびクレーン船を投入し変状した橋台2脚を撤去し、新たに直径1.4m長さ40mの鋼管を打ち、新橋脚を完成、架け替えた。3連の橋桁のうち2連は現地補修、1連は河川改修であがった利根川橋りょうのものを使用して復旧した。

(9) 9月12日 0時、51日より全線開通。

第14表 線名別災害発生箇所数および復旧状況

8月9日 9時現在

線 名	上・下・単線別	区 間 (駅間数)	災害発生箇所数(下段は、被害数量)											発 生 日 時	開通日時 開通見込 日時は() 書きで上 段に記入	復 旧 状 況	備 考		
			切 取 崩 壊	築 堤 崩 壊	線 路 浸 水	土 砂 流 入	道 床 流 失	路 盤 陥 没	河 川 増 水	橋 脚 変 状	橋 り ょう 流 失	土 留 壁 倒 壊 変 状	そ の 他					計	
山陰本線	単	宍 道一温泉津				3								3	日 23 時	日 時	3—3		
— 〃 —	〃	温泉津一江 津				1		1	1	郷川橋りょう、 停止水位(試運転)			3	23		%	3—3	抑止解除 % 6:40 初列車 831	
— 〃 —	〃	江 津一浜 田	14	11	1	7	9	1		3			1	47	23	%	12:00	47—47	抑止解除 % 12:18 初列車 522
— 〃 —	〃	浜田一三保三隅	22	8	2	4	5	1				1	1	44	23		0:00	44—	復旧作業中
— 〃 —	〃	三保三隅一益田	58	41		5	13	5		2				124	23			124—	— 〃 —
— 〃 —	〃	益 田一奈 古	20	37	1	28	11	1			1			99	23			99—	— 〃 —
		(小 計)	(114)	(87)	(4)	(40)	(38)	(9)	(1)	(5)	(1)	(1)	(2)	(320)	23			(320—)	(〃)
木 次 線	〃	亀嵩一備後落合	1			3								4	23			4—4	
三 江 線	〃	江津一石見都賀	36	24	1	53	14	3	1	2		1	8	143	23			143—	— 〃 —
山 口 線	〃	石見横田一益田				2	8							10	23	%	11:20	10—10	抑止解除 % 16:15 初列車
		計	151	121	5	106	60	12	2	7	1	2	10	477				477—	— 〃 —

第 3 章

被害の状況

第1節 概 況

1. 58・7 豪雨災害の総被害

— 三隅町 —
 (55年度国勢調査 6 月末現在
 世帯数 2,904 世帯数 2,945
 人 口 9,765 人 口 9,925) 8 月30日現在

被災者総数	6,029人		
死 者	33人		
行方不明	0 人		
重 傷	14人		
軽 傷	5人		
全 壊	500戸	461世帯	1,429人
流 失	51戸	44世帯	114人
半 壊	314戸	299世帯	1,045人
破 損	65戸	64世帯	225人
床上浸水	622戸	589世帯	2,072人
床下浸水	345戸	333世帯	1,144人
非住家全壊	123棟		
非住家流失	77棟		
非住家半壊	94棟		
非住家破損	56棟		
非住家浸水	338棟		

農作物被害

水 稲	287ha	294,480千円
畑 作 物	14.7ha	3,130
タ バ コ	3.7ha	26,624
果 樹 類	1.4ha	9,379
桑	0.7ha	3,340
パイプハウス	25 棟	17,050
計		354,003

土木関係

道 路	785箇所	3,612,670千円
河 川	148	5,004,890
橋 梁	32	559,650
計	965	9,177,210

農林関係

農 地 (田)	513箇所	5,066,440千円
湖 畔	478	157,780
用排水路	156	1,048,800
頭首工	137	375,500
ため池	7	35,000
揚水機	5	33,000
橋 梁	17	208,000
林 崩	251	953,800
林 道	136	595,050
農 道	124	285,150
農地保全	29	303,400
計	1,853	9,061,920

教育関係被害

小 学 校	5 校	396,652千円
中 学 校	2 校	84,810
計	7 校	481,462

福祉関係被害

老人福祉センター (浸水)	13,000千円	
保 育 所 (半壊)	15,000	
聖 喲 寮 (敷地崩壊)	19,000	
計	47,000	

公共建物および物品被害

全	壊	2 棟	84,000千円
半	壊	2 //	2,800 //
浸	水	16 //	85,500 //
破	損	3 //	2,300 //
自 動 車		28台	30,601 //
消 防 係	自動車 1 台 倉庫、ホース外		23,300 //
計			228,501千円

商業および鉱工業その他事業関係被害

区 分	個所数	従業員数	被 害 額
商 業	261個所	717人	4,802,000千円
工 業	60個所	837人	3,840,000 //
その他	127個所	482人	2,063,000 //
計	448個所	2,036人	10,705,000千円

公園関係

区 分	被害個所	金 額
三隅中央公園	土砂取除等 7 個所	210,000千円
三 隅 公 園	// 4 個所	100,000 //
杉の森公園 外 4 個所	バックネット フェンス等 9 個所	25,300 //
計		335,300千円

降 雨 量

連 続 降 雨 量	646 mm
日雨量 (7/23)	410 mm
1 時間最大雨量	69 mm
連続 4 時間雨量	234 mm

水道関係

1,952 個所	180,000千円
----------	-----------

無線関係

本部基地 戸別受信器外	59,790千円
----------------	----------

自動車 (一般) 関係

858 台	926,800千円
-------	-----------

畜産関係

草 地	0.45ha	
肉食牛	3 頭	
豚	380頭	9,805千円

林業関係

一般造林地	205ha	
公社 //	35ha	240,000千円

水産関係

動力船 15隻	倉庫 1 棟	9,500千円
---------	--------	---------

共同利用施設関係

選果所、集出荷所、育苗施設等	83,800千円
----------------	----------

合 計	44,527,741千円
県支弁工費	15,884,130千円
被 害 総 額	60,411,871千円

第2節 人的被害および家屋被害

1. 人的被害

7月豪雨による三隅町における人的被害は66名に達し、その内訳は死亡者33名、重傷者22名、軽傷者11名という惨状であった。これを要因別にみれば山崩れ、がけ崩れに起因する倒壊家屋の下敷となった者、崩土の生き埋めになった者、また濁流に流されて水死した者と続いている。

このたびの人的被害の発生の特徴は、過去に崩れたことのないところで相次いで山崩れが発生し、犠牲者を大きくしたことであった。

(1) 死亡者

心からご冥福をお祈りいたします。



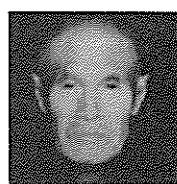
杖 田 ト コ
(向野田 88歳)



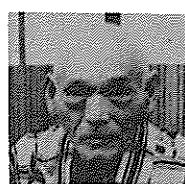
木 村 ミ ツ
(鹿子谷 70歳)



山 川 ハ マ コ
(鹿子谷 63歳)



寺 井 儀 藤 太
(下河内 86歳)



浴 林 末 太 郎
(用田橋 78歳)



石 田 昭 夫
(大 辻 47歳)



三 浦 教
(大 辻 63歳)



三 浦 敬 尚
(矢原郷 80歳)



高 浦 ヒ デ
(海 石 66歳)



三 浦 チ エ 子
(海 石 53歳)



大 下 リ エ
(谷 73歳)



倉 井 澄 子
(中 組 56歳)



濱 崎 彌 作
(須津 1 81歳)



濱 崎 イ サ ヨ
(須津 1 79歳)



寺 崎 シ ラ
(須津 1 72歳)



木 村 増 雄
(須津 1 58歳)



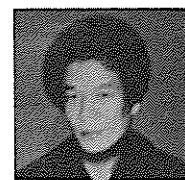
木 村 照 子
(須津 1 54歳)



木 村 滝 子
(須津 1 22歳)



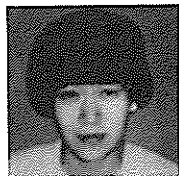
木 村 香 代 子
(須津 1 31歳)



沖 元 徳 重
(須津 1 31歳)



沖元 貞子
(須津1 57歳)



沖元 久美子
(須津1 25歳)



寺井 正道
(須津1 25歳)



大川 照子
(須津1 42歳)



浜崎 絢子
(須津6 47歳)



齋藤 次郎
(床並 65歳)



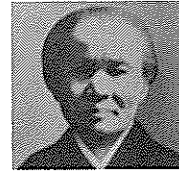
三澤 賢治
(黒沢6 58歳)



幸田 鶴市
(周布地 71歳)



川本 キヨコ
(東中芦谷 46歳)



川本 ヤエ
(東中芦谷 82歳)



近藤 サヨ
(東下今明 70歳)



大嶺 サクヨ
(上小原 64歳)



川元 チエ子
(上室谷 67歳)

(2) 重傷者

(栃ノ木) 木京 傳 76歳
(須津5) 尾崎誠一郎42歳
(小野) 落合 豊 37歳
(西方寺原) 河野尚永22歳
(大辻) 三浦 勇 67歳
(上小原) 大沢繁太郎68歳
(西下今明) 新井常市40歳
(三隅3) 木地山ハナヨ83歳

(栃ノ木) 木京ツツコ54歳
(須津1) 浜崎浅子 55歳
(鹿子谷) 木村 勇 72歳
(矢原郷) 三浦 修 75歳
(梅ノ木原) 藤井義友61歳
(上小原) 三浦 實 56歳
(東中芦谷) 川本豊隆48歳

(須津5) 大谷照人 54歳
(海石) 三沢キク 79歳
(鹿子谷) 山田フジ 53歳
(松柄) 池田正登 74歳
(黒沢4) 三浦 清 64歳
(上小原) 三浦フサヨ78歳
(東中芦谷) 川本隆志19歳

(3) 軽傷者

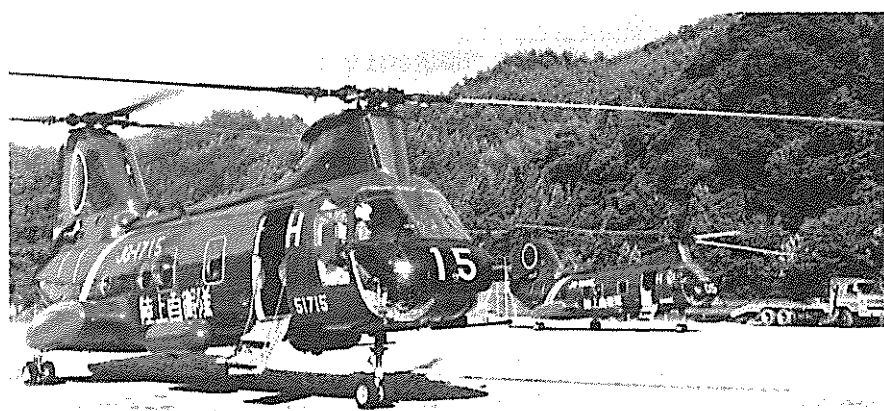
(須津1) 寺崎 嚴 56歳
(湊上町) 新井芳子 50歳
(鹿子谷) 山村強志 11歳
(上小原) 大沢五十鈴30歳

(須津1) 江野本勘助68歳
(小野) 石田信司 16歳
(用田橋) 玉田澄枝 50歳
(上小原) 三浦由織 9歳

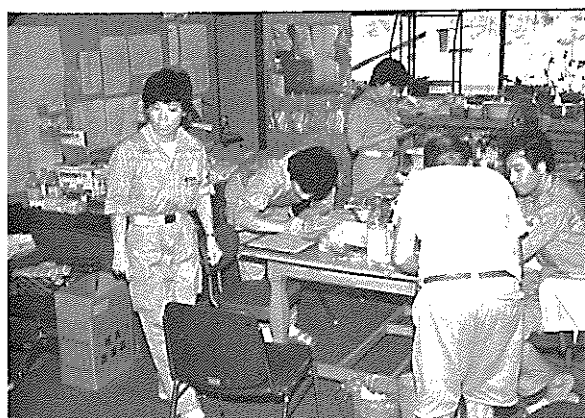
(湊下町) 永見敏文 34歳
(日ノ原) 三浦英人 36歳
(上小原) 竹内宏子 39歳



行方不明者の搜索（芦谷地区）



自衛隊のヘリコプターによる救助活動



日赤医療班による救護（三隅町役場3階）



濁流に水没する屋並（三隅地区）

2. 家屋被害

過去に類をみない豪雨により、河川の氾濫、山崩れ、がけ崩れによって、各地区では家屋の流失、倒壊、浸水などが続出し、特に三隅川の堤防が決壊したため、住家などに何らかの被害を受けた世帯は、全世帯の65%であった。

家屋などの被害状況ならびに被害判定基準は次のとおりである。

第15表 災害被害判定基準

被害区分	判 定 基 準
(1)全 壊 流 失	当該災害のため住家が滅失したもので、具体的には、住家の損壊もしくは、流失した部分の床面積がその住家の延面積の70%以上に達した程度のもの、また住家の時価の主要構造部分の被害額が、その住家の時価の50%以上に達した程度のもの。 (2階が50cm以上、浸水したもの)
(2)半 壊	当該災害のため住家の損壊がはなはだしいが、補修すれば、元通りに再利用できる程度のもの、具体的には損壊部分がその住家の延床面積の20%以上70%未満のもの。または、住家の主要構造部の被害額が、その住家の時価の20%以上50%未満のもの。 (床上浸水1 m以上2階50cm未満のもの)
(3)破 損	(1)、(2)に該当しない場合であって家屋の一部が破損した状態をいう。 (窓ガラスが数枚割れた程度のものは含まない)
(4)床 上 浸 水	浸水が住家の床上に達した程度のもの、および土砂、竹木が堆積し、一時的に居住することができないもの。(床上1 m未満のもの) ただし、同一の家屋で、被害の程度が半壊以上に達している場合は、半壊、または全壊とする。
(5)床 下 浸 水	前各項に該当しない場合であって、浸水がその住家の床上に達しないもの。

第16表 全町被害程度別総数

〔総 数〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	6 3 1戸	4 5 8戸	7 3戸	2 8 2戸	3 7 9戸
非 住 宅	2 0 0戸	9 4戸	5 6戸	3 3 8戸	

第17表 地区別被害程度別総数

〔岡見地区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2 9戸	2 9戸	1 2戸	6 8戸	1 0 0戸
非 住 宅	2 6戸	1 2戸	9戸	4 9戸	

〔三保地区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 3 4戸	1 7 6戸	8戸	8 7戸	6 9戸
非 住 宅	2 7戸	9戸	4戸	1 2 3戸	

〔白砂地区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	3戸	0戸	6戸	0戸	2 6戸
非 住 宅	1戸	0戸	1戸	2 戸	

〔三隅地区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	3 9 0戸	2 1 6戸	5戸	9 0戸	3 9戸
非 住 宅	1 0 4戸	4 4戸	1 9戸	1 2 0戸	

〔黒沢地区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2 3戸	1 5戸	8戸	1 4戸	2 6戸
非 住 宅	1 6戸	6戸	6戸	1 6戸	

〔井野地区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	5 2戸	2 2戸	3 4戸	2 3戸	1 1 9戸
非 住 宅	2 6戸	2 3戸	1 7戸	2 8戸	

第18表 集落別被害数および被害程度別名簿

〔西ノ谷西〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	3戸	1戸	0戸	1戸	4戸
非 住 宅	6戸	6戸	1戸	1 7戸	

全 壊（流失） 青山利夫・佐々木昌一・佐々木眞之輔

半 壊 高橋正人
 床上浸水 寺戸兼芳
 床下浸水 梅田好雄・石本尚之・寺戸 博・寺戸 孝

〔西ノ谷東〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2 戸	2 戸	0 戸	0 戸	1 0 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊（流失） 高森幸信・石本常子
 半 壊 齊藤貞人・三浦眞夫
 床下浸水 岩本 實・三浦好見・齊藤敏夫・皆本信雄・細川義信・岩本高一・高森効矣
 高森弘子・水津ナカ・水津 豊

〔宮ヶ迫〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	2 戸	0 戸	1 戸	6 戸
非 住 宅	2 戸	0 戸	0 戸	2 戸	

全 壊（流失） 三浦金次郎
 半 壊 大山清志・三浦仁司
 床上浸水 齊藤岩雄
 床下浸水 齊藤ハル・木村マサヨ・齊藤 勝・永戸義明・三浦 馨・渡辺五郎

〔床 並〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	5 戸	4 戸	3 戸	5 戸	0 戸
非 住 宅	7 戸	4 戸	4 戸	5 戸	

全 壊（流失） 細川明重・細川喜代一・細川悦信・齊藤政雄・齊藤キシエ
 半 壊 齊藤静男・細川喜代美・渡辺 實・齊藤豊市
 一 部 破 損 三浦繁雄・細川哲男・細川齡昭
 床上浸水 和崎輝男・齊藤忠夫・村上歳雄・細川繁雄・齊藤源市

〔栃ノ木〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	3 戸	2 戸	0 戸	2 戸	7 戸
非 住 宅	6 戸	1 戸	2 戸	2 戸	

全 壊（流失） 木京正人・木京 博・渡辺千里
 半 壊 吉田玉代・渡辺正雄
 床上浸水 渡辺義人・齊藤啓太郎
 床下浸水 渡辺ユキコ・渡辺 識・山根好太郎・渡辺国雄・栗山義雄・渡辺モト・渡辺唯雄

〔板ヶ峠〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	1 戸	2 戸	1 戸	3 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	1 戸	3 戸	

半 壊 栗山高松
 一 部 破 損 三浦ウメヨ・平川源二郎
 床 上 浸 水 斉藤傳雄
 床 下 浸 水 山本 修・斉藤孝夫・斉藤信雄

〔岡見郷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	1 戸	0 戸	2 戸	9 戸
非 住 宅	1 戸	0 戸	0 戸	2 戸	

半 壊 山口秀夫
 床 上 浸 水 三浦政雄・森元吉雄
 床 下 浸 水 鶴川 衛・寺戸 勝・寺戸 悟・寺戸 孟・川内昭吾・三浦古明・福田 進
 永田 博・寺戸若子

〔中山西〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	0 戸	2 戸	0 戸	2 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊（流失） 本田義人
 一 部 破 損 藤川密哉・嶺田スミコ
 床 下 浸 水 三浦正義・山崎礼次

〔中山東〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊（流失） 佐々木俊之

〔須津 6 区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	4 戸	11 戸	0 戸	0 戸	19 戸
非 住 宅	3 戸	0 戸	0 戸	3 戸	

全 壊（流失） 渡辺義弘・斉藤初四郎・山平政幸・坂本孝昭
 半 壊 長川周市・川上浅夫・川上昭夫・渡辺 昇・中村照子・佐々木定夫・小加本四洋
 渡辺 繁・吉田ミツコ・寺田俊謙・斉藤 馨
 床 下 浸 水 寺迫光人・田中 侑・山本 治・小加本富士夫・池田友可・小加本久義
 小加本好美・次藤 登・寺迫豊俊・寺本クメ・深水 博・幾田良人・次藤孝夫
 田中秀之・浜崎文夫・田中初夫・平川清志・原田博隆・下見川イロ

〔須津 5 区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2 戸	1 戸	1 戸	4 戸	7 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	1 戸	1 戸	

全 壊(流失) 尾崎誠一郎・寺迫 徹
 半 壊 田中政弘
 一 部 破 損 次藤 正
 床 上 浸 水 今原靖雄・濱崎 修・松田アサヨ・見国軍治
 床 下 浸 水 寺迫亮一・藤川智賢・賀戸静夫・佐々木天民・中村 勇・池田重朝・川元富士夫

〔須津4区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	0 戸	2 戸	1 4 戸	1 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	1 戸	

全 壊(流失) 寺田松男
 一 部 破 損 山本 弘・斉藤照雄
 床 上 浸 水 小加本久夫・見国平次郎・見国時夫・見国時好・浜崎イワ・道下 勝・田畑 護
 次藤 悟・植田相樹・藤井小潮・矢野ソ子ヨ・田崎六市・小加本淳司・門田敬三
 床 下 浸 水 木村惣市

〔須津3区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	1 2 戸	4 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	4 戸	

床 上 浸 水 浜崎清香・松本 聡・川上亀夫・高藤 信・藤田晴義・藤田俊寛・斉藤 貢
 次藤正機・藤井富子・吉田光香・山本正勝・田中由喜夫
 床 下 浸 水 岩崎義和・長川徳太郎・田前治郎・木村正義

〔須津2区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	1 0 戸	7 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	1 戸	

床 上 浸 水 寺迫 博・下見川重夫・松本友行・田畑唯夫・田中輝雄・山本好一・浜本七郎
 浜崎友一・吉田庄市・今津定雄
 床 下 浸 水 木村鉄雄・長川憲昭・道下治己・寺田勇治・田中孝喜・大谷直行・田畑克己

〔須津1区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	6 戸	3 戸	2 戸	0 戸	1 2 戸
非 住 宅	1 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 寺井和範・浜崎浅子・江野本幹夫・木村増雄・沖元好勝・寺崎シヲ
 半 壊 寺迫重満・沖元勝人・伊駒シゲ
 一 部 破 損 江野本希機・浜崎定雄
 床 下 浸 水 次藤麗子・坂本宗之・大谷照人・江野本勘助・池田輝俊・沖元キヨノ
 田中ヒデ子・岡田広光・浜崎松代・寺崎 巖・次藤 満・佐々木セツ

〔松原西〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	1 戸	0 戸	1 5 戸	8 戸
非 住 宅	0 戸	1 戸	0 戸	0 戸	

半 壊 永田 哲

床 上 浸 水 芳川松太郎・岡村繁晴・浜島 寿・澄川政弘・吉岡忠雄・上野 巖・芳川英治
佐渡村重太郎・松川鉄夫・新田管一・領家重臣・長島春芳・佐渡村求・野上 登
芳川広助

床 下 浸 水 山本茂歳・山本 進・沖田頼直・山本 弘・浜島 徹・芳川正雄・永田光加・木
村正昭

〔松原東〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	1 戸	1 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	8 戸	

床 上 浸 水 柳井 進

床 下 浸 水 木村節夫

〔古湊西〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	2 3 戸	0 戸	6 戸	4 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	4 戸	

半 壊 戸田静夫・原田清茂・保田友義・村田政人・嶺田昭洋・木村重行・村田 勇
村田實哉・嶺田信子・桜井松一・大星 栄・花本由利子・木村ヒサヨ・吉田 敦
嶺田政視・原田藤五郎・木村正行・森川大作・横田正司・新田キクノ・新田健治
三浦ヤエ・松本幸右衛門

床 上 浸 水 磯野正文・松本菊一・仲田武雄・原田筆隆・原田寅雄・原田茂明

床 下 浸 水 原田恭一・吉田政和・浜本ヨシノ・高浦秀美

〔古湊東〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 2 戸	1 4 戸	0 戸	1 8 戸	9 戸
非 住 宅	3 戸	1 戸	1 戸	8 戸	

全 壊（流失） 原田菊松・浜崎芳知・中本 昭・村田梅市・原田政喜・中本登美子・村田静頭
三浦直樹・中本サダノ・仲田光雄・水野亭一・柿木 豊

半 壊 木村孝夫・尾野好人・小加本寛一・中本清實・島内一義・中本瀧登・花本正昭
村本 博・中本愛喜・森山克己・中本松男・森川征人・吉田太平・浜崎繁子

床 上 浸 水 松田重美・浜崎直祐・松本省三・森川洋一・原田久良・三浦ワカ・松本利人
村本隆司・村田良二・田本忠男・松山常夫・田本慎吉・寺井 進・吉田富二子
門手和義・森川 悟・辻本伸一・上野己之助

床 下 浸 水 三浦 操・浜本藤治郎・原田 操・山岡文吾・浜本哲雄・原田勝太郎・門手朝一
中本新吉・吉田 保

〔下古市〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	30戸	40戸	0戸	3戸	2戸
非住宅	5戸	0戸	0戸	23戸	

全 壊（流失） 寺迫立夫・加納政康・吉川巖一・吉川文哉・川田建市・寺井勝智・寺井敏之
三沢一敏・横田一成・中本忠男・澄川欣一郎・久保田長一・西田敬二・浜崎省三
浜本富子・永見忠夫・西田不二喜・川田改一・高居博治・吉川和成・花見ケイ
田畑豊喜・中本マツ・平野克吉・武間陽子・藤元嗣美・渡辺正見・山村武夫
浜崎クノ・久保田博之

半 壊 平川眞吾・高居克彦・川田憲弘・久保田寛司・久保田保郎・三宅誓義
松本健市・松本 正・永見英夫・桜井忠男・寺井正弘・原田義明・柘植二三臣
永見重雄・桜井保子・西田経登・桜井秀司・中島広幸・三宅諒人・桜井幸夫
横田邦治・中本寛吾・中本勝實・新田幸人・仲田俊雄・原田 清・新田好人
田中美義・西田 悟・久保田寿夫・小林藤次・永見アサ子・松永匡義
中本ミチコ・藤沢 勇・佐々木シズエ・青木祐二・久保田眞也・島原アサヨ・原
田 正

床 上 浸 水 三島欣子・野上 勲・下見川雪子

床 下 浸 水 長谷 茂・佐々木甚一

〔門 殿〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2戸	26戸	0戸	5戸	1戸
非住宅	1戸	0戸	1戸	17戸	

全 壊（流失） 久保田政博・村川茂行

半 壊 野上 好・西田定雄・田中昭則・三浦三徳・芳川 保・山本新司・浜崎英輔
河野浄信・村川健二・西田倍人・村川 猛・西田忠昭・西田鶴一・山本常一
中本サキ・篠田正真・村田敦子・平川健二・西田達也・山本次郎・中島康登
山本愛子・倉井久夫・久保田保一・村川 誠・門手 昇

床 上 浸 水 西田喜栄・西田義夫・永田武義・山本秀和・村川 博

床 下 浸 水 船岩直臣

〔中 組〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	12戸	8戸	6戸	3戸	4戸
非住宅	5戸	2戸	0戸	13戸	

全 壊（流失） 新田芳夫・山田 要・新田晴雄・倉井伊佐都・山田義香・新谷孝幸・山田信子
山田清市・三浦シゲ子・村田 修・津野巖三・村田新一

半 壊 黒川重雄・松井豊治・山田直一・千代延三郎・川井 正・森川 勇・大賀健生・
倉井雄一

一部破損 倉井桃太郎・島原一郎・斉藤常心・山田観亮・千田シズ・川平輝夫
 床上浸水 金本有三・佐々岡昭順・坂本貞雄
 床下浸水 竹内住江・倉井為治・長見 博・川平友太郎

〔上古市〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	2 7 戸	1 戸	4 戸	1 戸
非 住 宅	9 戸	2 戸	1 戸	2 7 戸	

全 壊（流失） 石内正男
 半 壊 野上忠良・内藤スエ・野上浪代・森下辰己・山田哲夫・中野トキ・石本嘉伴
 田畑栄一・當木 直・山田英司・高村 威・内藤 諭・畑野幸夫・田中啓治
 脇野重弘・斉藤聖吾・富金原伸夫・新田神造・金山 功・石川 修・山根憲二
 大賀武夫・山田善雄・清水義雄・平川 漣・大賀好吉・金本秀夫
 一部破損 畑岡良人
 床上浸水 竹内不成・森下勝義・花内一夫・大岡廣喜
 床下浸水 畑岡マサコ

〔湊下町〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 9 戸	4 戸	0 戸	2 1 戸	戸
非 住 宅	1 戸	1 戸	0 戸	1 戸	

全 壊（流失） 木京 勇・藤田時子・藤田芳子・三浦忠典・山崎政廣・門手ソヨ・長尾正且
 中村ユキ・亀山一郎・寺井二郎・寺井貞夫・斉藤正昭・大賀ツウ・土田好治
 永見敏文・梅谷謙市・大橋 茂・今田義夫・田原昭人
 半 壊 鶴川保夫・大賀 漠・俵 重利・岩谷正造
 床上浸水 岡山秀雄・俵 光示・福田 正・鉄岡節朗・若林 茂・賀藤里一・三澤忠義
 野上竹一・松本 彪・福田公平・藤田安太郎・大賀重孝・鶴川友三・斉藤順吉
 濱村一也・梅谷義昭・町原多美・原田靈海・小山 勲・木崎之弘・上田リノ

〔湊上町〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 7 戸	1 1 戸	0 戸	9 戸	1 9 戸
非 住 宅	0 戸	3 戸	1 戸	3 戸	

全 壊（流失） 細田松市・川辺マサヨ・山本松代・若井輝雄・濱村松市・鶴川芳恵・野上正人
 迫田宗雄・上野伸一・岩谷百合雄・吉本巴子・新井豊吉・向井ヨシ子
 松本シヅコ・斉藤庄一・高井国喜・三上運海
 半 壊 斉藤敬治・池辺健一・斉藤 登・上野博信・田本正幸・野上晃史・松山和雄
 吉永辰美・中村 智・梅谷尚也・佐々木雄一
 床上浸水 高井房一郎・高下 薫・土田久人・中川ミトメ・出合隆朝・野村経教・大石彦一
 三浦歌子・藤江 清

床 下 浸 水 本田省一・菊川 勇・梅谷誠一・角村泰雄・梅谷甚一・町原修身・三浦セツコ
寺井正美・藤田哲也・前野隆寿・仲田テルヨ・受村嘉信・寺井昭三・松原 昇
芝谷政人・大村具美・角村丈夫・中川二郎・松本 博

〔湊セド町〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	6 戸	12 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

床 上 浸 水 土田司朗・今田好之・福原季美・森重マツヨ・畑 甲三・村田光康

床 下 浸 水 野上 忠・長尾勝彦・松永増次・鶴川 勲・吉田鶴一・上野義香・木京キクエ
斉藤敏雄・丸山 進・松永年男・氏家忠義・佐々木清秀

〔八 曾〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	8 戸	5 戸	0 戸	11 戸	5 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊（流失） 富金原完・岡本 進・野上良宣・野上ユキ子・星浦和雄・三沢義満・細田俊信
吉田正宣

半 壊 細川靖彦・黒見敏幸・長谷良子・新田数人・濱島歳昭

床 上 浸 水 小田 昭・栗山絹子・細川カタ・斉藤芳雄・上田美津代・野上喜一郎
佐々木澄市・吉田直一郎・林 義雄・細田竜一・野上菊代

床 下 浸 水 栗山チヨ子・百田貞男・西田朝枝・斉藤儀隆・井上正美

〔駅 前〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	27 戸	9 戸	0 戸	0 戸	0 戸
非 住 宅	2 戸	0 戸	0 戸	19 戸	

全 壊（流失） 成瀬和作・長島順三郎・山口喜平・大下保明・渡辺芳彦・滝川 一・清水千代子
石村 守・斉藤孝市・脇 知・西平ナミヨ・斉藤 博・大谷保明・斉藤千基
渡辺吉郎・岬田利秋・永見之光・西藤幸雄・西藤久代・野上久美・山本義三
桑原信幸・水津慶幸・布田 稔・土田好喜・宮内時子・桑本勝己

半 壊 寺井 勇・浅井幹治・吉川己之助・大賀貞男・松本憲治・吾郷 務・加藤正臣
斉藤 功・峯田秀己

〔谷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	6 戸	9 戸	1 戸	1 戸	12 戸
非 住 宅	1 戸	0 戸	0 戸	8 戸	

全 壊（流失） 田中之雄・井上るみ子・岡田義昭・小田安雄・和崎六男・桑原吉典

半 壊 岡田謙知・大下久義・稲岡久人・中島良二・栗山 彰・岡田マツヨ・寺田 寛
井上量示・井上清子

一 部 破 損 栗山 堅

床上浸水 岡田頼明

床下浸水 河上 弘・山藤 明・三明ヨシ子・原田邦夫・石田忠義・延川 豊・中村一夫
斉藤信雄・河上健三・岡田 勝・井上 勉・石田徳次

〔今 浦〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	0 戸	1 戸	0 戸	12 戸
非 住 宅	1 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全壊（流失） 村上鉄男

一 部 破 損 大久保義男

床 下 浸 水 伊名田純夫・桑原哲雄・下岡安之・笹野貞司・長崎義明・長崎隆見・原田タカ
大久保進・吉原義朝・桑本操・桑本信夫・桑原 稔

〔吉 浦〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	0 戸	5 戸	0 戸	6 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全壊（流失） 谷平菊雄

一 部 破 損 山岡兼市・吉本英夫・下岡長四郎・吉本武・高松春雄

床 下 浸 水 下岡亀治・桑原定夫・吉本徳市・下岡隆雄・下岡道信・山岡仲市

〔東平原上〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	0 戸	0 戸	0 戸	2 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	1 戸	2 戸	

全壊（流失） 三浦菊三郎

床 下 浸 水 野上虎男・大田俊春

〔東平原下〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	6 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

床 下 浸 水 埤畑静雄・田城 巖・丸山武雄・田城 愛・田城シゲ子・原田利夫

〔森溝上〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	3 戸	0 戸	10 戸	5 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	8 戸	

全 壊（流失） 田畑一男

半 壊 山本利男・弥重礼治・河野英範

床 上 浸 水 石川一郎・石川久登・三浦武雄・石川春義・金谷 弘・金谷 統・稲岡 実
塚本 毅・沖元歳市・丸山義典

床 下 浸 水 佐々木 勇・田畑年春・三浦潮満・田中光男・田畑勝雄

〔森溝下〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	14戸	34戸	2戸	5戸	0戸
非住宅	1戸	0戸	0戸	11戸	

全 壊(流失) 大畑正吉・田中儀助・金谷 誠・高橋寿子・清水義夫・李 益身・斉藤久代
前崎健二・三賀森 実・山本孝男・三賀森康夫・熊谷道利・金谷春好・新田春視

半 壊 梅津幸康・松本一夫・山岡義一・山岡昭義・長島義弘・長島三可男・野上 理
三賀森栄子・吉本安雄・大崎 昭・野上義春・野上勝儀・植松由行・石橋勇二
平川隆世・平川真澄・三浦関蔵・山岡青春・山岡浅市・山本 康・山岡鉄男
山本 斉・江埜校光・岡野幸男・石原健良・安部春雄・吉原富士男・松川鉄枝
斉藤正己・新田忠雄・川本洋己・野上時雄・寺井修治・金谷道男

一 部 破 損 山岡順市・山本フサヨ

床 上 浸 水 桑原善介・斉藤幸男・金谷勝儀・長島 萃・岩田唯好

〔海 石〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	4戸	28戸	0戸	0戸	0戸
非住宅	0戸	0戸	1戸	2戸	

全 壊(流失) 山尾好昭・栗山舩雄・佐野ユキエ・寺田喜久栄

半 壊 山尾敏夫・榎 久男・藤田清美・三沢武雄・川本重雄・三浦真介・熊谷重隆
清水義武・三浦敏美・久保綾子・久保トミエ・酒井美枝・久保多吉・松浦ミスエ
浜村松子・石田孝之・佐野 清・上野義雄・西藤俊明・芝 敏雄・森川未好
佐々木信枝・佐々木喜七・桐山 勇・下田益雄・三浦喜佐市・三沢佐登美
河野タミヨ

〔岡 崎〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	5戸	36戸	0戸	0戸	0戸
非住宅	1戸	3戸	0戸	14戸	

全 壊(流失) 曾我勝夫・大橋悦子・小野尊我・亀山宇佐二・岩田久則

半 壊 斉藤五郎・小野一味・小松原正人・曾我 巖・湯田直一・大橋トシ子・神本清司
金谷 正・曾我三郎・堀江八郎・曾我キヨノ・湯田義幸・曾我敏男・曾我義伸
平川満代・田中亮次・竹森光夫・細田政美・西島清栄・吉田和麻・山田稔己
三賀森 勝・三賀森重六・三賀森秀雄・三賀森敏郎・三賀森 祐・曾我孝夫
當木正信・平川竹野・大橋俊甫・大橋恒子・湯田清一・湯田庄市・神本利右エ門・
三賀森智信・島田エミ子

〔小 野〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	9戸	16戸	0戸	31戸	0戸
非住宅	1戸	1戸	0戸	11戸	

全 壊(流失) 長野義春・神本重子・江坂寿満・田中辰男・上田良二・田中 巖・田中 徹
酒田セイ・鳥越スエノ

半 壊 田中敬士・落合 博・舩上ハルヨ・神本七五郎・斉藤久司・百田勝寛・田中幸雄
大谷 肇・大谷義美・入道忠男・吉岡正秋・栗栖幸人・伊賀棒英徳・田中義男
石川 章・上田宅夫

床 上 浸 水 久保正男・河野正雄・大山寿雄・斉藤由美子・高原 保・和田友年・西田 昇
石田幹夫・中部 茂・平岡秀雄・高原智禪・山口 勇・笹田一調・山本康雄
酒田嘉満・二宮 淳・串崎太一・河村重美・森川健児・台部忠義・高下清司
斉藤勇嬉・佐々木政雄・花崎良順・花崎秀子・前野智治・三沢幸男・山田康信
落合 豊・小川清治・石田 茂

〔三隅４区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	53戸	2戸	0戸	0戸	0戸
非住宅	0戸	0戸	0戸	1戸	

全 壊(流失) 山下芳一・細川スエノ・銭山キクエ・沢井 勝・吉本重美・西本 豊・松本惣平
矢富俊春・鳥井 昇・柳原富子・三浦明昌・横田孝之・沖田政則・木村 貢
熊谷義美・横田克己・岡本末雄・川本千里・大賀 中・藤江義夫・野上タカ
芦谷重治郎・山根恭介・井上金夫・斉藤義人・大畑吉信・斉藤美與子・角谷 清
塩村久夫・佐々田元子・今田公人・山口陽三・辻田芳生・大橋 理・山藤恵正
久保康輔・柳迫文枝・古市圭介・古藤輝夫・角部シズヨ・中前サダ子・澄田満恵
斉藤国男・田中繁雄・杖田吉春・和田二郎・金谷正光・田中マキ・福岡正昭
白石尚生・山口ミツ・鶴川 修・橘 岩尾

半 壊 林 浄次・安藤美一

〔三隅３区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	61戸	3戸	0戸	1戸	0戸
非住宅	5戸	2戸	4戸	1戸	

全 壊(流失) 真鍋陽二・吉原 博・長井秀也・折居 功・中島伸博・花田直二郎・銭山正一
岡田博子・小松義友・吉田元子・白沢徹也・松本 勲・亀山新市・梅田寅市
岡田テイ・原 利成・須山 登・土居 博・大場敏昭・木地山正雄・川上正男
久保晃健・杉山広和・吉本 勲・永見 勤・高杉勝子・永見 勉・児玉スエノ
西川己鶴・長浜 巖・篠原修司・中田正美・吉川照夫・市川敏枝・下角徳男
花田弘子・久保智完・河野 宏・桜井義雄・下田佳正・梅谷忠文・藤本 悠
桐田真住・大崎ヤス子・久保喜三郎・岡田 稔・松本光司・佐々木義寿
中山良嘉・前崎里子・今田正道・古市茂樹・斉藤重政・曾利勝美・片木正貴
益 利一・山本歳雄・田城謙二郎・中村 康・岡田 栄・青笹 緑

半 壊 洗川義弘・杉内輝子・門田敏美

床 上 浸 水 三浦睦雄

〔三隅2区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	50戸	6戸	0戸	0戸	0戸
非住宅	16戸	1戸	3戸	7戸	

全 壊(流失) 大畠トキ・森田キクヨ・吉田和正・岡本良一・中村恒男・浜崎浅雄・安江トヨ
松田友二・乙部邦輔・岡田輝雄・佐々田治子・増野義雄・寺井唯可・木下ミサヨ
吉田 悟・中島春重・藤井泰介・三浦卓雄・吉野凱夫・若井岩雄・寺井好静
大賀 豊・内藤彌重子・沖田末市・大賀美代子・岩野未友・萩原豊雄・大森兼夫
岩本 悟・岩本真司・山田 實・岡田良助・大畑八重子・河野一弘・安井好裕
吉原貞子・川内 正・金山福一・吉岡 勝・斉藤マツコ・佐々木常雄・岡田 忠
山坂スエノ・宮本和男・高杉時枝・田中茂子・西村知子・山崎久平・玉木正稔
玉木幸雄

半 壊 中村哲夫・栗栖哲夫・田中ハルヨ・小鉄雅亮・斉藤七五郎・安武洋三

〔三隅1区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	37戸	3戸	0戸	0戸	0戸
非住宅	2戸	0戸	0戸	0戸	

全 壊(流失) 和田キク・村上良行・三宅政代・西川虎雄・吉原卓三・古藤吉岳・佐々木セキエ
山坂昭平・三浦兼孝・野上鉄蔵・古藤謙次郎・恩智康夫・横山政人・細田文登
斉藤一馬・浜崎義定・桜井幸修・安武 孝・前崎福三・沖田勝喜・岩本謙吉
大賀秀樹・岡田重男・清水和男・澄川吉次郎・平田清進・岩野清悟・佐々木金造
松岡宗利・大畠タメノ・岩井サダ子・佐野義昭・桑本 聖・賤間眞寛・桜井春人
三浦俊明・下田澄江

半 壊 佐々木康生・増見タメ・渡辺 章

〔日ノ原〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	4戸	15戸	0戸	5戸	0戸
非住宅	0戸	0戸	2戸	8戸	

全 壊(流失) 大橋寛吾・吉本ワカノ・水師房子・吉本定良

半 壊 原 春喜・吉本文雄・吉本秀勝・吉岡正明・大谷重友・三浦 悟・原井利一
吉本孝一・三浦英人・小松経義・柳谷 進・茶木喜一郎・三浦清一・当木比佐夫
川本未信

床 上 浸 水 竹野由治・吉本 豊・吉本美枝・原井隆三・吉田修身

〔田 原〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	19戸	4戸	0戸	6戸	0戸
非住宅	2戸	0戸	0戸	14戸	

全 壊(流失) 茶木 亨・井畑 修・川内二郎・藤野芳太郎・斉藤タヨミ・谷出一郎・平川義男
遠藤 強・陶山修治・若槻和浩・尾添不二夫・山本 司・羽柴 武・土井勝一

半 壊 岡田一男・細川春義・八木谷日出男・斉藤茂行・大場昭則
 池田重哉・杖田隆志・山根茂樹・埤原克己
 床上浸水 埤原八重子・旭 政博・杖田正昭・杖田富太・遠土俊明・遠土正之
 (向野田)

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	8 6 戸	2 3 戸	0 戸	2 戸	1 戸
非 住 宅	2 7 戸	2 戸	1 戸	1 9 戸	

全 壊(流失) 神田亀市・小川武夫・斉藤静子・野中一夫・森川文吉・細川 保・川本 明
 樋口清勝・川本数馬・小松原直子・田中倭雄・寺戸常雄・勝田菊江・岡田保子
 児玉正太・杖田忠人・田中 勲・丸山 登・河野経義・宇野 斌・司山未市
 司山佐市・岡村繁夫・古山素美枝・後藤孝子・斉藤桃太郎・大谷政夫・斉藤恭子
 田中健二・木村恒雄・吉田忠司・小川 昇・山本修二・佐倉光久・大平良四郎
 伊藤マツノ・岡田良介・永海忠教・南海初子・横川ミチ子・森田ハナヨ
 篠原 衛・横川兼一・吉田三郎・松本 健・川本忠吾・大谷颯喜・山田正則
 大上周三・斉藤豪己・沖田弘一・金山 繁・桐山 正・高橋 敏・清水澄雄
 三浦良明・高橋五月・澄川義紀・門脇真悟・河野英典・寺戸ミトメ・三浦八義
 佐々木恭子・渡辺 薫・常松育夫・星村 健・青木敏章・伊藤興啓・岡本隆信
 井熊幸男・斉藤 初・鈴木雅之・永田節雄・松岡照夫・三浦行夫・鳥越敬三
 山田英則・西藤龍彦・梶 康登・寺戸貞男・三浦啓次・田原ツネ子・細川三善
 柳子 弘・高杉 博・山田イヨ

半 壊 田中正男・山川寿子・森田太郎・森田 清・三浦安園・古市勘一・川上智子
 丸山三郎・田中武士・寺井 孝・金森 勤・清水清勝・青木 仁・青木健司
 渡辺 悟・吉留保弘・金山 巖・山根康雄・栗原 隆・野中正夫・大国正人
 松本 覚・岩田伸文

床上浸水 斉藤泰子・青山康磨

床下浸水 細川義人

(海老谷)

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	2 戸	2 戸	5 戸	2 戸
非 住 宅	2 戸	0 戸	0 戸	1 戸	

全 壊(流失) 斉藤迩太郎

半 壊 伏田静夫・清原雪雄

一 部 破 損 京塚義光・斉藤安雄

床上浸水 江田章造・三浦升一・斉藤幸次郎・梶山 巖・松永 昇

床下浸水 三浦保夫・塩田シズ

(畑)

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	1 戸	0 戸	0 戸	0 戸
非 住 宅	1 戸	2 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 寺戸松子
半 壊 芝田利平
〔鹿子谷〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	6 戸	3 戸	0 戸	1 戸	2 戸
非 住 宅	3 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 山川憲郎・山村国雄・木村 勇・山田フジ・三浦雅信・三浦初雄
半 壊 岩本武詞・木村鶴松・三浦博文
床 上 浸 水 三浦喜男
床 下 浸 水 三浦百合・三浦チセ

〔下河内〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	14 戸	8 戸	0 戸	6 戸	1 戸
非 住 宅	14 戸	4 戸	5 戸	3 戸	

全 壊(流失) 斉藤庄一・榎田美香・斉藤高市・三浦 清・三浦チエ・杖田千代子・領家慶雄
寺井寅男・寺井善市・高橋 博・寺井 正・原 英二・長岡徳三郎・寺井儀藤太
半 壊 三浦 嵩・玉木千里・玉木秋義・谷口フジエ・竹林静雄・竹林静昭・新谷繁義
杖田憲一
床 上 浸 水 杖田武秋・斉藤喜男・橋本幸一・斉藤アサ・織田公子・杖田茂次
床 下 浸 水 野尻 清

〔用田橋〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	3 戸	3 戸	0 戸	2 戸	10 戸
非 住 宅	4 戸	2 戸	2 戸	5 戸	

全 壊(流失) 大湊静夫・玉田繁雄・榎田 貢
半 壊 浴林ヒサヨ・榎田セエ・金山俊雄
床 上 浸 水 光田太郎・中野終郎
床 下 浸 水 岡田忠夫・中林亀市・中林岩一・光田清子・光田三郎・黒川 勝・尾実忠文
長喜弘明・光田寛一・西田 堅

〔上河内〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	16 戸	0 戸	2 戸	2 戸
非 住 宅	3 戸	12 戸	0 戸	5 戸	

全 壊(流失) 坂田 貢
半 壊 土井律子・福原一夫・松本春義・河野隆三・福原正雄・福原良子・野田忠政
大田 修・大橋頼太・松本秀雄・福原 薫・玉田晴夫・玉田 功・杉山英雄
瀬丸 亀・玉田ワサ
床 上 浸 水 福原貞美・藤井貞雄
床 下 浸 水 上手秀市・中井佐登治

〔西方寺原〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	6 戸	5 戸	0 戸	6 戸	1 戸
非 住 宅	4 戸	4 戸	1 戸	5 戸	

全 壊(流失) 三浦政男・河野 修・三浦モモヨ・栗山美徳・長岡信一・栗山武雄

半 壊 三沢佳美・中林隆男・清岡藤太・三浦隆幸・三浦利雄

床 上 浸 水 野木和春義・小松茂行・平坂次郎・下田利博・三浦正夫・三浦義見

床 下 浸 水 村木勝利

〔矢原郷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2 戸	1 戸	0 戸	2 戸	8 戸
非 住 宅	1 戸	6 戸	0 戸	4 戸	

全 壊(流失) 山崎英雄・三浦 修

半 壊 高橋美寸次

床 上 浸 水 高橋恒雄・三浦清次郎

床 下 浸 水 三浦泰嘉・三浦義臣・大賀 稔・永見幸友・三浦正経・寺戸茂彰・洲上五郎
永見信弘

〔松 柄〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	4 戸	4 戸	0 戸	1 戸	2 戸
非 住 宅	6 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 三浦頼人・池田善文・白原元市・池田正登

半 壊 小簾英延・俵 マツノ・石田安郎・三浦武雄

床 上 浸 水 池端光義

床 下 浸 水 三浦 寿・大平富太郎

〔大 辻〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	6 戸	0 戸	1 戸	0 戸	3 戸
非 住 宅	2 戸	3 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 三浦信清・畑伊三郎・三浦 勇・三浦キクノ・永見定雄・石田タカコ

一 部 破 損 三浦亀太郎

床 下 浸 水 内藤虎雄・三浦健一・松永芳哉

〔梅ノ木原〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	3 戸	0 戸	0 戸	5 戸	2 戸
非 住 宅	4 戸	2 戸	0 戸	1 戸	

全 壊(流失) 浅尾市太郎・品川武雄・三穂亀一郎

床 上 浸 水 藤井繁雄・三浦幸人・寺戸貞吉・密川 哲・藤井義友

床 下 浸 水 藤井家康・大賀信雄

〔黒沢5区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	10戸	6戸	0戸	0戸	0戸
非住宅	1戸	2戸	2戸	1戸	

全 壊（流失） 百田顕美・久保田タマヨ・大田篤義・三沢利美・平野松夫・佐々木一夫
近藤義加・三沢市郎・天津チヨ・谷 節子

半 壊 三沢静雄・村木寿雄・河野富市・西田広一・山根邦夫・井上昌子

〔黒沢6区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2戸	5戸	1戸	4戸	6戸
非住宅	3戸	1戸	1戸	1戸	

全 壊（流失） 中村ツル・三沢トシ子

半 壊 野地久吉・遠土定男・中村 實・三沢秀行・斉藤 彰

一 部 破 損 三沢正美

床 上 浸 水 天津知哉・中村知人・片木忠寿・山崎芳友

床 下 浸 水 中間秀一・酒井好人・田中一正・長瀬勝美・三沢 満・三沢勝美

〔黒沢7区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1戸	0戸	1戸	1戸	0戸
非住宅	2戸	0戸	0戸	0戸	

全 壊（流失） 土田傳治

一 部 破 損 山田政美

床 上 浸 水 野上海音

〔黒沢8区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1戸	0戸	2戸	0戸	0戸
非住宅	0戸	0戸	0戸	0戸	

全 壊（流失） 藤原 馮

一 部 破 損 三沢孝一・三沢政雄

〔黒沢9区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	4戸	0戸	0戸	0戸	0戸
非住宅	1戸	1戸	0戸	0戸	

全 壊（流失） 森川庄三・三浦勝美・斉藤光太・田中政人

〔黒沢10区〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1戸	0戸	0戸	0戸	0戸
非住宅	0戸	0戸	0戸	0戸	

全 壊(流失) 広瀬徳雄

〔黒沢4区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2 戸	0 戸	1 戸	4 戸	8 戸
非 住 宅	4 戸	1 戸	2 戸	8 戸	

全 壊(流失) 河野和明・鴛原熊夫

一 部 破 損 鴛原源平

床 上 浸 水 河野市治郎・河野佐市・今明松市・河野 圓

床 下 浸 水 斉藤貞子・河野重実・山元清信・林 磯治・三浦チヨ・河野春美・三浦丈一
森 義吉

〔黒沢3区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	0 戸	2 戸	0 戸	3 戸
非 住 宅	1 戸	1 戸	0 戸	0 戸	

一 部 破 損 三沢アサヨ・三浦敏幸

床 下 浸 水 串崎信夫・松本ヒサヨ・河野 清

〔黒沢2区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	0 戸	1 戸	1 戸	3 戸	7 戸
非 住 宅	3 戸	0 戸	0 戸	4 戸	

半 壊 河野好雄

一 部 破 損 村井克彦

床 上 浸 水 三沢サツヨ・山本芳男・熊谷芳太郎

床 下 浸 水 熊谷チエノ・三沢長一・福原安重・村井四郎・児玉歳郎・熊谷正美・熊谷唯雄

〔黒沢1区〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2 戸	3 戸	0 戸	2 戸	2 戸
非 住 宅	1 戸	0 戸	1 戸	2 戸	

全 壊(流失) 片山アヤコ・澄川里司

半 壊 森川チサヲ・近藤義喜・栗栖正哉

床 上 浸 水 大平武男・河野義視

床 下 浸 水 河野昭己・川本芳高

〔周布地〕

罹災区分	全壊(流失)	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	2 戸	3 戸	2 戸	0 戸	9 戸
非 住 宅	1 戸	5 戸	4 戸	1 戸	

全 壊(流失) 中村國男・若林 勇

半 壊 栗山義喜・幸田チエコ・岡田敏太

一部破損 栗山 勇・岡田芳一
 床下浸水 竹下 優・吉原 登・久原 豊・幸田 勇・元尾敏住・大森義明・大森久義
 栗山一男・小島善人

〔大 谷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	8 戸	7 戸	2 戸	2 戸	7 戸
非 住 宅	4 戸	1 戸	5 戸	1 戸	

全 壊(流失) 牛尾武一・三浦英子・三浦正人・中村忠雄・濱口憲道・桜木 清・山本松俊
 川上泰子

半 壊 栗栖憲利・栗山恒雄・串崎文幸・串崎繁成・河野隆夫・丸山利夫・田中芳男

一部破損 扇田 勉・中村貴美榮

床上浸水 千原忠義・新谷繁雄

床下浸水 岡田正夫・河野 繁・河野勝俊・鶴若未義・吉田虎雄・小川明友・小川 勇

〔石 浦〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	2 戸	3 戸	3 戸	6 戸
非 住 宅	1 戸	3 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 三浦安雄

半 壊 花本孝憲・河野定雄

一部破損 串崎ヨシエ・三浦 崇・原田俊雄

床上浸水 南谷徳一・元尾正信・佐々木 勇

床下浸水 山本豊信・佐々木辰雄・三浦寅十・三浦元重・瀧山初實・斉藤利明

〔市 場〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	4 戸	戸	5 戸	2 戸	3 戸
非 住 宅	2 戸	1 戸	1 戸	6 戸	

全 壊(流失) 津野俊信・三浦義雄・山田種吉・多原清子

一部破損 南海里志・瀧山壽実・田中美徳・栗栖兼信・津野重吉

床上浸水 今浦 實・平田武喜

床下浸水 加藤喜六・潮 仁・多原スエ子

〔久根郷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	0 戸	0 戸	2 戸	0 戸
非 住 宅	1 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 成田勝利

床上浸水 白木正道・原田秀一

〔大 口〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	5 戸	0 戸	5 戸	0 戸	0 戸
非 住 宅	1 戸	0 戸	3 戸	0 戸	

全 壊（流失） 山本伊勢一・山根 章・白木房子・白木定行・三浦嘉太郎

一 部 破 損 前田定一・坂本俊雄・白木直正・白木玉代・白木秀徳

〔上小原〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	7 戸	1 戸	2 戸	3 戸	5 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊（流失） 三浦定一・河野健一・川本良三・小田忠夫・河野義友・三浦又三・三浦 實

半 壊 川本清一

一 部 破 損 岡本勝美・植松喜市

床 上 浸 水 竹内正道・竹内又一・大嶧武男

床 下 浸 水 野上道男・三浦 巖・松原ウメノ・野上政人・川本 渡

〔下小原〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	3 戸	0 戸	1 戸	2 戸	8 戸
非 住 宅	0 戸	1 戸	1 戸	1 2 戸	

全 壊（流失） 柴田萬治・柳迫清次郎・湊田留治

一 部 破 損 野上政美

床 上 浸 水 三浦美義・岡本義夫

床 下 浸 水 西田信市・酒井清美・潰田富雄・中谷イマヨ・西田正雄・酒井キクヨ・三浦 満
三浦三市

〔西下今明〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	5 戸	1 戸	0 戸	2 戸	2 0 戸
非 住 宅	0 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊（流失） 大場義博・新井直市・山路義友・松田敬久二・野上トシ

半 壊 熊谷 優

床 上 浸 水 篠原眞悟・榎内善男

床 下 浸 水 井上 良・野上ミサヲ・河野 實・梅園泰雄・桑原春雄・小野マスヨ・河野計則
桑原年男・桑原貞雄・松田照雄・松田政朝・岡本利嘉・篠原幸一・河野誓男
柿原 喬・馬地歳一・河野 勲・馬地忠雄・斉藤達雄・橋爪道子

〔東下今明〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	0 戸	1 戸	0 戸	1 0 戸
非 住 宅	2 戸	3 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 河野恵勝
 一 部 破 損 苅田 豊
 床 下 浸 水 船岩政雄・野上英世・下野義一・宮崎竹一・丸澤 悟・今浦菊雄・吉野正次郎
 杉原俊雄・畑崎 清・岩本政治郎

〔上今明〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	2 戸	0 戸	0 戸	5 戸
非 住 宅	0 戸	2 戸	2 戸	5 戸	

全 壊(流失) 丸山千尋
 半 壊 杉田隆一・中田常男
 床 下 浸 水 篠平和義・長田政三・野上正吉・丸山正雄・佐田宗弘

〔諸 谷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	2 戸	2 戸	1 戸	5 戸
非 住 宅	2 戸	2 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 中田米男
 半 壊 埤田康弘・中川弥一
 一 部 破 損 佐田石太郎・小田惣市
 床 上 浸 水 佐田勝太郎
 床 下 浸 水 佐々木善明・倉岡吉信・神谷正子・田原 正・田原保雄

〔上室谷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	6 戸	2 戸	5 戸	3 戸	8 戸
非 住 宅	3 戸	0 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 古森久一・杉戸文男・石原定美・川元梅次・谷田利夫・濱野ユキ
 半 壊 中川鶴雄・河野鶴雄
 一 部 破 損 吉原重文・石原 務・横川藤十郎・佐々木秀雄・谷田義信
 床 上 浸 水 佐々木美知雄・岡本隆慶・川本 哲
 床 下 浸 水 吉原昭美・吉原正幸・岩本成美・杉戸 悟・佐々木清七・佐々木利雄・三内 登
 三内岩藏

〔下室谷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1 戸	0 戸	3 戸	0 戸	1 3 戸
非 住 宅	1 戸	3 戸	0 戸	0 戸	

全 壊(流失) 河野 勇
 一 部 破 損 田代千津子・大平重男・佐々木義己
 床 下 浸 水 辻森吉信・埤田正義・芦谷サダ子・出島 智・上森益子・岡田喜一郎・山田 晃
 佐々木鶴雄・松岡チヨ・佐々木清・佐々木繁義・佐々木久郎・大平歳美

〔本 谷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1戸	0戸	0戸	0戸	4戸
非 住 宅	1戸	0戸	0戸	1戸	

全 壊(流失) 中部盛雄

床 下 浸 水 熊谷定義・三浦 勤・佐々木友市・桑原トメヨ

〔東中芦谷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	3戸	2戸	0戸	1戸	8戸
非 住 宅	2戸	0戸	0戸	1戸	

全 壊(流失) 佐々木 正・河野快依・川本豊隆

半 壊 畑岡弘幸・西森兼敏

床 上 浸 水 熊谷光義

床 下 浸 水 山田義喜・松本 巖・久保定義・山本正文・福原正男・梅園道夫・佐々木静夫
河野 智

〔西中芦谷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1戸	0戸	0戸	0戸	4戸
非 住 宅	2戸	0戸	0戸	1戸	

全 壊(流失) 山市益一

床 下 浸 水 畑岡好友・畑岡清春・吉原邦嘉・杖田勇峰

〔下芦谷〕

罹災区分	全壊（流失）	半 壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
住 宅	1戸	0戸	3戸	2戸	4戸
非 住 宅	3戸	2戸	1戸	0戸	

全 壊(流失) 竹田 正

一 部 破 損 松本善一・河野義宣・畑岡義人

床 上 浸 水 岡本 武・三浦義博

床 下 浸 水 大久保豊一・泉川丈一・岡本義嘉・大久保宇一

※青浦集落（岡見）、福浦集落（三保）被害なし。

第3節 土木関係の被害

壊滅的な被害をあたえた7月豪雨災害は、町内の土木関係施設にも甚大な被害をもたらし、その被害規模は、平常時における三隅町全予算の約3ヵ年分に相当する、85億円に達した。

特に河川施設の被害は40億円で達し、全体の約50%を占め、なかでも井野地区における被害規模は大きく、河川施設災害全体の50%を占めた。次に大きいのが町道施設の被害で36億円で達し、河川と道路の被害だけで、土木関係被害の89%を占め、その内容も壊滅的なものであった。

土木関係の被害状況は第19表のとおりである。(被害額は査定申請額とした)

1. 道路の被害

道路の被害は、山間部の被害が大きく、特に幹線町道がズタズタに寸断されたため、井野地区、黒沢地区、矢原地区への交通網が完全に途絶えた。そこで、応急仮設道路などによって交通が確保されるのに約2ヵ月間もかかったため、関係地区内の集落は孤立し、社会生活に重大な影響をもたらした。

第19表 土木関係施設別被害状況

施設別	個別	被害額(千円)
河川	164	4,002,209
道路	937	3,596,899
橋りょう	37	731,699
都市公園	11	86,809
都市下水路	1	1,413
都市排土	4	124,141
計	1,154	8,543,170

地区別の被害状況は第20表のとおりである。

また、路線別に被害をみると、全体の50%の路線が被害を受けており、幹線町道18路線のうち、1路線2千万円以上の被害を受けた路線は13路線で、被害額は14億6千万円に達した。特に岡見川、鹿子谷川、井川川などの流域に位置する路線の被害は大きく、1億円以上の被害が続出した。

1路線2千万円以上の被害のあった路線は第21表-1、第21表-2のとおりである。

第20表 地区別災害内訳

順位・地区	被害額 (千円)	被災率 (%)	被災 箇所	被災延長 (m)	対象 路線	道路認定 延長 (m)	認定 路線数
1 三隅	1,131,411	31.4	235	18,858.4	65	55,993.1	123
2 井野	1,047,688	29.1	336	8,437.5	76	73,671.3	132
3 黒沢	835,407	23.2	190	5,619.1	35	45,291.8	54
4 岡見	315,407	8.7	78	2,412.0	19	31,079.6	51
5 白砂	179,880	5.0	63	1,225.5	14	16,139.5	34
6 三保	86,973	2.4	34	3,996.1	14	24,526.9	47
計	3,596,899	99.8	937	40,543.5	223	246,702.2	441

第21表－Ⅰ Ⅰ 路線20,000千円以上の被災路線内訳

路 線 名	被 害 額 (千円)	被災延長 (m)	被 災 個所数	認定路線延長 (m)	備 考
西 ノ 谷	35,328	255.0	8	1,802.5	幹 線
西 ノ 谷 金 山	31,368	195.0	8	781.2	
岡 見 河 内	379,959	2,853.7	47	7,095.3	幹 線
床 並 中 筋	29,244	226.0	10	1,504.0	
青 浦	27,915	212.0	11	2,560.2	幹 線
古 湊 向 野 田	39,964	3,572.7	10	3,982.4	
飛 石 岡 田	34,120	266.0	15	1,984.2	
東 平 原	27,824	155.0	12	2,655.0	幹 線
今 浦	25,384	176.0	9	2,593.1	
矢 原 小 学 校	65,074	397.5	10	727.5	
岡 崎	55,013	1,219.0	4	1,002.4	幹 線
滝 見	44,396	665.0	7	2,035.2	〃
海 老 谷	55,832	379.0	13	2,782.3	
畑	152,311	949.0	37	4,500.1	幹 線
河 内 松 柄	183,120	1,368.0	25	3,418.3	〃
満 喜 谷	33,097	286.0	6	836.3	
用 田 橋 上 河 内	22,733	351.0	3	552.4	
九 双 代 平	41,175	227.0	9	1,569.3	
下 古 和 黒 沢	288,851	2,179.5	52	7,448.2	幹 線
杵 束 三 隅	174,405	847.0	40	7,579.3	
古 賀 用 小 杉	29,362	222.0	8	1,548.9	
沼 ノ 原	38,208	131.0	1	419.6	
坂 木 平 広 瀬	28,184	186.0	8	2,334.7	
滝 ノ 辻 郷	37,030	189.0	5	1,000.8	
小 山	121,976	651.0	19	3,385.2	
後 山	63,827	417.0	11	1,154.2	
倉 掛	48,255	387.5	22	4,342.0	幹 線
諸 谷 才 ノ 峠	30,405	123.0	8	1,241.6	
出 島 浴 柳 ヲ 迫 浴	37,756	252.0	14	1,495.6	
大 麻 山	30,764	145.0	4	3,909.4	
室谷小学校柳ヲ迫谷	27,120	159.0	5	764.9	
山 賀 銭 山 浴	30,016	219.0	14	2,376.6	
笠 松	33,544	299.5	12	2,111.7	
中 筋	60,827	394.0	12	2,164.0	幹 線
下 大 口 白 木	21,760	131.0	4	498.4	
大 口	31,066	240.0	13	1,341.9	
石 浦	116,413	613.5	24	2,855.1	
野 干 田	36,211	339.0	6	862.6	

第21表－2

路 線 名	被 害 額 (千円)	被災延長 (m)	被 災 個所数	認定路線延長 (m)	備 考
幸 田	37,553	402.0	10	1,464.6	
肥 後	23,571	219.0	6	816.3	
谷 頭 浴	40,035	285.5	12	1,594.5	
計	2,671,196	22,784.4	554	95,091.6	74.2% 73.9%

2. 橋りょうの被害

橋りょうは、三隅川と井川川に架設されていた橋長15m以上の橋りょう20橋のうち、17橋が流失し、3橋のみが残るといふ甚大な被害であった。

被害の状況は第22表のとおりである。

第22表 橋りょうの被害状況

地 区	申請額(千円)	個所	被害延長(m)
岡 見	8,381	1	10.80
三 保			
白 砂			
三 隅	351,740	11	423.39
黒 沢	291,210	13	351.81
井 野	80,368	12	110.98
計	731,699	37	896.98

3. 河川の被害

河川は、町内各河川全流域にわたって被害を受けたが、特に井野地区の周布地、室谷、今明の各地内における河川被害規模が甚大であった。

1 河川 2 千万円以上の被害があった河川は、第23表－1、第23表－2 のとおりである。

第23表－1 20,000千円以上の被害河川

河 川 名	被災額(千円)	被災延長(m)	流 域	地 区
種 川	116,527	650.0	岡 見 川	岡 見(栃の木)
床 並 川	24,847	236.5	〃	〃 (床 並)
大 峠 川	80,997	584.7	須 津 川	〃 (須 津)
宮 ヶ 迫 川	104,449	660.6	岡 見 川	〃 (宮ヶ迫)
岡 見 川	56,904	805.5	〃	三 隅(大 辻)
寺 田 平 川	213,594	980.7	石 田 川	白 砂(平原下)
地 蔵 川	52,836	286.5	折 居 川	〃 (平原上)
瀬 松 川	55,195	110.0	鹿 子 谷 川	三 隅(鹿子谷)
西 ノ 谷 川	36,325	212.0	〃	〃 〃
上 河 内 川	119,373	578.5	三 隅 川	〃 (上河内)
海 老 谷 川	122,905	1,775.2	田 原 川	〃 (海老谷)
畑 川	62,032	617.2	岡 見 川	〃 (畑)
石 田 川	67,962	735.0	三 隅 川	〃 (森溝上)
大 元 川	113,962	487.1	折 居 川	井 野(室 谷)
谷 田 川	87,338	423.0	〃	〃 〃
赤 潰 川	55,080	340.0	〃	〃 〃

第23表－2

河 川 名	被 災 額 (千円)	被災延長 (m)	流 域	地 区
見 口 平 川	219,055	950.5	折 居 川	井 野 (室 谷)
上 周 布 地 川	108,185	764.0	井 川 川	〃 (周布地)
周 布 地 川	114,406	660.0	〃	〃 〃
石 浦 下 川	194,141	1,182.0	〃	〃 (石 浦)
谷 川	59,424	377.0	〃	〃 (周布地)
溝 下 川	45,256	315.6	〃	〃 〃
松 ケ 原 川	51,090	290.0	〃	〃 〃
藤 ケ 瀬 川	50,089	376.0	〃	〃 (西下今明)
芦 谷 川	35,726	518.0	尾 実 川	〃 (西中芦谷)
久 原 川	46,974	416.0	井 川 川	〃 (周布地)
笹 ケ 谷 川	20,214	353.5	〃	〃 (市 場)
市 場 川	48,120	503.8	〃	〃 〃
徳 泉 寺 川	37,173	218.5	今 明 川	〃 (下小原)
尾 実 川	237,372	2,876.2	三 隅 川	〃 (本 谷)
今 明 川	254,649	3,083.8	井 川 川	〃 (今 明)
加 納 川	20,345	200.2	今 明 川	〃 (東下今明)
河 頭 川	49,629	650.5	〃	〃 (西下今明)
野 地 郷 川	34,863	312.0	〃	〃 〃
虫 ケ 谷 川	61,541	285.0	三 隅 川	〃 (上古和10区)
千 松 川	96,759	412.0	的 野 川	〃 (黒沢1区)
後 山 川	36,913	726.0	〃	〃 〃
叶 谷 川	131,671	1,052.4	井 川 川	〃 (井川4区)
新 屋 川	25,690	264.0	三 隅 川	〃 (下古和7区)
松 柄 谷 川	140,151	1,305.1	矢 原 川	〃 (下古和4区)
的 野 川	250,143	3,379.8	三 隅 川	〃 (黒沢1区)
計	3,739,905	31,494.4		

4. 都市公園などの被害

(1) 都市公園の被害

町内の3つの都市公園のうち、三隅公園と三隅中央公園が被害を受けた。その被害の内容は、主に進入路などの崩土であったが、三隅公園では流入土砂が園内に異状堆積した。

(2) 町立公園の被害

町立公園6カ所のうち大麻山公園を除く5カ所で、土砂流入によりフェンス、遊具などに被害を受け、使用不能になった。

(3) 都市下水路の被害

三隅市街地の下水路2,117mが、異状堆積のため下水路の機能を喪失した。

(4) その他の被害

市街地など都市計画区域内の連坦地内に流入した土砂が異状堆積し、市民生活が完全にストップした。

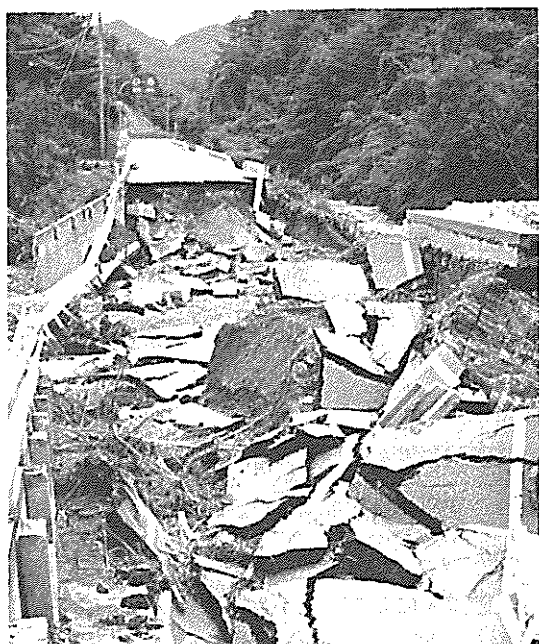
都市公園などの被害は第24表、第25表のとおりである。

第24表 都市公園などの被害

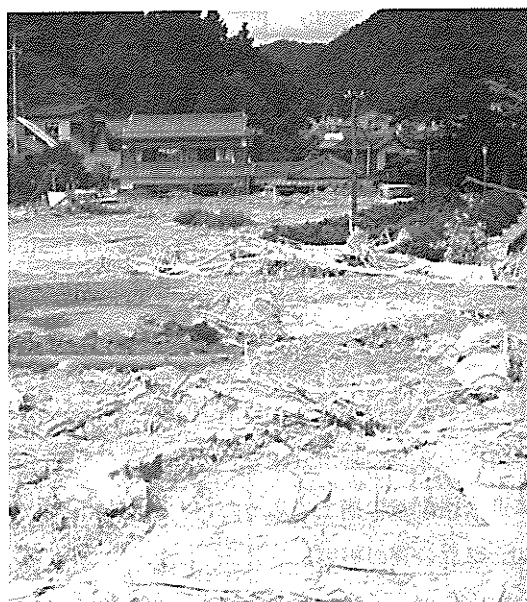
被害地区	個所	被害額(千円)
都市公園 三隅中央公園	7	71,999
〃 三隅公園	4	14,810
町立公園 あすなろ児童公園	1	300
〃 竜雲寺公園	1	3,000
〃 きぼう公園	1	2,000
〃 河内運動公園	1	8,000
〃 杉の森運動公園	1	15,000
小計	16	115,109
都市下水道路	1	1,413
都市推積土砂排土	4地区	124,141
合計	—	241,663

第25表 都市推積土砂排土内訳

地区	対象面積(㎡)	排除土量(㎡)
岡見	8,212	6,608
駅前付近	127,882	10,241
湊浦・古市場	110,252	3,753
三隅	170,179	16,781(土)
		1,716(流木)
計	416,525	39,099



寸断された国道9号線（滝見地区）



土砂に埋まった三隅公園（三隅神社）

第4節 農林漁業の被害

7月22日22時からの最大24時間雨量は、423.5mmというかつてない局地的な集中豪雨となり、赤色風化土地帯の多い本町では、森林のもつ保水能力が飽和状態になっているところへ、想像を絶する69mmという時間雨量を記録した。

このため、山腹崩壊、荒廃溪流などによって生じた大量の土砂、石、草木などが濁流となって流れ、河川流域の農地は壊滅的な被害を受けた。

また、濁流は、家や家畜を押し流し、橋りょう、漁船などを破壊して、海底には大量の土砂、汚泥、汚物などを堆積させ、本町の農林漁業の根幹をゆるがす大災害となった。

1. 農業関係の被害

大中小河川流域の農地がほとんど流埋没したことから、水稻の被害がもっとも大きく、全農作物被害金額の83.1%を占めた。次が葉タバコの7.5%であるが、長期間の停電、乾燥施設の被害などによって乾燥できず、葉タバコからの収入がゼロという専業農家が続出した。

果樹については、三隅町特産の西条柿の被害は比較的小さかったが、西条柿につぐ特産作目として振興をはかりつつあった桃が流出してしまったことは、被害額は小さかったとはいえ、大きな痛手であった。

各種の国庫補助事業で導入した農業近代化施設（育苗施設、集出荷貯蔵施設、選果場）も被害を受けたが、ほ場整備率がきわめて低い本町にあって、激甚災害の指定を受けたことにより、農地の災害復旧工事は98.1%、農業用施設は99.8%と高い国の補助を受け、復旧することができる。しかも、災害復旧は原形復旧が原則とされている中にあって、改良復旧（ほ場整備方式）が認められたことは特筆に値する。

第26表 自作農維持資金(災害)借入状況

自作農維持資金借入件数	金 額 (円)
34 件	33,080,000

第27表 水田の被害状況

区 分 地区名	作付	収穫	流出 埋没
岡 見	39 ^a	2 ^a	37 ^a
三 保	32	4	28
白 砂	18	4	14
三 隅	71	5	66
黒 沢	41	3	38
井 野	156	52	104
計	357	70	287

第28表 災害施設緊急再建資金借入状況

災害施設緊急再建資金借入件数	金 額 (円)
6 件	13,400,000

第29表 農作物関係被害状況

	水 稻	大 豆	いちご	その他 野 菜	西条柿	ぶどう (ハウスを含む)	桃	葉タバコ	桑	パイプ ハウス
作付面積	357 ^{ha}	62 ^{ha}	0.4 ^{ha}	15 ^{ha}	53 ^{ha}	6 ^{ha}	1.8 ^{ha}	17 ^{ha}	4.1 ^{ha}	—
被害面積	287 ^{ha}	10 ^{ha}	0.4 ^{ha}	4.3 ^{ha}	0.1 ^{ha}	0.5 ^{ha}	0.8 ^{ha}	3.7 ^{ha}	0.7 ^{ha}	25 棟
被害金額	294,480 ^{千円}	512 ^{千円}	2,240 ^{千円}	378 ^{千円}	444 ^{千円}	7,553 ^{千円}	1,382 ^{千円}	26,624 ^{千円}	3,340 ^{千円}	17,050 ^{千円}
被害金額計	354,003千円									

2. 畜産関係の被害

畜産の被害については第30表のとおりであるが、家畜飼養農家は水害前にくらべて昭和59年10月現在で49戸減少した。

第30表 畜産関係被害状況

畜舎被害				家畜死亡			牧草地			飼料の 流失・浸水		備 考
全 壊 (棟)	半 壊 (棟)	浸 水 (棟)	被害 金額 (千円)	肉 用 牛 (頭)	豚 (頭)	被害 金額 (千円)	被害 個 所	被害 面 積 (ha)	被害 金 額 (千円)	被害 量 (t)	被害 金 額 (千円)	
22	6	34	23,730	3	380	8,350	2	0.5	630	18.8	18,760	被害金額計 41,600千円

3. 林業の被害

林地の被害は240ha で、内訳は、天然林175ha、人工林65ha である。林相別にみると、人工林で杉の造林地に被害が多発し、次に桧林、年齢別では1 齢級～3 齢級の造林地の被害が多く、林地の被害総額は2 億4 千万円に達した。

林業全体からみると、素材製品の流失と木材加工施設の被害が2 億円、椎茸ホダ木の流出19万本と林産物加工施設の被害が1 億8 千万円、林地崩壊239箇所と林道140個所の被害が14億 9 千万円で、林業関係の被害総額は21億 1 千万円に達した。

本町には、9,900ha の山林があるが、地質的に崩れやすいという宿命を背負っており、今回のような集中豪雨でなくても、山崩れは他にくらべて起

こりやすいという前提に立って、町土の保全、水質源の涵養、保健、休養の見地から森林行政の積極的な推進をはかる必要がある。

4. 漁業関係の被害

漁業関係の被害は、三隅川河口に繋留中の漁船15隻の流失と倉庫1 棟の流失で、被害額は950万円であった。

しかし、水害の直接の被害は950万円であるが、大量の土砂、汚泥、汚物、流木などの流入で、磯根資源に大きな被害を受け、サザエは水害後ほとんど水揚げされず、アワビも抵抗力の弱い稚貝の被害が大きく、その結果があらわれるのは3～4 年後であろうと専門家はみている。

第31表 農林道・山林・林産物などの被害

種 目	種別	箇所数	被害額 (千円)
農 地	田・畑・畦畔	991	5,224
農業用施設	水 路	480	1,560,000
〃	頭 首 工	137	503,000
〃	溜 池	24	89,000
〃	揚 水 機	6	27,000
〃	橋 梁	40	250,000
〃	農 道	150	288,000
〃	農地保全	29	304,000
林 道		146	688,140
林地崩壊		251	953,800
治 山	溪 流	148	11,248,000
〃	山 腹	88	2,196,000
計		2,490	18,112,164

また、海底にたまった汚泥に起因する海のにごりは1年後も続き、流木の海底への堆積は刺網漁業に支障をきたした。

第32表 漁港施設の被害状況

種 別	漁港名	位 置	工 種	数 量	被害額
2 種	須 津	三隅町大字岡見	-1.5m~-2.5m 浚渫	(1,280㎡) 2,340㎡	6,646千円
2 種	須 津	〃	西船揚場取付護岸	L=5.6m	1,162千円
1 種	今浦(大麻)	三隅町大字折居	-1.5m~-2.5m 泊地浚渫	(230㎡) 420㎡	1,928千円

※浚渫の数量欄は、() 内数字は被害面積を示し、() 外数字は流入土量を示す。

第5節 商工業関係の被害

商工業関係の被害額は総額107億円あまりに達したが、町内全域にわたる被害の中でも、とりわけ三隅川流域における主要商工業地域の河川のはんらんによる被害は想像を絶するもので、一時は、再建不能とまで思わせるようなありさまであった。

商工業関係の被害状況は第33表のとおりである。

第33表 商工業関係の被害状況

区 分	被災事業所数	被害総額 (千円)	建 物		設備被害額 (千円)	商品被害額 (千円)	仕掛品被害額 (千円)	その他被害額 (千円)
			被災棟数	被害額 (千円)				
商 業	261	4,802,000	250	2,879,000	98,000	1,643,000	—	182,000
工 業	60	3,840,000	57	632,000	243,000	1,278,000	904,000	783,000
そ の 他 (鉱業建設業を含む)	127	2,063,000	123	1,306,000	98,000	—	368,000	281,000
合 計	448	10,705,000	430	4,817,000	439,000	2,921,000	1,272,000	1,256,000



山陰合同銀行三隅支店から元町通りを望む。
被災した三隅町専門店会 萩原薬店などがみえる

第6節 福祉・医療関係の被害

1. 福祉施設の被害

福祉施設の被害は、三隅町立三隅保育所(収容定員、120名)、三隅町老人福祉センター「みすみ荘」(収容可人員80名)がそれぞれ壊滅的被害を受けた。

(1) 三隅保育所は、ヘドロをともなった濁流が保育所の天井上30cmに達したため、きわめて微小な粒子のヘドロが、園庭、園舎内に20cmも堆積した。

そのため、多くの事務備品、保育備品ならびに重要書類が流失し、壊滅的な被害を受け、保育事業ができない事態となった。

減水後、被害状況を調査すると共に、復旧作業の計画を樹立し、全職員を主力として対応した。保育所独力では処理し得ない作業について

は、業者を導入して作業を進めると共に仮設園舎を設置し、9月20日(災害後約2ヵ月後)に保育業務を再開した。

本園舎は、昭和59年3月20日をもってすべて復旧し、4月1日から平常保育業務を開始した。

(2) 三隅町老人福祉センター「みすみ荘」は、三隅保育所同様ヘドロをともなった濁流により、事務室、集会室、娯楽室、ボイラー室などが壊滅的被害を受けた。

三隅町議会は、役場議場を避難所として使用していたため、議会を開くことが困難な状態であった。

そのため、老人福祉センター集会室をただちに復旧し、8月11日に臨時町議会が開かれ、その後9月26日にはすべて復旧した。

公共建物施設としては、最初に復旧工事が完了した施設である。

2. 保健衛生施設の被害

(1) 三隅町母子健康センター

三隅4区に設置されている三隅町母子健康センターは、前を流れる観音川、三隅川のはんらん



園庭にヘドロが堆積した三隅保育所



早期復旧にとりかかった老人福祉センターみすみ荘

よって、ヘドロ、流木などをともなった濁流が、分娩室、産婦室、診察室などの床上3m、天井上までも達した。

このため、きわめて微小な粒子のヘドロや流木、家具などが建物内外に推積した。分娩、検診などの備品、器具、器械は流失、あるいは破損、紛失し、また、建物は水没のため畳、床板、壁、ドアなど全部使用不可能になった。このように、壊滅的な被害を受けたため、分娩業務については、町外の病院で対応することになった。

減水後、建物内外のヘドロ、ごみなどをいつまでも放置しておかず、業者によって10月8日から11月10日までの間に取り除きを行った。

また、土まみれになった器具、器材などで使用可能な物については水洗いし、建物内部の全面改修・復旧工事を59年1月8日から3月15日までかかって改修し、4月1日、三隅町母子健康センターを開設することができた。

なお、復旧にともなう工事量等は以下のとおりである。

ヘドロ取除き工事費	870,000円	建物復旧査定額	12,821,000円
建物復旧工事費	13,000,000円	備品等の整備費	3,102,000円

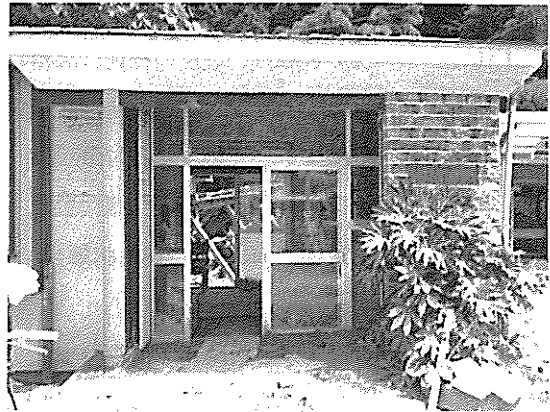
(2) 三隅町火葬場

林道龍雲寺線ぞいにある火葬場は、裏山の崩壊によって、土石が建物の周辺を1mくらいおおい、建物内にも床上30cmくらいの浸水があった。また、林道が決壊し、電気も不通となったが、幸いにも、建物と炉そのものには被害がなかった。

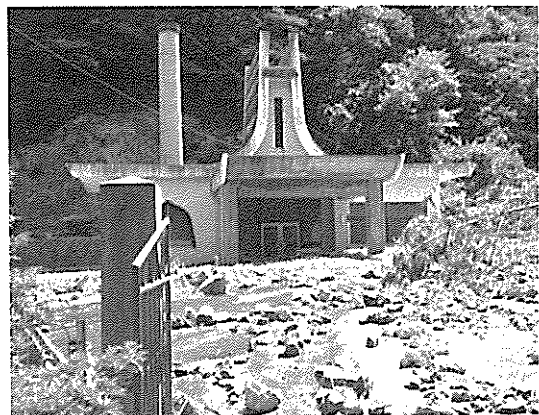
災害での死亡者が確認されると共に、その処置が急務となり、電力の復旧および火葬場の応急復旧に努めた結果、8月4日に火葬施設が使用可能になった。

火葬場は、施設に直接被害がなかったため、補助対象にならなかった。復旧にかかった工事費は以下のとおりである。

土石の取除き工事費	1,145,000円
-----------	------------



濁流が天井上まで達した母子健康センター



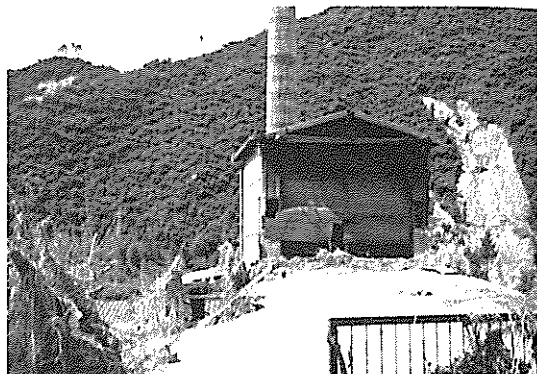
裏山の崩壊により土石におおわれた火葬場

(3) 三隅町塵芥焼却場

昭和43年に建設された大字河内の焼却場は、7.5 t / 日 × 1 炉の機械化バッチ燃烧方式の炉であったが、三隅川の濁流で、焼却炉全体が冠水した。

本体の一部は土砂に埋れ、炉壁の損傷、欠落、崩壊などがあり、本体のコンクリートもかなり大きな亀裂がいたるところにみられた。また、煙突自体も多少歪み、基礎部分も濁流のため一部が陥没するという、危険な状態であった。付帯設備も、休憩所は完全に流失、作業所は全壊、敷地境界のフェンスは一部流失、埋没という状態で、焼却場施設全体が甚大な被害を受けた。

このような状況の中で、財団法人日本環境センターに復旧の可否を診断依頼した結果、復旧不可能と診断された。また、厚生省、県の係官による災害状況調査が行われ、今回の水害による損傷被害は大きく、復旧は難しいので、焼却場の新設を検討するよう指示があった。



基礎部分の一部が陥没した塵芥焼却場

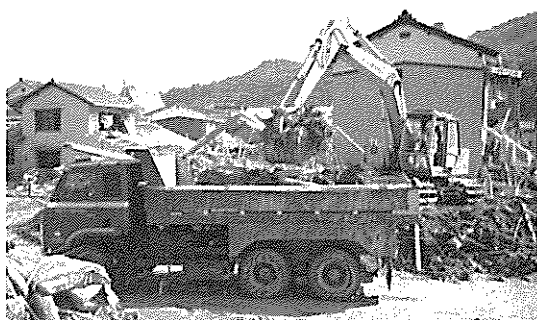
これにより、新設に向けて昭和58年12月に着工し、昭和59年 8 月、林道竜雲寺線沿いの町有林に、三隅町ごみ処理センターとして新しく竣工、稼動した。

(4) 災害ごみ処理

一夜にして発生した災害ごみは膨大な量で、濁流に押しつぶされ破壊された建物の残骸、家具、電気製品、畳、衣類、自動車、バイク、山林の崩壊によって発生した流木などがヘドロにまみれて道路や空地を埋めつくし、足の踏み場もない状態であった。

伝染病予防および環境回復のためには、ごみ処理は急務であり、7月25日から自衛隊の応援とボランティアによって、復旧に努めた。また、処理には土木建設業者4業者と契約を結び、三隅工区、三保三隅工区、湊浦古市場工区、岡見工区にわけ、7月28日から9月4日まで、路上と家庭ごみの処理にあたった。

処理には、仮置場として三隅川小野河川敷兩岸、海洋センター広場、岡見小学校造成地を指



三隅市街地の災害ごみ処理



三隅大橋たもとの災害ごみ処理

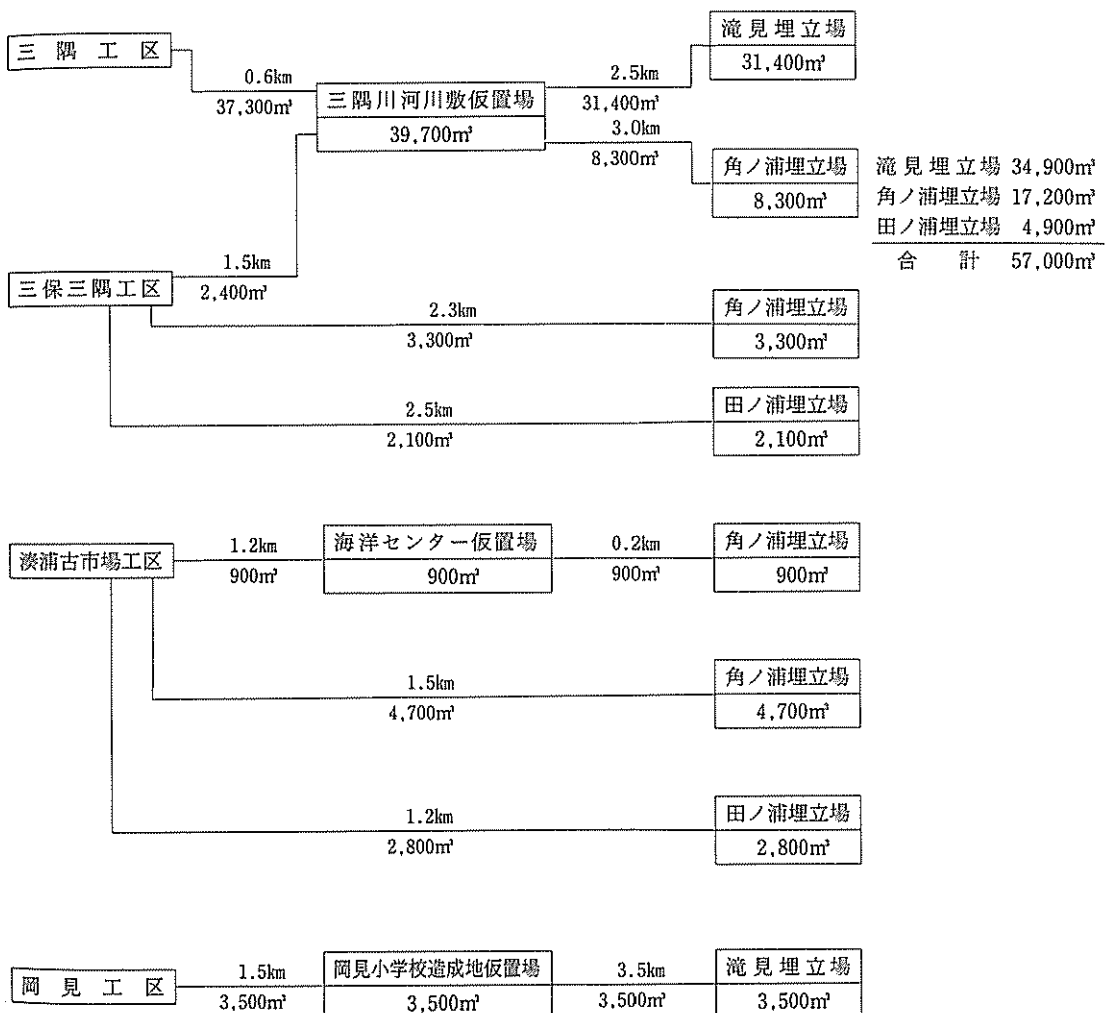
定し、一時的にごみの搬入場所とした。その後、道路などの復旧にともない、角ノ浦埋立地を土地所有者の協力により、7月29日に設置し、続いて、田ノ浦、滝見へ埋立場を追加設置した。

夏の暑いさなか、しかも悪臭のただよう中、土木建設業者の懸命な努力により、伝染病の発生もなく、処理することができた。そして、各々埋立処分場には目くら排水管を埋設、1mの覆土をかけ、最終排水沈澱池を角浦、田ノ浦、滝見各処分場に設置し終了した。

災害ごみ処理にかかった復旧費などは以下のとおりである。

総事業費	272,690,000円	国庫補助金	110,979,000円
査定額	221,958,000円	町単独事業費	161,711,000円

第5図 三隅町災害廃棄物処理フロー図



第34表 使用機械内訳表

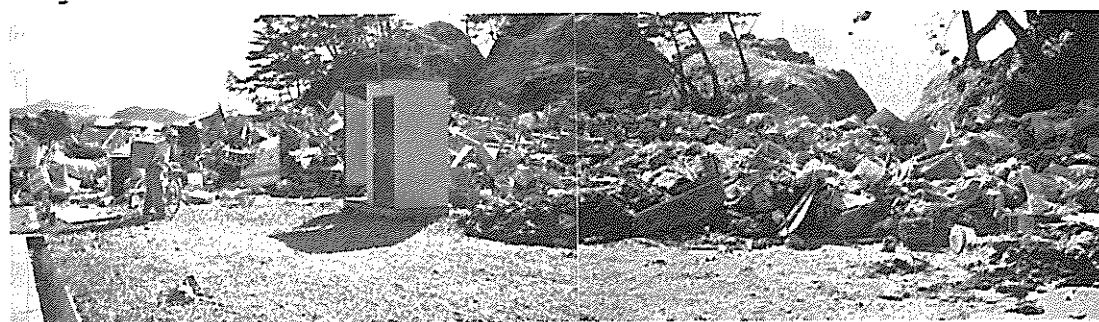
	三 隅		三 保 三 隅		湊浦古市場		岡 見		(計)	
	延時間	延台数	延時間	延台数	延時間	延台数	延時間	延台数	延時間	延台数
0.1m ³ バックホウ	650	82	372	47	859	108			1,881	237
0.2m ³ //	26	4							26	4
0.35m ³ //	1,303	163	637	80	502	63	225	29	2,667	335
0.6m ³ //					97	13	36	5	133	18
0.8m ³ //	1,517	189	121	16					1,638	205
0.6m ³ (ホイール) トラクターショベル	497	63			16	2			513	65
1.3m ³ //	82	11							82	11
1.4m ³ //	725	94							725	94
1.8m ³ //	92	12							92	12
2.1m ³ //	337	43	252	32					589	75
0.8m ³ (クローラー) //					184	23			184	23
21 t ブルドーザー	213	27							213	27
11 t //	1,182	147	202	26	254	32			1,458	205
6 t //	223	28			124	16			347	44
3 t //	238	30	175	22	184	23	180	23	597	75
11 t ダンプトラック	7,708	963	1,051	132	324	41			9,263	1,159
8 t //	158	20	348	44			243	31	506	64
4 t //	3,239	405	733	92	1,280	160	603	76	5,495	688
2 t //	624	78	740	93	1,588	199			3,555	446
労 務 者	11,789	1,474	4,693	587	976	122	113	15	17,571	2,198



小野河川敷にうず高く積まれた災害ごみの山



小野河川敷にはトラックで次々災害ごみが運ばれた



B & G 艇庫前に積まれた災害ごみ



小野河川敷にうず高く積まれた災害ごみの山

(5) し尿処理

浸水世帯の便槽があふれてし尿が流出し、し尿処理は伝染病発生防止のため早急な汲取が必要であった。

町内では、道路の決壊と路上をふさぐ災害ごみとで、交通不能のところが各所にあり、し尿処理に一時は混雑と困難を生じたが、道路の早期復旧に期待しながら処理にあたった。

し尿処理は、町内の許可業者によって7月25日から、便槽の半分程度を汲取り、浜田那賀環境衛生事務組合(浜田浄苑)へ運搬したが、路上のごみの取除きが進むにつれ、各家庭からの汲取りの要望が多くなり、町内の業者だけでは対応しきれなくなった。

このため、浜田保健所を通じて、町外業者が加入している島根県環境整備事業協同組合に応援を求め、9業者が7月28日、29日の2日間汲取りにあたった。しかし、復旧がすすんでいない地区がまだかなりあったため、応援を一時見合せ、再度8月6、7日と応援を求めた。

その後は町内業者によって行われ、8月16日に終了した。

し尿処理にかかった事業費などは以下のとおりである。

総事業費	2,572,830円
査定額	2,531,000円
国庫補助金	1,265,500円
町単独事業費	1,307,330円
町内業者	7月25日～8月16日 301件 182.1kl
応 援	7月28日～7月29日 } 384件 129.1kl
	8月6日～8月7日 }



町外業者の応援を得て進められた汲取り作業
第35表 災害し尿汲取状況

月 日	件 数	汲取量 (kl)
7月25日	8	5.4
26日	13	7.2
27日	4	10.6
28日	144	36.9
29日	76	17.1
30日	17	21.8
31日	5	11.2
8月1日	32	9.0
2日	38	12.2
3日	23	11.1
4日	14	7.2
5日	25	7.2
6日	106	48.1
7日	58	27.0
8日	3	6.2
9日	12	10.4
10日	16	9.5
11日	27	9.0
12日	20	5.4
13日	23	18.2
14日	4	8.2
15日	5	11.4
16日	2	0.9
合 計	685	311.2

3. 医療関係の被害

町内医院である、野上、中村、寺井、南薫堂、斉藤歯科、山根歯科、斉藤眼科の各医院は、診療室が水没し、医療器具、器材に損害を受けたため、全面診療不能となった。

町内開業医院の診療開始日

野上医院	8月20日	寺井医院	8月22日
中村医院	9月1日	南薫堂医院	9月1日
山根歯科医院	9月1日	斉藤歯科医院	9月10日
斉藤眼科医院	10月1日	寺井医院下古和出張所	12月1日

医療関係の施設被害

一般診療所	5施設	94,000千円
歯科診療所	2施設	40,000千円
眼科診療所	1施設	10,000千円

第7節 水道・ガス施設の被害

1. 水道施設の被害

三隅町簡易水道は、三隅簡易水道と三保簡易水道の2つの簡易水道施設により、1,872戸に給水している。

三隅簡易水道の水源地は、三隅大橋右岸にあり、三保簡易水道は、第1水源地と第2水源地の2池が三隅川下流右岸の岡崎地内にあるが、今回の大災害により三隅水源地は流失して、取水用の井戸だけ残り、三保水源地2池も、土砂や流木の流入により、給水不能となった。

しかし、水源が確保されていたため、比較的早く復旧できたが、送水管および配水管などの破損が多く、末端までの復旧には相当な日数を用いた。

災害による水道施設関係の被害総額は1億8千万円に達した。

水道施設関係の被害および復旧状況は第36表、第37表、第38表のとおりである。



三保第2水源地の被害

第36表 水道施設応急復旧支援状況

支援者	派遣月日	延人数	延日数
松江市	7/23～27	} 22 人	} 8 日
	7/29～30		
	8/1～9		

第37表 簡易水道事業の被害状況

施設名	現 在 給水人口	被 災 数		被 害 額 (千円)	被 害 状 況
		戸 数	人 口		
三 隅	1,542	467	1,542	80,000	水源流失 橋梁添架破損1ヵ所
三 保	4,909	1,406	4,909	100,000	水源埋没 橋梁添架破損2ヵ所
計	6,451	1,872	6,451	1,800,000	

第38表 三隅町給水機器の利用状況

内 容	7 月											8 月											
	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	23	24
松江市 (20ℓ) 130ヶ (30ℓ) 88ヶ																							
自衛隊 5t給水車1台、1tトレーラー5台																							
松江市 2tタンク2ヶ、県水道協会 2tタンク1ヶ																							



上古市配水管の破損状況



ポリ容器による給水所

2. ガス施設の被害

町内LPガス2業者は、店舗の流失はまぬがれたが、事務所、施設、計器備品、車輛、商品、倉庫およびLPガス収納庫など、ことごとく冠水し、収納容器もほとんどが流失した。そして、海に流れ出た容器の一部は、遠く新潟県まで漂流していた。

また、供給先の2,941戸のうち、その60%にあたる1,765戸が被害を受けたため、設置してある容器、メーター器、供給設備も大きな被害を受け、ガス施設関係の被害総額は5千6百万円におよんだ。

災害後、被災者が避難所で使用する、炊事用のLPガスだけはどうにか確保できたが、品不足から、被災後の1週間は大きな混乱におちいった。しかし、その後は県LPガス協会から派遣された同業者の応援を得て、急速に回復し、8月中旬には一応の落ち着きをみた。

第8節 文教施設関係の被害

文教施設関係の被害では、小中学校10校中7校が被害を受け、被害総額は4億1千6百万円に達した。特に三隅南小学校は、校舎（理科室、校長室、便所）、校庭、プール、備品（教材、校用備品など562品）、工作物（フェンス、遊具、陶芸窯）が、学校敷地よう壁の決壊により流失した。

三隅小学校は、裏山の崩土により土砂、流木が大量に流入し、屋体が半壊、校舎は三隅川、田原川のはんらんにより濁流が2階床上まで達し、校舎、校庭、プール機器、給食室、備品（1,009品目）が使用不能になった。

三隅中学校も濁流により床上（1.2m）浸水し、校舎、屋体、校庭、備品（481品目）が使用不能になった。その他、岡見小学校は校庭法面崩土、井野小学校は校舎裏山崩土と給水施設の被害、室谷分校は校庭の一部流失、裏山崩土、給水施設の被害、井野中学校は屋体裏山の崩土とそれぞれ被害を受けた。また、教員住宅も、向野田の3棟が屋根上までつかり、全面補修を要する大きな被害を受けた。

学校がちょうど夏休みであったため、応急復旧および災害復旧工事はスムーズに進み、一部をのぞいてはほぼ完了し、2学期を迎えることができた。そして、児童、生徒に人身被害がなかったことは、不幸中の幸いであった。

反面、多数の児童、生徒が家庭で被災し、住家、学用品、制服などを失い、また、町外に転校を余儀なくされるなど、2学期開始後も当分の間は落ち着きがなく、精神的にこうむった被害は大きなものがあつた。

1. 査定状況

島根県教育庁施設課から、文部省の現地査定は9月上旬の予定なので、8月末までには査定設計書、関係資料をそろえるようにとの通知があつた。短期間内での現地調査、工法決定、図面、写真、その他資料の作成が必要となり、8月上旬には、文部省より調査官を派遣していただき応急工事、査定申請工法などの指導を受けた。

8月8日から、民間測量会社に現地測量、図面作成などの業務を委託し、査定用資料の作成にとりかかった。そして、8月22日施設課の審査を受け、8月31日には、なんとか査定用資料ができた。

文部省関係の災害現地査定は、9月5日から9月7日にかけての3日間、文部省助成課愛馬事務官、大蔵省谷口主計実地監査官、島根県教育庁施設課大畑補佐、同勝部係長によって行われた。

査定官へは、県施設課よりあらかじめ被害状況、応急工事の説明がなされていたので、現地査定はほぼ日程どおり順調に進んだ。しかし、第1日目の三隅中学校では、校舎、校庭の被害に加えて、校用備品の被害が500個近くもあつたため、午後8時近くまでかかり、また、三隅南小学校では、校庭と河原の区別がつかないなど、現地査定での苦労もあつた。

復旧事業費が20,000千円以上になる学校（三隅小学校、三隅南小学校、三隅中学校）については、資料を文部省、大蔵省へそれぞれ持ち帰っての本省査定ということになり、現地査定後も、施設課を

經由して追加資料を送ったり、説明にでかけたりすることが続き、本省査定の最終決定は、昭和58年の12月下旬になった。

各学校別、工種別の査定状況は第39表のとおりであるが、申請額416,428千円に対して、最終査定額は374,665千円となり、査定率は約90%、補助率は88.7%となった。

第39表 学校別被害および査定状況一覧表

(単位：千円)

区 分 学校名	建 物		工 作 物		土 地		設備（備品）		計	
	申請額	査定額	申請額	査定額	申請額	査定額	申請額	査定額	申請額	査定額
三 隅 小	135,833	134,511	2,309	2,043	20,560	19,860	27,101	20,175	185,803	176,589
岡 見 小					329	329			329	329
三隅南小	34,951	34,951	47,375	46,608	45,973	45,383	15,119	13,798	143,418	140,710
井 野 小			1,989	1,989	2,530	3,185			4,519	5,174
室 谷 分			475	475	11,067	9,007			11,542	9,482
三 隅 中	15,616	9,256	917	385	20,725	7,418	21,101	13,259	58,359	10,318
井 野 中			1,035	0	2,518	2,033			3,353	320,063
教員住宅	8,905	0							8,905	0
計	195,305	178,718	54,100	51,500	103,702	87,215	63,321	47,232	416,428	374,665

2. 三隅中学校

豪雨災害をかえりみる

バケツの水を打ちかけるような雨脚の激しさに異常を感じつつも、未曾有の災害の現状を見るまでは、あの惨事は予想だにできなかった。

23日の未明、中学校県総合体育大会に参加出場する選手を引率する久保田先生、鉄岡先生から、参加中止の電話連絡があり、それぞれの部で選手1人1人に中止決定を伝達した。これで、中学校3年間の部活動の総決算である県大会出場の夢は消え去ってしまった。

学校は大丈夫だろうと、確信していたのに、その日の夕方、校門前までたどり着いてみると、道は流木の山に塞がれていた。流木の山を越え、ようやく校庭に足をふみ入ると、舗装した通学路にはヘドロが20～30cmも積もり、校庭には流されてきた自動車が100台あまりあり、中にはフェンスに倒れかかったものもある。また、山から流れ出て白木になった杉丸太など、流木も無数であった。

玄関までたどりついてみると、内側から倒れかかった下足箱のため、玄関のガラス戸がこわれている。恐る恐る職員室の鍵を開け、懐中電灯で中を照らすと、机は倒れたり、横向きになって、その上にヘドロをかぶっている。それ以上に、書類や書籍などは惨憺たる形状で、涙が止めどもなく流れるのをどうすることもできなかった。

廊下の床上は1.25mも冠水し、地盤の高い後館も体育館もすべて冠水していた。

その日の夜は、新館の2階に地域の方約100名くらいが避難され、机や椅子を片づけて宿泊した。

翌朝、明るい日射しのもとでみる様子は、筆舌に尽くし難いものであった。重要書類を確かめたが、

ベトベトで整理の術がなく、同和教育研究紀要の原稿も全部ヘドロの中であった。昼前頃、一応職員室を閉め、あとから出校してくる職員のために伝言を貼り紙して帰ろうとした時、浜田市在住の小川教頭、藤井先生の2人が出校してきた。そのうち浜田市から千葉先生、益田市から広田先生が、いずれも途中で車を乗りすて、数キロの道のりを歩いて出校してきた。

その翌日、教員採用試験のため安来市の実家に帰っていた青山先生も、新聞、テレビの報道に驚いて、遠路駆けつけた。

何をどのようにしたか

(1) 生徒、教職員の罹災状況の確認

教科書、学用品、制服、運動服、ヘルメット、家屋、通学路とスクールバスなど。

(2) 校舎、校地、備品、事務用品などの状況確認

(3) 復旧への計画

教育委員会の指導協議で第2学期の正常出発をめざして。

(4) 通 学

状況確認と通学路の変更。ヘルメット着用。

(5) 同和教育研究発表大会

関係機関と協議の結果中止し、誌上発表とする。

(6) 中体連、中文連対外活動の参加

原則として参加する。

(7) 体育大会

校庭が整備されるまで延期。10月開催を目標。

(8) 修学旅行

アンケート、学年PTA部会で協議延期(2泊3日で昭和59年3月19日～21日に実施)

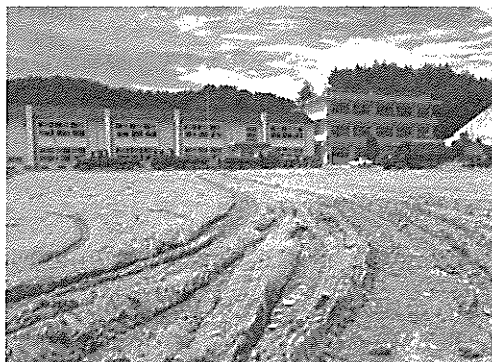
試行錯誤の繰り返し

7月24日には、後館2階と体育館のヘドロを洗い流し、大掃除をして、自衛隊の宿舎として使用する。また、プールの水を隊員のシャワー、備品の洗浄、トイレなどの用水として活用した。

教職員が出校し、備品の整理、諸帳簿と文書づくり、ヘドロ出し、被害教員宅への応援、飲み水や牛乳、薬品、衣料など生活必需品の配布と、大変な活動であったが、書類の整理の仕方、記録写真、国庫助成金等の手続きなどは、お互いに初めての経験なので、試行錯誤の繰り返しであった。また、隊員宿舎になっていたため、災害の復旧も早く、現場の記録写真までは手が回らなかった。

教職員の活動

職員室を後館の美術室に移し、毎日の事務整理、備品の洗浄、事務用品の整理、理科室と理科準備室の備品、薬品の整理、洗浄と廃棄処分などを行ったが、日数が経つにつれ、木製品が変形したり、運動用具が腐敗して悪臭を放つようになった。また、耐火金庫の中の重要書類を前館2階に全部移し



ヘドロで埋まった運動場

て、時々位置をかえながら8月中旬ごろまで乾燥させたが、なかなか乾かず、こちらも悪臭を出すようになった。

前館の復旧では、町消防団白砂分団にお願いして、消防ポンプでヘドロを流してもらうことにしたが、そのために備品を片づけたり、大きな書類棚を動かしたり、また、残るもの、廃棄するものを選別したりとなかなか忙しく、ガラスの破片に気を配りながらの作業だった。

生徒の活躍

前館の床の貼り替え工事の進捗に合わせ、9月1日の始業式には平常活動ができるようにするために、整備作業計画を立て、万全の準備をしたが、工事が遅れたため計画どおりには進まなかった。

生徒、教職員の中には住む家のなくなった者も多数おり、転校する生徒、町外に転住してそこから通学、通勤する者、高居先生の病気入院、代替教員の岡田先生の着任、担当教科の再検討、スクールバス運行と利用生徒の通学路などなど、次々に初体験のことが発生した。

各校外班における生徒たちの活躍の報せが学校に届いた。みんな良く働き、良い力になっているとこのことで、夏休み中の非行などについての心配も吹き飛んだ感じであった。

- (1) 被害を受けた家庭はもちろん、被害を免がれた生徒たちも、近所の家などで奉仕活動をする。大人は集落などの仕事が多く、家のことは子供たちが良くやった。
- (2) 聖囂寮の生徒は、まとまって集落の奉仕に出かけ、感謝された。
- (3) 女生徒は母親代わりとして家の中のこと、洗い物など良くやった。

しかし、生徒たちも家庭で活躍するのも体力的に限度があり、「学校に行きたい」「みんなと部活動がしたい」などの思いがいっぱいの様子であった。

学校としても、大きなもの、重い物の整理、移動については少人数の教員だけでは力がおよばず、「この際生徒の力を借りよう、被災の状況も直接生徒から聞きたい」と、8月12日に被害のなかった生徒、聖囂寮の生徒に出校を呼びかけたところ、予想以上の生徒が出校してくれた。そして、生徒たちの力は大変なもので、このエネルギーが大人たちの希望の灯ともなった。

再度、8月29、30、31日を全校生徒の出校日にし、最終的な校内外の整備作業にあたり、9月1日の始業式に備えた。

善意と励まし

みんなが一丸となって、学校の復旧作業にたずさわる間、多くの方々からお見舞や激励、奉仕活動、救援物資などをいただいた。また、近隣の小、中学校をはじめ、山口県の三隅中学校、遠くは長崎市の中学校からお見舞や激励をいただき、こうした善意と励ましの心に支えられて頑張る毎日であった。

生徒の教科書は国から、副読本や体育用品などは各社の納入業者から無償、あるいは割引きで手配していただき、購買も原価販売、赤字販売で新学期を目指した。

こうして、9月1日の始業式を迎え、来席された三賀森町長から全校生徒に災害の状況説明と励ま

しの言葉があった。これにより、大災害のアウトラインがつかめると共に、学校としての今後の方向づけもできた。

国の査定（大蔵省、文部省）

災害が多岐にわたり、内容も膨大なため、査定のための準備に大変な時間と労力を要した。

9月3日、一応の体制を整え、教育長による事前指導を兼ねた査定を受ける。

9月5日、査定の予定時間は午後4時40分から50分間であったが、査定官は予定より早く到着し、査定が終ったのは午後7時ごろであった。その間、査定官の調査は厳しく、町教育委員会の係は対応に苦心し、学校側としても良く説明したが、校外の校地、校庭、校内の施設、設備、備品、校具のひとつひとつに容赦のない指摘があった。

災害直後の様子をみて欲しかったとの気持ちでいっぱい、1ヵ月以上も経った時点での指摘の数々には、割り切れぬ思いであった。

査定における本校の取り組み（特に備品）

- (1) 使用不能、修理不能について説明する。
- (2) 一覧表の番号と台帳番号、備品にも番号をつけて関係を明らかにする。
- (3) 備品はなるべく平素の保管場所の近くにおく。
- (4) 備品の多くはプールの水で洗った。

今後の問題として

- (1) 備品台帳と備品は一致するが、寄贈備品も採納願を出して正規の台帳に載せること。
- (2) 黒沢中学校との統合で備品台帳にやや不備があった。
- (3) 廃棄備品の処理は適正にすること。

生徒の指導

- (1) 衛生指導の徹底、特に手洗い励行
- (2) 登下校の交通ルールと安全確保

通学路が変更して、悪路になり、また、ヘルメットが不揃いなどのため、ルールが乱れた。

- (3) 金銭感覚の麻痺

災害の時子供たちが良く働いたので、そのほうびのつもりで親が金を多く与えたことから、物がなくなったから買うという傾向が目立った。毎週日曜日には、1万円札をもって浜田や益田に出かけるという困った状態がしばらく続いたため、生徒ならび父母に強く注意した。

- (4) 服 装

登下校時の服装を、制服を流失した者は体操服、あるいは救援物資による服装の着用を許可したため、一部それに便乗する者があった。

- (5) 生活リズムの確立

正常な家庭環境で生活できる者が少なく、個々の生徒の生活のリズムは大きく乱れ、集中力が不

足するなど、全校の雰囲気も乱れ勝ちとなった。

災害のおしえ

大きな瓜あとを残した豪雨災害は、人間の心の驕りに対する自然からの鉄槌として、多くの教訓を残してくれた。私たちは、この災害を単なる物理的現象としてではなく、人間の生き方を考える機縁として、今後の学校教育に生かしていかなければならないと思う。

災害復旧に際し、全国から寄せられた多くの人々からの善意と励ましに対し心から感謝申し上げると共に、町当局、町教育委員会の援助と指導に対し謝意を表します。

〈資料1〉

企画委員会審議事項

昭和58年 8月11日

(1) 同和教育研究会のこと

紀要作成、紙上発表としたい。12月脱稿、印刷回し。発表会にともなう各方面への連絡。

(2) 2学期学校行事のこと

体育大会～延期して実施

修学旅行～アンケート調査

文 化 祭～時期内容を検討して実施する

対外行事～意欲を盛り上げる意味で参加する

(3) 生徒指導上のこと

a. 非行防止を第一とする b. 家計節減への協力 c. 服装持物への配慮 d. 健康管理への指導 e. その他（家事手伝い、家庭学習への取り組み）

(4) 休み中の整備計画

一部生徒の出校（奉仕）によるもの

8月29日 男子 大きい器物の運搬移動

8月30日 教員 分掌の整理

8月31日 女子 清掃を中心として

(5) 被害程度の調査

正確に、内容、項目について

(6) 始業式に関して

生徒への連絡事項、2学期への取り組み

〈資料2〉

お知らせとお願い

残暑 心からお見舞い申し上げます。このたびの7月23日豪雨により三隅町は未曾有の大被害を受けました。本校も床上浸水いたしましたが生徒の家庭も60%が床上浸水以上の被害を受けておられます。中にはご家族を失い家を失われた方もあり心よりお見舞い申し上げます。

この暑さの中での復旧作業その心中をお察し申し上げます。

さて早いものであと3週間で2学期が始まりますが、次の諸点についてご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。どうか健康にご留意いただき一日も早く復興されますようお祈り申し上げます。

昭和58年8月12日

三隅町立三隅中学校長 河野 宏

記

(1) 学校できめた制服等について

当分の間制服、靴、カバンがない人はどんな服装や履物、カバンでもかまいません。

(2) ヘルメットについて

流されたり、なくなった人はヘルメットなしで注意して登校して下さい。

(3) 教科書等について

教科書や学用品等が浸水したり流れた人には、二学期に新しいものを渡します。安心して登校して下さい。

(4) その他

不明の点はなんでもご相談下さい。中学校の電話番号は、2-0062です。

〈資料3〉

昭和58年9月2日

二年生保護者殿

三隅中学校長 河野 宏

三隅中学校 二年部

修学旅行実施の賛否について

きびしい残暑の中、第二学期を迎えました。

保護者の皆さま方、思いがけない集中豪雨のあと、復旧作業等でお疲れのことと存じます。お子さまにとりましても、それぞれに心労の多い夏休みであったと思いますが、昨日は元気な姿に接し、安心いたしました。

さて、二学期に予定していました修学旅行のことですが、大災害のあとだけに、どのように取りはからうべきか苦慮いたしております。保護者の方々のご意見もうかがい、それに基づいて十分話し合った上で態度を決定したいと存じます。

つきましては下記の賛否いずれかに○をし、その理由やご意見をご記入の上さっそくお返事くださいますようお願い申し上げます。

..... き り と り

回 答 用 紙

保護者氏名 ㊟
(生徒氏名 組 番)

実施に賛成〔 〕 理由、意見

実施に反対〔 〕

〈資料4〉

昭和58年9月16日

三隅町教育委員会教育長殿

三隅町立三隅中学校長

河 野 宏

昭和58年第2学期の生徒の状況と学校環境の整備について

7月の豪雨大水害による学校の罹災につきましては、その現状回復のため万全のご配慮を頂きあつくお礼を申し上げます。

9月1日の第2学期始業式以来教職員共通理解のもと生徒の学習指導生活指導に取り組んでおるところであります。現状は尚満足するに至りませんので現況を報告し一日も早い復旧についてお願いを申し上げます。

記

1. 生徒指導

(1)○大きな災害に敗けることなく家族、近隣、学校での人間的なふれあい、連帯の心を大切にしよう。

○勤労の大切さ、尊さについて今一度考えてみよう。

○自然と人間、物と心を深く考えてみよう。

○ものを大切にし節約することの必要さを考えよう。

○多くの人々の善意を思い感謝する心をもとう。

○学校のきまりについて一日も早く元にもどす努力をしよう。

・服そう ・交通ルール（ヘルメットの着用、自転車の整備）

(2)2年生修学旅行について2年生保護者にアンケートを実施し一時中止し対策を練ることにする。

(3)ヘルメット、体操服、名札、上履などについて特価販売をし、代金の支払いについては59年2月までとする。（購買部）

(4)その他の学用品については原価販売を1週間実施する。（購買部）

以上のような各種の対策配慮をし学校生活の平常化に努めておりますが尚十分ではありません。家庭生活において不規則、不安定な生活を強いられておる現状をふまえ、学校環境、施設設備、備品等の整備について格別のご配慮を頂きますようお願いいたします。

追 記

1. 運動場体育館の整備修復

- ・正規の体育授業及び部活動（陸上、野球、テニス、バスケット、バレー）
- ・10月中に運動会開催のできるよう配慮下さい。

2. 理科家庭科関係の整備

3. 校内一般、事務関係の備品配置について

- ・教材づくり、環境づくり、能率化に支障があります。

4. 校舎の雨もり修理について

- ・後館 視聴覚教室、防火壁仕切り
- ・前館 正面玄関

3. 岡見中学校

昭和58年7月豪雨災害について

1. 学校日誌より

○7月23日(土) 雨 28℃

7月22日(金)夜半より県石西部集中豪雨。午前5時55分、益田市より藤井一泰教諭、江津市の片山晟校長宅へ「益田市は大雨のため市内は浸水、本日、益田市で開催予定の県中学総体の陸上競技はとうていできない」旨、電話連絡をする。

午前6時、片山校長は古市場の倉井雄一教頭と岡見の細木敏幸教諭に、その旨電話をする。

その時、倉井教頭宅は浸水し畳が浮いている状況、細木教諭の方は、がけ崩れで借家が危険状態となり荷物を森井悟氏宅に移動させている最中であった。間もなく電話は不通となる。

○7月24日(日) くもり 28℃

藤井教諭、益田市有明町の自宅より土田まで自転車で、土田から岡見中学校までは山越えをし徒歩でたどりつき、校区の被害状況を見てまわる。被害状況の概略をハム無線を通じ、江津市の片山校長宅へ電話報告をする。——おおむね生徒の生命に異常はなかったことと、給食調理員浜崎恵さん宅が土砂崩れで崩壊し、祖父、祖母、叔母の3人が生き埋めとなっている状況を——片山校長は受ける。

○7月25日(月) 晴 29.5℃

江津——三隅間の国道9号線が、まがりなりにも開通し片山校長、来校。細木教諭と校区の生徒一人ひとりの家の被害状況と、生徒の安否の確認の調査を行う。

但し、栃ノ木、床並、西ノ谷、青浦地区の生徒の被害状況は不明、道路が寸断されこれらの地区へは行くことができなかった。

午後5時、片山校長、三隅町役場へ赴き藤村教育長へ判明している被害状況の概略を報告する。

○7月26日(火) くもり時々雨 29℃

午前中、緊急職員会議を開き、今後の対策について協議——28日に全校生徒を出校させ被害状

況を調査することを決定する。午後、片山校長、浜田教育事務所へ被害状況の報告に赴く。

○ 7月27日(水) 晴 31℃

長尾康一教諭、細木教諭、早島正規助教諭、徳田峯子養護教諭の4名は、栃ノ木、床並、西ノ谷、青浦地区の生徒の被害調査にあたる。道路がいたるところ寸断され、1日中かかる。

○ 7月28日(木) 晴 30℃

緊急臨時全校出校日。全校生徒80名中、4名が欠席。直ちに生徒個々の被害状況の調査に入る。
午後、片山校長、三隅町教育委員会と浜田教育事務所へ赴き、水害被害状況報告書を提出する。

○ 7月29日(金) 晴 30℃

片山校長、長尾教諭～倉井教頭宅へ水害復旧手伝い。

細木教諭、徳田養護教諭～吉川律子用務員宅へ水害復旧手伝い。

○ 7月30日(土) 晴 29.5℃

三隅町緊急校長会（於町役場教育委員会室・午前9時～12時）が開催される。

長尾教諭、早島助教諭～倉井教頭宅へ水害復旧手伝い。

細木教諭、徳田養護教諭～吉川用務員宅へ水害復旧手伝い。

○ 7月31日(日) 晴 31℃

同 上。

※ 8月に入っても、電話と水道はストップの状態。こんな中で、被害を受けない教員は被災教職員宅の復旧作業に、また、生徒の方も被害を受けない生徒は、被災生徒宅への復旧作業を手伝った。

8月4日(木)には、三隅中学校の復旧作業に赴いた。

こうした助け合い復旧作業は8月12日まで続けた。

2. 水害被災調査資料

(1) 水害被災調査

昭和58年8月1日現在 岡見中学校

項 目		1 年	2 年	3 年	計	備 考		
		(人)	(人)	(人)	(人)	1 年	2 年	3 年
住 宅	1 家屋の全壊	1	0	0	1	坂本 健		
	2 家屋の浸水（2階まで）	1	0	1	2	渡辺 宣宏		小加本郁子
	3 家屋の浸水（床上まで）	2	4	4	10	澄川 泰司 岡村 充規	澄川光一郎 寺迫 貴志 齊藤 朱美 和崎 郁美	浜崎 友也 和崎 真司 田崎 沢子 浜島 千秋

項 目		1 年 (人)	2 年 (人)	3 年 (人)	計 (人)	備 考		
						1 年	2 年	3 年
住 宅	4 家屋の浸水（床下まで）	3	3	4	10	木村 一裕 山本 静恵 川本 理恵	次藤 一成 山本 哲也 齊藤 哲也	大谷 一望 齊藤 一孝 浜島 麻美 寺迫 啓二
	5 家屋の破損	1	0	0	1	細川 和美		
	6 自宅に住んでいないもの	5	1	1	7	田中美佐子 澄川 泰司 渡辺 宣宏 岡村 充規 坂本 健	澄川光一郎	小加本郁子
衣 類	7 制服がだめになった人	4	3	0	7	山本 静恵 渡辺 宣宏 岡村 充規 坂本 健	澄川光一郎 三浦 和江 細川 純子	
	8 衣類がかなり失われた人	2	1	0	3	渡辺 宣宏 坂本 健	澄川光一郎	
	9 多少の衣類が失われた人	2	0	0	2	岡村 充規	澄川 泰司	
病 気 な ど	10 病気の人	1	0	0	1	渡辺 宣宏 (あや)		
	11 けがをした人	0	0	1	1			大谷 一望
	12 家族にけが人などのいる人	1	1	3	5	永田 充	和崎 郁美	永田 美樹 和崎 真司 大谷 一望
	13 親戚に死者のある人	4	4	3	11	木村 一裕 木村 良幸 寺戸 優子 寺戸 信幸	寺井 龍也 和崎 郁美 吉田あづさ 寺戸 晃子	和崎 真司 吉岡 秀樹 田崎 沢子
	14 近所に死者のある人	1	1	0	2	細川 和美	寺迫 貴志	
学用品など	15 教科書がだめになった人	1	0	0	1	坂元 健		
	16 学用品がだめになった人	5	4	5	14	坂元 健 渡辺 宣宏 澄川 泰司 岡村 充規 川元 理恵	澄川光一郎 寺迫 貴志 齊藤 朱美 和崎 郁美	小加本郁子 浜崎 友也 和崎 真司 田崎 沢子 浜島 千秋
通 学 路	17 通学路がたいへんな人	5	2	1	8	木村 一裕 木村 良幸 川元 理恵 細川 和美 渡辺 宣宏	寺井 龍也 大原美津代	寺戸美佐子

(2) 7月豪雨災害について(2次調査)

昭和58年8月12日 岡見中学校

次の問いに対し、あてはまるものを()でかこんでください。		0	-1	-2
1	7月豪雨後生活は変わりましたか。	変らない	悪くなった	たいへん悪くなった
2	他の人と同居するようになりましたか。	いいえ	はい	2人以上
3	家族に病人やけが人がいますか。	いいえ	疲れている	はい
4	両親は転業または失業の心配はありませんか。	いいえ	そうなるかも知れない	はい
5	田畑の埋没や流出はありませんか。	ない	少しある	かなりたくさんある
6	あなたの家族は災害にくじけず、よくやっていますか。	はい	少し困っている	たいへん困っている
7	かなりの雨が降れば、あなたの家は浸水の心配がありますか。	いいえ	少し心配	大いに心配
8	かなりの雨がふれば、がけ崩れの心配がありますか。	いいえ	少し心配	大いに心配
9	かなりの雨が降れば、通学路が危険になる心配がありますか。	いいえ	少し心配	大いに心配
10	通学路は以前と変わっていますか。	いいえ	少し廻り道	大きく廻り路
11	家は大体片づきましたか。	はい	もう少し	まだまだ
12	食生活はどうですか。	ふつう	やや悪い	悪い
13	両親はぐちが多くなりましたか。	変らない	少しぐち(無口)	ぐちが多い
14	家庭生活は楽しいですか。	はい	あまり	おもしろくない
15	がまんさせられますか。	いいえ	少し	たいへん
16	手伝いなど忙しくなりましたか。	いいえ	少し	たいへん
17	規則正しい生活ができていますか。	はい	少し乱れている	かなり乱れている
18	落着いて学習できますか。	はい	少しはできる	できない
19	夏休みの課題は順調にやっていますか。	はい	少し遅れている	あまりやっていない
20	物事に対してやる気がありますか。	はい	気が乗らない	だれている
21	気持ちの良いあいさつを心がけていますか。	はい	あまりしない	しない
22	部活動がやりたいですか。	はい	少し	やりたくない
23	体育大会を楽しみにしていますか。	はい	あまり	楽しみではない
24	現在の不満は？	ない	少しある	大にある
25	現在の楽しみは？	ある	あまりない	ぜんぜんない
26				
27				
28				
29	あなたが今、一番したいことを書いて下さい。			
30	あなたが今、一番悩んでいること、困っていることは何ですか。			

地 区	学 年	氏 名	
-----	-----	-----	--

(3) 7月豪雨災害(2次調査)集計表

昭和58年8月12日 岡見中学校

質問項目	1				2				合計
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	
1 7月豪雨後生活は変わりましたか。	8	10	4	22	0	1	1	2	24
2 他の人と同居するようになりましたか。	2	2	0	4	3	2	1	6	10
3 家族に病人やけが人がいますか。	1	3	2	6	1	2	5	8	14
4 両親は転業または失業の心配はありませんか。	1	2	1	4	3	1	6	10	14
5 田畑の埋没や流出はありませんか。	8	11	10	29	4	6	6	16	45
6 あなたの家族は災害にくじけず、よくやっていますか。	1	4	1	6	0	0	0	0	6
7 かなりの雨が降れば、あなたの家は浸水の心配がありますか。	6	8	8	22	3	3	3	9	31
8 かなりの雨がふれば、がけ崩れの心配がありますか。	9	9	11	29	4	2	5	11	40
9 かなりの雨が降れば、通学路が危険になる心配がありますか。	17	11	18	46	2	9	4	15	61
10 通学路は以前と変わっていますか。	4	6	2	12	0	0	0	0	12
11 家は大体片づきましたか。	3	4	3	10	1	0	0	1	11
12 食生活はどうですか。	1	3	1	5	0	0	0	0	5
13 両親はぐちが多くなりましたか。	2	4	3	9	0	2	0	2	11
14 家庭生活は楽しいですか。	3	11	9	23	1	3	1	5	28
15 がまんさせられますか。	11	12	11	34	0	1	2	3	37
16 手伝いなど忙しくなりましたか。	17	16	18	51	2	3	3	8	59
17 規則正しい生活ができていますか。	17	13	15	45	0	4	3	7	52
18 落着いて学習できますか。	11	13	11	35	2	4	2	8	43
19 夏休みの課題は順調にやっていますか。	12	9	15	36	7	10	6	23	59
20 物事に対してやる気がありますか。	14	14	9	37	0	7	3	10	47
21 気持ちのよいあいさつを心がけていますか。	8	14	5	27	0	0	2	2	29
22 部活動がやりたいですか。	10	12	13	35	6	8	6	20	55
23 体育大会を楽しみにしていますか。	13	10	8	31	2	15	9	26	57
24 現在の不満は？	9	7	14	30	2	4	2	8	38
25 現在の楽しみは？	13	15	17	45	2	2	1	5	50
計	201	223	209	633	45	89	71	205	838
未実施 1年 斉藤 誠、岩本 明 2年 森井健一郎 3年 大谷 一澄、佐々木浩二									

3. 県内をはじめ全国各地からの義援金並びに救援物資に対しての礼状

(1) 生徒会長、次藤智志君から長崎市立各中学校へ

このたび、皆様から励ましのお手紙や心温まる義援金を送っていただき生徒一同、感謝の気持ちで胸が一杯です。

過日、7月23日の集中豪雨は、それはそれはすさまじいものでした。646ミリという信じられないような降水量を記録し、土砂崩れによる家屋の崩壊、中小河川の氾濫によって床下、床上浸水があいつぎ、本校の生徒の中にも被害を受けた者がたくさんでました。

1年前、長崎大水害が起こった時には、他人事のように思っていたましたが、今度の山陰豪雨でいやというほど水の恐しさというものを思い知らされました。

また、水の恐しさと同時に、水のありがたさというものも改めて思い知らされました。水害によって水道がストップし、日頃は気づかなかった水のありがたさというものが身にしみてわかったような気がします。

あの悪夢のような山陰豪雨から早くも2ヵ月余りが過ぎ、三隅町は応急の処置は済んだものの、まだ随所に災害の爪跡が見られ本格的な復旧作業は、まだまだこれからです。

しかし、そのような生活環境の中で、僕達は全国各地の皆様方からの温かいご支援を心の支えにして、一生懸命がんばっています。

9月には、今度の水害であるかどうか心配されていた体育大会も予定通り行うことができました。皆様からの温かいご支援がどれだけ僕達の心の支えになったことでしょうか。ほんとうにありがとうございました。これから又、いろいろと大変なことも起こってくると思いますが、生徒全員で力を合わせ一生懸命がんばっていこうと思っています。

昭和58年10月2日

島根県三隅町立岡見中学校

生徒会長 次藤 智志

長崎市立（各）中学校 生徒の皆さんへ

(2) 岡見中学校、片山巖校長、大道雅PTA会長から斐川町立中部小学校へ

合掌 本日、心温まる義援物品をありがたく受け取りました。お心尽くしに御礼のことばもございません。唯々感謝あるのみです。本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

過日の集中豪雨の被害、学校の方は大丈夫でございましたが、生徒及び教職員の家屋の被害が甚大でして、生徒総数80名中、流出家屋1、床上浸水13、床下浸水9、教職員11名中、崩壊家屋1、床上浸水4、床下浸水2、床上浸水家屋は殆んど使用に耐えない惨状でございます。通学路はいたるところ崩壊、未だに当時のものすごさを露呈いたしております。

あるいはご承知のことかと存じますが、私の学校、岡見中学校々区に須津地区がございます。北側は海に面し小さな漁港があります。南側は山に取り囲まれております。その山が崩れ、5軒が土砂に埋まり13名の尊い生命が奪われました。私の学校の給食調理員の家族3名が含まれております。本人と子供は、虫の知らせと申しましょうか、前夜、実家に帰り難を避けております。

この土砂崩れで、胸まで土砂に埋まった父親を助けだすため、生徒1名が足に怪我をいたしました。現在すっかり治りました。父親は両足骨折で入院中でございます。不幸中の幸いと申しましょうか生徒並びにその家族に犠牲者が出なかったのが、せめてもの慰めでございます。

さて、連日、汗と泥にまみれながらの復旧作業の中で今度の水害は、生徒並びに私たち教職員にいろいろなことを教え学ばせてくれました。

まず10日以上も、電気・電話・水道がストップいたしますと平生、気がつかなかった物に対する

ありがたさがわかってまいります。自衛隊の方々の存在の大きさと機動力をはじめとする力の偉大さもわかりました。そして多くの方々の善意の奉仕活動の尊さやありがたさも身にしみてわかりました。常日頃からすべての人に物に事に感謝の気持ちを持たねばならないことをいやというほど知らされました。

被害は大きゅうございましたが、今度の水害は学級指導、道徳教育にまさるものを与え学ばせてくれました。中部小学校児童会並びに教職員、PTAの皆様方のご厚意は22日の出校日に全校生徒及び教職員、PTA会員にご被露申し上げます。

被災生徒はもちろんのこと、そうでない生徒も思いやりの心、小さな善意、助け合うことの大切さ、これらが人々の心を社会を明るくし、活力と生きがいを与えてくれる大きな原動力となるものだとすることを、しかと認知してくれることだろうと確信いたします。

ご芳情、誠にありがとうございました。

意を十分に尽くしませんが以上、御礼のことばとさせていただきます。校長先生・PTAの会長さんから貴校児童会のみなさん、先生方、保護者の皆様方によろしくお伝えくださいませ。

まずは取り急ぎ右御礼まで

敬具

昭和58年 8月17日

三隅町立岡見中学校長 片山 晟

PTA会長 大道 雅

斐川町立中部小学校長 安倉 宏校長先生

PTA会長 江角 幸一 殿

4. 井野中学校

昭和58年 7月豪雨災害時における学校の被害ならびに状況について

7月23日(出)

- 7月22日未明より集中豪雨のため町内各所通行不能箇所あり。4時～5時にかけ70mmの雨量を記録したとの放送あり。
- 井野中学校体育館後方の山崩れにより(幅20m、高さ20m)体育館裏倉庫(長さ8m、幅3m)の支柱が倒れ土砂が突入した。
- 電話不通、停電。
- 井野中学校入口の祇園橋が破損。井野一三隅間が道路寸断となる。井野中学校―市場間が山の土砂崩れのため通行不能となる。

7月25日(月)

- 自衛隊員(広島・岡山)総員46名がヘリコプターにて井野中学校校庭へ到着し、体育館へ駐屯。緊急物資の輸送開始→芦谷地区の災害復旧へ。

7月26日(火)

- 下今明・芦谷間の不通になっていた道路が開通した。その後下今明・市場間の災害復旧作業に

従事。

7月27日(木)

- 生徒の家庭の被害状況調査を開始する。
- 自衛隊ヘリコプターが、13時30分、14時30分、井野中学校校庭へ食糧を輸送……(日直者確認)。

7月28日(木)

- 生徒の被害状況調査が済み、浜田教育事務所・町教委へ報告する……(文書により各3枚)。
- 自衛隊員全員が午後5時30分、他地域へ移動開始。
- 自衛隊ヘリコプターが10時40分食糧輸送のため、井野中学校校庭へ。
- 浅井海洋ヘリコプターが3回(10:50、11:15、16:00)各9名ずつ作業員を輸送……(日直者確認)。
- 被災状況(概況・詳細には至らず)
 - A 職員11名中6名被災
 - B 生徒65名中15名……中程度以上

7月29日(金)

- 町教委より被害状況調査に来校。
- ヘリコプターにより電気資材を6回中学校校庭へ輸送(中国電力)。
- 陥没被害報告。
- 町役場より発電機取付。

8月1日(月)

- 全職員揃う。全校生徒の被害状況調査を開始。
- 夏休み出校日。生徒は中止する。

5. 三隅小学校

I 当日の記録から

何時頃だっただろうか。学校が気になるので避難先の正法寺から水の中を膝までつきながら国道へ出た。学校の方を見ると山崩れの跡が不気味に見える。急いで国道ぞいに行ってみるが通行不能のため引き返した。山崩れの位置は学校ではないことだけ確認できた。三隅大橋が半分崩れ落ちていた。

正午過ぎではなかったかと思う。再び学校へ行く。水位はだいぶ下がっており、向野田の堤防を通り、聖唹寮を回り極楽寺の坂を降りる。聖唹寮の児童に会い安心したが、途中の惨状を詳しく見るほどの心の余裕もない。向野田地区の人が、流木や倒壊した家の材木などを片付けて、通路の確保に汗を流しておられる。あいさつもそこそこに流木の上を通してもらい、小学校の東昇降口に着く。

校庭は一面に泥の海、外側から見た校舎は窓が少しはずれている程度で大きな変化はない。一応安心して理科室の前から廊下へ入った。惨状にただ呆然と立ちつくすだけ。これが昨日までの学校かと情けなくなった。

泥田のようになった廊下には、教室の出入口の戸が倒れかかり、児童の机がひっくり返り、どこから出たのか戸棚が数個、横倒しになっている。教室内に掲示してあった児童の作品が天井にへばりついている。掃除用具がいたる所でヘドロの中に埋り、倒れたガラス戸のガラスが一面に散乱して通ることもできない。やっとのことで各教室を調べて回った。

水泳の着替え場所として敷いてあったゴザが片方に押し流されていたり、机が積み重なり倒れ、その間には児童の作品が散乱している。テレビが棚から落ちて逆さになっている。教室内のありとあらゆる物が倒れ、積み重なり、見るかげもない。

校長室も入口の戸がはずれており、一枚は廊下に倒れている。窓側の机が大きく位置を変えて部屋のまん中にあり、その上に書類戸棚が倒れかかっている。額縁がたれ下がり、歴代校長の写真が落ちたり……もとのままになっているのは大金庫だけ……指導要録など重要書類だけは大丈夫だと一安心。(後で金庫を開いてみると中はヘドロに埋り、重要書類は大変なものであった。)公印が心配になり、机の引き出しを開けてみると、公印箱も泥だらけでその中にまでヘドロが入っている。

職員室に入ってみると、スチール製の事務机が倒れ引き出しが出て書類がのぞいてる。机の上に机が重なっている。椅子が倒れ、書類戸棚も倒れ……今日から本格的に備品整理をしようと分冊配布してあった備品台帳をはじめ、机にあった書類や職員図書など、すべてがヘドロの中に投げ出され、足の踏み場もない。応接用テーブルクロスが学校教育目標の額縁にかかりたれ下がっている。掲示物がめくれている。

倒れた物を押しのけながら、やっと講堂まで行った。杉の木が生えているのに一瞬わが目を疑う。裏山が崩れ上の窓まで埋まっている。土砂が講堂の中まで流入し、窓は壊れ大小の樹木が山のようになっていた。山側の柱が傾き、床が下から盛り上がり大きく波打っている。ステージにあるはずの演台が入口の方まで流され、体育器具室にあったマットや跳び箱があちこちに散乱、泥の中に埋っている。災害だとはいえ、悔やし涙が止まらなかった。

講堂裏にある音楽室は、黒板が落ちその上にピアノが横倒しになっている。ステレオのスピーカーが泥の中にある。大切な多くの楽器が散乱し、ディスクオルガンが倒れている。手のほどこしようもなく校舎へ引き返し、西階段を二階へ上がる。

幸いにも二階は異常なく、ホッとして中央階段まで来ると、うっすらと白くなっている。中央階段から東側は二階廊下まで浸水し、西階段の所では約5cm位の浸水の跡があった。

職員室に帰り、倒れた書類戸棚を動かしてみた。水浸しになった書類は重くてびくともしない。せめて戸じまりでもと思い、職員室と校長室の倒れている戸をおこし立てかけて校舎を出た。

百周年記念として作られた校庭の遊具には、材木がかかり、植木も倒れそうになっている。木製の遊具は途中から折れたもの、すでに流失したものなど、見るも無残な姿になっていた。

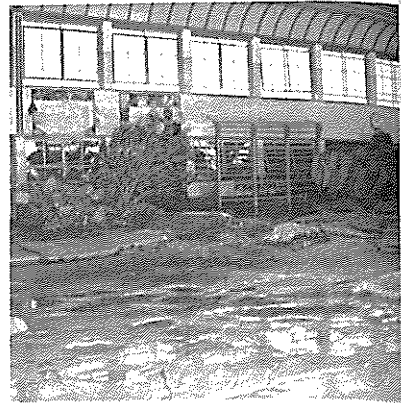
II 施設設備、備品等の被害状況

1. 冠水位

床上 3 m82cm (校舎二階廊下まで浸水)

2. 施設の被害

- (1) 講堂 (音楽室を含む) 半壊 裏山崩壊
- (2) 焼き窯室及び焼き窯全壊 校舎西側裏山崩壊
- (3) 校舎の天井及び床板張り替え 廊下側ガラス戸入れ替え
- (4) 校庭遊具損傷でほとんど使用不能
- (5) プール機械室の浄水用機械器具使用不能



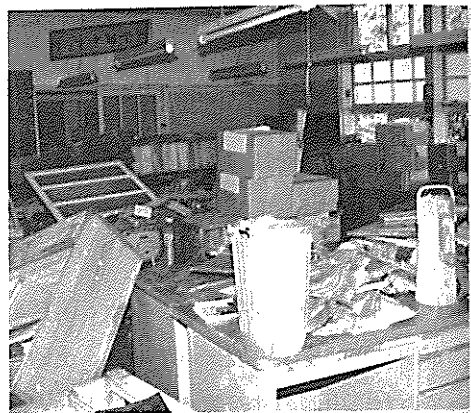
裏山の崩壊で半壊した講堂

3. 備品類の被害

- (1) 使用可能なものとしては、児童用机・いす、スチール製事務机・いす、ロッカー等があり、木製品 (特に合板製品) はほとんど使用不能となる。
- (2) 修理を要したもの
理科室用実験台、工作用机、給食設備品。
- (3) 流失、破損により使用不能となったもの
1,009品目。

4. 災害による転出児童

1 年生	4 名	2 年生	3 名
3 年生	1 名	4 年生	2 名
5 年生	2 名	6 年生	2 名
計	14 名		



教員室も甚大な被害を受けた

5. 被災家庭数 183戸のうち151戸 (82.5%)

III 日誌より (抜粋)

○ 7月23日(土)

集中豪雨大水害、電話不通、交通は至る所遮断。

校長登校し、被害状況の確認 (前文詳述)。

向野田地区約200人が二次災害を避けるため、学校へ避難宿泊する。

○ 7月24日(日)

校長・教頭外1名登校し、被害状況の点検確認。

児童・教職員の安否や災害状況を確認するが連絡のとれない所が多く、聞き伝えに確認。人命に異常のないことがわかる。

被害状況、交通状況、連絡方法等を勘案し、26日に全職員集合と決定し、できる限りの連絡をとる。

浜田教育事務所へ状況報告をするよう考えたが、する術なし。折りよく新免県中学校長会長に出合

い、浜田教育事務所、県教委への伝言を依頼する。

自衛隊来町され、校舎二階を宿泊場所として使用。

電信電話公社が緊急電話基地として校庭使用。

国土庁長官視察に来町され、校庭をヘリ基地として使用。午後、校舎・講堂の状況を視察される。

○ 7月25日(月)

校庭に緊急電話基地用機械が設置され、復旧工事が始まる。

自衛隊宿舎として整備され、関係者多数来校。

職員室の片付け開始。

○ 7月26日(火)

全職員が揃う。各地域の状況を報告し合い、児童の状況等を確認する。併せて今後の復旧対策について検討する。

職員室の片付けをするが手のつけようもなく、遅々として進まず。

○ 7月27日(水)

一日中ヘドロの中にある書類を拾い上げ、泥出しをするも道具がなく作業はかどらず。

○ 7月28日(木)

泥出し作業続行。

○ 7月29日(金)

電信電話公社仮設電話交換機をプール横に設置することに決定、機械搬入が始まる。

職員室のみヘドロ出し終る。

○ 7月30日(土)

町消防団白砂・岡見両分団の方々が応援に来校。ようやく泥出し作業が本格化する。消防ポンプの放水により流す。

役場にて臨時校長会、始めて各学校の被災状況がわかる。今後の各学校の動向について協議。

○ 7月31日(日)

引き続き岡見分団来校、床上のヘドロはほとんど出し終る。

不通であった電話が通話できるようになる。

○ 8月1日(月)

三保小、白砂小から8人応援に来校。勇気百倍し職員室から整備を開始する。備品類の洗い上げ、床、壁等のふき上げが思うようにはかどらない。

○ 8月2日(火)

三保小より引き続き5名の応援をうける。

浜田少年少女合唱団より救援物資をもって来校。

文部省より調査官来校。

給食室施設・機械類の点検調査（新日本厨房）。

プール機械室の調査（九州トースイKK）。

○ 8 月 3 日(水)

三保小より引き続き 5 名の応援をうける。

教育長、株式会社福田組が来校。復旧工事（内部施設は全部取り替え、但し壁は上塗りをする）が決定。

理科室・図工室の机修理のための調査（新日本厨房）。

校舎復旧工事が決定したので、清掃整理作業の方法を変更し、施設はやめて備品類の洗い上げを始める。

○ 8 月 4 日(木)

全職員による家庭訪問を実施。児童及び家庭の被災状況を調査する。

教育長・電信電話公社来校。緊急電話基地の撤去及び仮設電話交換局（向こう 2 年間、プール横に設置と保安方法について協議）。

岡見小より 3 名の応援をうける。

校舎内解体工事（9 日より開始）に伴い、校具備品類の洗い上げと同時に全部二階へ移転することにする。整理移転に多忙を極める。

○ 8 月 5 日(金)

岡見小より引き続き 3 名の応援をうける。

校具・備品の洗い上げ及び移転作業続行。

大金庫の中の書類整理のため開く。書類は全部ヘドロで覆われ、水にぬれてふくらみ取り出すこともできない状態。むりやり取り出し二階教室に運ぶ。水にぬれてくっつき 1 枚 1 枚めくるのに手間どる。インクはにじみ、見るも無残なものになっている。保存書類であるため慎重にめくり、間に紙を入れて机の上に並べて乾かす。備品類整理以上の作業となる。

○ 8 月 6 日(土)

山藤浜田教育事務所長来校。

保存書類の整理と備品の移転作業続行。

○ 8 月 9 日(火)

一階内部の解体工事開始（作業員約 40 名）、天井・床板はほとんど除去され仮小屋同様となる。

県教委稲田施設課長、山藤浜田教育事務所長、藤村教育長状況視察に来校。

県教委金村保健体育課長補佐、県学校給食会中永理事長給食室の状況視察に来校。

○ 8 月 10 日(水)

床下のヘドロ出し始まる（堆積量平均約 20cm）。

備品整理、保存書類整理作業続行。

教職員共済組合及び互助会の説明会が本校で行われ、町内在住の被災教職員約50名来校。

○ 8月12日(金)

備品整理、保存書類整理事業続行。

給食関係備品の洗い上げ及び移転。

講堂ステージ下倉庫（ヘドロ約50cm堆積）よりつな引き用太つなを取り出す。中腰になった作業は困難を極む。

被災による転校希望児童数が増加する。

○ 8月13日(土)

業者による校舎内洗浄作業始まる。工事関係は一段落し、明日から休業となる。

○ 8月17日(水)

工事再開され、角材等多量に搬入される。根太張り、電気工事開始。給食室の天井・床・壁の解体作業。

保存書類の乾燥状態悪く、間に入れた紙の取り替え作業をする。ステージ用幕類の洗い上げ。

○ 8月18日(木)

保存書類の乾燥整理事業続行。

プレハブ倉庫内のヘドロ出し作業及び、音楽室の整理事業。

始業式を9月1日に実施することを確認し、請負業者と協議する。最低8教室、昇降口、便所、校庭半分は使用可能になることで合意する。

教室・廊下の根太張り完了。

○ 8月19日(金)

校舎内工事、入札の関係で中止となる。

校庭の緊急電話基地の施設機械類の撤去作業終了。

書類の手入れ乾燥作業続行。パイプいす洗いをするがパイプの中に多量のヘドロがあり、作業がはかどらない。

○ 8月20日(土)

書類の整理、パイプいす洗い作業続行。

○ 8月22日(月)

工事の遅れにより、2学期当初の学校態勢の見通しが立ちにくい、始業式までの作業日程、始業式期日、二学期初めの学校運営、転校生の取り扱い等について職員会をもつ。

○ 8月25日(木)

工事請負者決定、工事再開し床張りがはじまる。

再度二学期を始めるための最低条件を希望し工事業者と協議する。

○ 8月26日(金)

すべての校具・備品類、保存書類の乾燥等、二階は廊下、教室とも足の踏み場なし。

二学期開始のための教室整備もできず、作業は進展せず。

書類整理、児童用机・いすの洗い上げをする。パイプの中にヘドロがあることがわかり、分解、洗浄、組立てと思わぬ時間をとる(1脚に30分程度を要す)。

○ 8月27日(土)

二学期は、講堂、音楽室、校庭が使用できないことから、特に体育・音楽・特別活動・学校行事等についての年間計画の見直し、教育課程の変更について職員会。

机・いす洗い続行。

○ 8月28日(日)

工事の遅れにより突貫工事となる。(床張り、天井張り、昇降口・便所のヘドロ出し、使用不能になった校具備品等廃棄物処理、校庭整備、給食室の床・天井・壁の張り替え、電気工事、水道工事、建具整備)。

○ 8月29日(月)

那賀郡内小中学校教職員の応援をうける(金城町36名)。

作業内容 児童用机・いす洗い、二階にある校具備品類の拭き上げ。

工事は急テンポで進み、床の塗装が始まる。

○ 8月30日(火)

臨時出校日 二学期始業式に備え、地域別に集合し、校外班担当職員が出向く。各地区PTA役員も同席して指示連絡と指導をする。

指示連絡内容 ○始業式は9月1日とする。 ○服装は制服でなくてもよい。 ○持ち物は不用、
但し災害用教科書を配布するので風呂敷持参。 ○登校時の通学路変更と安全のための諸注意。

○バス運行開始予定は9月1日ではあるが、不通の場合は徒歩通学となることについて。

那賀郡内小中学校教職員の応援をうける(旭町約40名)。

作業内容は前日と同じ。

工事は教室確保を優先して進める。

○ 8月31日(水)

那賀郡内小中学校教職員の応援をうける(弥栄村26名)。

作業内容 校具備品及び教室・廊下等、すべての設備備品を消毒液により拭き上げる。

工事予定が遅れ、児童用机・いすが入れられなかったが8教室分だけ確保する(工事は未完)。

○ 9月1日(木)

二学期始業式を校庭で実施。全員元気。教室では床に座って学級指導をする。

登下校時、危険箇所は全職員による街頭指導をする。

午後、PTA会員の奉仕作業（向野田地区・河内地区）。

作業内容 校具備品の消毒液による拭き上げ及び一階教室への移転準備。

○ 9月2日(金)

臨時休業（校舎内工事のため）。

PTA奉仕作業（三隅地区）。

作業内容 一階の清掃と消毒、職員室移動、児童用机・いすの消毒と搬入。給食室の清掃、給食用具の洗浄・消毒塗装・電気配線工事続行。

○ 9月3日(土)

臨時休業（校舎内工事のため）。

PTA奉仕作業（地方地区）。

作業内容 給食室消毒、給食用具の準備。校具及び備品を二階から一階へ移転、二階の清掃と消毒。工事関係は一部を残しほとんど完了。

○ 9月4日(日)

塗装・電気配線工事、建具等、教室内は完了。

○ 9月5日(月)

普通授業とし、給食も開始する。

Ⅳ その後の経過

以上、災害から40日を経過し、無事に9月1日の始業式を終り、2日間の臨時休業は止むを得なかったものの二学期がスタートできたことは、この上もない喜びである。この間の町ご当局、町議会の温かいご理解とご配慮はもちろん、教育長さんを始めとして、教育委員会事務局職員の方々の一方ならぬご指導ご援助の賜物であることを感謝申し上げここに特記する。

9月以降の主な経過は次のとおりである。

9月6日	文部・大蔵両省の災害査定	10月16日	秋季大運動会（半日実施）
10月20日	講堂とのお別れ会	10月21日	講堂（音楽室を含む）解体工事
12月7日	校庭整備工事完了	12月12日	体育館新築工事開始
59年3月20日	卒業式を役場議場にて挙行		
58年9月～59年3月	災害関係の備品・校具等入荷		
4月5日	59年度入学式を図書室で挙行	5月15日	新屋内運動場竣工

Ⅴ 災害をふり返って

以上の記録は、災害復旧を中心としたものであるが、この外に「災害報告」をはじめとして、災害をうけた備品調査、設備調査、児童用教科図書の流失調査、更には備品類の購入に関すること、教科書の発注と配布計画など、数多くの調査報告事務があり、専任担当を教頭として、つきっきりでその事務処理に当らなければならなかった。

復旧作業は、泥と汗とにまみれながらの連続であり、目は血走り、殺気立った雰囲気の時もあったが、お互いの力を結集し、励まし合いながらの毎日の生活は、二度と経験することのない体験であった。

一番困ったのは、避難所から出勤のため、弁当を持って出ることができなかったことである。学校では炊き出しはできず、避難先に帰って昼食をすませて出ることでもできず、当初は昼食抜きの時もあった。しかし、幸いにも災害に遇わなかった2～3人の職員が、毎日全員の昼食の準備をして出勤し、その厚意に甘えながら復旧に専念できたことは、忘れることのできないことである。

更に、当然のこととはいえ、大きな被害を受けたわが家のことは投げ出して、休むことなく連日の復旧作業にあたった全職員に対し、心から敬意と感謝を捧げるものである。

又、これだけ過酷な仕事に耐え、一人のけが人、病人も出なかったことは、復旧だけを念じての毎日であり、緊張の連続であったからであろうか……。

教育は一日たりともゆるがせにはできない。講堂・音楽室を失い、教材・教具や数々の備品を失ったとはいえ、子どもたちの力を伸ばすことに専念した。教育計画の再検討をし、廊下や階段を使っての集会活動や体育の学習など不自由な経験は、子どもたちにとって一面大きなプラスになったと信じている。反面、災害後の日常生活の変化による生活指導上の諸問題、災害復旧に伴う交通安全指導等の問題点も多く、細心の意を注いできた。

終りにのぞみ、格別のご配慮をいただいた町ご当局、町議会、教育委員会、工事関係者、ご援助ご奉仕をいただいた那賀郡内小中学校教職員、PTA会員各位、更に、温かい激励とご厚情をお寄せいただいた多くの方々に深く感謝し、お礼を申し上げてまとめとする。

学校長 田中幸雄 記

6. 三保小学校

はじめに

三保小学校はかなりの高みにあり、おかげで学校の施設設備には何の被害も無かった。その限りでは、原稿を提出する資格が不十分のように思えるが、ちょうど豪雨の当夜、6年生の一泊キャンプによる「幹部訓練」を行っていたという特異な体験を持ったので、そのことを中心に記述してみようと思う。

大雨警報下でのキャンプ

22日は大雨警報が出ていたので、日中から空模様を気にしながらの幹部訓練であった。田の浦でのキャンプファイヤが終わった時点で、水平線付近の雲の様子と、大雨警報発令の事実とを天秤にかけながら、テントで寝るか、校舎内で寝るかを話し合った。空は何とか持ちそうだという判断で、テントに寝ることに決した。せっかく設営したテントをおいて建物の中で寝ることは、とてもできないという無意識の作用が、だれもの判断を甘くしていたのかも知れない。

子供たちの騒ぎがやっと静まりかけたころ、大粒の、それこそ「バケツをひっくり返した」という

形容そのもののような雨に見舞われた。雨粒はテントの布目を通して飛沫となって中に入って来る始末で、あわてて講堂での宿泊に切り換えた。子供たちが寝静まったところには雨も収まり、だれ一人、これ以上の事態を予想することもなく床についたのであった。

情報不足の不安

防災無線の放送に眠りを妨げられたのは午前4時ごろであつたろうか。疲れてよく眠っていたのでその内容もよくわからなかったし、特別気にもしなかったが、停電になっていることがわかって事態の切迫していることを悟った。幸い、子供たちはまだよく眠っている。外は昨夜に劣らぬ雨が続けている。防災無線が次々に出水の状況や避難の指示を放送する。自動車が続々と校庭に入って来て駐車する。

昭和18年の洪水でも、学校は大丈夫だったと聞いていたので、「子供を避難させなければ」という不安は全くなかった。また、食糧も、キャンプのため持ち寄っているのも、最悪の場合、節約すれば1日くらい何とかなろうという安心感もあった。水は消防団の方の助言があつて、断水前にあらゆる容器に満たしておいた。

ただ、子供を預かっている以上、無事であることを保護者に知らせたかったし、また家庭の様子を子供たちに伝えてやりたくもあった。しかし電話は全く通じない。テレビは停電でだめ。足で情報を稼ぎに出かけるのも、いささか無謀である。拡声装置に入っていた乾電池をラジオに入れて、外からの情報が入るようになったが、肝心な三隅町の様子は何も言わない。浜田、益田、江津がひどい水害であることだけを繰り返している。こうなると、浜田、江津の職員は、この三隅以上にひどいであろうと思われる自宅のことが心配である。そんな中での、防災無線の“最後の放送”は悲壮な気持ちで聞いた。

最も心配していたのは、子供たちが様子を知らうとして校外に出たり、地区の惨状を知ってパニック状態になったりすることである。児童にはつとめて平静に接し、校外に出ないことを指示し、人づてに得た情報もショックの大きいことが予想されるものは伏せておくなど気をつかった。心配していたよりも子供たちは冷静そうに見えたが、不安そのものの面持ちであつた。

道なき道を帰宅

水は10時前ごろが一番多く、校門前の道は濁流が渦を巻いて流れ、一時は校庭の高さすれすれまで増水したが、幸い、校庭を汚濁流が侵すことはなく、やがて引いて行った。水の引いた後の道は、交通の用に供せられる場所ではなかったし、低い所はまだ湖のようになって泥水に埋まっていた。子供たちを帰宅させる道を探しに出かけて、改めてこの水禍の甚大なのに驚いたのであった。

午後になって、比較的安全と思われた湊浦と古湊の児童は手分けして引率し、帰宅させた。他は保護者の迎えを待って帰宅させることとしたが、駅前児童はついに学校でもう一泊しなければならなかった。翌朝、朝食後、送り届けようとしているところへ保護者が迎えに見えて、無事帰宅させることができた。

児童の家庭の被害の概略

学校は被災を免れたが、児童の家庭は目を覆う惨状となっている所が多数あったことは言うまでもない。

その概略を数字によって示すと次のようである。

○家屋全壊	1戸	(0.6%)	○家屋半壊	2戸	(1.3%)
○床上浸水	92戸	(59.7%)	○床下浸水	19戸	(12.3%)
○無被災	40戸	(26.0%)			

また、児童223名中、床上浸水129名(57.8%)で、そのうち2階の浸水が38名であった。水害の後、他の校区から通学することとなった者3名、他校へ転校しなければならなかった者も4名を数えた。

こうした中で、教科書を紛失した者は比較的少なく、54名であった。何は無くとも、教科書だけは持って避難したという家庭が非常に多かったことを特に付記しておく。

学校施設等の解放

学校が地区の方々のために役立つことがあれば、最大限の便宜を図ってあげようという方針で臨んだが、結局、下記のようなことしかできなかった。

- (1) 校庭の車の避難場所としての使用。続いて8月末まで駐車場として使用された。
- (2) 講堂の避難場所としての開放。朝方かなりの人数使用されたが、だんだんと極楽寺の方へ移られたようであった。
- (3) 洗濯・洗体用水として、プールの水を開放。実際の使用については、湊浦自治会の方で管理されたようである。
- (4) 保健室の救急箱を応急手当用として貸し出す。
- (5) 救援の自衛隊員宿舎として、校庭・校舎を開放する。25日より、28日撤収。
- (6) 炊き出し用として、LPガスボンベを自治会に使用していただく。

おわりに

泥の中、通れる所をみつけて古湊へ児童を送って行ったとき、ある女兒の父親はその子の顔を見るなり、語気荒く言った。

「○○！ 今まで何をしとったんだ！ 早う戻って手伝わにゃあ、だめじゃあないか!!」

こうして、この子供たちの、暑く、汚く、ひもじい夏休みが始まったのである。

7. 岡見小学校

豪雨災害と対応

58年7月県西部を襲った豪雨は、岡見地区にも甚大な被害をもたらした。特に山津波により須津集落の13名の生命を瞬時に失い、又、激流に抗しきれず他地区でも1名の犠牲者がでたことは、何物にも替え難い最大の被害であった。追いうちかけて、物的にも家屋の全壊25戸を始め、半壊、床上浸水、道路の崩壊等多大な災害を受けたのである。

こうした校下の激甚な被災であったが、教員も児童も全員無事であったことは、不幸中の幸といえる。学校も中山地区という平たん部の台地に位置しており、校庭の東南部の一角の、²²法が12m崩壊した程度の被災で、他校に比し僅少な損失ですんだ事も有難いことであった。

然し、校下の災害の甚大さは、児童の家庭にも及び、山津波で完全におしつぶされた家2戸、殆ど全壊家庭4戸、半壊、床上浸水等約全校世帯の半数が被害を受けたのである。教員の方も浸水で2階迄とか1階天井近くまでの被災家庭が約半分あり、人的犠牲はなかったが、教員、児童の約半分が多大な物的被害を受けたのである。

こうした校下の状況下で学校はやはり地域の方へ開放し、援助協力する使命を持っている。7月22日雨が激しさを増すにつれ、須津地区を中心に続々学校に避難してこられ一時は200人を超す人で、講堂は勿論、音楽室は寝たきりのお年寄りの方、病人に開放した。23日雨がおさまっても家をなくされた方、まだ危険状況な所の方に給食室、炊事場を開放し、食事の準備等にも利用してもらった。中山地区の被災されなかった方も炊き出しにこられ色々援助して頂いた。

7月25日、須津集落の方は後片づけ、犠牲者の搜索のため一担自分の集落へ帰られたが、西の谷、床並地区の家を失われた方は残られて、夏休み終わりまで、学校で不自由な生活をされたのである。中に病弱な方、妊婦の方もおられ、苦難な日々の連続だったことと思う。給食室は、地区の方々の炊き出しに利用してもらい、又、その一角をシートで囲い、湯浴び場とした。

現代の生活で、水と電気が断たれると全くお手あげである。断水のため飲料水はその昔使っていた中山集落の簡易水道の水を使用し、水洗便所等は、消防団にお願いし、プールの水を、学校で昔使っていたタンクに汲み上げてもらい生活用水として利用した。又、近所の被災されなかった家々から毛布等も貸して頂き、不自由ながらも、人々の善意に支えられての生活をされたのである。

私たち教員は何はおいでも、児童の実情を把握することが先決である。被災教員を除いて、手分けをして校下の児童の家庭訪問をした。家の被災状況、特に学用品、教科書等の流失、又、通学路の対応等について把握するとともに、早速教育委員会へ報告して、その解決に当たってもらうことができた。

1週間位たって、ゆくえ不明だった斉藤さんの遺体が発見された。遺族の方は学校に避難されており不安な日々の連続だったことと思う。遺体を講堂に安置され、通夜が営まれた。野辺の送りをすまされ、遺影と遺牌が避難先の講堂に安置されているのを見るにつけ、ご遺族の方の胸中いかばかりと察せられて涙をもよおすのである。

かくして電気も通じ、水道の水も流れだし、8月20日からプールでの水泳もできるようになり、苦しい中にも明るい希望が見え出し、子供の顔に笑顔がよみがえり、2学期の始業式を迎えることができたのである。

この災害をふり返ってみる時、私たちは色々な教訓を学んだのである

第一に教師はいかなる時も児童の事を忘れてはならない。どさくさにまぎれとかく自己中心的になりがちであるが“はじめ子どもありき”深く反省させられた。

第二は子どもは勤労に対する素質を有している。この度、災害復旧に児童が終日黙々と働いた話を随分聞かされた。学校も家庭も勤労の喜びを味わわず場と機会を与えてやりたいものである。

第三は人々の善意の有難さが体験されたことである。

新しい岡見小学校が建築されようとしているがこの災害を通し、平時有時を問わず、地域の方々のコミュニティセンターとして、多いに活用され結びつきを深めることを災害を通じ痛感した次第である。

8. 三隅南小学校

◎校舎が運動場がなくなるノ

「水がひきました。窓から学校を見ました。理科室と校長室がありません。おどろきました、悲しくなりました。」(三年生の日記から)

自分の家も被災した子どもの悲痛な叫び声である。水もひきほっと安心して、学校はどうだろうと思ったのであろう。昨日まで楽しく学習をしていた教室をなくした事実を見てどんな心境であったろうかと涙するものである。

新任校長である私にとって最初の夏休みを迎える終業式を20日に行ったばかり、赴任以来新任式、始業式そして入学式と息つく暇もない多忙な日を過ごし、初めての経験に戸惑いと緊張の連続。しかし、日々三隅川に沿った県道を楽しく通勤できることを楽しみ、やっと子供達の顔と名が一致するようになり、さあこの夏休みは地域を知る絶好の機会だと張り切っていた矢先のことである。

梅雨前線の活発化により雨量が増大し21日にはダム放水量100tが放水され、そのため学校の運動場の表土が流されるという事態が起った。予想以上の被害発生のため22日町教委にお願いし被災状況を調査し県教委に届けることとした。

幸い天候も回復しほっとした気持ちで宿舎に帰る。2日間の増水騒ぎの故かぐっすり寝込んでいたようである。突然の電話の音に眼をさます。「プールのフェンスが流れました。濁流が運動場を流しています。屋体を避難場とします」。丁度学校では、21日以来島大児童文化研究班学生19名が来校し宿泊のため、宿直をしていた永見教頭より報告を受ける。直ちに屋体に避難をすることを指示し、窓をあけて外を見ると幕状の豪雨、観音川は川水が波を打って流れている。早速衣服を着替え次の報告を待っていた。午前4時半過ぎ町内の方より避難するよう連絡を受け、直ちに表に出るともう膝までの水が本通りを流れている。学校のことを心配しながら急ぎ役場まで走った。

何故急ぎ学校に行かなかったという後悔の念を持ちながら、電話をするも不通である。「雨よ止んでくれ」と祈るばかりである。未知の土地のこと、知人も少なく不安な1日を過ごす。やっと水がひきはじめるが役場屋上より見る光景は、水害の経験のない私にとってはまさに恐怖の一言につきる。家が家を押し流す。すさまじい山の崩壊、三隅小が殆ど水の中に浮かぶ様である。まさに三隅の町が沈むのではないかとさえ思えた。それでもこの水がひけば何とか助かるのではという気休めをもっていた。災害本部で町長さんより「南小は山の上にあり岩盤も強いから大丈夫でしょう」と言われ私もそう信じていた。

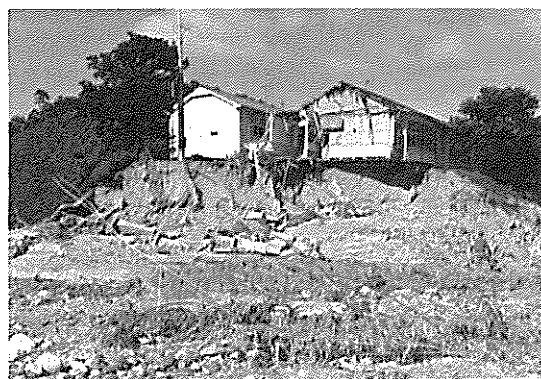
一夜を役場で過ごし24日午前4時学校に向かう。道路を埋めつくした流木、ヘドロとガレキの山、陥没した道路を呆然と眺めながら竹棒一本を頼りに、気は急げども前に進まず無我夢中で道を探し、山を登り4時間余りで到着する。途中お会いする保護者の方々とは、お互いに無事を喜び「頑張って下さい」としか言えなかった。学校近くで丁度報告に出向く教頭と出合い共に涙して手を握り合うのみである。

早速学校の状況を見た。余りの被害の大きさに声も出ず只たたずむのみである。運動場、プールは土石に埋まり、丘の上にあった理科室、校長室は基礎もろとも流れ、まさに濁流により吹っ飛ばされた感すら持った。山を削り取るとはこのことであろう。四季おりおりに子供達を喜ばせていた栗の木、梅の木、桜の木もなく、あらゆる運動施設遊具も流失している。貴重な文書類を納めていた耐火金庫、理科実験器具類、その他備品一切、そして放送施設等々を無くし壊滅的痛打を受けたが、普通教室、屋体が残ったことがせめてもの救いであった。

被害報告書を作成し、島根大学生19名を迎えに行く。下古和地区も無惨な様相である。校区の状況もつかめないまま、学生宿泊のお礼を述べ三隅町役場へと向かった。学生達も生涯忘れ得ぬ体験をしたことと思う。地区の方々の好意にありがたく感謝し、女子学生を励ましながら役場に到着、町長にお礼を申し上げ、折居まで徒歩、そこからバスにて温泉津迄行き、無事汽車に乗せる。駅頭にて共に無事であったことに感謝し、学生が送別の式をしてくれた。学生達の家族の方々にも責任を果たせたことを神に感謝した次第である。



土石とヘドロに埋まったプール



基礎をえぐり取られた管理棟

学生を送る道中、教頭より当時の模様を聞く。雨量益々多く遂に学校が孤立、危険を感じ最後の覚悟をし、全員で学校から脱出すべく、ドラムカンにて筏を作り、あるだけのドッジボールを浮きにし準備をしていたとのこと。そして校舎内を巡視し校長室より公印を持ち出し、続いて重要書類を移そうとしたとき、学生が「栗の木が流れ出す」という叫びを聞きあわてて逃げ出すと同時に校長室、理科室が轟音と共に水煙りをあげ流れてしまった。これを聞き、よくぞ逃げてくれたとつくづく思った。責任感旺盛な人であり又学生諸君と共に続いて搬送していれば、必ずや人命の犠牲が出ていたであろう。筏を使わず、見張りをつけていたこと、沈着に判断されたことを有難く思うと共に身体の震える思いがした。

◎学校教育再開に向かって

7月26日町内居住の職員の被災状況を確認、全員無事であることに安堵する。新婚1年目の先生には、運悪く家財道具一切を冠水され気の毒であったが、元気に後片づけされる姿を見て喜ぶ。私も大分被災をしたが、三隅町の皆さんのことを思えば微々たるものである。被災された町民の方々が気を落すことなく立ち上がられる姿を見、学校再開へと私自身も勇気づけられた。

同日三隅町役場にて、全職員による緊急職員会議を開くことが出来た。お互いに無事であったことを心底より喜び合う。被災教員の方には非情とも思われることも、校長として指示しなければならなかったが、全員この非常事態に立ち向かう決意を述べていただき感謝した。学校再開にあたり、

(1)被災児童の調査に早急に当たること。家庭訪問をし、状況把握に努め、児童を励まし勇気づけること。

(2)被災職員は心を落ち着け一応の片付けをし、学校勤務を主とすること。

を申し合わせた。

幸い校区居住の田中教諭は被災を免がれたため、先生を中心に校区内災害状況調査を担当していただいた。その結果、PTA 25世帯中家屋全壊流失及び同程度が6世帯、児童10名。床上浸水2世帯、児童5名が判明。その他の家においても、殆どが農地を流失するという大きな災害であった。地区では4名の方の尊い犠牲者もあり、心よりご冥福を祈りつつ作業にかかった。登校路の確認についても黒沢・井川地区が特にひどく、通学路の確保につき町教委へ一刻も早い道路改修をお願いする。

確かに、またとあってはならない体験をしたのであるが、特に、こうした事態に直面したとき様々な対応がせまられる。毎日の様に来られる報道関係の方々、又視察並びに見舞をいただいた方々への対応。そして最も大切な学校復旧をお願いする関係機関への要望等である。現状を十分理解していただき、何をおいても子供達への教育に支障なきよう配慮してもらわねばならない。タイミングの点、洞察の点、判断と決断とは様々な思いが反省される。特に保護者の皆さんに学校の復興を約束していただいた町教委には、感謝のほかはない。とりあえずの片付けも終わり、8月末にはPTA総会を開くことができ、皆さんと「本当に生きていて良かった」と無事を喜び合い、今後の南小の復興を語り合った。

いよいよプレハブの職員室も完成し、9月1日子供達の元気の良い挨拶のもとに新学期を迎えることができたことは、校長として無上の喜びであった。

荒廃した道路、そして土石に埋った運動場を横に見ながら登校する子供達に、一番心配されたのが情緒の不安定である。しかし、子供達はあの災害の中、炎天下のもとヘドロと戦った「たくましさ」を感じる。そして県下は勿論、全国の人々より寄せられたお見舞の品々、今まで物の豊かさに甘んじていた生活に比し「耐える心」と、毎日復旧に努力されている人々をじかに見て「感謝の心」「連帯の心」が体験できたことは、この災害で得た貴重なものである。

町教委の並々ならぬご苦勞により無事復旧に関する査定も終り、以後半年を経過することなく、驚くべき被害を受けた。校地、校舎及び設備、備品が59年度一学期終了と共に復旧になり、感謝の気持ちでいっぱいである。

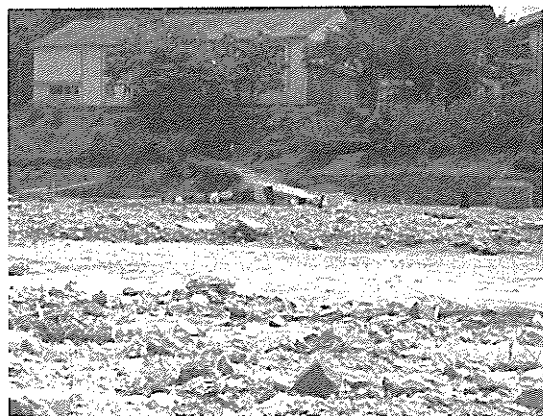
学期始め通学路が不通であった黒沢地区の子供を、毎日乗用車で遠く井野地区を経て三隅町を回り学校まで運ぶよう配慮していただいた町教委及びスクールバスの運転手の方、又猛吹雪の中土地造成に努力していただいた作業員の方々、特にいち早く埋没した運動場を整地していただき、粉雪の舞う中保護者児童職員が一体で開いた運動会。そして三隅町ライオンズクラブ、浜田市ロータリークラブより寄せられた貴重な見舞品等々。学校復旧をこんなに早く完成していただいた町ご当局他関係機関に対し感謝のほかはない。43名の小規模ではあるが、将来の三隅町を背負う子供達を大切に考えていただいたと確信している。又我々職員一同はこの体験を無駄にせず、教育指導の中に生かして行かなくてはと決意を新たにしている。

新しい施設のもと、子供達の日々の姿の中に確かに好ましい変容が感じられる。これも今回の災害から得た貴重な体験かも知れない。多くの方々の御支援を謝し、新生南小学校の教育に努力する覚悟である。

学校長 安藤美一



被災状況を視察する恒松知事



運動場は多量の土石で埋まった

9. 井野小学校

井野っ子の学び舎も災害

○ 7月20日～21日

1学期の思い出の数々もこの2日間の教育キャンプで終止符を……と胸をふくらませて計画をたてて入ったものの、突然、雨が降り始めた。そのため、キャンプファイヤーはできず、肝だめしやキャンプサービスといった校舎内での催し物が中心となった。21日は、午前中で終わり、児童を帰す。

○ 7月23日

夜半から降り続く雨は、朝になって、激しくなるばかりであった。無線放送では、三隅町のようす、ダムからの放流のようすをしきりに流す。頼りにしていたその放送もやがて異状事態宣言とともにとだえた。上流から流れてくる濁流は、学校下の水田を瞬く間に川とし、又、山崩れによって倒れた木を押し流した。

校舎周囲は、北側の山が崩れ、土砂が校舎ぎりぎりまで押し寄せていた。いつ止むともわからない雨が依然、強く打った。土砂が斜面に沿って崩れ落ちて来るのがわかった。それはまるで、目前に山が迫って来るような光景である。

その山と校舎に挟まれた裏庭は、水の逃げ場を失い、水かさは増すばかり。この調子でいけば後数センチで校舎内に入り込むと察した。とっさに放送室の下戸棚にある放送機器等、金目の物を高い所に上げた。それは大自然を相手のささやかな防守であったかもしれないが我々は必死であった。電話連絡をとろうとしたが、すでに通じたり通じなかったりの状態だった。

そうこうしている内に、「先生エ～、はよ出んさい。このままだったら、危ないけエ～」と近所の人声。裏山を見ながら校舎を後にした。その時、講堂の裏の赤土はすでに崩れていた。講堂の傍の音楽室には大切な楽器が保管されている。その楽器の中には井野の人の尊い汗の結晶として寄贈された高価な物が沢山ある。心配になった。一部の楽器しか運ぶことができなかったが、あわてながら安全と思われる場所へ移動させた。そして児童館へ逃げた。

児童館へは、付近の人々も避難しておられた。ちょうど昼食（といっても、おにぎり）の用意をする頃であった。ドドッという音とともに児童館の前の山が崩れ、県道がふさがれてしまった。人間の自然に対する力の弱さをつくづく感じるとともに恐怖心が益々募り、集落の人々と不安な一夜を過ごした。

○ 7月24日

北側の裏庭は、湯沸かし場の屋根の高さまで埋もれてしまった。土砂が、校舎内へ裏庭に接近し



炊事場をのみ込んだ裏山の崩土

ている湯沸かし場のドアと、その隣の6畳敷の部屋の小窓を突き破り浸入していた。付近は荒されていた。放送室・音楽室等の無事がわかり胸を撫でおろした。

学校の様子を案して、数日後、ズタズタになった道を長時間かかり、浜田から教頭、教務主任、分校の男子職員が来た。又、三隅からは、危うく家の難を逃れた本校の男子職員が来た。皆、その学校のように驚き、一時はぼう然と立ちすくんでいる有様だった。



裏山の崩土は講堂も直撃した

○7月25日

校庭にヘリコプターで救援物資が運ばれてきた。発着の度にプロペラの風の勢いで校庭の砂が削り取られ砂塵が舞い上がった。ヘリコプターが停止している僅か数分の間に沢山の物資を運ばなければならない。風圧にも負けず我々も頭に手ぬぐいをしてお伝いした。「市場」までの道路が寸断されていただけに、本当に有難かったうれしかった。

○7月26日

救援物資配付のため、講堂が使用された。

○7月28日

この日何日ぶりかで、井野にあかりが戻った。やっとうろそくの生活から解放されたのである。同時に電話も使用可能となった。とはいえ発信はうまくいくが受信はまだまだ限られていたようだった。こちらからの一声で遠くにいて安否を気づかってくれた人々を少しでも安心させることができた。思わず、胸が熱くなった一瞬であった。

予定されていた全校出校日は中止された。

○7月29日

町教育委員会より、視察に来られた。裏山の崩壊に驚かれたが、校舎に大事に至らなかったことを何よりの幸いと思われ、室谷分校へ向かわれた。

8月に入り、かんかん照りの中、幸いにも我家の直撃をまぬがれた職員で、本校、分校交互に“復旧作業”の開始。大きな土砂の山を目の前に、できることといえばふさがれた溝を少しでも開け、水の道を作ること、山とともにずれてきた大きな木々を取り除くこと等々。何とかしなければと思う気持ちで一杯だった。

なんとしても心配なのは、被災した児童達のことである。担任を中心に家庭訪問をした。車に分乗して行ける所まで行き、後は、ぬかるみの中を長靴をはいて歩いた。4月末の定例家庭訪問の時は、早苗が植え渡って緑濃い美田であった所が見るも無惨な川原と化し、道も寸断されていた。山肌はい

たる所でまるで怪物が瓜でかきむしたかと思われるほど赤土がむき出していた。見知らぬ土地の風景を見ているようであった。

被災した児童は25名、15世帯。家は、ほとんどが裏山の崩壊で、全壊、半壊、浸水である。目を被うような山崩れ、裏山から出た土石流は家の中を突き抜け、はるか下の谷を埋めつくし、県道まで流出していた。

さいわい、どの児童も家族の人々と早目に避難していて全員無事でほっとした。全壊の家の児童は避難所で、半壊、浸水の家の児童は壊れ残った部屋を応急修理したり、蔵や納屋を片付けて、そこで不自由な毎日であるがみんな元気でいた。日焼けした顔に出合って、訪問した者一同「よかった」と思わず涙ぐんだ。

ある集落では、避難所を挟んで土石流が両方に流れ出し、前側は濁流で逃げ場を失って全員が大雨の中右往左往するばかり、子供達は泣き叫ぶし、まるでこの世で地獄を見ているようだったと話され、改めてあの恐怖の日を思い出した。

どの家庭でも泥の中から使える道具や食器を掘り出して、くる日もくる日も片付けをしたが、その手伝いを本当によくしてくれたと目を細められ、我ままいっぱいの物資の溢れた暮らしを反省させられたとも話された。もうこの土地には再び住もうとは思わないという声は一言もなく、一日も早く復旧してこの地で頑張りたいと話された言葉を支えに、お互健康に留意していきましょうと励まし合った。

やがて、工事関係の人々が、校舎や水源地の下見に来られた。いいよいよ本格的な復旧工事の始まりである。

飲料水とプールの水の配水の設備、崩れた土の除去、作業、石垣の復旧等に重点がおかれた。

本校は飲料水・プールの水とともに山水を使用している。飲料水の水源地は、学校の後ろの奥深い山の中にある。水源は、想像していた程破損していなかったものの、ろ過器と配管（水源からタンクまで山に沿って下っている管）が山崩れのため、ズタズタに切れていた。ここでも山崩れのひどさがうかがわれた。一応水が使えるようになるまでの間、水の有難さを思い知らされたのである。一方プールの水源地（飲料水の水源地ほど山奥ではない）は、貯水のえん堤が流木に押し流されていた。その上、これまたプールまでの配管が切断されていた。そんなひどさにもかかわらず、町教育委員会のおかげで8月中には復旧して頂いた。

土砂の除去も同時に進められた。

裏庭と講堂横の土砂切除作業は8月19日より始まった。狭い裏庭にもブルドーザーや、ユンボ、ダンプカーが入り、ごっそり土砂を取り除いてくれた。殺風景になった裏庭を一日も早く元通りにしたいという気持ちが誰もの心の中に芽ばえた。やがて、池には水が入り、児童の持ちよりで浮き草が浮き、鯉やめだかがかえってきた。

○10月10日

校庭の土入れと整備に入る。

○10月25日

石垣の工事にとりかかる。

11月になると東側山の斜面の工事にも入る。

このように、着々と工事は行われていった。

井野全域の工事も進み、大型車の往来が激しくなった。一時は、校庭の入口がまるで車の待避所のような程だった。その交通量の変化に児童はもちろん、職員も戸惑った。交通安全指導や助言・家庭への学級通信による呼びかけ等により交通安全に努力した。

突然の災害に失った物も多かったが、それに劣らず、得た物も多々あった。物心両面にわたる、諸団体、あるいは個人からの援助もその一つである。我校にも多方面から暖かい手を差し伸べていただいた。このぬくもりは児童ともども忘れることはできないだろう。

町当局をはじめ、町教育委員会の大変な援助に心より感謝している。

10. 井野小学校 室谷分校

昭和58年7月豪雨災害記録

昭和58年7月22日夜から23日未明にかけての集中豪雨により、室谷分校も大きな被害を受けた。被害状況は、次の通りである。まず、校庭が三分の一流失した。また、裏山が崩れ校舎裏の窓際まで土砂に埋まり、教具室に泥水が流入した。便所横の手洗場にも土砂が入り、約30cm堆積していた。さらに、渡り廊下横の石垣が4mに渡って崩れ落ちた。水道施設も破損していた。

幸い校舎には、大きな被害がなかったものの、その後雨が降り続けば、校舎内に雨水が入る恐れがあり、排水路を確保しておく必要があった。被災した職員も多数いたが、本、分校の被災しなかった職員で、校舎裏の土砂を掘り下げ排水路を造った。また、洗面所の土砂の搬出を行った。炎天下のもと、生木や水を含んだ土、大きな石を運ぶことは容易ではなかったが、なんとか応急処置をやり終えることができた。特に飲料水がないのはこたえた。

また、保護者の方は、全家庭が被害を受けておられる中で、校庭の整備、危険個所の綱張り等、自分の家の復旧作業やその合間を縫っての仕事の後、疲れておられるにもかかわらず夕方3時間ずつ作



埋没、崩壊により校庭の三分の一が流失

業を行われた。校庭に流入した粘土質の泥を取り去り、そして、登校した児童が危なくないようにと、壊れたフェンスの支柱を利用して綱が張られた。「卒業生にとっては、小学校最後の運動会だから、なんとかやらせてやりたい」と言われた父兄の言葉が印象的であった。

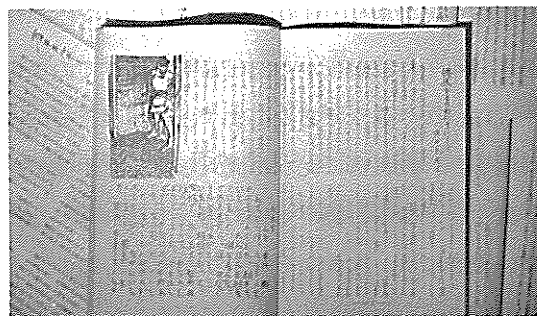
9月に行われた地区民との合同の運動会は、一周わずか60mほどのトラックであったが、一段と盛り上がったものにすることができた。

この大水害により、児童の夏休みの計画はまさに濁流と共に流れ去ったのであるが、それぞれに貴重な体験をしたようである。木が立ったまま押し流されるのを目の当たりにし、自然の猛威を思い知らされた子供たち。春先にいっしょうけんめい植菌したシイタケのほだ木が何百本も流され落胆する家族を思いやる子。また、お米の大切さが身にしみた子、さらには、電気、電話のある生活がどんなにありがたいものか考えさせられた子……等々、水害で失われたものも多いが、かわりに得ることができたものも数多くあるように思われる。

児童の体験は、父兄の生々しい感想とともに文集「たな田」にまとめられた。この文集に記録された事を、決して忘れないようにしたいものである。



年3回発行する「たな田」



「たな田」災害特集号

11. 白砂小学校

昭和58年7月豪雨災害について

7月21日、22日の両日とも、夜半の雨は給食室に汚泥を運び、便所を溢れさせ、校舎の床すれすれまでの床下浸水を繰り返した。谷の出口を塞ぐような建物ではあるが、床下浸水など思いもよらぬ事である。

しかしこの両日の雨はほんの序の口に過ぎなかった。

あくる23日。天は町民のすべてに対して、生死の恐怖と直面させる大雨を用意していた。7月23日を前後する学校の状況等を記してみると次のとおりである。

○7月21日

○給食室、便所浸水。汚泥除去。町職員にて消毒。

○7月22日

○給食室・便所浸水。汚泥除去。

○教育キャンプ中止。島大キャラバン隊20名来校予定であったが三隅南小学校に再泊を請う。

○ 7 月 23 日

○ 校舎 1 階床上浸水。裏山土砂崩れ。校庭汚泥堆積。

○ 児童・職員及び家族の人身に及ぶ災禍なし。

○ 職員 3 名の住居床上浸水。校長、学校泊開始。

○ 7 月 24 日

○ 町教委へ被害状況報告。汚泥除去作業。断水（8 月 9 日まで）。電話不通（8 月 10 日まで）。

○ 7 月 25 日

○ 教育事務所来訪。汚泥除去作業（8 月 4 日まで）。

○ 7 月 26 日

○ 児童宅巡回訪問（28 日まで）。

○ 7 月 27 日

○ 被災電気製品洗浄整備作業のため、校庭、体育館を業者に貸出（8 月 13 日まで）。

記してみると数行で納まったが、紙上からは汚泥の臭いも、将来に対する不安感も漂ってこない。

しかし二度と味わいたくない日々であった。

成瀬和作

第 9 節 役場およびその他公共施設の被害

7 月豪雨災害は、未曾有の大災害であったため、公共施設においても膨大な被害を受け、町民財産の多くを失った。

1. 役場庁舎の被害状況

23 日、街の下市から増水がはじまり、午前 6 時ごろには役場前庭に達し、みるみるうちに庁舎に浸水しはじめた。町長はただちに戸籍簿、土地台帳など重要書類を 2 階に上げるよう指示すると共に、3 階に避難している町民の方に手伝いと協力をお願いした。

古市収入役は、ただちに金庫にある現金および重要帳簿、領収書などを 4 階に運ぶ。玉田係長は、町民課の職員と連絡をとり戸籍簿保管庫を開け、戸籍簿、除籍簿を町民の協力を得て 2 階に上げる。税務課職員、吉野正義、桑本聖なども町民の協力を得て、土地台帳、家屋台帳、切図（字限図）を 2 階に運ぶ。

7 時半ごろには、胸あたりまで浸水してきたので、危険を感じ全員階上に避難さす。8 時半ごろには、1 階は完全に天井まで水没した。2 階も危険が感じられたので、再度町民の方に協力をお願いし、2 階に上げたものや 2 階の課の重要書類を 4 階書庫に運ぶ。

10 時ごろからだんだん水が引きはじめ、11 時半ごろにはほとんど引いた。水の引いたあとは泥土と机、書庫、書類などが散乱し、足の踏み場もない状態であった。前庭は自動車が打ち重なり、その上、流れてきた家屋や流木などが山のようになり、街に出ることもできない状態であった。

1 階各課の被害は次のとおりである。

耕地課、経済課、厚生課

机、保管庫、書類など搬出できず、全滅する。

出納室・税務課

57年度領収書、一部水につかる。机、キャビネットは使用不能になる。

町民課

住民票および同保管庫（リナック）、除籍簿、一部水につかる。机、キャビネットは使用不能になる。

無線放送室は全滅、再起不能になる。

宿直室、使用不能になる。

保健室は木造であったため流失、全滅する。

第40表 役場庁舎の被害状況

施 設	被害額 (千円)
庁 舎	15,269
浄 化 槽	15,150
役 場 車 庫	2,020
向 野 田 車 庫	2,640
職 員 宿 舎	1,877
計	36,956

2. 海石住宅の被害状況

海石住宅の被害状況は第41表のとおりで、その被害総額は、9,030千円に達した。

この海石住宅は、昭和47年豪雨災害の際、倉掛地区を襲った地すべりのため、集団移転を余儀なくされた方々のために建築したものであるが、この7月豪雨により、居住住民はふたたび大きな被害を受けた。

海石住宅は、2DKが2棟6世帯、3DKが7棟29世帯、共同作業所1棟を有しているが、三隅川、石田川のはんらんにより、濁流が1階天井に達するなど、一時は使用不能になった。

しかし、居住住民の懸命な復旧作業により、8月に入ると一部入居可能になるなど、共同住宅ならではの連帯感の強さとその対応の早さには目をみはるものがあつた。

第41表 海石住宅の被害状況

施 設	被 害 状 況	復旧に要した費用 (千円)
建 物	流失及び破損 ・内、外装（床、壁、押入） ・建具（ふすま、障子、サッシ、サッシ枠、ガラス） ・樋	2,800
電 気	水害による全壊 ・電気配線	1,180
浄 化 槽 (59年度)	水害による機能全壊 ・50人槽 3基 30人槽 1基	4,950
そ の 他	臭突、マンホールふた、防虫網	100
計		9,030

第 4 章

救 援 ・ 救 護

第1節 概 況

我国は、気候、風土の変化に富み、自然の美しさに恵まれている。それだけに自然の猛威を受けやすい地理的、気象的諸条件を有し、古来より多くの大災害に見舞われている。

災害による被害の原因には、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、その他の異常な自然現象や大規模な火事などがある。

昭和58年7月23日島根県西部を中心に未曾有の大被害をおよぼした原因は、1つに7月20日から23日早朝にかけ降り続いた集中豪雨である。わけても、本町の被害は甚大なものがあり、河川のはんらん、山崩れ、がけ崩れなどにより33人の尊い人命がうばわれ、負傷者も続出した。

町ではただちに災害対策本部を設置すると共に、災害救助法の適用を受け、避難所の設置、行方不明者の搜索、障害物の除去、医療救護、応急仮設住宅の設置などに全力をあげて救援、救護活動を開始した。

1. 災害救助法の適用状況

7月22日夜半に一層激しくなった雨は、県西部を中心に被害をもたらし、当町においても壊滅的な被害を受けた。

23日早朝から被害状況を刻々報告することにより、同日、正午救助法の適用を受け、町長以下職員が一団となり町民の協力のもと、救援、救護にあたった。

救助項目の実施期間は、第42表のとおりであるが、災害が大規模であったため、一般基準だけでは対応することができず、特別基準（期間延長）を再々申請し、救助にあたった。

第42表 災害救助法による救助実施状況

区名	月	日	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
避難所																																
炊き出し																																
飲料水																																
被服・寝具 生活必需品																																
医療																																
救出																																
住宅の 応急修理																																
学用品 文房具																																
教科書																																
埋葬																																
死体の搜索																																
仮設住宅																																

2. 災害救助の実施状況

(1) 避難所の設置

今回の災害は、記録的な集中豪雨に見舞われ、特に23日早朝の時間降雨量が69mmを越すという、観測史上初めての記録となり、河川の増水、山の崩壊および崩土などにより、町があらかじめ指定した避難所へ向かうことが困難であり、ほとんどが指定以外の公共施設、神社仏閣、最寄りの高台、および民家へ緊急に避難したものが多く、災害発生当初27個所が避難所として適用された。

避難所の適用個所数、収容人員は第43表のとおりである。

第43表 避難所設置および収容状況

地区	Ⅰ～Ⅱ		Ⅲ～Ⅳ		Ⅴ～Ⅵ		Ⅶ		Ⅷ～Ⅸ		Ⅹ～Ⅺ		Ⅻ～Ⅼ	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
三 隅	13	1,625	10	998	8	364	8	238	8	238	8	156	8	105
岡 見	4	280	2	40	2	34	2	34	1	25	1	17	1	17
三 保	4	980	2	127	2	10	2	10	2	10	0	0	0	0
井 野	5	224	4	61	2	37	2	37	2	37	2	19	2	19
黒 沢	1	50	1	7	1	5	1	5	1	5	1	5	1	5
白 砂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	27	3,159	19	1,233	15	450	15	324	14	315	12	197	12	146

(2) 炊出し、その他の食品の給与

町においては、災害発生と同時に食物の確保をするため、県へ食品の輸送を要請した。県では早速、陸上輸送が不可能のため、温泉津町まで陸送、温泉津港より海上輸送を実施した。

最初の輸送は、海上保安庁の巡視船「あわじ」が福浦港に24日未明、おにぎり、パン、牛乳などを輸送し、これを濁流により食物の全くなかった三隅、岡見、三保地区へ供給した。

被災当初、山間部へは、自衛隊による空輸、人力による給与を行い、復旧作業に合わせ、調理可能な場所（調理場）の確保をはかり、炊出し供給を行った。このため、炊出しが可能な避難所のほか、炊事場の使用可能なところを炊出し場に分散指定したので、一時的に個所数は多くなった。

炊出しには、各地区の婦人会を中心に、地区民の協力により調理を実施し、避難所を閉鎖した8月19日終了した。

(3) 飲料水の供給

この度の災害により、町内の給水施設は破損し、また、水源地は埋没し、簡易水道による給水1,943世帯をはじめ、数多くの世帯への給水が必要となった。

このため、町では自衛隊による給水支援を受けると共に、民間団体による給水の協力を受けながら、各地区への供給を行った。

また、各世帯では、バケツなどの貯水容器がなく、給水車から、各家庭へは、ポリ容器を貸与することで対応し、給水施設の復旧に合わせ、だんだんと給水個所が減少していき、8月12日に終了

した。

(4) 被服、寝具、その他生活必需品の給与

災害発生が、早朝であったこともあり、罹災者の多くは、着のみ着のままの状態避難したので、下着にも不自由をする状況であった。また、避難所での生活は、当初、寝具などもなかったため、災害と同時に県へ救助物資を要請した。

当初、井野、黒沢地区への輸送は、陸路の交通が途絶しているため、食品といっしょに自衛隊のヘリコプターによる空輸を実施した。中でも、山間部では、ヘリコプターが着陸する場所がなく、空中より投下するなど、輸送に困難を生じた。

災害復旧の進展と共に、道路網の回復により町事務嘱託員および、地元住民の絶大な協力のもと、トラックなどの自動車輸送に切り変わった。

また、全国各地からの義援物資は、衣類、日用品をはじめ、様々な生活必需品があり、人を雇って整理、配布を行い、8月31日をもって終了した。

(5) 災害にかかった者の救出

災害発生後、ただちに、消防団、地元住民などにより、各地で救出作業が実施され、その後、自衛隊、警察などの応援を受けて行われた。

中でも、一度に13名の生き埋め者を出した、岡見須津地区では、重機を浜田より海上輸送し、早急な救出をはかったが、8名が遺体となって発見され、以後は死体の搜索として、引き続き遺体の発見につとめた。



炊出し班による給食活動



全国各地から寄せられた義援物資

第44表 被服・寝具その他生活必需品の給与

	毛 布	肌 着	作 業 服	ロ ー ソ ク	石 け ん	チ リ 紙	歯 ブ ラ シ	ボ リ バ ケ ツ	蚊 取 線 香	ゴ ザ
数量	1,500	4,000	228	10,325	3,000	1,245	4,180	300	3,000	890

第45表 救 出 状 況

月日 区分	7/23	7/24	7/25
搜索人数	33	22	16
発見数	11	6	5
不明者数	22	16	11

(6) 医 療

このたびの災害により、町内7個所の医療機関のうち6個所の医院が浸水のため全壊の状態となり、被害のなかった岡見の大屋医院だけでは、対処できなかった。

また、交通機関が途絶えたため、もよりの医療機関への通院も不可能であり、町では、県へ救護班の要請を行い医療の確保を実施した。

県では、県立中央病院の応援を得て、7月24日には、派遣を行い、町内医院の診療再開ができるようになった8月19日まで、第46表のとおり医療救護を行った。

第46表 医療救護班の状況（数字は救護人員）

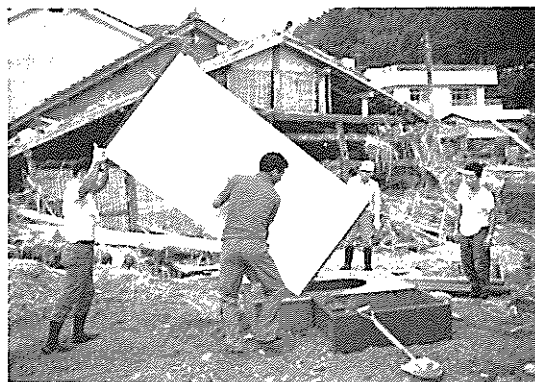
月日 医院	7月 24	25	26	27	28	29	30	31	8月 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計
県立中央病院	29	100	120	169	163	152	141	112	52																			1,038
県立中央病院				44																								44
県立中央病院				27																								27
県立中央病院				37																								37
松江赤十字病院									69	123	138	127	108	119	72	93	57	70	88	69	52	55	58	54	61	38	65	1,516
益田赤十字病院															50	77	77	59	52	47	24	55			60	46	52	599

(7) 住宅の応急修理

災害救助法により、被害が半壊および、一部破損の程度のを、一時的な修理により日常生活を回復できるようにした。

修理の対象個所は、居間、台所、便所であったが、災害の発生時期が真夏であり、被災者にとっては風呂がないため、日常生活に大変な支障を生じた。

当町では、風呂を修理の対象にするよう強く県に要望すると共に、該当被害363個所の中で、対象となる罹災者世帯の調査選定を行った。しかし、被害が甚大であり、応急的な修理だけでは、日常生活を回復できるものが少なかった。



応急修理で取り付けられる便所

第47表 応急修理個所数状況

	台所	便所	居間	風呂
件数	4	2	1	4

このような中、7世帯を選定し、居間、台所、便所、風呂の応急修理にかかったが、資材の輸送および、人員の確保など数多くの問題を生じ、再々の期間延長を申請し、1,354千円の工事費で、8月31日完了した。

修理個所は、第47表のとおりである。

(8) 学用品の給与

文房具、教科書および教材の給与は、教育委員会が主体となり、各学校の協力を得て実施した。

災害の発生が夏休み期間中であったため、直接学童の学習に影響を与えることはなかったが、学童の学習体制の早急な確保を要した。

学用品の給与状況は、第48表のとおりである。

第48表 学用品の給与状況

学 校 名	児童数(人)		給 与 日 (月日)	給 与 品 の 内 訳		実 出 支 額 (円)	繰替支弁 対 象 額 (円)
	教科書	学用品		教 科 書 (円)	その他学用品 (円)		
三隅小学校	189	186	8・12	392,629	595,200	987,829	987,829
三保小学校	90	135	〃	189,709	432,000	621,709	621,709
岡見小学校	5	5	〃	9,657	16,000	25,657	25,657
三隅南小学校	17	10	〃	26,982	32,000	58,982	58,982
井野小学校	19	25	〃	36,164	80,000	116,164	116,164
室谷分校	0	4	〃	0	12,800	12,800	12,800
三隅中学校	159	152	8・12	820,353	516,800	1,337,153	1,337,153
岡見中学校	1	13	〃	5,992	44,200	50,192	50,192
井野中学校	2	19	〃	4,823	64,600	69,423	69,423
計	小学校	320		655,141	1,168,000	1,823,141	1,823,141
	中学校	162		831,168	625,600	1,456,768	1,456,768

(9) 死体の搜索

まず、このたびの災害により、不幸にも尊い人命を失われた33名の方のご冥福をお祈りいたします。

死体の搜索は、各地の地元住民、消防団、警察、自衛隊により災害発生と同時に、救出そして搜索という形で行われた。

なかでも、一度に多くの犠牲者を出した岡見・須津地区では、浜田より重機を海上より輸送し、救出から搜索に切り変え、大多数の人員を費やして実施された。

最後まで行方不明の寺井儀藤太の遺体が7月31日に発見され、すべての搜索が終了した。

第49表 搜索状況

区分 \ 月日	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	計
搜索人数	11	8	2	1	1	1	24
発見者数	3	6	1	0	0	1	11
不明者数	8	2	1	1	1	0	0

(10) 輸 送

7月23日、洪水発生と同時に舟により、避難者を輸送することにはじまり、終始物資の輸送を行った。

災害発生当初、役場職員だけで行うことができず、各地区の嘱託員をはじめ、数多くの町民の協力を必要とした。

井野、黒沢、矢原地区への輸送は、道路の寸断のため陸輸送することが困難であったので、自衛隊のヘリコプターによる空輸を行い、罹災者への食品の給与を実施した。

以後は、陸路によるトラックでの輸送を行い再々の期間延長の末、8月31日に救助法による輸送を終了した。

(II) 応急仮設住宅の供与

今回の災害は、洪水による被害の甚大さもさることながら、林地の崩壊により住宅を全壊する被害が多く、応急仮設住宅を分散して建築しなければならなかった。

災害発生と同時に、県では、福祉事務所を通じて担当職員を当町へ派遣すると共に、本町職員と協力して、罹災者名簿をもとに入居者の選定、建設候補地の選定に取り組んだ。

しかし、被害が大きく、町内の交通網は不通箇所が多く、資材の輸送が思うにまかせず、期間の延長を行い、8月21日に町内104戸262人分の仮設住宅を竣工することができた。

地区別の仮設住宅建築状況は第50表のとおりである。

第50表 仮設住宅建設状況

	岡見	三保	三隅	井野	黒沢	白砂	計
個数	15	6	50	22	10	1	104

第2節 救 援 状 況

1. 陸上自衛隊

7月豪雨に際し、第46普通科連隊（広島県）の本町派遣を皮切りに、第13特科連隊（岡山県）および第13施設大隊（広島県）の増強により、行方不明者の搜索、給水支援、防疫など本格的救護活動を開始した。また、第13特科連隊第1大隊を基幹とする部隊は患者、物資の空輸などそれぞれ救援活動を実施した。

天候の回復と各部隊の積極的活動は、被災を受け途方にくれた町民に大きな安堵感と復旧に立ち上る意欲を奮い起こさせ、8月6日、陸上自衛隊の2週間にわたる救援活動が終了した。

陸上自衛隊の主な活動

- (1) 行方不明者の搜索
- (2) 道路の啓開
- (3) 給水支援
- (4) 防 疫
- (5) 空輸支援

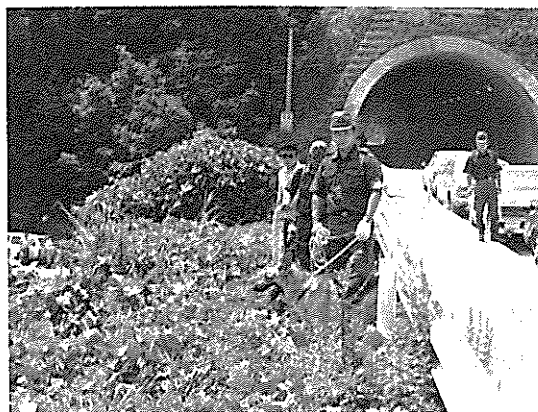


自衛隊による給水活動（田原集落）

2. 警 察

島根県警察本部は、災害発生と同時に災害警備本部を設置、ただちに県警機動隊、交通機動隊、機動捜索隊、機動通信隊などを出動させ、生埋者の救出、住民の避難誘導、交通規制、被害調査など被害実態に即応した警備活動を迅速かつ的確に展開した。

特に、被害の大きかった本町に対し、三隅現地警備本部を設置すると共に、中国管区内各県警機動隊、福岡県警機動隊および広島、福岡両県警察のヘリコプター2機の応援も得て、全警察力をあ



行方不明者の捜索（天満橋附近）

げて災害警備活動を実施し、被災住民の早期救護と被災地域の早期復旧に協力し、民心の安定に努めた。

3. 海上保安部

第8管区海上保安部の巡視船艇による緊急物資（食料、医薬品、飲料水など）の第1便が、7月24日夜間、福浦港に入港し、その後、災害による負傷者や警察官などの海上輸送にあたった。

また、巡視船艇、航空機により、沿岸部の被害調査、行方不明者の捜索および流出ドラム缶、船舶などの航路障害物の警戒、除去にあたり、2遺体（本町住民）を海上で収容した。その他、流出ドラム缶約1,000本、流出船舶約60隻を回収した。

4. 日本赤十字社

7月24日、日本赤十字社島根県支部では、県災害対策本部からの被害状況にもとづき、被災者救援のため赤十字救援物資の輸送を開始、翌25日には本町に第1便として、毛布2,755枚、日用品291点、お見舞セット2,502点が輸送された。

県支部の備蓄していた毛布、日用品セットが予想もしなかった大きな被害で不足したため、ただちに日本赤十字本社、日赤広島、山口、福岡、鳥取、愛媛、香川、大阪、岡山、宮城、徳島などからも送付を願い、赤十字の全組織をあげて対応し、「災害の時にこそ、赤十字が活動せねば」という赤十字本来の使命へ邁進した。

また、全国各地から続々と寄託された義援品を、連日連夜危険をおかしながら、猛暑の中を被災地へ輸送し続けた。

5. 救援、義援物資の状況

7月23日、災害発生後次々と被害状況が判明する一方、町災害対策本部では被災された方に食料などの物資を早急に届けなければならなかった。しかし、隣接の益田市、浜田市なども大きな被害を受け、物資の確保、輸送も困難であるため、県対策本部に要請した。

県災害対策本部は、松江市から邇摩郡温泉津町まで車で輸送、温泉津港からは第8管区海上保安部の巡視船で本町西河内の福浦港まで海上輸送し、福浦港に到着したのは24日早朝であった。

町災害対策本部では、ただちに輸送された牛乳、2,000パック、にぎり飯3,000個全部をそれぞれ避難所（被災者）に配布した。

翌25日には、日本赤十字社島根県支部から毛布、日用品（タオル、石けん、ハブラシ、チリ紙、軍手など）、お見舞セット（乾パン、缶詰類）が輸送されたのを始め、全国各地からも続々と義援品が届いた。

義援品の保管場所がなく、一時は国道9号線三隅トンネル内を保管場所（物資輸送場所）とした。

翌26日、三隅町地域防災計画にともなう、災害対策本部組織により、物資輸送係37名を配置、また物資輸送場所を産業センター車庫と海洋センターに移し、被害程度による配布計画書の作製を急ぐと共に、大量の物資すべての梱包を開き、破損箇所や品物の点検を行った。

なかには、食器やガラス物が衣類と一緒に入っており、輸送途中でこわれたためか、衣類に破片が付着してしていたり、食料品のケースがこわれ、中身が露出しているものもあったので、細心の注意をはらいながら猛暑の中、被災地区に送るための分類、仕訳、再梱包作業を展開した。

一方、町公用車（災害前保有台数29台）は1台残らず壊滅し、数台のリース車と職員独力では被災地区への輸送は困難な状態であった。

早速、災害対策本部会議で物資輸送計画などを協議、「物資については、各町事務嘱託員に受け取りにきてもらう」と結論が出た。

災害救助法（救助の本質）にいう、救助に必要な人員の確保、物資の調達などは、地方公共団体、日本赤十字社、その他の団体や、国民一般の協力を得なければ万全を期することができないもので、これらの協力のもとに行われるとされており、この結論は適切な判断であった。

23日早朝から使用不可能であった町防災無線が、26日夕方復旧したことにともない、ただちにこの旨を町内にいっせいで放送し、周知をはかり、翌27日被災地区に続々と送り出していった。

輸送トラックなどを送り出すと、すぐに次の大量の義援品が届き、迅速に処理をしていかなければならず、多くの人々の労力を必要とした。

この作業は9月初旬まで続けられ、その間の物資輸送係の職員数は延べ741名であった。

また、全国から寄せられた義援品は、ダンボール箱大、小合わせて約80,000個にのぼった。

6. 義援金、見舞金などの状況

7月豪雨の被害状況が各地に報ぜられると、全国各地から救援の手がさしのべられ、各都道府県などからの見舞金や、各種団体、個人からの義援金を送られてきた。

また、島根県、山陰中央新報社、山陰中央新報社会福祉事業団、山陰中央テレビジョン放送株式会社、日本赤十字社島根県支部5者の共催により、義援金の募集が行われ、その結果4回にわたって配分金が送金された。

町災害対策本部は、この義援金などの被災世帯への配分について、10月17日付、三隅町義援金配分審議委員会を設置すると共に委員を任命した。

一方、住家などの罹災程度の再調査を急いでいたが、10月下旬に完了、11月5日に同委員会を役場（議員控室）において開催した。

同委員会は、三隅町助役である山藤恵正氏を会長に選出したことにともない、町長が義援金配分について諮問した。

諮問を受けた委員会では慎重なる審議を行い、同日付で町長に答申し、配分額が決定された。

なお、義援金の支給にあたっては、山陰合同銀行三隅支店、浜田信用金庫三隅支店、三隅大高農業協同組合、三隅町漁業協同組合の各個人預金口座に振込んだ。

義援金など受入状況および義援金配分審議委員会委員名簿、義援金配分状況は第51、52、53表のとおりである。

第51表 義援金などの受入状況

(昭和59年4月1日現在)

	寄贈者数	金 額
個 人	211人	5,194,931円
団 体	238団体	239,582,116円
合 計		244,777,047円
*義援金残金および今後受入金は、三隅町福祉事業振興基金にいったん積立、義援金配分審議委員会の答申の旨意により、福祉事業などに役立てる。		

第52表 義援金配分状況

罹 災 区 分	持家・借家別	世帯当り配分金	罹災世帯	配分金合計
全 壊 (流 失)	持 家	220,000円	531戸	116,820,000円
	借 家	176,000円	96戸	16,896,000円
	間 借	88,000円	1戸	88,000円
半 壊	持 家	132,000円	405戸	53,460,000円
	借 家	105,000円	52戸	5,460,000円
一 部 破 損	持 家	33,000円	73戸	2,409,000円
	借 家	26,000円	0戸	0円
床 上 浸 水	持 家	66,000円	267戸	17,622,000円
	借 家	52,000円	15戸	780,000円
床 下 浸 水	持 家	5,000円	371戸	1,855,000円
	借 家	4,000円	8戸	32,000円
死 亡 者		1人当り 105,000円	33戸	3,465,000円
重 傷 者		1人当り 50,000円	22戸	1,100,000円
軽 傷 者		1人当り 25,000円	11戸	275,000円
合 計			1,819戸 66人	220,262,000円

第53表 義援金配分審議委員会委員名簿

組 織	役 職	氏 名
町 議 会 議 員 〃	総務委員長 教育民生委員長	新 田 芳 夫 山 県 秀 基
関 係 団 体 役 員 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	民生児童委員協議会総務 連合婦人会会長 自治会長（岡見地区代表） 〃 （三保地区代表） 〃 （白砂地区代表） 〃 （三隅地区代表） 〃 （黒沢地区代表） 〃 （井野地区代表）	三賀森 祐 佐々田 サワ子 大 川 剛 原 田 和 夫 寺 田 政 一 金 山 巖 河 野 利 治 西 田 正 雄
関係行政期間の職員 〃 〃 〃	助 役 収 入 役 総務課長 厚生課長	山 藤 恵 正 古 市 圭 介 高 森 幸 信 松 本 健
書 記	厚生係長	久保田 寿 夫

第3節 医療・防疫関係

1. 医療関係

浸水地区の医院は、診療不能になったため、医療体制を確立する必要があった。

患者の診療、また、水害による外傷、疲労、日を迫うごとに皮膚疾患などの患者が発生するおそれがあるため、いち早く派遣可能な医療機関へ要請し、診療を受けた。

その中でも、福岡県千鳥橋病院からは、自主的に本町へ被災者の診療を申し込まれ、心暖まる診療を受けた。

医療救護班の活動状況は第54表のとおりである。

2. 防疫関係

7月20日から降りはじめた雨は、その夜のうちに三隅川、田原川、須津川とはんらんし、低地帯にある須津地区、田原地区、下古市地区の家屋が浸水した。

21日、本町では、伝染病発生防止のため防疫作業を実施したが、その夜のうちに再度降りはじめた雨のため増水し、前被災家屋のほか谷地区の一部も浸水したため、これを消毒した。しかし、22日の夜から再々度降りはじめた雨はやむことなく降り続き、大洪水となって町全体が被害を受けた。

このため、衛生的にきわめて危険な環境におかれ、盛夏の季節的な悪条件も重なり、消化器系伝染病の集団発生が憂慮された。そこで、防疫体制を整えると共に、県に対して支援活動を要請した。

防疫活動は、浜田保健所を中心に県下9箇所の保健所、自衛隊の応援を受けながら、本町と合同で実施した。

7月25日、26日の2日間は、被害の状況の調査と検病調査を実施し、27日から本格的に、浸水家屋を対象に消毒を実施した。

被害が甚大な地域では、現地の実情に合わせて繰り返し消毒を実施したが、被害は町全体に及ぶ広

第54表 医療救護班の活動状況

	役場3階(人)	古湊漁村センター(人)	計(人)
7月24日	29		29
25日	100		100
26日	120	105	225
27日	277	127	404
28日	163	99	262
29日	152	104	256
30日	141	164	305
31日	112	182	294
8月1日	121	91	212
2日	123	125	248
3日	138	197	335
4日	127	140	267
5日	108	182	290
6日	119	72	191
7日	72	50	122
8日	93	77	170
9日	57	77	134
10日	70	59	129
11日	88	52	140
12日	69	47	116
13日	52	24	76
14日	55	55	110
15日	58	0	58
16日	54	0	54
17日	61	60	121
18日	38	46	84
19日	65	52	117
合計	2,662	2,187	4,849

範囲であったため、散在する周辺地域まではおよばなかった。

伝染病の発生を防止するため、被災家庭にハイアミン、クレゾール石けん液、また、2戸に1俵の割合で石灰を配布した。

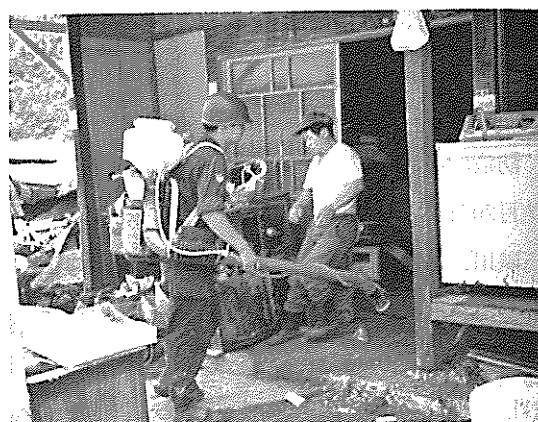
薬剤の正しい使用方法と水害後の病気の予防について、わかりやすい内容のチラシをつくり、現地で消毒作業、検病調査を行うときに配布し、住民に対する衛生教育を行った。

災害発生が盛夏で、衛生害虫が多発する時期であったため、日本脳炎などの発生防止にも留意する必要がある、被災地区のカとハエの発生を防止するため関係地域への駆除を行い、また、予防教育、検病調査も避難所、浸水地域、孤立地区などを中心に広範囲にわたって実施した。

その他、手洗い、消毒液のつくり方を指導すると共に、血圧測定や軽い傷の応急手当なども行ったが、夏場の悪条件にもかかわらず、伝染病の発生は1件もなかった。



伝染病発生防止のための防疫作業



自衛隊員の応援による防疫作業

第55表 薬剤使用状況

薬剤名	総使用量	配布量	散布量	配布又は散布戸数
クレゾール	1,528C	673ℓ	855ℓ	3,520戸 配布 1,346戸 散布 2,174戸
殺虫剤	1,326ℓ	406ℓ	920ℓ	配布 三隅地区 三保地区 岡見地区 三隅中学校 三隅小学校 三隅南小学校 井野中学校 三保小学校 井野児童館 三隅保育所 散布 三隅地区 三保地区 岡見地区
逆性石けん	1,342ℓ	1,342ℓ		町内全戸 2,945戸
石灰	29,260kg	1,463袋		1,770戸に配布（1袋20kg）を2戸に1袋使用した地区もある。 家庭 1,761戸 公共施設 9戸

災害後の伝染病、食中毒に気をつけよう

水害後の病気の予防のために

赤痢、食中毒にかからないために、次の注意を守ってください。

1. 健康管理に十分気をつけてください。

○腹痛、下痢などからだに異常を感じたらもよりの医師に相談してください。

汚れた衣類は洗たく後、日光によくほして納めましょう。

2. 調理や食事前には必ず手を洗いましょう。

○手洗いには、逆性石けん液（30～100倍液）又はクレゾール石けん液（3％）を用いましょう。

逆性石けん液 100倍液は次のようにしてつくります。

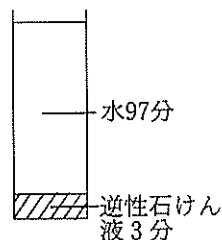
約1升の水（きれいな水がないところは川水で可）に逆性石けん液20cc（小さじ10杯）程度をいれる。

○食器や炊事道具の洗浄には、逆性石けん液 1,000倍液を用いましょう。

逆性石けん液 1,000倍液は次のようにしてつくります。

約1升の水（きれいな水がないところは川水で可）に逆性石けん液2cc（小さじ1杯）程度をいれる。

30倍液（3％）
のつくり方



3. なまもの、なま水は絶対に飲食しないでください。

○飲料水は、煮沸したものを使用してください。

4. 浸水した家屋は清掃と消毒を行ってください。

○床板、壁、柱……水洗後、クレゾール石けん液（30倍液）又は逆性石けん液（30倍液）で拭く。通風をよくし乾燥させる。

○床下、家の周辺……汚泥を除き、消石灰を散布する。

○便所……床、壁はクレゾール石けん液（30倍液）又は逆性石けん液（30倍液）で拭く。便槽は、消石灰又はクロール石灰水で消毒する。

（注意：水洗便所には、クレゾールは流さないこと。）

島根県・保健所

第57表 伝染病、食中毒予防のチラシ

◎水害時には、伝染病や食中毒が発生しやすくなります。 1. 生物、生水は、絶対にとらないようにしてください。 2. 調理や食事の前には、必ず石けんで手を洗いましょう。 3. 健康管理には、十分気をつけてください。腹痛、下痢などの異常を感じたら最寄りの医師に相談してください。 4. 浸水家屋は、伝染病予防のために消毒が必要です。市町村の指示を受けてください。 5. 浸水した器物は、次のように扱ってください。 (1) 食器類 煮沸か逆性石けんに浸す。 (2) 衣類 洗濯後、日光にあてて消毒する。	
--	--

第58表 防疫状況

月 日	戸 数	内 容
7月24日		三隅、三保地区災害状況調査のみ三保地区消毒
25日	10	三保、三隅地区災害状況調査のみ
26日	103	地方地区消毒
27日	169	西河内、地方地区消毒
28日	407	古市場、湊浦地区消毒
29日	451	古市場、須津地区消毒
30日		古市場地区側溝などの殺虫剤散布
31日	200	三隅地区消毒
8月1日	80	三隅地区消毒 三隅、河内地区消毒
2日	428	西河内、古市場、湊浦地区消毒
3日	286	向野田、古市場、須津、松原地区消毒
4日	40	三隅地区消毒
5日		全町（石灰配布 袋20kg入）岡見110、三保250、白砂20、井野30

第59表－Ⅰ 災害後における防疫対策の経過と活動

月 日	時 間	経 過 と 活 動
7月23日	7:30	役場1階浸水（天井上50cm）、被害甚大にて状況把握困難。自衛隊の出動を要請した旨、浜田保健所へ報告。
	15:00	島根県、浜田保健所などにおいて汚水機の輸送体制整備。 防疫薬剤（クレゾール石けんなど）および食中毒、伝染病予防の広報について検討、整備。浜田保健所の指導を受ける。
	15:10	災害後の衛生について浜田保健所と協議し、広報車、広報ビラ、放送などについて指導を受け、実施する。防疫計画および保健所職員の応援の要否について報告。
24日	13:00	自動車通行可能（緊急車のみ）となり、消毒、検病班が状況調査のため浜田保健所より応援にくる。

第59表 - 2

月 日	時 間	経 過 と 活 動
7月24日	13:00	検病調査223戸実施。
	14:00	避難所などの伝染病予防を重点的に行うため、防疫器材の購入を手配。 一部消毒実施。
25日	8:00	保健所消毒班、町消毒班により防疫実施。三保地区消毒実施。検病391戸実施。(避難所) 検病などは避難所を重点的に伝染病予防に努めるようH.Cから指示。 H.C保健婦の協力により検疫実施。三隅、三保地区391戸実施。
26日	8:30	消毒班、検病班15人、保健所より応援。消毒103戸実施。検病350戸実施。 (避難所)
	10:45	自衛隊ヘリコプターにより、南董堂医院へ緊急薬剤搬入。
	10:50	防疫体制打ち合せ会議。H.C防疫対策班。
27日	8:30	消毒三隅、三保地区169戸実施。
	14:00	検病三保、岡見地区276戸実施。 防疫機械など増台要請。(借上げ手配) 動噴6台。
28日	8:30	消毒班H.Cより16人応援。
	10:00	検病について打ち合せ会議。消毒407戸実施。
	19:30	防疫機械H.Cより6台借用。
29日	8:30	消毒三保、岡見地区451戸実施。 消毒班19人、検病班5人、H.Cより応援。
30日	8:30	消毒班23人、検病班7人、H.Cより応援。 消毒殺虫、検病115戸実施。
31日	8:30	消毒班13人、検病班8人。 消毒200戸実施。検病60戸実施。
	13:00	広報車による広報活動の原稿(災害後の伝染病、食中毒の予防について) 作成、配付。防災行政無線により広報も同時に実施。
	13:00	検病班H.Cより3人応援。 動噴4台追加借用。消毒200戸実施。
8月1日	8:30	消毒三隅、河内地区80戸実施。

第59表-3

月 日	時 間	経 過 と 活 動
8月1日	8:30	検病三隅、井野地区124戸実施。(戸別、避難所) 広報車による伝染病および食中毒の予防広報活動実施。週2回実施計画。 (8月2日から25日まで)
2日	8:30 }	消毒班21人、検病班9人、保健所より応援。 消毒 戸実施。検病 戸実施。
3日	8:30 }	消毒班22人、検病班8人、保健所より応援。 消毒岡見地区106戸実施。検病95戸実施。
4日	8:30 }	消毒班22人、保健所より応援。 消毒200戸実施。
5日	8:30 }	検病班6人、保健所より応援。 検病井野地区26戸実施。
8日	9:00	検病班4人、保健所より応援。 検病6戸実施。
9日	9:00	検病班5人。検病9戸実施。 今後の対策について協議。 出席者 浜田保健所白石次長、三島予防課長、植田課長、松本厚生課長、 石本衛生係長、神本保健婦、樋口保健婦。
10日	9:00	検病班5人。検病三保地区10戸実施。
11日	9:00	検病班4人。検病三保地区4戸実施。
	14:00	避難所の衛生管理と栄養保持について協議。 防疫機械、汙水器などの回収計画。
	16:00	避難所の衛生管理について再協議。
12日	8:30	町職員の健康相談実施。
13日	9:00	避難所の現状と問題点、改善策について協議。
15日	9:00	町職員健康相談開設。50名受診。(保健所保健婦応援)
16日	9:00	町職員健康相談開設。30名受診。
18日	9:00	検病班6人。保健所より6人応援。 検病黒沢、矢原、井野地区25戸実施。 ※消毒および検病は7月24日から8月18日まで実施。

第 5 章

災害復旧対策

第1節 県に対する陳情

1. 陳情書

(1) 県に委託する事業の工事雑費、事務費の負担割合の軽減について。

陳 情 書

昭和59年 6 月 日

島根県三隅町

(要 旨)

昭和58年7月豪雨災害の災害復旧について県に委託する事業の工事雑費、事務費の負担割合を大幅に軽減していただきますようお願いします。

(理 由)

今回の災害は、本町にとってかつてない最大の被害であり、関係者のご協力により災害復旧も着々と進みつつあり厚くお礼申し上げます。

本町内の災害復旧は、県、町をとわず改良復旧の個所が多く、なかでも県関係の災害復旧は河川を主体に助成、関連、一定災等で実施される場所が多くあります。

町としては、その河川、道路災害に関連する橋梁など町で施工するべく採択していただいていたものを今回県に委託し施行していただくことといたしております。

しかしながら今回の大災害により本町は単独費の支出が増大し町財政は極めて、きびしい現状になっております。

そこで、これら委託工事に関係する公共土木、農林土木災害の工事雑費、事務費について下記のとおり大幅に負担軽減を賜われますよう陳情申しあげます。

記

- | | | |
|--------------|-------|-------|
| 1. 工事雑費については | 県 8 割 | 町 2 割 |
| 2. 事務費については | 県 0 割 | 町 10割 |

昭和59年 6 月 日

三隅町長

三賀森 勝

(2) 昭和58年7月、梅雨前線豪雨による農地災害のうち、河川の復旧に隣接する個所については再測量の必要があり、大幅な測量経費の負担が伴いますので格段のご高配を賜われますようお願いいたします。

陳 情 書

昭和59年7月 日

益田市 美都町 三隅町

説 明

昨年の大災害につきましては、当局の絶大なご支援をいただき、農地、農業用施設災害の査定を終わることが出来厚くお礼申し上げます。

その後の農地復旧は河川沿いをのぞき着々と進んでいるところであります。

当管内の河川復旧は、助成関連、一定災等で実施される箇所が多くあります。この河川復旧に伴い隣接する農地の復旧については再測量を実施しなくてはならない現状であります。

しかしながら、今回の大災害により事業主体は単独費の支出が増大し、財政は極めてきびしい状況にあります。

こうした実情をご推察いただき測量経費に対する措置につき格段のご高配を賜われますよう陳情申し上げます。

益田市長

神 崎 治一郎

美都町長

若 杉 茂 樹

三隅町長

三賀森 勝

(3) 昭和58年7月、梅雨前線豪雨による農地災害のうち、区画整理方式による復旧個所については、換地経費の負担が伴いますので格段のご高配を賜われますようお願いいたします。

陳 情 書

昭和59年10月 日

益 田 市 三 隅 町

説 明

昨年の大災害につきましては、当局の絶大なご支援をいただき、農地、農業用施設災害復旧も着々と進みつつあり、厚くお礼申し上げます。

当管内の河川復旧に隣接する農地の復旧については、区画整理方式を採用しております。これに伴う換地経費については、国の補助対象とならず、事業主体の支出が増大し、財政は極めてきびしい状況にあります。

こうした実情をご推察いただき、換地経費に対する措置につき格段のご高配を賜われますよう陳情申し上げます。

益田市長

神 崎 治一郎

三隅町長

三賀森 勝

第60表 換地を要する地区数および金額

市 町 村	地区数 (個所)	面 積 (ha)	金 額 (千円)	摘 要
益 田 市	16	51.93	26,484	
三 隅 町	75	120.99	61,704	
計	91	172.92	88,188	

第2節 災害復旧予算措置

1. 予算措置の状況

7月豪雨災害により、本町は今までかつて経験したことのない壊滅的な大被害をこうむった。そのため、未曾有の災害から一日も早い復旧をはかるため、予算面においても予定されていた事業の中止やその多くを圧縮し、その上に経費の節減や財源の重点的・効率的配分をはかり、災害復旧に全力を傾注した。

昭和58年度の予算規模では、前年の約4倍という史上稀にみる大型予算となった。歳入では、災害復旧費補助金などにより国庫支出金が予算総額の約69%を占めるにいたり、歳出でも、災害復旧費の予算総額に占める割合は76%強で、大半を災害復旧事業に費やす結果となった。

昭和59年度においても災害復旧を最優先とした予算編成としており、予算総額における構成比も60%強となっている。

第61表 昭和58・59年度予算

〔歳入〕

(単位：千円・%)

款 別	昭 和 58 年 度					昭 和 59 年 度	
	当初予算	構成比	補 正 額	計	構成比	当初予算	構成比
1. 町 税	428,404	16.7	△ 16,787	411,617	3.3	350,795	6.0
2. 地 方 譲 与 税	39,000	1.5	1,000	40,000	0.3	39,500	0.7
3. 自動車取得税交付金	22,000	0.9	—	22,000	0.2	22,000	0.4
4. 地 方 交 付 税	1,022,372	39.9	606,331	1,628,703	13.0	1,110,427	19.0
5. 交 通 安 全 対 策 金	400		△ 400	0		—	
6. 分担金及び負担金	155,678	6.0	51,948	207,626	1.7	140,193	2.4
7. 使用料及び手数料	20,448	0.8	983	21,431	0.2	20,817	0.3
8. 国 庫 支 出 金	399,917	15.6	8,216,765	8,616,682	68.9	3,593,573	61.2
9. 県 支 出 金	186,930	7.3	159,455	346,385	2.8	232,445	3.9
10. 財 産 収 入	13,180	0.5	26,598	39,778	0.3	5,122	0.1
11. 寄 附 金	1		36,649	36,650	0.3	1	
12. 繰 入 金	—		75,199	75,199	0.6	131,830	2.2
13. 繰 越 金	20,000	0.8	62,153	82,153	0.6	20,000	0.3
14. 諸 収 入	31,670	1.2	73,075	104,745	0.8	38,429	0.7
15. 町 債	225,000	8.8	654,800	879,800	7.0	165,100	2.8
計	2,565,000	100.0	9,947,769	12,512,769	100.0	5,870,232	100.0

第62表 昭和58、59年度予算

〔歳 出〕

(単位：千円・%)

款 別	昭 和 58 年 度						昭 和 59 年 度	
	当初予算	構成比	補 正 額	計	構成比		当初予算	構成比
1.議 会 費	53,224	2.1	141	53,365	0.4		54,410	0.9
2.総 務 費	302,266	11.8	44,443	346,709	2.8		259,846	4.4
3.民 生 費	310,985	12.1	308,825	619,810	5.0		317,945	5.4
4.衛 生 費	76,376	3.0	138,965	215,341	1.7		161,033	2.8
6.農 林 水 産 業 費	626,768	24.4	△ 98,464	528,304	4.2		449,372	7.7
7.商 工 費	29,819	1.2	15,519	45,338	0.4		47,562	0.8
8.土 木 費	428,709	16.7	△ 60,140	368,569	2.9		275,677	4.7
9.消 防 費	55,941	2.2	19,278	75,219	0.6		40,686	0.7
10.教 育 費	131,992	5.1	50,568	182,560	1.5		132,098	2.3
11.災 害 復 旧 費	30,627	1.2	9,503,204	9,533,831	76.2		3,529,363	60.1
12.公 債 費	516,293	20.1	25,430	541,723	4.3		600,240	10.2
14.予 備 費	2,000	0.1	—	2,000			2,000	
計	2,565,000	100.0	9,947,769	12,512,769	100.0		5,870,232	100.0

第63表－Ⅰ 災害復旧費の予算

(単位：千円)

年度別	款	項	目	予 算 額	災 害 復 旧 費 予 算 内 訳							
58 年 度	災 害 復旧費	農林水産 施 設 災 害 復 旧 費	過年災害 復 旧 費	4,487	○56年災林道災害 4,487							
			現年災害 復 旧 費	2,939,159	○農 地 1,090,215	○林 地 崩 壊 435,230	○農 業 用 施 設 1,102,735	○漁 港 5,791	○林 道 294,340	○町 単 10,848		
		公共土木 施 設 災 害 復 旧 費	過年災害 復 旧 費	22,301	○56年災公共土木 22,301							
			現年災害 復 旧 費	5,785,112	○公 共 土 木 5,124,012	○公共災害設計委託 48,820	○都 市 災 害 183,392	○排 土 処 理 1,496	○災 害 関 連 149,802	○町 単 277,590		
		厚生労働 施 設 災 害 復 旧 費	現年災害 復 旧 費	366,838	○三 隅 保 育 所 50,539	○火葬場土砂取除 1,210	○老人福祉センター 16,215	○母子センター 19,077	○災害応急費(ゴミ処理運搬外) 272,705		○廃棄物処理 7,092	
			文教施設 災 害 復 旧 費	現年災害 復 旧 費	351,683	○ス ク ール バス 4,785	○各 小 中 学 校 災 害 復 旧 費 310,481	○教 材 教 具 36,417				
		そ の 他 公共施設 公用施設 災 害 復 旧 費	現年災害 復 旧 費	64,251	○役 場 庁 舎 9,927	○海 石 住 宅 4,108	○役 場 浄 化 槽 15,150	○防 災 行 政 無 線 20,712	○職 員 宿 舎 1,877	○プレハブ倉庫改修 280	○向 野 田 車 庫 2,903	○そ の 他 9,294
		計				9,533,831						

第53表-2

(単位：千円)

年度別	款	項	目	予算額	災害復旧費予算内訳			
59年度 (当初)	災害 復旧費	農林水産 施設	過年災害 復旧費	2,383,911	○農地	900,000	○林道	165,611
		災害			○農業用施設	1,100,000	○林地崩壊	218,300
		復旧費						
		公共土木 施設	過年災害 復旧費	1,145,452	○公共土木施設	1,042,353	○町単 公共土木施設	7,000
		災害			○河川等災害関連	96,099		
		復旧費						
計				3,529,363				
合計				13,063,194				

2. 町税の減免状況

7月豪雨災害にともなう町税の減免については、全職員の災害救護体制が一応解除になった8月下旬より検討を開始した。

まず、浜田市、益田市などの近隣市町村との連携を保ちながら、浜田税務署と協議を重ねた。

また、昭和57年に本町と同様の豪雨禍にあった長崎市に対し、税の減免措置への対応状況を照会し、減免事務における具体的な処理方法の検討を行った。

その結果、地方税法第367条の規定にもとづき、町税減免条例を9月22日議会に提案、可決され下記のと通りの減免基準を作成し、減免措置を実施した。

(1) 減免基準

ア. 町民税、国民健康保険税

①個人の納税義務者が災害により、下記による事由に該当するとき、町民税の普通徴収分にあつては2期以降、特別徴収分にあつては7月分以降および国民健康保険税にあつては7月分以降の税額に、下記による率を乗じて得た額を軽減し、または免除する。

事 由	軽減または免除の割合
死亡した場合	全 部
生活保護法の規定による生活扶助を受けること となった者	全 部
障害者となった場合	10分の9

②災害により納税義務者の所有にかかる住宅または家財につき、災害により受けた損害の金額(保険金、損害賠償金などにより補てんされるべき金額を除く)が、その住宅または家財の価格の10分の3以上である者で、昭和57年中の合計所得金額が、4百万円以下である者は、2期以降の税額に下記による率を乗じて得た額を軽減し、または免除する。

損害程度 合計所得金額	軽減または免除の割合	
	10分の3以上10分の5未満のとき	10分の5以上のとき
2百万円以下であるとき	2分の1	全 部
2百万円を超え3百万円以下であるとき	4分の1	2分の1
3百万円を超え4百万円以下であるとき	8分の1	4分の1

③災害により農作物の減収による損害額の合計額（農作物の減収価額から農作物共済金額を控除した金額）が、平年における当該農作物による収入額の10分の3以上であるもので、昭和57年中の合計所得金額が4百万円以下である者で、合計所得金額のうち農業所得以外の所得が160万円以下の者に対して、農業所得にかかる町民税、国民健康保険税の所得割の額について、町民税の普通徴収分にあっては2期以降、特別徴収分にあっては7月分以降、国民健康保険税にあっては7月分以降の税額に、下記による率を乗じて得た額を軽減し、または免除する。

合 計 所 得 金 額	軽減または免除の割合
120万円以下であるとき	全 額
120万円を超え160万円以下であるとき	10分の8
160万円を超え220万円以下であるとき	10分の6
220万円を超え300万円以下であるとき	10分の4
300万円を超え400万円以下であるとき	10分の2

イ. 固定資産税

災害により固定資産税の納税義務者の所有にかかる土地または家屋について生じた損害金（保険金、損害賠償金などにより補てんされるべき金額を控除した額）が、その土地または家屋の価格の10分の2以上である者に対して、2期以降の税額に、下記による率を乗じて得た額を軽減し、または免除する。

① 農地または宅地

損 害 の 程 度	軽減または免除の割合
被害面積が当該土地の面積の10分の8以上のとき	全 部
被害面積が当該土地の面積の10分の6以上10分の8未満であるとき	10分の8
被害面積が当該土地の面積の10分の4以上10分の6未満であるとき	10分の6
被害面積が当該土地の面積の10分の2以上10分の4未満であるとき	10分の4

② 家屋（償却資産を含む）

損 害 の 程 度	軽減または免除の割合
全壊、流失、埋没などにより家屋の原形をとどめないとき、または復旧不能の時	全 部
主要構造部分が著しく損傷し、大修理を必要とする場合で、当該家屋の価額の10分の6以上の価値を減じたとき	10分の8
屋根、内壁、外壁、建具などに損傷を受け、居住または使用目的を著しく損じた場合で、当該家屋の価額の10分の4以上10分の6未満の価値を減じたとき	10分の6
下壁、畳などに損傷を受け居住、または使用目的を損じ修理、または取替えを必要とする場合で、当該家屋の10分の2以上10分の4未満の価値を減じたとき	10分の4

(2) 減免申請受付の日程および状況

短期間に多くの事務処理を迅速、正確に行い、また該当者の申請もれを防止するため、全町を12ブロックに区分すると共に、町事務嘱託員を通じ全町民に対するPRを行い、申請受けの徹底をはかった。

受け付けは、各地区を巡回し、地区ごとの集中事務処理方式とし、計算事務については、浜田計算センターへ委託し、処理の能率化、正確化をはかった。

申請の内容調査は受け付けに併行して実施した。なお、現地確認の必要な物件については、一括して現地調査を行い、被害状況の把握に務めた。

○納税者に対する通知書（集落回覧文）

三税 第361号 昭和58年9月13日	
納税者 各位	三隅町長 三賀森 勝 (賦課係 猪俣)
58・7 災害による町税の減免申請受付及び面接調査について（お知らせ） 今回の豪雨災害により被災されました方々に心からお見舞い申し上げます。 さて、町では被害を受けられた納税者の皆さんに対し、少しでも負担の軽減を図るため、町税の減免を実施することになりました。 そこで、下記日程により税務課の職員が直接各地区へ出向き減免申請の受付に合せて面接調査を行います。 ご多忙とは存じますが、都合の良い場所において下さいまして申請していただきます	

ようお知らせ致します。

減免されます税目は固定資産税（償却資産を含む）、町県民税及び国民健康保険税となる予定です。

なお、今年1月から7月23日の間に申請されました地目変更につきましても、今回の災害により流失しましたので再度申請して戴きますようお願い致します。

ただし、登記分は除きます。

記

（ 日 程 省 略 ）

○日程変更にとまなう納税者への通知（集落回覧文）

昭和58年10月1日

納税者 各位

三隅町長 三賀森 勝
（係 税務課 猪俣）

昭和58年7月災害による町税の減免申請受付日時の変更について（お知らせ）

9月28日予定の受付事務を台風10号接近のため緊急に中止し、連絡の不徹底から納税者の皆様に大変ご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

さて、中止いたしました減免申請の受付を下記日時に実施いたしますので、被害の状況を良く調査（特に田、畑について）され印かん持参の上おでかけ下さい。

記

（ 日 時 省 略 ）

○受付日程

地 区	月 日	場 所	時 間
岡 見	9. 19（月）	須 津 漁 協	午前9：00～午後4：00
〃	9. 20（火）	中 山 集 会 所	〃
三 保	9. 21（水）	古 市 場 集 会 所	〃
〃	9. 22（木）	駅 前 集 会 所	〃
白 砂	9. 26（月）	白 砂 公 民 館	〃
三 隅	9. 27（火）	海 石 集 会 所	〃
井 野	9. 29（木）	西 下 今 明 集 会 所	午前9：30～午後4：00
〃	9. 30（金）	室 谷 集 会 所	〃
黒 沢	10. 3（月）	元 黒 沢 小 講 堂	午前10：00～午後4：00
〃	10. 4（火）	上 古 和 集 会 所	〃

地 区	月 日	場 所	時 間
三 隅	10. 5 (水) ～10. 11 (火)	役 場 議 場	午前 9 : 00～午後 4 : 00
〃	10. 12 (水)	西 方 寺	午前 9 : 30～午後 4 : 00
全 町	10. 13 (木) ～10. 15 (土)	役 場 議 場	午前 9 : 00～午後 4 : 00 (土曜日午前12:00まで)
全 町 (追加受付分)	12. 1 (木) ～12. 10 (土)	役 場 税 務 課	(〃) (〃)

町外、法人の納税者に対しては、10月4日、10月7日に個々に通知し、申請もれの防止をはかった。

また、減免決定通知は、町民税11月15日、固定資産税12月15日、および国民健康保険税59年1月15日に発送し、減免にともなう一連の事務を完了した。

(3) 減免税額

税 目	調 定		減 免		徴 収	
	税 額 (千円)	件 数 (件)	税 額 (千円)	件 数 (件)	税 額 (千円)	件 数 (件)
町民税	197,693	3,979	24,306	1,375	173,387	3,979
固 資 定 産 税	156,716	4,356	16,099	1,799	140,617	4,356
國 保 民 険 健 税 康	124,876	1,398	25,786	519	99,090	1,398
計	479,285	9,733	66,191	3,693	413,094	9,733

第3節 災害査定状況

1. 公共土木、都市公園、河川の災害査定

公共土木、都市公園、河川の災害査定は、第2次査定を第1回査定として、8月29日から始まり、12月19～23日の第7次、最終査定まで約5ヵ月間にわたって実施された。

この間の査定箇所は1,154箇所、査定のための災害測量調査を測量会社20社に委託し、災害査定設計事務は、島根県、斐川町などの技術職員58名の応援を得て対応した。

今度の災害査定申請に対する、平均査定率は92.3%で、その内訳は、次のとおりである。

- (1) 公共土木災害復旧工事 92.3%
- (2) 都市公園等災害復旧工事 90.6%
- (3) 河川災害改良復旧工事 92.3%

また、施設種類別査定状況は第64表、公共土木施設の次別査定状況は第65表のとおりである。

第64表 施設種類別災害査定状況一覧表

種 類	申 請		決 定		
	申 請 額 (千円)	申 請 所 個	決 定 額 (千円)	決 定 所 個	査 定 率 (%)
河 川	4,002,209	104	3,653,311	168	91.2
道 路	3,596,899	937	3,340,395	918	92.8
橋 梁	731,699	37	700,048	36	95.6
小 計	8,330,807	1,138	7,693,754	1,123	92.3
都 市 公 園	86,809	11	69,081	10	79.5
都 市 下 水 路	1,413	1	1,413	1	100.0
市 街 地	124,141	4	122,544	4	98.7
小 計	212,363	16	193,038	15	90.9
計	8,543,170	1,154	7,886,792	1,137	92.3
河 川 一 定 災	1,416,862	13	1,314,145	13	92.7
河 川 関 連	829,261	(6) 25	760,655	(6) 25	91.7
計	2,246,123	28	2,074,800	28	92.3

第65表 公共土木施設の次別査定状況一覧表

査 定	河 川				道 路				橋 梁				計			
	申 請		決 定		申 請		決 定		申 請		決 定		申 請		決 定	
	全 額	個 所	全 額	個 所	全 額	個 所	全 額	個 所	全 額	個 所	全 額	個 所	全 額	個 所	全 額	個 所
第2次	千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円	
第3次					386,705	37	361,782	37	26,064	3	22,495	3	412,769	40	384,277	40
第4次					595,569	119	541,347	117					595,569	119	541,347	117
第5次					989,757	297	923,150	291					989,757	297	923,150	291
(関連) 第6次	(576,659) (18)	(554,855) (18)											(576,659) (18)	(554,855) (18)		
第7次	790,618 42	764,056 42	418,901 148	384,441 141	16,464 3	16,483 3	1,225,983 193	1,164,980 186								
(一定災) 第6次	591,962 (5) 252,602	569,152 (5) 205,800											591,962 (5) 252,602	569,152 (5) 205,800		
第7次	1,168,415 42	1,075,304 42	397,178 139	370,790 138	342,899 14	329,000 14	1,908,492 195	1,775,094 194								
(一定災) 第7次	(824,901) (8)	(744,993) (8)											(824,901) (8)	(744,993) (8)		
合 計	2,043,176 80	1,813,951 84	820,000 197	758,885 194	346,272 16	332,070 16	3,209,448 294	2,904,906 294								
内 訳	4,002,209 164	3,653,311 168	3,608,110 937	3,340,395 918	731,699 37	700,048 36	8,342,018 1,138	7,693,745 1,122								
単 災	1,756,085 126	1,578,511 130	3,608,110 937	3,340,395 918	731,699 37	700,048 36	6,095,894 1,100	5,618,945 1,084								
一定災	1,416,863 13	1,314,145 13					1,416,863 13	1,314,345 13								
関 連	829,261 (6) 25	760,655 (6) 25					829,261 (6) 25	760,655 (6) 25								

2. 農林業関係の災害査定

(1) 農地農業用施設災害復旧事業の査定は、8月25日の緊急査定（農道6箇所）から開始され、12月21日までの間に合計18回、1,333箇所の査定が実施された。

(2) 林道災害復旧事業の査定は、9月22日にはじまり、11月9日までの間、4回にわけて実施された。

(3) 林地崩壊防止事業の査定は、概略設計書と写真による机上査定で、9月、10月に実施された。

農林業関係の種目別災害査定状況は、第66表のとおりである。

3. 公共施設の災害査定

本町の公共施設である三隅保育所、老人福祉センターみすみ荘、母子健康センターの災害査定は、12月6日から8日の3日間、大蔵省中国財務局理財部主計第1課（主計実地監査官）谷口敦、厚生省社会局老人福祉課（厚生事務官）木村光節の両氏により、現地査定が行われた。

施設別の査定状況は第67表のとおりである。

第66表 農林業関係災害査定結果表

種 目	個所数	金 額
農 地 田	358	1,667,973
〃 畑	19	29,490
〃 畦 畔	217	671,911
小 計	594	2,369,374
農業用施設 溜 池	22	81,056
〃 頭首工	82	457,093
〃 水 路	443	1,422,571
〃 揚水機	6	23,378
〃 道 路	137	223,684
〃 橋 梁	36	227,177
〃 農地保全	13	115,100
小 計	739	2,550,059
計	1,333	4,919,433
林 道	139	491,100
林地崩壊防止 国 庫	151	658,890
〃 県 単	26	49,430
計	177	708,320
緊急治山事業	65	899,616
治山激甚災害対策特別 緊急事業	68	1,327,288
計	133	2,226,904

第67表 公共施設別災害査定状況

施設名	内 訳	申請額 (千円)	査定額 (千円)
三隅 保育所	建物整備費	40,190	39,790
	設 備 費	5,498	3,960
	事 務 費	1,866	0
	計	47,554	43,750
福祉 センター みすみ荘	建物整備費	15,011	14,456
	事 務 費	484	0
	計	15,495	14,456
母子 健康 センター	建物整備費	13,870	12,821
	事 務 費	609	0
	計	14,479	12,821

第4節 災害復旧資金の融資・貸付

1. 中小企業向け融資特別措置

(1) 島根県中小企業制度融資（緊急資金）

被災された中小企業者の早期復旧と経営の安定をはかるため、「中小企業制度融資緊急資金」を設け、特に被害甚大な中小企業に対し、融資条件の特別措置が講じられた。

融資要項は次のとおりである。

ア. 名 称

58年7月豪雨災害復旧資金

イ. 融資対象

事業所または営業所が所在する市町村長が被災したことを証明した中小企業者および組合であって、被害を受けた施設、設備を復旧するための資金を必要とするもの、または生産もしくは営業活動を行うための運転資金を必要とするもの。

ウ. 融資条件（限度）

設備資金 2,500万円。ただし、所要資金の80%以内。

運転資金 2,000万円。ただし、被災した商品、製品、原材料などの損失額および月商額の合計の範囲以内。

利 率 融資の日から3年まで、年6.05%。これを超えた期間、年6.55%。（このほか信用保証協会の保証料年0.72%が必要）

期 間 10年。そのうち据置2年。

エ. 取扱い期間

昭和58年8月5日から昭和58年12月31日まで。

※融資条件の特認措置

①対 象

次の要件をみたすもの。

- 事業用資産（建物、設備、商品など）の被害額がその時価評価額の50%以上であることを市町村長が証明したもの。（以下「特別被害者」という）
- 特別被害者が信用保証協会に対して支払う融資期間中の保証料の3分の1以上の額を当該市町村長が負担することとしたもの。ただし、信用保証を付さない融資にあっては、この限りでない。

②内 容

- 融資期間10年以内を15年以内に5年間延長を認める。
- 別に定める利子補給金交付要綱により、県は、融資の日から2年間金融機関に対し、融資

利率年6.05%について利子補給する。(借受者は、その間無利息となる)

③取扱い期間

昭和58年10月7日から昭和58年12月31日まで。

(2) 島根県中小企業制度融資資金の償還繰延

ア. 償還繰延対象者

事業所もしくは営業所が所在する市町村長が30cmを超える浸水以上の被害を受けたことを証明した中小企業者および組合とする。

イ. 償還繰延期間

認定後1年以内の間、元金返済を猶予する。

ウ. 取扱い期間

昭和58年8月5日から昭和58年9月30日まで。

2. 誘致企業災害復旧資金の融資

(1) 融資対象者

工場が所在する市町村長の被災証明を受けた誘致企業で、中小企業制度融資の対象とならない者および被害額が3億円を超えるものとする。

(2) 資金の用途

被害を受けた施設、設備を復旧するために必要な資金または生産もしくは営業活動を行うために必要な資金とする。

(3) 融資条件

ア. 融資限度 25,000万円以内。ただし、被害額の2分の1以内。

イ. 融資利率 融資の日から3年まで、年6.05%。それを超えた期間、年6.55%。

ウ. 融資期間 10年。そのうち据置2年以内。

余

録

山陰水害を振り返って

前総務課長 高 森 幸 信

はじめに

昭和58年7月23日、我が三隅町は有史以来の大災害を経験した。その内容は、死者33名、重軽傷者33名、家屋の流失51戸、全壊500戸、半壊314戸、破損65戸、床上、床下浸水967戸で、町の総人口9,925人（58年6月末現在）に対して、被災者総数は6,042人にも達し、総人口の6割強の人達が罹災された。

また、大災害における被害総額は約604億円で、町の平年度予算の23年分にもおよび、社会的、経済的に甚大な損害をもたらすと共に、自然環境にも壊滅的な打撃をあたえ、山紫水明の町が一瞬にして荒廃の町となりました。

被災者は、災害後1ヵ月あまりを避難所ですごし、不自由な生活を余儀なくされたが、お互いにはげましあって、復興へ向けて意気を燃やされたことと思います。

自衛隊、警察、そして県内外からの応援を得て、被災者の救援、給水、防疫、医療に、また、流木と瓦礫の山と化した街の後片づけ、応急仮設住宅の建設、仮橋の架設、幹線道路の応急復旧、公共施設の復旧と、連日休む間もない復旧活動であった。その他、土木、農地、農業用施設などの災害査定、国、県への陳情、国、県、専門家、学識経験者の災害視察等々、大規模な災害だけに未経験のことばかりであったが、町長以下全職員が一丸となって取り組み、1年たった今、ようやく災害復旧も本格化したところであります。

ここに、この1年の経過を思い出すままに、また、反省もまじえながら、災害の特徴、教訓、問題点、復興への課題などを書き連ねてみました。

問題点および反省点

〔気象情報〕

地域の気象の特性を重視し、発表される予報、警報、情報をもとに、適切な判断と、早期に警戒体制を敷くことが肝要である。

〔河川のはんらん〕

三隅川は、昭和18年の水害後、大部分が改修されてはいたものの、一部未改修の区域もあった。今回の災害を契機に、全面改修を行い、現在建設中の御部ダムを早期完成させ、あわせてもう1箇所治水ダムを建設すると共に、下流に放水路を早期に建設する必要がある。

〔土砂災害〕

1. 三群変成岩、閃緑岩、花崗閃緑岩など崩壊しやすい地質、地形にある本町の特徴からみて、今後の対策として、次のことが重要と思われる。

- (1) 危険地域の見直しを行い、町民に啓発すると共に、地域ごとの避難体制の整備をはかる。
- (2) 危険溪流、急傾斜地の防災工事をさらに促進する。
- (3) 各自、家屋の立地条件について再点検をし、豪雨時における避難などの対応を、近隣単位で十分準備しておく必要がある。

2. ダムの堆積土砂の除去

ダムが豪雨災害時にいかに重要な役割をするかは周知のとおりである。ところで、このダムが十分に機能を発揮するには、ダムの中にある堆積土砂を常に除去することが大切で、その抜本的制度を作ることが望ましい。

〔その他〕

1. 電話の不通、道路の決壊などにより、地区の情報収集に困った。移動型無線機を各地区に設置する必要がある。
2. 孤立危険箇所への救出に、ヘリコプターの出動を要請したが、悪天候のため出動してもらえなかった。なんらかの対策が必要と思われる。
3. 断水、停電時における応急的な対応策を考えておく必要がある。

水害の特徴

1. 1時間降雨量最大69mm、連続4時間雨量234mm、日雨量410mm、総雨量645.5mmという記録的な豪雨が三隅町を中心に、その周辺（益田市、浜田市など）の狭い範囲に集中し、かつ降りはじめからバケツの水をひっくり返したような強い瞬間降雨が記録された。
2. 土石流などの土砂災害が町内全域にわたって発生し、死者33名のうち、実にその84%にあたる28名が土砂災害の犠牲となった。
3. 出水は急激におこり、水が引くのも早かった。
4. 災害の形態は、山腹崩壊、土石流などの土砂災害と大量出水による河川のはんらん、破堤などの洪水災害に大別される。
5. 水害が急激に発生したことにより、予警報、防災活動などにかかわる情報伝達の不備が指摘され、広報面での防災無線の設置が大きく取り上げられた。
6. 緊急時の対応と住民の防災に対する意識の高揚が必要かつ重要であることが、改めて浮きぼりにされた。
7. 杉林など、針葉樹の山腹崩壊箇所が多く、今後の植生（林）に対しての問題提起となった。

教 訓

1. 気象情報をもとにした適切な判断と早期警戒体制の実施および必要に応じて具体的な行動を指示することができる体制づくりが必要である。
2. 災害時における町と住民との情報伝達システムの確立と地域で発生した重要情報を町へ連絡できる組織、体制を確立する必要がある。

3. 2. に補足して、局地的、突発的災害に対しては、比較的小範囲で自主的に結成された防災団体の果たす役割は大であり、情報の伝達から役場の状況に応じた判断を的確に実行することができる自主防災組織の構成が重要である。

4. 平常時の防災体制として、災害危険個所の指定と公開、町民への周知、避難体制の確立および十分な防災訓練の実施など、以上を包括した地域防災計画の検討が必要である。

復興への課題

島根県においては、特に益田市および三隅町の市街地が壊滅的な打撃を受けたことをふまえて、「島根県、益田市、三隅町防災都市構想策定委員会」が設置され、知事から「災害に強い総合的な防災対策の上に立った新しい都市づくり」の基本構想について諮問があり、委員会では次のように答申している。

防災都市構想の基本的方向

「特に益田市および三隅町では、益田川、三隅川のはんらんによって、市街地は、泥海と化し壊滅的な打撃を受け、生活基盤が根底から破壊された。この両都市を災害に強い都市として再生させるためには、各河川流域に総合的な治水対策を施し、これらの都市の基盤整備と防災街づくりの推進が必要である」とし、次の5つの推進策を提示した。

1. 流域の総合的な治水対策の推進

イ. 上流山地部の森林整備

ロ. 砂防事業による流域の保全

ハ. ダムの築造による洪水調節

ニ. 河川改修事業による洪水防御

2. 土砂災害対策の推進

3. 防災体制の確立と推進

4. 都市基盤の整備と防災街づくりの推進

5. 基幹交通網の確立と推進

以上、委員会の提言は、災害に強い総合的な防災対策の上に立った新しい都市づくりを長期展望し、それにもとづいた基本的方策を示したものである。

委員会の提言は、一応評価できるが、実効ある施策を推進するためには、国の格段の協力と県、益田市、三隅町および関係住民が一体となり、総力をあげて取り組まなければならない問題である。

むすび

「今回の災害で命拾いしたのも、防災無線のおかげだ」と異口同音の街の声を多く聞いた。このことは、三宅島においても同じことがいえたと思う。

しかし、死者の8割が山崩れ、土石流の犠牲者であったことを考えると胸が痛む。行政が、こうした山崩れに対してもう少し適切なPRや指導をしておれば、犠牲者はもっと少なかったかも知れない。

河川の洪水、はんらん気をとられすぎたのも事実であるが、山崩れや土石流に対してあまりにも無知であったのではないかと反省している。

二度とこのような災害を繰り返さないことが、私達の義務であり、責任でもある。そして、それが犠牲者に対する供養にもなるのではなかろうか。ここに、改めて犠牲者の皆さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

“災害は忘れたころにやってくる” このたびの苦い経験を、私達は決して忘却してはならない。

災 害 日 誌

月 日	時 間	内 容
7月21日(木)	5:00	大雨洪水警報、雷雨、波浪注意報。(5:00)
	6:00	第1次災害体制。
	8:40	第1次災害体制を解く。洪水注意報に切替。(8:30)
	21:30	大雨洪水警報、雷雨波浪注意報。
	22:00	第1次災害体制。消防団第二分団出動命令。(谷集落栗山堅方へ集合)
22日(金)	2:30	大雨洪水雷雨注意報。
	5:45	大雨洪水警報、雷雨注意報。
	7:25	大雨洪水雷雨注意報。
	8:30	被害状況調査のため災害調査班出動命令。 栃ノ木 木京正人宅裏山崩壊で家屋半壊ほか、多数被害発生。
	13:30	大雨洪水警報解除。
23日(土)	17:30	職員自宅待機。
	18:40	大雨雷雨強風波浪注意報。
	0:35	大雨洪水警報、雷雨注意報。
	1:50	助役、総務課長、建設課長および総務班(梅谷、清水、玉田、寺戸、川田、三浦)出動。
	2:00	第2次災害体制。
	2:30	田原川増水のため国道9号線通行止。
	3:10	無線放送で町民に注意を喚起。 (20日の降りはじめから350mm、山崩れのおそれあり)

月 日	時 間	内 容
7月23日(土)	3:35	無線放送。(河川の増水、山崩れなど注意)
	3:40	金本消防団長、全団員自宅待機命令。消防団第1分団の地方団員は岡崎の曾我勝夫、大橋悦子方に集合。 町長登庁。
	3:50	田原 羽柴武家屋床下浸水。
	3:55	消防団部長、平川広司から連絡、曾我勝夫、大橋悦子宅裏山崩壊。
	4:00	日ノ原 原井竹一前町道決壊。 県道益田種三隅線、町道古湊向野田線通行制限。
	4:00	大口 山根章前大口川堤防決壊、家族山に避難。
	4:03	田原 羽柴武家屋床上浸水。
	4:07	消防団第2分団、福浦、谷、駅前、八曾地区団員は三保三隅駅に集合。古市場 湊浦地区の消防団員はそれぞれの地区を警戒。
	4:20	下古市 路上浸水20cm。 西ノ谷 青山利夫家族避難。
	4:25	吉浦の国道決壊地点で乗用車二台転落、救急車出動。(松本健、柳子弘、田中秀雄、桑本聖)
	4:35	古湊 路上浸水。
	4:43	床並 細川悦信家屋全壊。
	4:48	消防団第3分団警戒体制。
	4:50	消防団第6分団警戒体制。
	4:55	役場全職員登庁命令。(道路決壊などで本庁にこられないものは地区で避難誘導と警戒にあたれ) 上室谷 川本梅治家屋流失。 消防団第5分団、第1班、第2班は平田班長宅へ集合。 無線放送。(47年災害より雨量が多い、危険地域の方は避難して下さい)
	5:00	益田市にいた鶴川町民課長から、路上に水があふれたため登庁できない旨、電話があった。
	5:10	宮ヶ迫 三浦仁司家屋危険のため家族避難。 大口 白木定行、白木フサコ家屋危険。
	5:13	上小原 小田忠夫家屋半壊。

月 日	時 間	内 容
7月23日(土)	5:17	上室谷 谷田利夫家屋流失。
	5:18	非常事態宣言。(町長第一声) (家屋の全壊流失が町内各地で発生しているので注意せよ。激しい雨のため、家のうしろに山をひかえている世帯は避難せよ)
	5:20	周布地 栗山義喜家屋床上浸水。
	5:25	浜田総務事務所へ災害状況報告。 東平原 三浦菊三郎家屋全壊。西下今明 新井直一家屋全壊。1人行方不明、第5分団現場へ出動。
	5:35	岡見郷 山口秀夫裏山崩壊。
	5:40	非常事態宣言。(町長第二声) (家屋の全壊、流失が町内各地で発生しているので危険家屋は避難せよ) 三隅小学校校庭浸水80cm。
	5:42	小野 落合豊裏山崩壊。 三隅川水位4.50m。
	5:45	無線放送。 (三隅川が警戒水位を越えたので流域住民は安全な場所へ避難して下さい) 上室谷 谷田利夫家屋全壊、行方不明者あり。
	5:47	県道、上今明神明道決壊。 宮ヶ迫 大山清志裏山崩壊、家族避難。
	5:52	岡崎 大橋恒子裏山崩壊、家族避難。上小原 三浦実家族小原集会所へ避難。向野田 神田亀市家屋半壊。
	6:00	下古市集落礼光寺に避難。 日ノ原 吉本定良裏山崩壊。 三隅1、2、3区、役場および三隅神社に避難完了。 三隅吉野商店前浸水50cm。 須津川の暗きょが詰り、地区民避難。 消防団第一分団三隅班矢富石油店に集合。消防団第1分団河内班玉田繁雄宅に集合。 岡見郷 一部家屋床下浸水。

月 日	時 間	内 容
7月23日(土)	6:03	小原地区 徳泉寺床下浸水。
	6:06	須津1区 浜崎弥作裏山崩壊、家屋埋没。
	6:10	消防団第3分団、浜崎弥作宅へ集合。 下古市 古湊地区住民は礼光寺および漁村センターに避難。
	6:12	中組 倉井桃太郎裏山崩壊、倉井澄子生理め、鉢消防団長へ連絡。 八曾集落 細川靖彦家族自宅二階で救助を求む。
	6:15	鹿子谷 岩本武詞家族裏山に避難。
	6:17	諸谷 峠田康弘家屋半壊。 向野田 元産業センター車庫1m浸水。三隅大橋橋桁まであと1m。
	6:25	湊上町 下町、湊浦集会所へ避難。 三隅二宮神社倒壊。
	6:28	八曾 吉田正宣救助依頼。金本消防団長に連絡。
	6:30	向野田 元産業センター前、浸水1.50m。
	6:32	三隅神社に110余人避難している旨連絡あり。
	6:35	三隅南小学校に30人避難している。屋体浸水まであと2mの旨連絡あり。
	6:37	礼光寺前 永見建具店屋根水没。向野田 寺戸貞男宅かみ、堤防越流にあと1m。聖徳寮前堤防越流まで80cm。 向野田地区へ避難命令。
	6:40	松柄 三浦頼人家屋全壊。 三隅旧大橋水没。
	6:43	中組 倉井澄子死亡報告あり。
	6:50	三隅南小学校あと2m～3mで水没する旨連絡あり。 非常事態宣言。(町長第三声) 浜田総務事務所へ状況報告。
	6:53	三隅大橋橋桁浸水。 6時48分木都賀ダム、三隅発電所水没のため職員全員避難した旨電話あり。
	7:00	三保三隅駅前、滝川別宅で3世帯救助依頼。
	7:02	森溝下集落 三隅中学校へ6、7世帯が避難。

月 日	時 間	内 容
7月23日(土)	7:02	海石集落の平屋の屋根上で一世帯救助依頼。
	7:27	県知事宛、災害救助法の適用を申請。(電話)
	7:35	無線放送室(1階)水没。 三隅水源池水没。
	7:42	公社電話不通。
	7:58	三隅大橋上50m附近堤防越流。
	8:30	三隅大橋上50m附近堤防決壊。
	10:30	本部会議。〔出席者〕三賀森町長 山藤助役 古市収人役 高森総務課長 杖田建設課長 松本厚生課長 柳子耕地課長 吉本経済課長 梅谷誠一 清水澄雄 玉田保晴 寺戸 昭 川田圭史 神本清司 杖田憲一 横田孝之 斉藤裕平 斉藤友昭 桑本 聖 曾我勝幸 吉野正義 富金原章代 神本和美 樋口登志子 川上礼子 三浦齡治 寺井修治 下田佳正 大森兼夫。
	10:30	県に対し救援物資を要請。(助役、県災対本部へ電話)
	11:00	用田橋 浴林末太郎死亡の旨連絡あり。
	12:30	県災害対策本部から連絡。12時災害救助法適用。
	13:30	岡見(老人ホーム所長)三保(肥後課長)井野(岩本課長)黒沢(山根邦夫)へ連絡員を送る。 県災害対策本部から、救援物資を送る。14時に松江を出発、温泉津港から船で送るので福浦沖へ漁船を出されたしとの連絡あり。
	13:40	向野田 杖田トヨ行方不明連絡あり。
	13:43	寺井修治、杖田憲一、福浦浦長に救援物資受け取り用の漁船を依頼に出発。
	13:50	アマチュア無線にて、須津1区山崩れ現場で13名行方不明の連絡あり。
	14:37	警察無線にて、井川 三浦清出血多量救助依頼。
	14:40	県災害対策本部(上谷氏)から、救援物資発送、温泉津港16時30分頃出港予定。
	15:30	松本厚生課長ほか避難者10数名の応援のもと福浦へ救援物資受領のため出発。 金谷町議会議長来庁。

月 日	時 間	内 容
7月23日(土)	15:37	建設課長から連絡。河内 寺井儀藤太家屋流失、行方不明。 美代殿神社に35名避難。田原 池田宅に13世帯65人避難の旨連絡あり。
	15:48	アマチュア無線により連絡。井野児童館附近で死亡1、重傷3、軽傷3、氏名不明。
	16:28	須津 清尾昭氏状況報告のため来庁。 浜崎弥作家族3人、寺崎シヲ1人、沖本貞子家族4人、木村増雄家族4人、寺井正道1人、計13名行方不明。地区民は尊光寺、漁協、岡見小に避難している旨報告。 (西中芦谷 山市益市家屋全壊、三隅三区 吉原博家屋土砂流入、情報入手)
	16:50	寺井修治、杖田憲一、福浦から帰庁。
	17:00	森井三隅保育所長、岡見の状況報告のため来庁。
	18:00	須津地区の避難者、200人分の救援物資を岡見小へ送付してもらいたい旨連絡あり。
	18:06	桑原弘、状況報告。
	18:35	川田圭史、斉藤裕平、三保地区状況調査から帰庁。 状況報告。 海石 高浦ヒデ、三浦チエ子死亡。礼光寺へ77世帯400人余避難、炊出し依頼。 湊浦 床上浸水家屋92戸、床下浸水家屋31戸、全壊家屋10戸、一部損壊家屋38戸。夕食の炊出しは自給可能。 岡見地区(桑本聖情況報告)全壊家屋、須津1区4戸、須津6区7戸、須津4区3戸、中山2戸、床並2戸。松原 永田哲家屋傾斜。 行方不明 須津13人。ケガ人2人巡視船により浜田市へ搬送済。行方不明床並1人。 避難者 岡見小学校150余人、漁協20余人、尊光寺10余人。
	18:50	県社会課(為石氏)から電話。 救援物資、島根丸で温泉津港を19:00出発、福浦港沖22:30頃至着の予定。

月 日	内 容
7月24日(日) 晴のちくもり	○各地区の情報収集を実施。 ○救援物資の受領を国道9号線三隅トンネルで行う。(厚生課長・外数名) ○各避難所へ救援物資の配給。(配給不能地区、黒沢全域、河内、矢原、井野全域、栃ノ木、西ノ谷、宮ヶ迫) ○建設省は9号線の復旧工事着手。 ○県道の応急復旧について浜田土木事務所と打合せ。 ○加藤国土庁長官(震災対策本部長)、恒松県知事、災害状況視察のためヘリコプターで来町。 ○警察および自衛隊入町、隊員は三隅小と三隅中に駐とん。 (助役室を警察の現地本部、応接室を自衛隊の現地本部とする) ○県立中央病院救護班入町。(大仏正竜医師を団長とする医師2人、看護婦3人) 三階の教育長室、議会事務局を仮設診療室とする。 ○災害仮設電話設置。 ○死体検視 高浦ヒデ 大下リエ 三浦敬尚 木村ミツ 杖田トヨ 石田昭夫 山川ハマコ 倉井澄子 ○災害対策本部会議(20時)。 ○役場給水。(三隅公園から山水をビニールホースで引水)
7月25日(月) くもりのち晴	○自衛隊、岡見地区行方不明搜索。(案内係 田中秀雄、斉藤友昭、斉藤裕平) ○特設電話設置(対策本部5器)。 ○国道9号線、吉浦～浜田間開通。 ○役場、森溝地区一部通電。 ○自衛隊給水車、駅前、湊浦において給水。 ○26日13時みすみ荘で議会全員協議会開催通知。 ○避難所へ自衛隊ヘリコプターにより救援物資配布。 ○消防会館二階を山陰合同銀行三隅支店の仮事務所として開設。
7月26日(火) くもり	○二階堂自民党幹事長、増岡自民党災害対策特別委員長外6名、県副知事、土木部長ヘリコプターで来町。(田ノ浦公園着) ○自衛隊第13師団長来町。 ○給水5箇所。

月 日	内 容
7月26日(火) くもり	○消毒2箇所。(保健所の応援を得る) ○自衛隊により行方不明者捜索、幹線道路および三隅市街地の流木土砂除去作業の実施。 ○警察により行方不明者捜索実施。(須津、代平、芦谷、床並、海および河川) ○自衛隊ヘリコプターで物資の配布。 ○古湊漁村センター、ボランティア医療班駐在。(8月6日まで) ○災害仮設電話3器追加設置。
7月27日(水) 晴	○浜田保健所により孤立地区へ医療隊派遣。(ヘリコプター) 9:30~15:00 下古和地区(ヘリポート、三隅南小学校)案内係 桑本聖。 10:30~16:00 須津地区(ヘリポート、岡見小学校)案内係 田中秀雄。 ○自衛隊、市街地の流木土砂除去作業。 ○孤立地区への物資の空輸。(18箇所) ○4t給水車借上。(白章) ○浜田保健所防疫班2班編成。 ○死体発見 川本ヤエ 川本キヨ子 斉藤次郎 寺井正道 三浦チエコ ○27日現在、行方不明者2名。自衛隊と警察とで捜索。
7月28日(木) 晴	○孤立地区への物資空輸。(17箇所) ○浜田保健所の医療隊 9:30~12:00 室谷地区(ヘリポート、杉戸秀幸氏の田)案内係 三内一夫。
7月29日(金) 晴	○衆議院災害対策特別委員会一行災害状況視察に来町。(議員9名、名省庁15名、島根県庁4名、浜田合庁8名) ○警察168名により行方不明者(寺井儀藤太)捜索。 ○ボランティア活動(清掃)。自治労50人(三隅自治会館、永福寺、正楽寺)。県青年団(老人福祉センターみすみ荘)。 ○小原、室谷、黒沢、上古和、通電。(未灯火地区 床並、下河内、用田橋、上河内、西方寺原、下古和、矢原全域、周布地、大谷、久根郷、大口、下今明、上今明、諸谷、芦谷)

月 日	内 容
7月29日(金) 晴	○自衛隊現地本部 役場からB & Gセンターに移動。 ○防疫、三保、須津地区終了。 ○松江消防署から救急車および隊員3名応援で来町。(4階元有線放送室を詰所とする)
7月30日(土) 晴	○水道 向野田地区へ送水。 ○三菱農機(株)からダンパー2台寄贈。 ○未灯火戸数 芦谷15戸、下今明10戸、下小原20戸、諸谷15戸、石浦5戸、大谷15戸、松柄20戸、矢原90戸、井川20戸、上古和50戸。
7月31日(日) 晴	○自衛隊5個所で固定給水。(三隅中、駅前、三保小、湊八幡宮、古湊) ○警察の捜索員24名。 ○自民党県連幹事長糸原県議来町。
8月1日(月) 晴	○寺井儀藤太 死体確認。(舞鶴市に漂着、子息修治現地確認) ○県立中央病院医療班から日本赤十字病院医療班に交替。
8月2日(火) 晴	○参議院災害対策特別委員会一行来町。15時45分。(赤桐操委員長外理事2名、委員4名) ○自衛隊、出雲駐とん地司令桑原二佐、広島第13師団第4部長、諏訪二佐来町。 ○岡見須津合同葬儀。 ○給水、自衛隊7t(三隅中、駅前、三保小、三隅神社、礼光寺)前田道路12t、借上車8t、丸中通商8t。 ○山陰合同銀行三隅支店、役場消防会館2階仮事務所から既設事務所へ帰還。
8月3日(水) 晴	○参議院災害対策特別委員会委員来町。10時00分。 ○防疫、松原、須津、向野田、田原、日ノ原。 ○消防団、役場庁舎内清掃。 ○松江消防署応援救急隊員交替。

月 日	内 容
8 月 4 日(休) 晴	○島根県市町村職員共済組合来庁。(職員の住宅被害調査) ○自衛隊対戦車隊長災害視察のため来庁。 ○三隅 1 区集落民、役場 3 階から永福寺へ移動。(夕食後) ○救援物資を田ノ浦 B & G センターに移動。
8 月 5 日(金) 晴	○自衛隊第13師団第 4 部長最終調整に来庁。 ○自衛隊給水車18時終了。 ○中四国農政局長および農政課長来町。 ○災害救助法適用期間延長認可。(1 週間)
8 月 6 日(土) 晴	○自衛隊、11時00分出雲駐屯地帰隊。 ○キーパー K・K、操業開始。 ○国立防災科学技術センター研究部長、県消防学校長来町。
8 月 7 日(日) 晴	○被災職員は休日とする。 ○漁村センターに益田赤十字病院医療班駐在。
8 月 8 日(月) 晴	○午後大雨洪水雷雨警報発令。 ○参議院議員 古賀雷四郎、天野光晴議員来町。 ○石田浩造県議会議長、土田好治県議会議員来町。 ○県知事、環境保健部長、秘書課谷田補佐来町。 ○松江消防署応援救急隊員交替。
8 月 9 日(火) 晴	○県消防協会、中島事務局長来町。 ○金本消防団長、曾我、斉藤両副団長、岨田分団長外、町内消防ポンプなど状況視察。
8 月10日(水) 晴	○県議会災害特別委員会来庁。(恒松委員長外 3 名、随員 2 名) ○県農林水産部長来町。

月 日	内 容
8月11日(木) 晴一時雨	○臨時町議会招集。(9時みすみ荘) ○日本赤十字病院医療班交替。 ○三隅二区集落民、役場3階から自治会館へ移動。(役場3階避難所解散) ○警察現地本部を役場から三隅駐在所へ移動。 ○災害復旧対策室設置。(室長山藤助役)
8月12日(金) 晴一時小雨	○県社会福祉部長来町。(10時) ○県副知事来町。(13時45分) ○災害弔慰金および見舞金支給。(山藤助役、久保田係長持参) ○災害救助法適用期間延長認可。(1週間)
8月13日(土) くもり	○天理教災害救援隊、活動終了。 ○被災職員午後休日とする。
8月14日(日) くもり	○被災職員休日とする。
8月15日(月) くもり	○NHK 勝部ディレクター来町。
8月16日(火) 晴	○NHK 勝部ディレクター来庁。 ○浜田法務局戸籍課長来町。
8月17日(水) 小雨	○竹下大蔵大臣、坂野参議院議員来町。12時40分～13時10分。 ○民社党県連委員長および書記長来町。 ○日本赤十字病院医療班交替。 ○天理教救援隊機材搬出。
8月18日(木) 小雨	○町長陳情のため上京。 ○坂野参議院議員来町。13時～14時30分。

月 日	内 容
8月19日(金) くもり時々小雨	○災害救助法適用終了。 ○神奈川県南足柄市、助役、消防長来町。 ○松江日赤医療班帰松。 ○松江消防署応援救急隊帰松。
9月4日(日)	○豪雨災害物故者合同慰霊祭。(岡見中学校)
9月5日(月)	○災害対策室仮設事務所完成。(プレハブ2階建・階上建設班、階下耕地班) ○人事異動発令。
9月6日(火) くもり夕方大雨	○災害相談室消防会館2階に新設。 ○災害相談員を曾我勝夫氏に委嘱。
12月28日(水) くもり	○三隅町災害対策本部解散。

第68表 気象予警報等発表状況

(注) 日付の○印は日曜・祝祭日、△は土曜日。内：勤務時間内、外：勤務時間外

日付	種 別	地域	発表時刻	解 除	日付	種 別	地域	発表時刻	解 除
7 / 21	大雨・洪水 [○] ・雷雨・波浪	東西	05:00	切 替	※ 5 8/5	大雨に関する情報第1号	東西	02:15	— —
21	洪水	東西	08:30	切 替	5	〃 第2号	東西	04:20	— —
21	大雨・洪水・雷雨・波浪	東西	13:40	切 替	5	〃 第3号	東西	06:30	— —
21	大雨・雷雨・波浪	隠岐	17:00	切 替	※16	大雨に関する情報第1号	東西	16:20	— —
21	大雨・洪水 [○] ・雷雨・波浪	東西	21:30	切 替	17	〃 第2号	東西	15:55	— —
22	大雨・洪水・雷雨	東西	02:30	切 替	16	大雨に関する情報	隠岐	17:30	— —
22	大雨・洪水 [○] ・雷雨	東西	05:45	切 替	※21	大雨に関する情報第1号	東西	22:40	— —
22	大雨・洪水・雷雨	東西	07:25	22 13:30	22	〃 第2号	東西	09:25	— —
22	大雨・洪水・雷雨	隠岐	08:40	切 替	△23	〃 第3号	東西	01:40	— —
22	大雨・雷雨・強風・波浪	東西	18:40	切 替	△23	〃 第4号	東西	02:30	— —
△23	大雨・洪水 [○] ・雷雨	東西	00:35	切 替	△23	〃 第5号	東西	03:35	— —
△23	大雨・洪水 [○] ・雷雨	東西	06:40	切 替	△23	〃 第6号	東西	04:25	— —
△23	濃霧	隠岐	07:45	切 替	△23	〃 第7号	東西	05:20	— —
△23	大雨・洪水 [○] ・雷雨	東西	15:40	切 替	△23	〃 第8号	東西	06:20	— —
△23	大雨・洪水・雷雨・波浪	隠岐	16:00	切 替	△23	〃 第9号	東西	07:25	— —
△23	大雨・洪水	東西	22:10	切 替	△23	〃 第10号	東西	08:30	— —
②4	洪水	東西	06:15	24 11:00	△23	〃 第11号	東西	09:35	— —
②4	強風・波浪	東西	12:10	切 替	△23	〃 第12号	東西	10:30	— —
24	大雨・雷雨・強風・波浪	東西	14:00	24 17:00	△23	〃 第13号	東西	11:30	— —
24	波浪	隠岐	14:45	25 06:40	△23	〃 第14号	東西	12:30	— —
26	強風・波浪	東西	11:50	26 19:30	△23	〃 第15号	東西	13:30	— —
27	強風・波浪	東西	05:40	27 19:50	△23	〃 第16号	東西	14:30	— —
27	波浪	隠岐	07:50	27 18:55	△23	〃 第17号	東西	17:15	— —
28	強風・波浪	東西	10:40	28 18:50	22	大雨に関する情報第1号	隠岐	17:00	— —
29	雷雨	東西	17:00	29 21:40	②4	〃 第2号	隠岐	10:00	— —
△30	雷雨	東西	13:30	30 18:30	※25	梅雨明けに関する情報	東西	10:30	— —
③1	強風・波浪	東西	12:15	31 18:40	25	梅雨明けに関する情報	隠岐	10:50	— —

災害派遣および応援状況について

島根県および他町村の職員による災害派遣は、災害早々 7 月 25 日から県職員の応援があった。町内には宿舎もなく浜田市内に宿泊しての災害派遣であった。

本格的な応援は、老人福祉センターが宿泊施設として利用できた 8 月 10 日で、12 月 24 日までの約 5 ヶ月間、58 名の技術職員によって災害査定設計業務にあたった。

災害派遣職員の応援状況は第 69 表のとおりである。

この他、7 月 24 日から約 15 日間、災害調査、測量などの実施計画をはかるために現地踏査して、計画書の作成、測量業者の指導などに浜田土木建築事業所の技術職員が常駐して応援を得た。

第 69 表 公共土木技術職員応援状況一覧表

(昭和 58 年 12 月 26 日)

派遣元	期 間	人数	延日数	延人員
県土地開発公社	8/10 ～12/3	10	42	252
御部大長見ダム	8/19 ～12/24	8	36	216
広 瀬 土 木	10/3 ～12/24	6	15	90
木 次 土 木	10/3 ～10/29	6	12	72
西 郷 土 木	10/17～10/29	1	2	12
県 下 水 道 課	8/10 ～10/29	5	19	114
県 道 路 課	10/3 ～12/23	3	4	24
県都市計画課	8/17 ～8/27	1	2	12
浜田港管理所	7/25 ～8/23	2	6	36
浜田ダム管理所	7/25 ～8/23	2	6	36
斐 川 町	9/5 ～11/30	8	12	72
大 東 町	11/7 ～11/19	3	6	36
加 茂 町	10/24～11/5	2	4	24
島 根 町	8/10 ～8/27	1	3	18
計 14		58	169	1,014

第 70 表 58 年災害測量設計応援者数

災 害 別	派 遣 元	事 務 所 コンサル数	期 間	人 数	延日数	延人員
農 地 災 害	島 根 県	9	8 / 8 ～12 / 15	48	1,046	1,046
	町 村	7	8 / 17 ～11 / 28	15	122	159
	他 県	4	9 / 21 ～10 / 19	9	483	329
	コンサル	34	8 / 10 ～12 / 15	111	1,383	5,956
計		54		183	3,034	7,490
林 道 災 害	島 根 県	6	8 / 29 ～10 / 22	10	83	83
	コンサル	4	8 / 18 ～ 8 / 16	15	116	395
計		10		25	199	478
林地崩壊防止	コンサル	3	8 / 18 ～12 / 20	10	247	1,057
合 計		67		218	3,480	9,025

災害に関する要請書

三総第592－1号

昭和58年7月23日

島根県知事 恒 松 制 治 殿

三隅町長 三 賀 森 勝

航空機による重傷者等の空輸について要請

このことについて、下記のとおり自衛隊の航空機の派遣を要請します。

記

1. 災害の情况及び派遣を要する事由

7月23日の集中豪雨のため、本町において濁流に飲み込まれた重傷者が発生したが、道路寸断のため車両による搬送が不可能であり、早急に患者を医療機関へ移動する必要がある。

2. 要請日時 昭和58年7月23日 17時00分

3. 派遣を希望する航空機 ヘリコプター 1機基幹

4. 派遣を希望する区域 那賀郡三隅町から浜田高校

5. 患者 三浦 清（T 8.3.18）三隅町下古和

要請した患者空輸が終了次第撤収を要請します。

撤収要請日時

空輸終了時

三総第593－1号

昭和58年7月24日

島根県知事 恒 松 制 治 殿

三隅町長 三 賀 森 勝

災 害 派 遣 要 請 書

このことについて、自衛隊の災害派遣要請を依頼します。

記

1. 災害の情况及び派遣を要請する事由

7月23日の集中豪雨のため、本町で災害が発生し、河川の氾濫、山崩れ等により多数の家屋が倒壊あるいは流出し、または埋没するに至った。

災害は激甚であり行方不明者の捜索のため、自衛隊の災害派遣（応急救援）を必要とする。

2. 要請日時 昭和58年7月24日 09時00分

3. 派遣を希望する人員等 約500人

三総第593-2号

昭和58年7月24日

島根県知事 恒 松 制 治 殿

三隅町長 三 賀 森 勝

災 害 派 遣 要 請 書

このことについて、自衛隊の災害派遣要請を依頼します。

記

1. 災害の情况及び派遣を要請する事由

7月23日の集中豪雨のため、本町で災害が発生し、河川の氾濫、山崩れ等により多数の家屋が倒壊あるいは流出し、または埋没するに至った。

災害は激甚であり全町にわたって断水しており、給水のため自衛隊の災害派遣（応急救援）を必要とする。

2. 要請日時 昭和58年7月24日 09時00分

3. 派遣を希望する人員等 約500人

三総第593-3号

昭和58年7月24日

島根県知事 恒 松 制 治 殿

三隅町長 三 賀 森 勝

災 害 派 遣 要 請 書

このことについて、自衛隊の災害派遣要請を依頼します。

記

1. 災害の情况及び派遣を要請する事由

7月23日の集中豪雨のため、本町で災害が発生し、河川の氾濫、山崩れ等により多数の家屋が倒壊あるいは流出し、または埋没するに至った。

災害は激甚であり防疫のため、自衛隊の災害派遣（応急救援）を必要とする。

2. 要請日時 昭和58年7月24日 09時00分

3. 派遣を希望する人員等 約500人

三総第593－4号

昭和58年7月28日

島根県知事 恒 松 制 治 殿

三隅町長 三 賀 森 勝

災 害 派 遣 部 隊 撤 収 要 請 書

昭和58年7月24日付三総第593－1号をもって災害派遣を要請し、現在本町における災害派遣中の部隊は、要請した作業（行方不明者の搜索）が終了したものと史料されますので下記により部隊を撤収されますよう要請します。

記

撤収要請日時 昭和58年7月28日 12時00分

三総第593－5号

昭和58年7月29日

島根県知事 恒 松 制 治 殿

三隅町長 三 賀 森 勝

災 害 派 遣 部 隊 撤 収 要 請 書

昭和58年7月24日付三総第593－3号をもって災害派遣を要請した「防疫活動」については、要請しました作業が終了したものと史料されますので、下記により部隊を撤収されますよう要請します。

記

撤収要請日時 昭和58年7月29日 17時00分

三総第614－1号

昭和58年8月5日

島根県知事 恒 松 制 治 殿

三隅町長 三 賀 森 勝

災 害 派 遣 部 隊 撤 収 要 請 書

昭和58年7月24日付三総第593－2号をもって災害派遣を要請した本町の「給水活動」は要請した作業が終了したものと史料されますので、下記により部隊を撤収されますよう要請します。

記

撤収要請日時 昭和58年8月5日 18時00分

陳 情 書

島根県知事 恒 松 制 治 殿

1. 昭和58年7月豪雨災害による公共土木災害について大幅な既良復旧の採択を賜りたいこと

昭和58年11月1日

島根県三隅町

(要 旨)

昭和58年7月集中豪雨による災害について、河川、道路など大幅に改良復旧を加えた特別措置の採択をいただき、早急に災害復旧をお願いします。

(理 由)

至る7月23日未明当地方を襲った集中豪雨は、本町全域にわたり、未曾有の大被害をあたえ、死者33名という惨事となりました。

今回は、降雨量が多大であるのに加えて、町全体が風化した花崗岩質の土質となっているため、各所で、がけくずれや、土石流が発生し、河川は氾濫、莫大な被害となりました。

災害復旧は、原形復旧が原則ではありますが、被災状況では到底原形復旧はのぞめず、改良復旧を要する箇所が多く、再度災害の防止のため、大幅な改良復旧の採択をいただき、関係住民が安心して生活のできる基盤づくりを賜りますよう陳情申しあげます。

昭和58年11月1日

島根県三隅町長 三賀森 勝

別 紙

県 関 係

助成事業 三隅川水系（7ヶ所） 37,376m 関 連 事 業 岡見川（2ヶ所） 2,466m

砂防災害関連 宮川外5ヶ所 5,368m 砂防一定災 折居川 2,441m

道路災害関連 三隅美都線 1,443m 橋梁災害関連 三隅大橋 105m

町 関 係

関 連 事 業 5,929m

尾実川 1,658m 河頭川 513m 的野川 2,100m

藤ヶ瀬川 412m 松ヶ原川 436m 宮ヶ迫川 810m

河川一定災 7,149m

寺田平川 1,000m 谷 川 397m 溝 下 川 328m

周布地川	688m	千松川	360m	種 川	570m	
大元川	507m	谷田川	423m	見口平川	500m	
赤濱川	340m	石浦下川	802m	上周布地川	777m	上河内川 457m
橋梁改良復旧（橋梁整備）		300m				
道正橋	130m	杉の森橋	90m	西方寺橋	80m	

２．防災都市構想によるまちづくりについて

昭和58年11月24日

島根県三隅町

（要 旨）

昭和58年7月豪雨災害により被災しました市街地の復旧について、災害に強いまちづくりのため、防災都市化を図る必要がありますが、これが実施にあたって、大幅な特別措置の採択をいただきたく、格別のご高配をお願いいたします。

（理 由）

昭和58年7月23日当地方を襲った集中豪雨は、本町にとって全町にわたり、壊滅的な被害を受け住民の70％は、生活基盤を根底より破壊されたのであります。

特に市街地の被害について、この災禍を再びくりかえさないためには、抜本的な河川改修と共に、災害に強いまちづくりが必要であり、目下県におかれましても防災都市構想が検討されておりますことに對しましては、ありがたく厚くお礼を申し上げます。

しかしながら現行制度による計画では、地元負担が相当な額となり、実現が困難な状況であります。

従いまして県におかれましても、これが善処方を考慮されますと共に、国に對しましても新しい制度の創設等による特別措置の実現を図られ、関係住民が安心して生活できる基盤づくりが1日も早く実現いたしますよう、格段のご配意を賜わりたくここに謹んで陳情申し上げます。

昭和58年11月24日

島 根 県 三 隅 町 町 長 三 賀 森 勝

島根県三隅町議会 議長 金 谷 勝 儀

3. 田原川災害復旧の早期着手方について

昭和59年 5月24日

島根県三隅町

(要 旨)

昭和58年7月集中豪雨災害を受けた田原川の改修を昭和59年度において早急に完成されますようお願いいたします。

(理 由)

田原川の河川改修につきましては、かねてより改修事業を実施していただいていたところでありましたが、昨年の7月豪雨で大被害をうけ、今回助成事業による改良復旧で施工されることに採択いただき厚くお礼申し上げます。

この田原川は、毎年の出水の都度、河川は氾濫し、河川沿いの家屋、国道は浸水し附近住民は何時も不安にさらされている現状であります。

今般、別紙要望書のとおり田原川の早期改修について地元民からも強い要望があり、今年も雨期が迫っており、現状では早期に着手していただき民生安定上、早急に完成されますようご高配をよろしく願います。

昭和59年 5月24日

三隅町長 三賀森 勝

4. 三隅町内の昭和60年度建設事業の新規要望について

昭和59年 6月 日

島根県三隅町

(要 旨)

三隅町内における建設事業につきましては平素より格別のご高配を賜わり、厚く感謝申し上げます。昭和60年度建設事業につきまして、下記事業新規採択並びに継続分の促進について特別のご高配をいただきますよう要望いたします。

記

(1)県道一の瀬折居線（井野地内）の特1改良新規採択について

(2)出合橋（主要地方道三隅美都線）の橋梁整備の新規採択について

(3)砂防指定河川の新規採択について

上河内川、上小原川、谷川上川、寺田平川、久瀬郷川、海老谷川、叶谷川、瀬松川

(4)急傾斜地崩壊防止事業の新規採択について

三隅一区、向野田郷、古湊西、古湊東、下古市、岡崎、森溝、湊浦、市場

(5)御部ダム（三隅川）の建設工事促進について

(理 由)

(1)県道一の瀬折居線（井野地区）の特1改良新規採択について

この路線は、井野地内を縦断し、浜田市に通じている。沿線は、本町の穀層地帯が存在しており近く圃場整備が着手されるので、この機会に急カーブ狭少の箇所を交通安全上危険であり、全面改良を早期に着手方お願いします。

(2)出合橋（主要地方道三隅美都線）の橋梁整備の新規採択について

三隅川と矢原川との接合点に、この出合橋が現在架設してありますが、近く三隅美都線の改良がなされるため、この三又路部分改良をこの出合橋の架設替により、安全な通行を図るため、早期に着手方お願いします。

(3)砂防指定河川の新規採択について

上河内川、上小原川、谷川上川、寺田平川、久瀬郷川、海老谷川、叶谷川、瀬松川

昨年の災害により、土石流が各地で多量に発生し下流の家屋、農地は危地な状況におかれているため、今後早急に上記箇所について早期に採択着手方お願いします。

(4)急傾斜地崩壊防止事業の新規採択について

三隅一区、向野田郷、古湊西、古湊東、下古市、岡崎、森溝、湊浦、市場

本町には、危険な急傾斜地帯が多く点在しており、昨年の集中豪雨により緊急箇所のみは、工事完成が見込まれますが、それ以外の上記箇所については、関係住民は何時も危険を感じ生活しております。

そこで、この危険な急傾斜事業の新規採択と早期完成について、格別のご配慮をお願いいたします。

(5)御部ダム（三隅川）の建設工事促進について

このダムの建設につきましては、年次計画のもとに着々関連事業の整備を進められているところであり、感謝いたしております。

今後この事業が一刻も早く完成を見、下流住民が安心して生活できる基盤づくりのため、大幅な予算措置をお願いします。

昭和59年6月 日

三隅町長 三賀森 勝

5. 県に委託する事業の工事雑費、事務費の負担割合の軽減について

昭和59年 6 月 日

島根県三隅町

(要 旨)

昭和58年7月豪雨災害の災害復旧について県に委託する事業の工事雑費、事務費の負担割合を大幅に軽減していただきますようお願いします。

(理 由)

今回の災害は、本町にとってかつてない最大の被害であり、関係者のご協力により災害復旧も着々と進みつつあり厚くお礼申し上げます。

本町内の災害復旧は、県、町をとわず改良復旧の箇所が多く、なかでも県関係の災害復旧は河川を主体に助成、関連、一定災等で実施される場所が多くあります。

町としては、その河川、道路災害に関連する橋梁など町で施工するべく採択していただいていたものを今回県に委託し施工していただくことといたしております。

しかしながら今回の大災害により本町は単独費の支出が増大し町財政は極めて、きびしい現状になっております。

そこで、これら委託工事に関係する公共土木、農林土木災害の工事雑費、事務費について下記のとおり大幅に負担軽減を賜わりますよう陳情申し上げます。

記

(1)工事雑費については 県 8 割 町 2 割

(2)事務費については 県 0 割 町 10割

昭和59年 6 月 日

三隅町長 三賀森 勝

6. 三隅町内の昭和60年度建設事業の新規要望について

昭和 年 月 日

島根県三隅町

(要 旨)

三隅町内における建設事業につきましては平素より格別のご高配を賜わり、厚く感謝申し上げます。

昭和60年度建設事業につきましては下記事業新規採択並びに継続分の促進について特別のご高配をいただきますようお願いいたします。

記

(1)主要地方道三隅美都線（三隅中枢部連担地）の改良促進について

(2)県道一の瀬折居線（井野地内）の特一改良新規採択について

(3)出合橋（主要地方道三隅美都線）の橋梁整備の新規採択について

(4)三隅川助成事業の工事促進について

(5)砂防指定河川の新規採択について

上河内川、上小原川、谷川上川、寺田平川、久瀬郷川、海老谷川、叶谷川、瀬松川

(6)急傾斜地崩壊防止事業の新規採択について

三隅一区、向野田郷、古湊西、古湊東、下古市、岡崎、森溝、市場、湊浦

(7)御部ダム（三隅川）の建設工事促進について

(8)向野田地区区画整理事業の調査並びに事業採択について

（理 由）

(1)主要地方道三隅美都線（三隅中枢部連担地）の改良促進について

この路線は、三隅市街地内を通ずる町内の唯一の県道であり、この市街連担地は防災都市構想のもとに整備を進める地域の基幹道路でもあります。

よって昨年の災害を契機に市街地整備の要望があり、今後良好な都市形態を保つため、改良を早期に着手方お願いします。

(2)県道一の瀬折居線（井野地内）の特一改良新規採択について

この路線は、井野地内を縦断し、浜田市に通じている。沿線は、本町の穀層地帯が存在しており、ほ場整備の計画がある。

この機会に急カーブ狭少の箇所を交通安全上危険であり全面改良を早期に着手方お願いします。

(3)出合橋（主要地方道三隅美都線）の橋梁整備の新規採択について

三隅川と矢原川との接合点に、この出合橋が現在架設してありますが、近く三隅美都線の改良がなされるため、この三叉路部分改良をこの出合橋の架設替により安全な通行を図るため、早期に着手方お願いします。

(4)三隅川助成事業の工事促進について

58年7月豪雨災害により三隅川水系は、壊滅的被害を受けたことにより、河川助成事業にて、目下工事施工中でありますことについて厚く感謝申し上げます。

しかしながら、完成は短期間では困難でありましようが流域住民は、一刻も早く完成を待ち望んでおりますので、可及的すみやかに竣工方よろしくお願いします。

(5)砂防指定河川の新規採択について

上河内川、上小原川、谷川上川、寺田平川、久瀬郷川、海老谷川、叶谷川、瀬松川

58年7月豪雨災害により、土石流が各地で多量に発生し、下流の家屋、農地は危険な状況におかれていますため、今後早急に上記箇所について採択着手方をお願いします。

(6)急傾斜地崩壊防止事業の新規採択について

三隅一区、向野田郷、古湊西、古湊東、下古市、岡崎、森溝、市場、湊浦

本町には、危険な急傾斜地帯が多く点在しており、昨年の集中豪雨により緊急箇所のみは、工事完成が見込まれますが、それ以外の上記箇所については、関係住民は何時も危険を感じ生活しております。

そこで、この危険な急傾斜事業の新規採択と早期完成について、格別のご配慮をお願いいたします。

(7)御部ダム（三隅川）の建設工事促進について

このダムの建設につきましては、年次計画のもとに着々関連事業の整備を進められているところであり、感謝いたしております。

今後この事業が一刻も早く完成を見て、下流住民が安心して生活できる基盤づくりのため、大幅な予算措置をお願いします。

(8)向野田地区区画整理事業の調整並びに事業採択について

この区域は、58年7月豪雨災害を契機に防災都市構想により、市街地開発を図るため準備を進めている。

今後良好な住環境整備を図るため区画整理を実施いたしたいので、是非採択方をお願いします。

昭和59年 月 日

三隅町長 三賀森 勝

災害前の建設に関する陳情書

1. 三隅港整備の強力な推進と昭和59年度港湾関係予算の大幅増額について

昭和58年 月 日

島根県三隅町

平素は港湾整備の促進につきましては格別の御配慮をいただき感謝申しあげます。

三隅港のエネルギー港建設につきましては、種々ご協力、ご指導を賜わり厚くお礼申しあげます。

当港は、当地域の発展に資することは大であり、島根県の西部地域の産業立地の拠点として今後計画的整備を進め地域の飛躍的振興に寄与するため、早急に完成していただきたく衷心よりお願い申しあげます。

昭和58年 月 日

三隅町長 三賀森 勝

2. 三隅町内の建設事業の新規採択と工事促進について

昭和58年 月 日

島根県三隅町

三隅町における建設事業につきましては、平素から格別のご高配を賜わり厚く感謝申しあげます。

昭和59年度建設事業につきまして、新規採択並びに継続事業の促進方について特段のご高配をいただきますよう要望いたします。

記

新規採択要望

(1)出合橋（下古和）橋梁新設について

(2)一の瀬折居線（井野）特1改良について

(3)鹿子谷川（河内）砂防えんてい新設について

(4)神元川（三隅）砂防流路工新設について

事業促進要望

(1)御部ダム（三隅川）の建設工事促進について

(2)三隅美都線（下古和）特1改良の工事促進について

(3)三隅川（中小河川）改修工事促進について

(4)細田川（小規模河川）改修工事促進について

- (5)砂防事業（上河内川、田原川、石田川）の工事促進について
- (6)急傾斜崩壊防止事業（田原、須津三区、下古市、福浦三区）の工事促進について
- (7)地すべり防止事業（室谷）の工事促進について

陳 情 要 旨

新規採択要望分

- (1)出合橋（下古和）橋梁新設について

出合橋（三隅美都線）は黒沢安城浜田線の起点附近の矢原川に架設してありますが、この附近は三隅町との合流点でもあり、路線の前後は改良済で、この出合橋の附近が未改良であります。したがって、この附近は路線の法線が悪く、附近には三隅南小学校があり、児童の通行も多く、交通、治水上からも曲線改良が必要で特に交通安全上危険でありますので新設方お願い申し上げます。

- (2)一の瀬折居線（井野）特1改良について

一の瀬折居線は本町の奥部を浜田に通ずる唯一の路線で急坂箇所や急カーブも多く、又沿線では本町の穀倉地帯であり、現在ほ場整備を実施中であります。

現在この路線の改良を県単事業にて用地買収を進めていただいております。

しかしながら、現下のきびしい財政事情では県単事業として早期完成を要望することは困難と考えますので、特1改良として新規採択の上改良方お願い申し上げます。

- (3)鹿子谷川（河内）砂防えんていの新設について

鹿子谷川は砂防指定河川ですが、流域沿岸には近接して民家もあり、出水の都度、浸水の危険にさらされている現状であります。

又、上流は谷あいの崩壊もあり、土石流の危険が予想されますので早期に砂防えんていの新設の採択をお願い申し上げます。

- (4)神元川（三隅）砂防流路工新設について

この河川は、上流にえんていを新設していただいておりますが、下流は河川勾配も少なく、土砂の堆積を生じる現状で、沿線には民家も多く危険でありますので、流路工の新設により流速を早めて河川形態の整備をはかるべく新規採択をお願い申し上げます。

事業促進要望

- (1)御部ダム（三隅町）の建設工事促進について

御部ダムの建設につきましては、工事計画のもとに着々と関連事業の整備を進められているところであり感謝いたしております。

今後、この事業が一刻も早く完成を見、下流住民が安心して生活できる基盤づくりのため、今後大幅な予算措置により格別なるご配慮をお願い申し上げます。

(2)三隅町美都線（下古和）特1改良の工事促進について

この路線は、本町をはじめこの地方が国道9号線と191号線とを結ぶ最短県道であり、今回中国縦貫自道車道の開通により、最近は交通量も多く利用が益々増進される傾向で、交通安全上からも早期に完成いただきますようお願い申し上げます。

(3)三隅川（中小河川）改修工事促進について

この河川は、河川改修計画のもとに着々実施していただき感謝いたしております。

しかしながら工事を早期に完了を見ないと沿岸下流住民は出水の都度、不安の連続でありますので、今後引続いて大幅な予算措置により早期完成について特別のご配慮をお願い申し上げます。

(4)細田川（小規模河川）改修工事促進について

この河川は年毎に着々と工事を進めていただき感謝にたえない次第であります。

しかしながら、この細田川は地質の悪いのと河川勾配が少ないため、工事費が多額を要し完成までには今後相当の年数を要するものと考えられますので、今後大幅な予算措置により早期完成について特別のご配慮をお願い申し上げます。

(5)砂防事業（上河内川、田原川、石田川）の工事促進について

砂防河川については、毎年いくつかの工事を実施していただいております、下流の家屋、農地等恩恵を受けております。

しかしながら、上河内川、田原川、石田川は共に出水の都度、土石流出により下流は浸水埋没する個所が後をたたず、この砂防河川の今後大幅な予算措置により、下流住民の民生安定のため早期完成をお願い申し上げます。

(6)急傾斜地崩壊防止事業（田原、須津三区、下古市、福浦三区）の工事促進について

本町には危険な急傾斜地帯が多く点在しており、毎年の集中豪雨により家屋の被害が続出し、関係住民が危険にさらされております。

上記4地区は、継続事業により工事を進めていただいておりますが早期完成について格別のご高配をお願いいたします。

尚、県単急傾斜についても新規採択の程よろしくお願い申し上げます。

(7)地すべり防止事業（室谷）の工事促進について

本町には地すべり地帯が多く、区域内住民は何時も不安な日々を過ごしており、住民の生活安定のため大幅な予算措置により早期完成をお願い申し上げます。

昭和58年 月 日

三 隅 町 長 三賀森 勝

三隅町議会議長 金谷 勝 儀

昭和五十九年 (一九八四)	二・七、 三・七	豪雪	新潟県	死者二二人、負傷者一四五人、全壊、 流失四棟、半壊三棟、一部破損七六棟 床上浸水一四棟、床下浸水一一五棟、 死者十人、負傷者四四人、半壊二棟、 一部破損八棟、床上浸水五棟、床下浸 水一棟	二月 アンドロポフ氏死去、ソ 連書記長にチエルネンコ氏 三月 グリコ・森永脅迫事件 九月 韓国の全斗煥大統領が国 賓として初来日 十月 ガンジー・インド首相暗 殺 十一月 千円、五百円、一万円 の新札発行
	二・八、 二・十三	〃	長野県		
	八・一六	台風五号	山梨県河口湖町、 富士吉田町	死者一人、負傷者一七人、全壊、流失 一一棟、半壊六六棟、床上浸水三〇九 棟、床下浸水三八八棟	保革伯仲 年間 異常気象、アフリカなど で干ばつ、米中西部、欧州で 熱波
	九・二五	集中豪雨	北海道登別市	負傷者一人、全壊、流失四棟、半壊一 四棟、一部破損一二棟、床上浸水五九 〇棟、床下浸水六八七棟、 床上浸水六三八棟、床下浸水二、一六 五棟	
	九・二七	台風一〇号	宮崎県新富町、宮 崎市	負傷者二九人、全壊、流失一八棟、半 壊一一棟、一部破損二棟	
	九・二八	〃	沖縄県伊是名村	死者三人、負傷者五人、全壊、流失九 棟、半壊二九棟、一部破損七棟、床上 浸水六三八棟、床下浸水二、五四三棟	
	〃	〃	兵庫県	死者三人、負傷者一三人、全壊、流失 二六棟、半壊三三棟、一部破損一棟、 床上浸水三、二四四棟、床下浸水二、 七七五棟	
	九・二八、 二九	〃	長野県	死者一人、負傷者一人、全壊、流失三 一棟、半壊一一棟、床上浸水一、七三 一棟、床下浸水一七九棟	
	十・三	火山噴火	岐阜県	死者一人、負傷者一人、全壊、流失三 一棟、半壊一一棟、床上浸水一、七三 一棟、床下浸水一七九棟	
	十一・七	台風一七号	東京都三宅村 東京都小笠原村	全壊、流失三三〇棟、床上浸水一八二 棟 負傷者六人、全壊、流失三一棟、半壊 二四棟、一部破損九六棟、床上浸水一	

災害発生	年	種目	主な被災地	主な被害状況	一般事項
	月日				
昭和五十七年 (一九八二)	九・一二	台風一八号	静岡県	死者一四人、行方不明者一人、負傷者四五人、全壊、流失四七棟、半壊二九棟、床上浸水六、三〇九棟、床下浸水一四、五三五棟 負傷者一人、半壊五棟、床上浸水二、〇四六棟、床下浸水二九、一八六棟 負傷者二人、床上浸水一、〇七九棟 床下浸水四八三棟	
	九・一三	台風一八号	埼玉県 長野県	負傷者四人、全焼六一棟	
	四・二七	山火事	岩手県久慈市	死者七八人、負傷者二五九人、全壊、流失一、一八三棟、半壊二、六六〇棟 一部破損二、六八五棟、床上浸水六三棟、床下浸水二六八棟 死者一〇人、負傷者一人、全壊、流失四三一棟、半壊六六七棟、一部破損一、八二四棟、床上浸水五九棟、床下浸水二七棟 床上浸水一三〇棟、床下浸水一、二六〇棟	三月 申 三月 OPECが原油初値下げ 六月 初の比例代表参院選、自民圧勝 七月 免田さんの無罪確定 八月 アキノ氏マニラ空港で暗殺される 九月 大韓航空機、サハリンで墜落 十月 ラングーンで韓国要人爆殺テロ 十月 レバノン戦争激化、米軍介入深める 十月 米軍グレナダに侵攻 十月 田中元首相に懲役四年の実刑判決 十月 日本初の体外受精児誕生 十一月 欧州ミサイル配備で東西対立激化 十一月 レーガン、コール、胡耀邦来日で首脳外交 十一月 行革七法成立 十二月 年末総選挙で自民大敗
	五・二六 三〇	日本海中部地震	秋田県		
	五・二七 六・一	//	青森県		
昭和五十八年 (一九八三)	五・三〇	集中豪雨	鹿児島県瀬戸内町	死者一人、全壊、流失四棟、半壊一棟 一部破損八棟、床上浸水六九二棟、床下浸水一、六三五棟 死者一〇三人、行方不明者四人、負傷者一五二人、全壊、流失一、〇〇三棟、半壊二、〇四六棟、一部破損五四五棟、床上浸水六、九六五棟、床下浸水六、六九九棟 死者五人、負傷者七人、全壊、流失二四棟、半壊一二棟、一部破損二九棟、床上浸水一九六棟、床下浸水七八〇棟	
	六・二一	集中豪雨	鹿児島県加世田市		
	七・二三	集中豪雨	島根県西部		
	//	//	山口県田万川町、須佐町		

昭和五十七年 (一九八二)	七・十二 十四	集中豪雨	熊本県	死者一人、負傷者四人、全壊、流失一〇棟、半壊二六棟、床上浸水七二九棟、床下浸水七四八棟	四月 フォークランド紛争起きる
七・二三 二四	集中豪雨	長崎県	死者二八八人、行方不明者四人、負傷者七九八人、全壊、流失五七六棟、半壊一、〇〇六棟、床上浸水一九、一四二棟、床下浸水五、七二七棟	六月 イスラエル、レバノンに侵攻、難民大虐殺	
七・二四	集中豪雨	大分県竹田市	死者七人、負傷者二人、全壊、流失一六棟、半壊一〇棟、床上浸水二四八棟、床下浸水一五〇棟	六月 米国でIBM産業スパイ事件が発覚	
七・二四 二七	集中豪雨	熊本県	死者一人、負傷者二人、全壊、流失三九棟、半壊八八棟、床上浸水四、六五三棟、床下浸水一二、七四一棟	七月 臨調が基本答申、国鉄が焦点に	
七・三一 八・二	台風一〇号	群馬県高崎市	全壊、流失一二棟、半壊六〇棟、床上浸水三七四棟、床下浸水二、〇三四棟	八月 参院全国区に拘束名簿式比例代表制を導入	
八・一 八・二	台風一〇号	和歌山県新宮市	床上浸水五二二棟、床下浸水七〇七棟	九月 十一月 三越不正事件、社長解任、岡田、竹久を起訴	
八・一 八・二	台風一〇号	山梨県	全壊、流失五棟、半壊九棟、床上浸水一〇六棟、床下浸水七〇七棟	十月 十一月 鈴木首相退陣、中曽根内閣が誕生	
八・一 八・三	台風一〇号	奈良県	負傷者一人、全壊、流失七〇棟、半壊一八五棟、床上浸水二、二四二棟、床下浸水一、一八三棟	十一月 プレジネフ・ソ連共産党書記長死去、後任にアンドロポフ氏	
八・二 八・三	台風一〇号	三重県	死者一人、行方不明者二人、負傷者二人、全壊、流失四四棟、半壊七三棟、床上浸水一、四七八棟、床下浸水五、一〇九棟	十二月 金大中氏、米国へ移送	
八・二 八・三	台風一〇号	大阪府	全壊、流失三七棟、半壊七棟、床上浸水四、一四二棟、床下浸水二四、六五四棟	年間 反核・軍縮の世論高まり	
八・九 一三	台風一一号	沖縄県	全壊、流失二七棟、半壊四四棟、床上浸水一棟、床下浸水一四棟	年間 国連特別総会へ百万人デモ	
一三	台風一一号	宮崎県日之影町	死者三人、負傷者二人、全壊、流失一棟、半壊一六棟、床上浸水二七棟、床下浸水四七棟	年間 税金不足六兆円超え、財政危機深刻に	
八・二六 九・一二	台風一八号	宮崎県高岡町	床上浸水一五三棟、床上浸水一七四棟	年間 ロ事件全日空ルートで全員有罪判決、田中裁判の審議終わる	
八・二六 九・一二	台風一八号	岩手県久慈市	床上浸水二六〇棟、床下浸水三四一棟		
八・二六 九・一二	台風一八号	東京都	床上浸水五、〇九八棟、床下浸水二、三五九棟		

災 害 発 生	年 月 日	種 目	主 な 被 災 地	主 な 被 害 状 況	一 般 事 項
昭和五十六年 (一九八二)	四・二七 七・三 七・七 七・一三 七・二二 八・三 八・六 八・二一 八・二三 八・二三	火災 集中豪雨 集中豪雨 集中豪雨 集中豪雨 集中豪雨 台風一五号 台風一五号 台風一五号	兵庫県神戸市 石川県加賀市 福岡県北九州市 中間市 岡山県湯原町 東京都新宿区、文京区、目黒区、豊島区 北海道 北海道札幌市、伊達市 新潟県小出町、六日町 長野県須坂市 茨城県竜ヶ崎 東京都 千葉県	金焼一〇四棟 床上浸水一、〇九棟、床下浸水九六三棟 死者四人、負傷者七人、全壊、流失一棟、半壊二棟、床上浸水九四七棟 床下浸水三、一〇六棟 死者二人、負傷者三人、全壊、流失二棟、半壊六三棟、床上浸水一二五棟 床上浸水一八二棟 床上浸水一、七五一棟、床下浸水四、二七〇棟 死者一人、負傷者一人、全壊、流失四七棟、半壊三六棟、床上浸水四、九一七棟、床下浸水一二、五二一棟 死者一人、負傷者一人、全壊、流失二棟、半壊五棟、床上浸水一、一四四棟 床下浸水四、七六六棟 負傷者三人、半壊一棟、床上浸水一、一四八棟、床下浸水九三〇棟 死者一〇人、負傷者二〇人、全壊、流失一〇棟、半壊一〇棟、床上浸水九一棟、床下浸水三二八棟 負傷者二人、半壊四五棟、床上浸水三八〇棟、床下浸水七五八棟 床上浸水七、〇四一棟、床下浸水三三六〇棟 半壊一一棟、床上浸水七、七二八棟、床下浸水二、六九二棟	一月 レーガン政権発足、強硬路線 四月 宇宙飛行線コロンビアの飛行成功 四月 敦賀原発で放射能漏出、事故隠し 五月 フランス大統領にミッテラン氏 十月 福井京大教授ノーベル化学賞受賞 十月 サダト・エジプト大統領暗殺 十月 北炭夕張新鉱でガス突出事故、九三人の犠牲者 年間 レーガン狙撃など先進諸国でテロ続発 年間 第二臨調一次答申、行革法成立 年間 対米欧の貿易黒字、史上最高に
昭和五十七年 (一九八二)	五・二〇 五・二二 五・二二	集中豪雨 集中豪雨 集中豪雨 台風二四号 台風二四号 台風二四号	青森県八戸市 岩手県久慈市	床上浸水一、二〇九棟、床下浸水一、八三八棟 死者一人、床上浸水六〇一棟、床下浸水一、三六七棟	二月 日航機羽田沖に墜落、二人死亡、一四一人重軽傷 二月 ホテルニュージャパン火災で三三人死亡

昭和四十九年 (一九七四)	五・九	伊豆半島沖地震 (M六・九)	伊豆半島南部	死者、不明二九人、傷者七八人、家屋 全半壊一七一、同一部破損七一、同 半壊七 死者一一一人、傷者一七一人、不明四 四人、建物一、四五二、同浸水一四九、 三三四人、田畑一六、二三〇ヘクタ ル	三月十日 ルパン島で小野田 少尉救出される 八月三十日 三菱ビル爆破事件 十月八日 佐藤栄作元首相ノ ベル平和賞受賞
昭和五十年 (一九七五)	八・十六☆ 十八	風水害(台風第 五号)	四国、中国、近畿 関東、東北北部、 北海道南部	死者、不明七十七人、傷者二〇九人、建 物二、四一九、同浸水五〇、二二二、 田畑一二、七二二ヘクタール	三月十日 新幹線岡山〜博多間 開業 七月十九日 沖縄海洋博
昭和五十一年 (一九七六)	九・八☆ 四	風水害(台風第 七号・前線)	全国的、特に香川 岡山	死者、不明一六九人、傷者三四〇人、 建物二、八三三、同浸水四五二、二〇 三、田畑八八、九六五ヘクタール	二月四日 ロッキード事件 九月六日 ソビエトミグ二五函 館へ強行着陸
昭和五十二年 (一九七七)	八・七〜十四	有珠山噴火	北海道(伊達市、 洞爺村、虻田町、 荘幣町、留寿都村)	住家三八二、非住家三三、田二四五ヘ クタール、畑三、五九八ヘクタール	五月二日 領海一二カイリ設定 九月二十八日 日本赤軍日航機 乗っ取り
昭和五十三年 (一九七八)	一・四 五・十八 六・十〜二十 九 六・十二	伊豆大島近海地 震(M七・〇) 地すべり 水害(前線) 宮城県沖地震 (M七・四)	静岡、神奈川 新潟(妙高高原町) 全国的(北海道を 除く)特に新潟 宮城、福島、岩手	死者、不明二五人、傷者一三九人、家 屋全壊六三三、同一部破損三、七六三 死者、不明十三人、家屋全半壊一六 死者、不明一八人、傷者五六人、家屋 全半壊七三、同一部破損二九五、同浸 水二四、四〇八 死者、不明二八人、傷者二、九九五人 家屋全半壊七、五四九、同一部破損七 八、三六四	五月二十五日 成田空港開始 十月 日中平和条約締結 十月 円急騰、一ドル=一八〇 円を突破 十二月 OPEC、原油値上げ を決定
昭和五十四年 (一九七九)	十・十七〜二	台風二十号	全国、特に東海、 関東、東北	死者一〇人、行方不明者五人、負傷 者五四三人、全壊、流失一三九棟	七月 東名高速日本坂トンネル 事故
昭和五十五年 (一九八〇)	十二〜昭和五 十六年三	雪害	東北、北陸	死者一三三人、行方不明一九人、負傷 者二、一五八人、全壊、流失一六五棟	六月〜七月 大平首相急死、鈴 木内閣発足

年	月	日	種 目	主 な 被 災 地	主 な 被 害 状 況	一 般 事 項
昭和四十三年 (一九六八)	四・一		日向灘地震 (M七・五) 十勝沖地震 (M七・九) 風水害(台風第 七号・前線)	宮崎県宮崎市、延 岡市 東北、北海道南部 特に青森 長崎、岐阜	傷者五七人、住家全半壊四〇、同浸水 五六 死者四九人、不明三人、傷者三三〇人 建物全半壊三、六七七、同浸水五二七 死者一一二人、不明二人、傷者六三 人、建物一九三、田畑一、九四六ヘク タール 飛驒川バス転落(死者一〇四人)	四月五日 小笠原諸島返還協定 調印 七月一日 郵便番号制度発足 十月二日 メキシコオリンピック ク大会 十月十七日 川端康成氏、ノー ベル文学賞受賞 十二月十日 三億円事件
昭和四十四年 (一九六九)	六・二十四☆ 七・十一		水害(前線) 水害(台風第七 号・前線)	関東以西、特に鹿 児島 中部、東北部	死者八一人、不明八人、傷者一八四人 建物五二一、田畑五五、〇六四ヘクタ ール 死者四七人、不明一五人、傷者一〇一 人、建物四九五、田畑二一、八二二ヘ クタール	七月二十日 アポロ一一人類 初の月着陸
昭和四十七年 (一九七二)	七・三☆ 三		水害(四十七年 七月 豪雨)	全国的、特に北九 州、島根、広島	死者四一〇人、不明三一人、傷者六五 二人、建物四、八六三、同浸水二三〇、 〇三八、田畑一四六、〇九五ヘクタ ール	一月二十四日 横井さんグアム 島より生還 二月三日 札幌冬季オリンピック ク大会 二月七日 浅間山荘事件 九月二十九日 日中正常化成る
昭和四十八年 (一九七三)	六・十七		根室半島沖地震 (M七・四)	根室市	傷者二六人、家屋全半壊三、同浸水二 七五	一月二十七日 ペトナム和平協 定 八月八日 金大中氏東京から 致される 十月二十三日 江崎玲於奈氏ノ ーベル物理学受賞

昭和三十三年 (一九六八)	二・二十一	えびの地震 (M五・七)	宮崎県えびの町	死者三人、傷者四人、建物全半壊一、〇〇四、山くずれ多し	二月二十六日 成田空港闘争はじ
昭和四十一年 (一九六六)	九・二十四☆ 二四、二六号	風水害(台風第 二四、二六号)	中部、関東、東北 特に静岡、山梨	死者二七五人、不明四三人、傷者九七 六人、建物一、七三四、田畑三四、 一五九ヘクタール	二月四日 全日空ボーイング727 東京湾に墜落 三月三十一日 日本の総人口一 億人を突破
昭和四十二年 (一九六七)	七・八〜十☆ 八・二十六☆ 二二九	水害(四十二年 七月豪雨) 水害(前線)	中部以西、特に長 崎、広島、兵庫 新潟、東北南部	死者三六五人、不明六人、傷者六一八 人、建物二、四四一、同浸水三〇一、 四四四、田畑四四、四四四ヘクタール 死者一三三人、不明三三人、傷者一九 〇人、建物一、五八四、田畑六二、六 七八ヘクタール	八月三日 公害対策基本法公布
昭和四十九年 (一九六四)	六・十六☆ 七・七〜十 九	新潟地震 (M七・五) 水害(前線) (三十九年七月 山陰、北陸豪雨)	新潟、秋田、山形 山陰、北陸	死者二六人、家屋全半壊八、六〇〇、 同浸水一五、二九七、道路の被害大 死者一三三人、不明五人、傷者二九一 人、建物一、五四九、建物一、五四九 田畑三六、〇四二ヘクタール	七月二十五日 米英ソ部分的核 実験停止条約仮調印 十一月一日 新千円札発行
昭和四十年 (一九六五)	八・三〜 九・十〜十 一二三号	松代群発地震 風水害(台風第 二三号) 風水害(前線・ 台風第二四号)	長野市松代付近 全国的、特に徳島 兵庫 全国的、特に福井	昭和四十四年末までに松代で有感地震 六二、六二一回 傷者一五人、家全半壊一四、地すべ り六四箇所 四十二年四月と八月が最大 死者六七人、不明六人、傷者八八三人 建物四、一七〇、田畑二二、三三三ヘ クタール 死者九八人、不明九人、傷者三三〇人 建物一、三二九、同浸水二五一、八二 〇、田畑一〇九、三七八ヘクタール	六月二十二日 日韓基本条約調 印 六月三十日 名神高速道路前面 開通 十月二十一日 朝永振一郎氏、 ノーベル物理学賞受賞 十一月十九日 閣議、国債発行 を決定
昭和三十八年 (一九六三)	三・二十七	越前岬沖地震 (M六・九)	福井県敦賀、小浜	住家全半壊六、小被害	四月一日 日本IMF八条国に 移行 四月二十八日 OECDに加盟 十月一日 東海道新幹線開通 十月十〜二十四日 第十八回オ リンピック東京大会

年	月	日	種 目	主 な 被 災 地	主 な 被 害 状 況	一 般 事 項
昭和三十四年 (一九五九)	九	二十六☆ 二十七	風水害(伊勢湾 台風・高潮)	九州を除く各地方 特に愛知	死者四、七〇〇人、不明四〇一人、傷 者三八、九一七人、建物一五三、八九 三、同浸水三六三、六一一、田畑二〇 四、三〇七ヘクタール	
昭和三十五年 (一九六〇)	五	二十三	チリ地震津波 (M・八・五)	北海道南岸、三陸 海岸、志摩半島	死者一九九人、不明二〇人、家屋全半 壊三、七五四、同流失一、二五九	六月十五日 全学連国会突入を はかり警官隊と衝突 六月二十三日 新安保条約批准 書交換・発効 十二月二十七日 国民所得倍増 計画
昭和三十六年 (一九六一)	六	二十四☆ 七・十	水害(三十六年 六月豪雨)	山陰、四国、近畿 中部、関東	死者三〇二人、不明五五人、傷者一、 三二〇人、建物三、六六六、同浸水四 〇三、九四八、田畑三四〇、四四〇ヘ クタール 死者八人、家屋全壊一二、山くずれ九 九箇所 死者一九四人、不明八人、傷者四、九 七二人、建物六一、九三二、同浸水三 八四、一二〇、田畑八二、八五〇 死者七八人、不明三六人、傷者八六人 建物六七八、田畑三二、一九〇ヘクタ ール	四月十二日 人間衛星船ポスト ーク一号打上げ 五月十六日 韓国に軍事クーデ ター 七月三十一日 北陸本線「北陸 トンネル」開通 九月三十日 愛知用水完成
昭和三十七年 (一九六二)	四	三十 七・一〇九	宮城県北部地震 (M六・五) 水害(前線)	宮城県築館、石越 小牛田 関東以西、特に九 州	死者三人、住家全半壊一、九二一、橋 梁、道路、鉄道被害多し 死者一一二人、不明一一五人、傷者一 七人、建物三九三、田畑八九、八八八 ヘクタール	五月三日 国鉄三河島事故 九月二十六日 東洋一の若戸大 橋完成

昭和二十八年 (一九五三)	十一・二十六	房総沖地震 (M七・五)	伊豆諸島、八丈島	四五五、八七五、田畑三一八、六五七町歩 道路、発電所に被害	
昭和二十九年 (一九五四)	九・十～十四 九・二十五～ 二十七	風水害(台風第 一二号) 風水害(洞爺丸 台風)	関東以西特に南九 州 全国的、特に北海 道、四国	死者一〇七人、不明三九人、傷者三一 一人、建物六、八九七、同浸水一八一、 七九六、田畑六一、五八三町歩 死者一、三二七人、不明三七一人、傷 者一、三七八人、建物三〇、一六七、 同浸水一〇三、五三三、田畑八二、九 六二町歩 函館港七浜沖で洞爺丸や仮停泊中の貨 物船四隻転覆、一、四一四人が死亡、 行方不明となった。	三月一日 「第五福竜丸」ビキ ニ水爆実験放射能被災 三月八日 MSA協定調印 六月九日 防衛庁設置法・自衛 隊法公布
昭和三十三年 (一九五八)	七・二十五～ 二十八 九・十五～十 八	水害(前線) 諫早の大雨 風水害(台風第 二一号・前線)	九州特に諫早市付 近 東日本、近畿	死者八五六人、不明一三六六人、傷者三、 八六〇人、建物四、三七二、田畑四三、 五六六町歩	三月二十七日 EEC条約調印 十月一日 五千円札、百円玉発 行 十月四日 人工衛生スプートニ ク一号打ち上げ
昭和三十四年 (一九五九)	八・十三～十 四 九・十五～十 八	風水害(台風第 七号) 風水害(台風第 一四号)	近畿、中部、関東 特に甲信越 沖繩、西日本、北 陸、北日本、特に 宮古島	死者二五人、不明四七人、傷者一一一 人、建物九一六、田畑二五、六三〇町 歩 死者八七四人、不明二八三人、傷者一、 八四九人、建物四、七〇八、同浸水五 二一、七一一、田畑八九、八三九町歩 死者一九四人、不明四八人、傷者一、 五五九人、建物一四、三〇〇、同浸水 一二六、〇九九、田畑七四、一六九ヘ クタール 死者四七人、不明五二人、傷者五〇三 人、建物一三、一〇七、田畑三、五六 六ヘクタール	三月九日 関門国道トンネル開 通 四月一日 売春防止法実施 十二月一日 一万円札発行 十二月二十三日 東京タワー完 成 一月一日 メートル法実施 二月八日 黒部トンネル開通 四月十日 皇太子殿下と美智子 妃結婚

年	災害発生		種目	主な被災地	主な被害状況	一般事項
	月	日				
昭和二十六年 (一九五二)	十・十三	☆ 十五	風災害(ルース 台風)	東北以西、特に山 口	死者五七二人、不明三七一人、傷者二 六四四人、建物七二、六三五、同浸水 一三八、二八三、田畑一二八、五一七 町歩	
昭和二十七年 (一九五三)	三・四 三・七 六・二十二 二十四 七・七	十一 十二・十八	十勝沖地震 (M八・一) 大聖寺沖地震 (M六・八) 風水害(ダイナ 台風) 水害(前線) 吉野地震 (M七・〇)	北海道南部、東北 北部 福井、石川 関東、以西、特に 静岡 中国、四国、近畿 東海 奈良県中、北部	死者二八人、不明五人、家屋全半壊二 一三九、同流失九一 死者七人、家屋半壊四、同焼失二七 死者六五人、不明七〇人、傷者二八人 建物一六二、田畑四〇、九二三町歩 死者六七人、不明七三人、傷者一〇七 人、建物六二二、同浸水一六一、〇二 七、田畑六八、〇六四町歩 死者九人、住家全壊二〇 春日大社の石燈籠一、六〇〇中、六五 〇倒壊	四月二十八日 対日平和条約、 日米安全保障条約発効 五月一日 メーデー事件 七月四日 破壊防止法案衆議院 で成立
昭和二十八年 (一九五三)	六・二十五 ☆ 二十九	七・十六 ☆ 二十五 八・十四 ☆ 十 五 九・二十四 ☆ 二十六	水害(前線) 水害(前線) 風水害(台風第 一三号)	九州、中国、四国 特に北九州 東北以西、特に和 歌山 東近畿、特に京都 (山城水害) 全国的、特に近畿	死者七四八人、不明二六五人、傷者二、 七二〇人、建物一七、三七〇、同浸水 四五四、六四三、田畑二六八、八一〇 町歩 「昭和二十八年 梅雨大被害」 明治二十二年以来六十三年来のことで 筑後川水系久保川の流域全面浸水 死者七一三人、不明四一人、傷者五、 八一九人、建物九、八二九、田畑九八、 〇四六町歩 死者二九〇人、不明一三九人、傷者九 九四人、建物一、六五三、田畑一一、 八七六町歩 死者三九三人、不明八五人、傷者二、 五五九人、建物二六、〇七一、同浸水	七月二十七日 朝鮮休戦協定調 印 八月七日 スト規制法公布 施 行

昭和二十三年 (一九四八)	六・二十八☆ 九・十一☆ 十二 九・十五☆ 十七	福井地震 (M七・三) 水害(低気圧) 風水害(アイオン台風)	福井平野 西日本 関東、甲信、東北 特に岩手	死者三、八九五人、家屋全半壊四六、八六九、同焼失三、六九一 死者一二一人、不明一二六人、傷者三一七人、建物一、二六四、田畑九三一町歩 死者五二二人、不明三二六人、傷者一、九五六人、建物一八、〇一六、同浸水二〇、〇三五、田畑一一三、四二七町歩	一月二十六日 帝銀毒殺事件 六月二十三日 昭和電工事件 十二月十八日 米政府日本経済安定九原則を指示
昭和二十四年 (一九四九)	六・十七☆ 十二 八・十三☆ 八・三十一☆ 九・一	風水害(デラ台風) 風水害(ジュテイス台風) 風水害(キティ台風・高潮)	九州より東北南部 特に鹿児島、愛媛 九州、四国 東日本、特に関東	死者二〇二人、不明二一六人、傷者三六七人、建物五、三九八、田畑八〇、三〇一町歩 死者一五四人、不明二五人、傷者二三人、建物二、五三五、同浸水一〇一、九九四、田畑一〇四、九七三町歩 死者一三五人、不明二五人、傷者四七九人、建物一七、二〇三、同浸水一四四、〇六〇、田畑四八、五九八町歩 台風は小田原の西へ上陸、横浜港では一万トンの船など開港以来の被害 死者八人、住家全半壊三、二八四、非住家全壊五八三、崖くずれ六〇箇所	二月二〇日 秋田県能代市大火 七月五日 下山事件 七月十五日 三鷹事件 八月七日 松川事件 十一月三日 湯川英樹博士ノベル物理学賞受賞
昭和二十五年 (一九五〇)	八・三☆ 九・三☆ 四☆	水害(熱帯低気圧) 風水害(ジェーン台風)	東日本 四国、近畿、中部 北日本 大阪市尼ヶ崎海岸の被害甚大	死者四〇人、不明五九人、傷者七六四人、建物三八六、田畑四七、七二二町歩 死者三九八人、不明一四一人、傷者二六、〇六二人、建物二二〇、九二三、同浸水二四四、五〇二、田畑八五、〇一八町歩	六月二十五日 朝鮮戦争はじまる 七月二十八日 レッドパージはじまる 八月十日 警察予備隊令公布・施工 ○特需景気おこる
昭和二十六年 (一九五一)	七・七☆ 十七	水害(前線)	中部以西、特に京都	死者一六二人、不明一四四人、傷者三五八人、建物一、三五七、同浸水一〇三、二九八、田畑一四一、七五五町歩	九月八日 サンフランシスコで対日講和条約調印 九月八日 日米安全保障条約調印

災 害	年	発 生	種 目	主 な 被 災 地	主 な 被 害 状 況	一 般 事 項
	月 日					
昭和二十年 (一九四五)	一・十三		三河地震 (M七・二)	愛知県南部	死者一、九六一人、住家全半壊一七、二四五、非住家全壊六、六〇三、規模の割に被害大	二月四日 ヤルタ会談 五月七日 独軍連合軍へ無条件降伏
	九・十七☆ 十八		風水害(枕崎台風)	西日本、特に広島	死者二、四七三人、不明一、二八三人 傷者二、四五二人、建物八八、〇三七 同浸水二七三、二八四、田畑一六七、一三一町歩	七月十七日 ポツダム会談 八月六日 米軍広島に原子爆弾投下 八月十五日 日本無条件降伏、第二次世界大戦終わる 十二月九日 GHQ農地改革指令 十二月十七日 婦人参政権
昭和二十一年 (一九四六)	十・十〜十三		風水害(阿久根台風)	西日本、特に鹿児島、兵庫	死者三七七人、不明七四人、傷者二〇二人、建物六、一八一、同浸水一二四、一三六、田畑一五八、八九三町歩	一月一日 天皇人間宣言 五月三日 極東国際軍事裁判所開延
	十二・二一☆		南極地震 (M八・二)	中部以西	死者一、三三〇人、不明一〇二人、家屋全半壊三五、〇七八、同流失一、四五、同浸水三三、〇九三、同焼失二、五九八 静岡より九州に至る海岸に津波来襲	
昭和二十二年 (一九四七)	九・十四☆ 十五		水害(カスリーン台風)	関東、以北、特に東京、埼玉	死者一、〇四一人、不明四八八人、傷者一、八四一人、建物一二、七六一、同浸水四一八、〇〇四、田畑三〇三、六五九町歩 関東最大の水害、利根川の決壊で濁流は東京に達する。 明治四十三年以来の大被害 全国の降水量は四五〇億トン、これが全部東京に降ったとすると約二一mの浸水となる大量	一月三十一日 マッカーサー、二・ーストに中止命令 三月三十一日 教育基本法、学校教育法公布 五月三日 日本国憲法施行 五月二十日 第一回特別国会召集

昭和十三年 (一九三八)	九・一 十・十四	風水害(台風・高潮) 風水害(台風)	関東、東北 鹿児島、宮崎	死者二〇一人、不明四四人、傷者一三七人、田畑三六、三一九町歩 死者二八九人、不明一八八人、傷者五九四人、田畑六、二三二町歩	調印 十月二十七日 日本軍武漢三鎮を占領
昭和十六年 (一九四一)	六月中・下旬 七・二十二〜二十五 九・三十〜十・一	水害(前線) 風水害(台風) 風水害(台風)	西日本、特に北九州 関東、東北 九州、四国、中国特に北九州	死者一〇〇人、不明一二二人、傷者五〇人、建物五三四、田畑四四、六二三町歩 死者六六人、不明三二人、傷者一五人 建物一、〇四四、同浸水二一三、七一七、田畑二〇二、七七〇町歩 死者一〇八人、不明一〇二人、傷者一六九人、建物五、四九二	六月二十二日 独ソ戦争はじまる 十月十八日 東条英機内閣成立 十二月八日 日本軍ハワイ真珠湾を空襲、米英に宣戦布告
昭和十七年 (一九四二)	八・二十七☆ 二十九	風水害(台風・高潮)	西日本、特に九州瀬戸内海二〇〇年来の高潮	死者八九一人、不明二六七人、傷者一、四三八人、建物一〇二、三七四、同浸水一三二、二〇四、田畑二六、八四六町歩	四月八日 米空軍日本初空襲 四月三十日 翼賛選挙 六月五日 ミッドウェー海戦 十一月五日 関門トンネル開通
昭和十八年 (一九四三)	七・二十二〜二十六 九・十 九・二十☆	風水害(台風・前線) 鳥取地震(M・七・四) 風水害(台風)	西日本、特に愛媛 鳥取市付近 西日本、特に島根	死者二二一人、不明二九人、傷者二二九人、建物四、四九一、田畑五八、〇九二町歩 死者一、〇八三人、家屋全半壊一三、六四三、 死者七六八人、不明二〇二人、傷者四九一人、建物二一、五八七、田畑一二三、五〇六町歩	二月九日 日本軍ガダルカナル島から撤退 五月二十九日 アッツ島日本軍全滅 七月十日 イタリア無条件降伏
昭和十九年 (一九四四)	十・七〜九 一二・七	風水害(台風) 東海地震(M八・〇)	近畿、中部、東北 静岡、愛知、三重 岐阜、奈良、滋賀 特に名古屋重工業地帯の被害が大であった。	死者五八人、不明四五人、傷者四七人、建物二、〇〇〇、田畑一二、五六一町歩 死者九九八人、住家全半壊七三、〇八〇、同流失三、〇五九 各地に津波が襲来した。	

年	災害発生		種 目	主な被災地	主な被害状況	一 般 事 項
	月	日				
昭和七年 (一九三二)	一一・一四	一五	風水害(台風・高潮)	中部、関東、東北	死者一二四人、不明一一一人、傷者三五七人	五月一五日 五・一五事件
昭和八年 (一九三三)	三・三	三☆	三陸地震津波 (M八・三)	三陸沿岸	震害なし 津波による被害 死者三、〇〇八人、家屋流失四、九一七、同倒壊二、三四六、同浸水四、三二九	三月二十七日 日本国際連盟脱退
昭和九年 (一九三四)	七・九	七・九	水害(低気圧・豪雨) 風水害(室戸台風・高潮)	北陸 本州、四国、九州	死者一九、不明二六人、傷者三七〇人、田畑五七、六七七町歩(石川、新潟) 死者二、八六六人、不明二〇〇人、傷者一五、三六一人、建物四七五、六三四	四月十八日 帝人事件おこる 十二月一日 丹那トンネル開通
昭和十年 (一九三五)	六・二七	三〇	水害(豪雨) 水害(豪雨) 風水害(台風)	北九州、四国、中国、近畿 青森県 主に関東	死者一四七人、不明九人、傷者二八三人、田畑二二四、七一八町歩 死者二〇人、不明一八一人、傷者四人 田畑三七、七七二町歩 死者三一七人、不明六〇人、傷者二七六人、田畑一五、六一三町歩	二月二十五日 天皇機関説問題 八月一日 中国共産党「救国抗日宣言」
昭和十一年 (一九三六)	七・二三	二五	風水害(台風)	西日本	死者六〇人、不明三七人、傷者四八八人 家屋全半壊七七五、同浸水九、七四三	一月十六日 ロンドン軍縮会議 脱退 二月二十三日 東京地方で五四 年ぶりの吹雪 二月二十六日 二・二六事件 八月一日 第十一回オリンピック ク大会(ベルリン)
昭和十三年 (一九三八)	六・二八	七・五	水害(梅雨前線豪雨)	太平洋沿岸(関西、東北)	死者七一五人、不明二八人、傷者三、三九四人、田畑五四八、八〇九町歩	四月四日 国家総動員法公布 九月十三日 ミュンヘン協定

災害史年表

被害状況……………理科年表、朝日年鑑、その他
 一般事項……………日本土木史、朝日年鑑、山陰中央新報社

☆大災害（水害統計）

風水害は死者行方不明者一〇〇人程度以上または大災害（水害統計）を選んだ。

災害発生	年	種目	主な被災地	主な被害状況	一般事項
	月日				
大正十五年 昭和元年 (一九二六)	九・二、五	風水害(台風)	関東、東海	死者、不明二一人、家屋全半壊五、〇六七、同浸水一、六〇二、田畑一	十二月二十五日 大正天皇死去 (昭和と改元)
昭和二年 (一九二七)	三・七☆ 九・十三	北丹後地震 (M七・五) 風水害 (台風、高潮)	京都、淡路、福井 岡山、米子、徳島 三重、香川、大阪 九州西部	死者二、九二五人、家屋全半壊十二、五八四、焼失三、七一一、 死者三七三人、不明六六人、傷者一八一人、家屋全半壊一、四二〇、同流失七九一	三月十五日 金融恐慌はじまる 十二月三十日 地下鉄銀座線 (上野〜浅草間開通)
昭和五年 (一九三〇)	一・二六	関東地震 (M五・三) 北伊豆地震 (M七・〇)	新潟県三島郡 静岡県	傷者二人、家屋半壊二三 死者二七二人、家屋全壊二、一六五、 山くずれ、崖くずれ多し	四月二日 ロンドン軍縮会議 九月十日 米価大暴落 十月二十四日 世界恐慌はじまる
昭和六年 (一九三一)	九・二二	西埼玉地震 (M七・〇)	埼玉県	死者一六人、家屋全壊二〇六	九月十八日 柳条溝事件、満洲 事変はじまる

編集後記

毎年、全国のどこかで台風、洪水、地すべり、地震、津波など、好むと好まざるとにかかわらず襲ってくる災害によって、地域住民の貴重な人命、財産が失われています。

このたびの災害は、昭和18年に本町を襲った大水害にもまして、大きな被害となりました。しかし、災害対策本部三賀森勝本部長の常にない「非常事態宣言」の発令と防災行政無線での周知により、住民の避難誘導を行い、多くの人命を救いました。そして、この一つを取り上げても貴重な体験をしたといえます。

“災害に強い町づくり”をしていくために、この大災害を記録として後世に残し、伝えることは、災害を体験した者の使命であると思い、ここにその記録を作成したところです。

この記録は、当時の様子を町災害対策本部中心に、資料をもとに編集してあります。

このような大災害が、二度と起こらないように、また、亡くなられた方々の御冥福を祈りつつ、編集後記といたします。

昭和60年9月

編集委員会

編集委員（順不同）

山藤 恵正	滑谷 祐二	古市 圭介	高森 幸信	肥後 作三
松本 健	羽柴 武	柳子 弘	吉本 義光	岩本 誠
浜崎 英輔	鶴川 衛	岩本 俊克	泉川 晋作	寺井 敏之
梅谷 誠一	玉田 保晴	久保田寿夫	桑原 弘	河上 健三
猪俣 邦雄	石本 尚之	横田 孝之	寺井 修治	尾崎 晴行
村井 達也	三内 一夫	石田 満弘	神本 清司	杖田 武秋
藤村 俊夫				

昭和58年豪雨災害誌

発行 昭和 60 年 9 月
編集 三隅町災害誌編集委員会
発行所 三 隅 町

代表責任者 三 賀 森 勝
〒699-32 島根県那賀郡三隅町大字三隅
三隅町役場総務課

印刷 岡田印刷株式会社
〒744 山口県下松市東豊井 916

